

活動報告書

令和6年4月 → 令和7年3月

- ・ 特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
- ・ 環境学習交流センター
- ・ 岩手県地球温暖化防止活動推進センター



i n d e x

● 特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて

01 自主事業	1 ページ
---------	-------

● 環境学習交流センター

02 情報誌環境ねほりはほり／いわて環境情報板	6 ページ
03 環境学習交流センター内での展示／特別企画展示	9 ページ
04 環境学習講座	15 ページ
05 アイーナ入居施設との連携協力	18 ページ
06 訪問学習の受け入れ	19 ページ
07 いわてこどもエコクラブ交流会	23 ページ
08 環境アドバイザーの派遣	24 ページ
09 エコカーゴによる出張環境学習会	85 ページ
10 流域活動支援	95 ページ

● 岩手県地球温暖化防止活動推進センター

11 いわてわんこ節電所	101 ページ
12 省エネ・節電キャンペーン	103 ページ
13 いわて地域脱炭素推進員の派遣	104 ページ

● 森のゼミナール

14-1・14-2 いわて森のゼミナール運営業務	128 ページ
--------------------------	---------

●特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて

●環境パートナーシップいわて 自主事業

会員はもとより、一般市民が気軽に参加できる事業を展開しています。

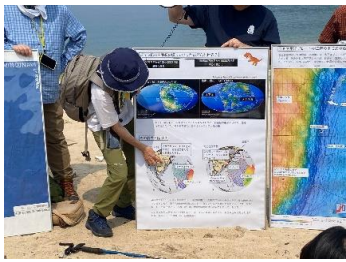
01

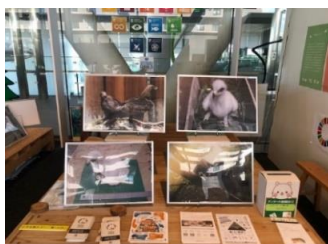
	事業名	着物のリメイク支援プロジェクト
	活動期間・日時	令和6年10月12日(土)
	場所	いわて県民情報交流センター 4階 アイーナスタジオ
	協力	久慈市、紫波町、雫石町の支援者の皆さん
内容	環境パートナーシップいわて会員の小赤澤直子さんが、復興支援として全国からいただいた着物を使った着物リメイク講座を開催。10月14日アイーナ4Fアイーナスタジオで開催された。着物リメイクファッションショーも11回目を迎え、完成した洋服を着てファッションショーが行われた。	
	事業名	いわてSDGsカフェ
	活動期間・日時	令和6年4月～令和7年3月(毎月第3水曜日18:00～20:00)
	場所	環境学習交流センター
	協力	SDGsカフェ実行委員会
内容	「持続可能ないわて」を目指し、SDGsに関心を持つ方々が集い、気軽に真面目な対話を楽しみながら学び合う場として、平成31年7月より開催。参加者は延べ500名以上。様々な情報が集まっており、岩手県におけるSDGsプラットフォームの役割を担っている。また、参加者の方々の積極的な関わりや交流から、岩手県内外で様々な取組が生まれるきっかけとなり、令和5年度は地域版SDGsカフェ、企業版SDGsカフェも開催された。	
	事業名	エコアートサークル活動
	活動期間・日時	令和6年4月～令和7年3月(火曜日と金曜日の月4回)
	場所	環境学習交流センター
	協力	環境学習交流センター
内容	水彩画サークル「エコアート」は盛岡市のアイーナ5階『環境学習交流センター』で活動しています。牛乳パックをパレットとして利用したり、印刷会社から提供いただいた廃材紙を活用するなどして、環境意識を高めたりサイクルの実践につなげる取り組みをしています。東日本大震災の翌年(2012年)から、復興戦の意味合いで、被災者の居場所づくりとして始まった水彩画サークルで、現在も沿岸出身者が在籍し、継続的に心の復興を後押しするサロンの役割をはたしています。震災後から親睦を深めてきた会員の描いた作品を、沿岸地域の多くの方に見ていただく巡回展示も行っています。	
	事業名	「森と海のわIwate」内陸と沿岸地域をつなぎ、未来世代により良い環境を引き継ぐ
	活動期間・日時	通年
	3者締結	・NPO法人環境パートナーシップいわて ・盛岡市動物公園 ・東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター
内容	「森と海のわIwate」は、東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター、株式会社もりおかパークマネジメント及び特定非営利活動法人環境パートナーシップいわてで締結する連携協定です。令和3年度から開催してきた「森と海をつなぐプロジェクト」が発展しました。 「森と海のわIwate」では、3者が連携し、強みを活かした活動を通して、内陸と沿岸地域をつなぐ環境パートナーシップ構築とその強化に取り組むことで、未来世代により良い環境を引き継ぐことを目指します。	

令和6年度 森と海のわIwate 連携

番号	1	イベント名	森と海のわIwate 盛岡市動物公園ZOOMO展
		日時	令和6年4月1日～7月31日
		開催場所	環境学習交流センター
		対象者	一般
		参加人数	※自由閲覧形式
		対応スタッフ	センタースタッフ
内容	前年度の剥製やパネルを入れ替えし、盛岡市動物公園ZOOMOの魅力を伝えるパネル展示を行った。		

番号	2	イベント名	森と海のわIwate 大人の遠足(内陸編)
		日時	令和6年6月1日(土)
		開催場所	盛岡市動物公園ZOOMO
		対象者	一般
		参加人数	15名
		対応スタッフ	坂下 慶夏
内容	10:00 盛岡市動物公園集合・受付 10:30 オオハンゴンソウについてのお話 11:00 オオハンゴンソウ除去体験 12:00 ZOOT PIZZAでお昼休憩 13:00 ZOOMOの自然観察会 14:30 解散 当日は、降水確率60%曇り予報でとても不安でしたが、天候にも恵まれ、晴天の中、怪我無く、無事におとなの遠足(山の日)を終えることができました。参加者も多すぎず、少なすぎず丁度よい人数が集まってくれました。 午前中は、渋谷代表からオオハンゴンソウについて20分ほどお話があり、その後は、駆除作業を行いました。駆除体験の序盤は、見分けるのに苦労しながらも、見つけられると嬉しくなり、和気あいあいと作業に臨んでいました。徐々に見分けれるようになっていくと、率先して前に進み、もくもくと作業にあたる姿勢が見受けられました。渋谷代表も、こんなに外来種駆除で楽しそうに活動している姿にとっても驚いていました。 午後は、山仕事クラブさんの自然観察会を行いました。薬王堂やツルハドラッグがなかった頃は、山で薬草を見つけ、治療した話をしてくださいました。紙がない時代は、この植物(リョウメンシダ)でトイレを済ませた(お尻を拭いた)。などユーモアある話を交えつつ話してくれたおかげで、1時間の自然観察会はあっという間に終わりました。20年以上ZOOMOで勤務している森さんも、これだけのレアな種類の植物が園内にあることに驚いていました。		

番号	3	イベント名	森と海のわIwate 大人の遠足(海編)
		日時	令和6年7月13日(土)
		開催場所	釜石市 根浜海岸、大槌町 吉里吉里海岸
		対象者	一般
		参加人数	50名
		対応スタッフ	坂下 慶夏
内容	7:10 受付開始 7:30 出発 9:45 釜石市 根浜海岸 到着 10:00 地引網体験 10:45 自由時間 11:45 浜のくまさんでお昼ご飯 12:50 大槌町 吉里吉里海岸 到着 13:00 ビーチコーミング体験 14:20 終了 14:30 大槌町 吉里吉里海岸 出発 17:00 解散 梅雨真っ只中の開催で雨が心配でしたが、時より海風が吹く、気持ちの良い気候の中、イベントを開催することができました。車中のワークショップでも、「私は晴れ女、晴れ男」という人が多く、雨が降らなかったのは、参加者の皆さんのおかげかな？と思いました。また、参加者のほとんどが、釜石市や大槌町にゆかりのある方で、帰郷する気持ちでイベントに参加しています。と話していました。 当日、釜石市の根浜海岸では海開きイベントが開催されており、地引網体験の他にも、スイカ割イベント、屋台、サップなど様々なマリニイベントが開催されており、とても賑わいを見せていました。 地引網体験は、30分ほどで終了したので、残りの時間はフリータイムにしました。海辺を散歩したり、他イベントに参加したり、参加者の皆さんは様々な形で楽しんでいました。 お昼ご飯は、鵜住居駅前の「浜のくまさん」で、お昼ご飯を食べました。食べ終わった人から、「いのちをつなぐ未来館」、駅前の物産館を見学する時間にしました。改めて、三陸に思いを馳せる時間となったようで良かったです。 大槌町の吉里吉里海岸では、ビーチコーミング、地質調査を行いました。千葉県 柏市の東京大学大気海洋研究所の地質博士にも参加してもらい、三陸の地質について語って下さいました。		
番号	4	イベント名	森と海のわIwate 盛岡市動物公園ZOOMO サイ展
		日時	令和6年8月10日～11月11日
		開催場所	環境学習交流センター
		対象者	一般
		参加人数	※自由閲覧形式
		対応スタッフ	センタースタッフ
内容	年間に約460頭サイが密猟されている。そのサイの数だけ折ったサイ立体折り紙をパネルとともに展示した。 ・サイの価格は驚きの価格 ・なぜサイの角は高く売れるのか？ ・なぜアフリカでサイの密猟を食い止めるのは難しいのか？ ・残酷なサイの密猟現場 ・サイ角売買の合法化競争		

番号	5	イベント名	森と海のわIwate 盛岡市動物公園ZOOMOイヌワシ展		
		日時	令和6年10月3日～令和7年4月6日		
		開催場所	環境学習交流センター		
		対象者	一般		
		参加人数	※自由閲覧形式		
		対応スタッフ	センタースタッフ		
内容	生態系のトップにいるニホンイヌワシについて、知識を深め興味を持っていただきたいとの思いで、体験できるグッズもそろえて展示。				

番号	6	イベント名	森と海のわIwate 地域循環共生圏フォーラム		
		日時	令和6年10月26日10:00～15:30		
		開催場所	ビッグルーフ滝沢 会場名:小ホール・ホワイエ・クッキングスタジオ・大会議室		
		対象者	一般		
		参加人数	一般70名		
		対応スタッフ	坂下慶夏、森一夫、(IAT 波岡 サステナ 佐藤、斎藤)		

		
地球環境戦略研究機関 藤野氏	いわて地域脱炭素推進員 林氏	丹内建設株式会社

		
岩手大学EMS	岩手県立大学SDGsさすぐらし	富士大学地域連携推進センター

内容	13:00開会アナウンス・オープニング				
	13:01田催者挨拶				
	13:10基調講演1				
	13:40基調講演2				
	14:10休憩				
	14:20事例発表				
	15:00～15:40円くセッション				
	16:00閉会				
	IAT、学生をはじめ多方面の方々にフォーラム周知と開催の協力を頂いたおかげで、70名程度の来場者となった。自治体と連携したフォーラム開催という新しい試みだったが、学生同士はもちろん、学生と自治体の間で会話が生まれ、新しいコミュニケーションの場を広げることができた。				
	あったか交流会の場で更に交流が深まった感がある。				
	更に、創意工夫を重ねて次回の開催に向けた財産として活用して行けるように進めて行きたい。				

●森と海のわIwate エコアート巡回展示

	事業名	エコアート巡回展示①盛岡展 環境学習交流センター
	展示期間・時間	令和6年6月8日(土)～6月30日(日)9:00～18:00(最終12:00まで)
	場所	環境学習交流センター
	主催	NPO法人環境パートナーシップいわて
	共催	いのちをつなぐ未来館・環境学習交流センター
	協力	東京大学大気海洋研究所/大槌文化交流センターおしゃっち/ 山田町 鯨と海の科学館
内容	環境学習交流センターにてエコアートサークル活動をされている会員の方々の水彩画巡回展第1回目を実施した。素敵な作品の数々は、心温まる展示となっている。	
	事業名	エコアート巡回展示②大槌展 東京大学大気海洋研究所
	展示期間・時間	令和6年7月2日(火)～8月9日(金)9:30～17:30(土日休館 最終12:00まで)
	場所	東京大学大気海洋研究所
	主催	NPO法人環境パートナーシップいわて
	共催	いのちをつなぐ未来館・環境学習交流センター
	協力	東京大学大気海洋研究所/大槌文化交流センターおしゃっち/ 山田町 鯨と海の科学館
内容	大槌町「東京大学大気海洋研究所 大槌沿岸センター」のロビーに展示。センター長のお話では「この水彩画の作品展を始めてから、東大海洋研のロビーに絵を見るために足を運んでくださる地元の方たちも少しずつ増えてきているとのこと。連携の意義が深められていることを実感した。	
	事業名	エコアート巡回展示③大槌展 大槌文化交流センターおしゃっち
	展示期間・時間	令和6年8月10日(土)～8月31日(土)10:00～22:00(火曜休館 最終12:00まで)
	場所	大槌文化交流センターおしゃっち
	主催	NPO法人環境パートナーシップいわて
	共催	いのちをつなぐ未来館・環境学習交流センター
	協力	東京大学大気海洋研究所/大槌文化交流センターおしゃっち/ 山田町 鯨と海の科学館
内容	大槌文化交流センターおしゃっちに作品を展示。8月16日までは、2階の壁面を使った仮展示期間だったが、1階のロビーにメイン展示する作業を行った。展示している途中でも絵を鑑賞する方々がおり、関心の高さがうかがえた。	
	事業名	エコアート巡回展示④山田展 鯨と海の科学館
	展示期間・時間	令和6年9月1日(日)～9月30日(月)9:00～17:00(火曜休館 最終12:00まで)
	場所	鯨と海の科学館
	主催	NPO法人環境パートナーシップいわて
	共催	いのちをつなぐ未来館・環境学習交流センター
	協力	東京大学大気海洋研究所/大槌文化交流センターおしゃっち/ 山田町 鯨と海の科学館
内容	山田町「鯨と海の科学館」に作品を展示。山田会場は展示スペースが広いので、「アコースティックギターをスケッチしてみよう！」コーナーを作ってみたところ、非常に好評で、スケッチ作品は46点の参加者があった。スケッチはのびのびと描かれたものが多く、姉妹や家族が描いてくださったようで、感想コメントに、「楽しかった」と子ども達の筆跡で書かれていた。	

	事業名	エコアート巡回展示⑤釜石展 いのちをつなぐ未来館
	展示期間・時間	令和6年10月1日(火)～10月31日(木)9:30～17:30(水曜休館 最終12:00まで)
	場所	釜石市「いのちをつなぐ未来館」
	主催	NPO法人環境パートナーシップいわて
	共催	いのちをつなぐ未来館・環境学習交流センター
	協力	東京大学大気海洋研究所/大槌文化交流センターおしゃっち/ 山田町 鯨と海の科学館
内容	釜石市「いのちをつなぐ未来館」に作品を展示。 今年は、山田会場で「エコアートの活動紹介」パネルも加えて展示したので、釜石会場にも展示することとした。SNSでのイベント情報も発信していただいた。 来場者アンケートによると作品が「素晴らしかった」と好評をいただいた。	

● 環境学習交流センター



●環境情報誌「環境ねほりはほり」～私たちが住む岩手のこと～

02

根環境学習交流センターのイベント、岩手県で環境活動している人・企業の取り組みを年に1っ回お届けするニューズペーパー「環境ねほりはほり」。ねほりはほりはみんなが知らないけど、知ったらちょっと楽しい情報をお伝えしています。

発行日
令和7年3月



内容

- ・環境学習交流センターのこと
- ・岩手県地球温暖化防止活動推進センターのこと
- ・特集：エコクラブ交流会
- ・大ザリガニ釣り大会
- ・いわて環境学習応援隊：東北自然エネルギー株式会社
- ・企業紹介：株式会社 柴田産業
- ・水と緑の交流フォーラム

掲載URL
<https://www.aiina.jp/site/environment/6510.html>

●環境情報板

岩手県や県内自治体の環境情報、関連イベント情報などを中心にホームページにてお知らせしています。環境という広範囲な話題を皆さんにとって身近に感じられるように、その時々々のタイムリーな情報と切り口でお届けします。毎月末更新。

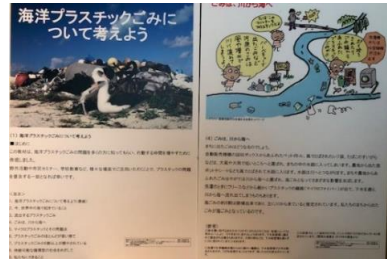
4月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
5月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
6月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
7月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
8月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
9月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
10月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
11月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・県内先進企業取材レポート（＜第7回目＞ 一関ヒロセ電機株式会社） ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
12月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・県内先進企業取材レポート（＜第8回目＞ 株式会社ミクニ盛岡事業所） ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
1月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
2月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報 ・環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター ・環境学習交流センター 展示・イベント情報 ・県内のイベント情報（いわてわんこ節電所HP） ・助成金情報
3月号	・岩手県、県内各市町村からの環境ニュース ・県内各市町村からのニュース ・岩手県内企業からの環境ニュース ・岩手県環境保健研究センター新着情報

令和6年度環境学習交流センター内での展示／特別企画展示

アイーナ5階の展示スペースを利用し、県内企業の取組や生活に役立つエコな情報等、環境・地球温暖化に関する情報発信を行っています。

03

－企業展示－

No	1	展示名	いわてクリーンセンターの事業紹介展示
		協力	一般社団法人クリーンいわて事業団いわてクリーンセンター
		展示期間	令和6年3月1日～5月9日
		内容	・施設全体 ・最終処分場：地下水の汚染防止と豊かな環境との調和 ・水処理施設 ・防災調整池 ・ビオトープなど
No	2	展示名	もりおか星空ギャラリー＆一戸町観光天文台
		協力	一戸町観光天文台
		展示期間	令和6年4月1日～4月29日
		内容	環境学習講座に合わせて「もりおか星空ギャラリー」を開催。星空環境企画写真展示及び光害についての展示を行った。
No	3	展示名	「岩手の山を元気にする木材屋」株式会社柴田産業の取り組み紹介
		協力	株式会社柴田産業
		展示期間	令和6年5月1日
		内容	・会社概要 ・「岩手の山を元気にする木材屋」・「地域を元気にする木材屋」 ・木材製材・素材生産・木材加工・チップ製材・森林整備・エネルギーの森づくり ・植林体験情報 ・柱のない木造大空間を実現ブーメランフレームの特徴「鳥コKidsstation」ウッドデザイン賞受賞
No	4	イベント名	海の月間「海洋プラスチックごみについて考えよう！パネル展示」
		協力	環境学習交流センター
		実施日	令和6年7月1日～7月末
		内容	海の月間の7月に合わせて海洋ごみについて考えるパネル展示を行った。私たちの生活から出るごみが川から海へ流れて海洋ごみとなることについて知る。生活の中で気をつけることについても展示し理解をふかめる機会となった。

No	5	展示名	NEW meat value 美味しい肉で岩手に賑わいを
		協力	肉のふがね
		展示期間	令和6年7月1日～8月31日
		内容	・経営指針「永続的な岩手の生産環境を守り次世代へつなげる」 ・短角和牛を守ること 「岩手短角和牛」は和牛の中でも1%未満しかない日本固有の希少種。いわて短角和牛の最大の特徴は、おおらかな自然のサイクルにゆだねた飼育方法。日本の畜産では他に類を見ない「夏山冬里方式」にあります。自然を大切にする食文化の考え方。希少種「岩手短角和牛」が日本や世界で認められることは、「岩手短角和牛」の生産者の収入を増やし、後継者を育てて、美しい自然放牧風景を未来に残していくことにつながります。
No	6	イベント名	盛岡秋祭り
		協力	い組・は組・観光協会
		実施日	令和6年9月12日～10月30
		内容	令和6年奉納組の紹介 岩手県の無形民俗文化財に指定されている盛岡八幡宮祭りの山車行事は 1709(宝永6)年9月14日、南部藩の町造りが完成したのを祝い、全町の若者ら町衆がそれぞれ趣向をこらした丁印(ちょうじるし=町の紋章・エンブレム、各町の消防、自治的組織の標識)などを盛岡八幡宮に奉納して 3日間御城下目抜き通りを練り歩いたのが始まりと伝えられています。この祭りのために、お盆明けから各町内で山車づくりや太鼓の練習が始まります。祭りの間、神社周辺の町内には次々と山車が通り、太鼓やおはやしの声で華やぎます。
No	7	展示名	ジオファーム八幡平
		協力	ジオファーム八幡平
		展示期間	令和6年11月1日～12月末
		内容	馬と人との共生への第一歩。 「Food Action for Horse's」は、ジオファーム八幡平がスーパーマーケットや飲食店、宿泊施設などとともに取り組むプロジェクトの紹介。 馬×地域資源をベースとしたサステナブルな農場を目指している『ジオファーム八幡平』。雄大な岩手山麓、八幡平南温泉旭日之湯に隣接した農場です。引退した競走馬たちが、その後も多様な環境で活躍できるような仕組みづくりを模索して、「馬厩肥・馬ふん堆肥」の生産や、歴史的にも馬とのつながりが深い、マッシュルームを生産・販売している。
No	8	展示名	県立大学アカデミック・インパクト研究パネル展
		展示期間	令和6年11月12日～12月末
		内容	国連と連携した各国の高等教育機関(岩手県では岩手県立大学)が、様々な教育・研究・地域貢献活動をまとめた報告。岩手県立大学アカデミック・インパクト活動の記録パネル展示。 国連アカデミック・インパクトとは 国連アカデミック・インパクト活動報告 UNAIは、各大学が社会貢献を進めながら、国連と世界各国の高等教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムです。 UNAIに関連する様々な教育・研究・地域貢献活動を行っていることから、UNAIの10原則のうち4つの原則に参加。 原則6：人々の国際市民としての意識を高める 原則8：貧困問題に取り組む 原則9：持続可能性を推進する 原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

No	9	イベント名	愛鳥週間ポスターコンクール作品展示
	協力	岩手県環境生活部自然保護課	
	実施日	令和7年1月5日(日)～2月28日(金)	
	内容	岩手県内小中学生の描いたポスターコンクール提出された作品131点と入賞者の作品展示	

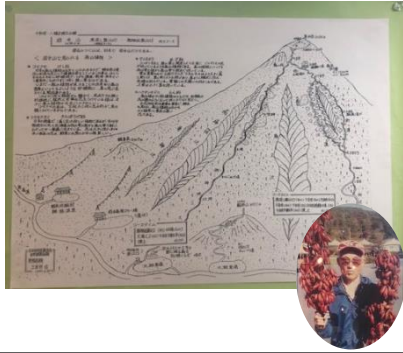
No	10	展示名	盛岡のアロニアを未来に残す
	協力	合同会社アロニア同盟	
	展示期間	令和7年1月5日(日)～2月28日(金)	
	内容	盛岡のアロニアを未来に残そうと砂子澤のアロニアの魅力に惹かれた人たちがアロニア同盟が2021年に立ち上げられ活動が始まった。アロニアの魅力と必要な人に届ける活動の紹介。 アロニアの魅力を伝えようと盛岡誠桜高校の生徒が盛岡食材の 魅力発信に取り組むプロジェクトを立ち上げアロニアスイーツを作り上げた。 ・アロニアって何？ ・産地継続の危機！？ ・凄すぎるアロニア ・盛岡誠桜高校の盛岡食材魅力発信プロジェクトの紹介	

No	11	イベント名	積水メディカル
	協力	積水メディカル	
	実施日	令和7年3月1日～4月末	
	内容	健康でサステナブルな社会の実現に貢献する積水メディカル株式会社の活動紹介 ・積水化学グループの紹介 ・岩手工場の紹介 ・岩手工場に生息する生き物たち ・積水メディカルについて ・岩手工場の環境保全への取り組み	

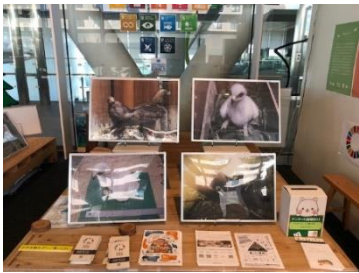
令和6年度環境学習交流センター内での展示・イベントの工夫

センター内の業務を効果的に展開できるよう工夫します。(自主的に展開)

-展示の工夫-

No	1	展示名	ZOMO動物公園パネル展示
		展示期間	令和6年4月1日～7月31日
		内容	前年度の剥製やパネルを入れ替えし、盛岡市動物公園ZOOMOの魅力を伝えるパネル展示を行った。
No	2	展示名	故三田村 信 山岳絵図展
		展示期間	令和6年5月10日～7月31日
		内容	三田村信氏プロフィール 八幡平市自然散策ガイド、自然観察指導員、昭和9年(1934年)旧西根町田頭生まれ。盛岡中学校(現盛岡第一高等学校)卒業後、長らく特別支援学級の教諭を務めた。平舘小学校を最後に退職してからは八幡平をはじめ東北各地の自然ガイドとして活躍した。平成30年(2018年)没、享年84歳。 ・岩手山、八幡平を中心とした三田村氏の自然への畏敬と心豊かな完成・愛情が伝わってくる山々の緻密な山岳絵図など約20点を展示。
No	3	展示名	ビオトープフォーラムin仙台2024パネル展
		展示期間	令和6年6月13日～6月16日
		内容	環境教育の拠点”東北大学青葉山新キャンパス”で4日間自然共生社会の実現に向けて、東北各地の産・官・学・民が取り組む環境活動や次世代への教育、地域共創プロジェクト等を紹介するイベントに環境パートナーシップいわての活動紹介パネル展示を行った。
No	4	展示名	エコアート作品展 環境学習交流センター
		展示期間	令和6年6月20日～6月30日
		内容	・水彩画サークルエコアート会員の作品展示。 ・水彩画サークルエコアートとは 東日本大震災の翌年から復興支援の意味合いで、被災者の居場所づくりとして始まった水彩画サークル。牛乳パックをパレットとして利用したり、印刷会社から頂いた廃材紙を使用する等してリサイクル等の環境意識を高めた活動の実践をしている。
No	5	展示名	エコアート作品展・巡回展 東京海洋大学大気研究所
		展示期間	令和6年7月2日～8月9日
		内容	水彩画サークルエコアート会員の作品展示を、大槌町の「東京海洋大学大気研究所」に移設し、巡回展示を行い、多くの地元地域の方々にもご覧いただいた。

No	6	展示名	エコアート作品展・巡回展 大槌町文化交流センターおしゃっち
		展示期間	令和6年7月2日～8月9日
		内容	水彩画サークルエコアート会員の作品展示を、大槌町の「おしゃっち」に移設し、巡回展示を行い、多くの地元地域の方々にもご覧いただいた。
No	7	展示名	ツキノワグマ写真展示 & 岩手大学ツキノワグマ研究会パネル & 木彫りのクマ展示
		展示期間	令和6年8月10日～11月11日
		内容	①30年以上にわたりツキノワグマの生態観察、撮影を続けている佐藤嘉宏氏のツキノワグマの生態等がわかる数々の写真を展示。 ②岩手大学ツキノワグマ研究会パネル ③木彫りのクマ
No	8	展示名	ZOOMO動物公園 サイ展
		協力	ZOOMO動物公園
		展示期間	令和6年8月10日～11月11日
		内容	年間に約460頭サイが密猟されている。そのサイの数だけ折ったサイ立体折り紙をパネルとともに展示した。 ・サイの価格は驚きの価格 ・なぜサイの角は高く売れるのか？ ・なぜアフリカでサイの密猟を食い止めるのは難しいのか？ ・残酷なサイの密猟現場 ・サイ角売買の合法化競争
No	9	展示名	エコアート作品展・巡回展3回目 鯨と海の科学館
		展示期間	令和6年9月1日～9月30日
		内容	水彩画サークルエコアート会員の作品展示を、山田町の「鯨と海の科学館」に移設し、巡回展示を行い、多くの地元地域の方々や県外からの来場者にもご覧いただいた。
No	10	展示名	エコアート作品展・巡回展4回目 いのちをつなぐ未来館
		展示期間	令和6年10月1日～10月31日
		内容	水彩画サークルエコアート会員の作品展示を、釜石市の「いのちをつなぐ未来館」に移設し、巡回展示を行い、多くの地元地域の方々や県外からの来場者にもご覧いただいた。

No	11	展示名	ZOOMO動物公園ニホンヌワシ展
		展示期間	令和6年10月3日～12月末予定
		内容	生態系のトップにいるニホンヌワシについて、知識を深め興味を持っていただきたいの思いで、体験できるグッズもそろえて展示。
No	12	展示名	松ぼっくり・木の実・落ち葉コレクション
		展示期間	令和6年12月19日～令和7年継続中
		内容	身近な自然環境を知る場の提供 松ぼっくりや木の実をデコレーションケーキ型に展示 落ち葉各種の押し葉パネル展示。 木の実やまつぼっくりの種類パネル展示。
No	13	展示名	ペットワールド専門学校盛岡校卒業研究パネル展示
		展示期間	令和7年3月3日～4月末予定
		内容	・盛岡ペットワールド専門学校とは？ ・動物飼育科ってどんな科 ・安比高原の生物調査 ・動物園におけるハズバンダリートレーニングの実践 ・動物たちの健康を守るハズバンダリートレーニングの世界 ・環境エンリッチメントの導入 ・秋田犬の歴史について

-イベントの工夫-

No	1	展示名	エコアートサークル活動
		展示期間	通年 4月より毎月第二・第三火曜日・金曜日実施
		内容	2012年から活動が続けている水彩画サークル。 沿岸で被災した方々も一緒に活動しており、復興支援の意味合いの深いサロンの集まりとなっている。高齢者も多く、生きがいづくりにつながる活動にもなっている。

令和6年度環境学習講座実施一覧

04

県民が環境問題を「感じ、考え、行動する」きっかけとなるような環境学習講座としてお話から体験型のイベント、工作など様々な内容やテーマで開催しています。

番号	1	講演タイトル	もりおか星空セミナー
	日時	令和6年4月14日(土)13:30～15:00	
	講師	吉田 偉峰氏:環境アドバイザー・岩手県地球温暖化防止活動推進員・盛岡市環境審議会委員・賛助出演:盛岡第一高等学校天文部5名・賛助出演:岩手大学教育学部附属中学校1年生 吉田 穹矢君	
	参加者数	18名	
内容	・身近な星空環境の現状・星空環境保全の最新情報 ・盛岡一高天文部の光害研究報告・県内の星空環境報告 ・小学生の光害自由研究発表(発表時は中学一年生) ・質疑応答		
成果	第十七回 盛岡星まつりイベントの一環として①もりおか星空セミナー(市民向け公開講座)※盛岡市環境学習講座を兼ね、主催は盛岡市環境企画課②もりおか星空ギャラリー(星空環境企画展)を環境学習交流センターで実施した。盛岡市中心部で観測イベントを行うことにより、天文科学の普及と環境保全意識の向上、及び市街地における良好な大気環境の維持を目指す。今年度は盛岡市環境生活部環境企画課との連携講座を開催し盛岡市景観条例:「潤いと彩の街の風景づくり」についてなど盛岡市の取り組みも知る機会となった。		

番号	2	講演タイトル	5月環境学習講座「～脱炭素アドバイザーから学ぶ」
	日時	令和6年5月26日(日)13:30～15:00	
	講師	吉田 健一郎氏 谷目 葉氏	
	参加者数	15名	
内容	内容 気候変動、環境問題～地球のいまを知り、何ができるか～ WHAT's 脱炭素アドバイザー		
成果	今年度いわて地域脱炭素推進員として新規委嘱された2名の方々の講座を開催した。環境省認定制度脱炭素アドバイザーの資格をお持ちであるお二人の講座を開催し今後①資格を取りたいと考えてる方や環境問題を改めてしっかり学びたい方のため②新規委嘱推進員の方への発表の場を設けるといった二つの視点から企画した。 お二人には発表資料をつくるにあたりセンターに何度も足を運んでいただきました。お二人の役割分担など発表資料をつくるにあたり「さらに勉強の機会となった」とのことと今後の活動に活かすための経験となったようです。 参加者からも資格に関する質問が出さ有益な環境学習講座となりました。		

番号	3・4	講演タイトル	WEBうちエコ診断体験講座開催part1・part2
	日時	令和6年7月10日(水)10:00～12:00 令和6年7月14日(日)13:30～15:00	
	講師	花澤 淳氏	
	参加者数	令和6年7月10日(水)3名 令和6年7月14日(日)3名	
内容	WEBによるうちエコ診断の実施		
成果	土日以外で参加したい方がいるのではないかとことから土日講座のほかに平日の午前中に講座の開催を企画した。結果、子どもが保育園や幼稚園・学校へ行っている間に参加いただくことができた。開催日の工夫も大切だということを実感した。 講座の内容についてはこのような診断方法があることを全く知らなかったのととても楽しく体験することができたとのことであった。 2回にわたって参加者の方と情報交換をしながら楽しく実施することができたように思います。 参加者の方々は課題をしっかりと見つめ今後どうしたらよいか真剣に考えておられるようでした。改善提案としてはいろいろあるけれどリフォームや太陽光発電設置となるとなかなかすぐには導入できない部分もあり、結局は小さなところから取り組んでいくのが現実的なようでした。		

番号	5	講演タイトル	親子で学ぶ環境教室“エネルギーの創・蓄・省とものづくり”
	日時	令和6年7月28日(日)13:30～15:00	
	講師	式会社パナソニックエレクトリックワークス社 米田 幸司氏	
	参加者数	親子9名	
内容	エネルギーの創・蓄・省について学ぶ 太陽光パネル搭載のランタンづくり		
成果	エネルギーの創・蓄・省についてわかりやすく説明していただき親子でエネルギーについて学んだあとは工作体験を行いました。 工作は、講師の米田氏より工程を順序だてて説明していただいたのでみんなしっかり作業を進めることができたようです。 小学生であれば普段ドライバーを使う経験もないかと思いますが、今日はねじの回し方も覚え電池ケースをセットすることができました。 設置や組み合わせの向きなど細かい部分の注意事項はたくさんありましたが、普段しないことをする、できる、貴重な機会となり、一生懸命取り組んで電気が点いたときはホットひと安心でした。		

番号	6	講演タイトル	未来に続く家づくりリサイクル材料で作るエコハウス工作教室part11
	日時	令和6年8月11日(日)10:00～12:00	
	講師	長澤 紗織氏(長澤紗織設計室)	
	参加者数	こども9名 大人6名 合計15名	
内容	リサイクル工作		
成果	講師の長澤紗織さんよりどんなおうちを誰のために建てるのかお話をしていただき、イメージが膨らんだところで、 1設計図を描く 2土地を選ぶ 3木材を選ぶ 4タイルやカーテンなど装飾を考える 提供された材料で皆さんほぼ設計図通りに家を完成させ満足して帰って이었습니다。		

番号	7	講演タイトル	いわて地域脱炭素カフェ開催
	日時	令和6年9月15日(日)13:30～16:30	
	講師	今宮英男氏・平元尚人氏・吉田美幸氏・若生和江氏、川邊弥生氏、高橋功氏、花澤淳氏	
	参加者数	13名	
内容	1部【新規委嘱者発表】3名 2部【継続推進員発表】4名 【情報提供】若者ワーキンググループ活動紹介(坂下)、国連広報センターの1.5℃の約束「10の約束」について(櫻井) 3部【カフェみんなでミーティング】		
成果	3名の新規推進員発表の場と、継続推進員の方々にも活動の発表をしていただき「相互に学びを深める」「活動における課題などの共有」の場となるような講座を企画。 3部形式で時間はたっぷりとしたはずの企画でしたが時間がかかり押してしまい「みんなでミーティング」の時間が40分程度となってしまいました。短い時間の中ではありませんでしたが、みなさん積極的に発言して課題の抽出と共有の場となりました。 新規の方々の発表はそれぞれ特色があり、今後の派遣依頼の参考になる場となりました。AIを活用した発表やごみ無しエコキャンプ、1メートルの大きさのアースボールを活用しての伝える手法、森林活動から温暖化問題を伝える等、三者三様で今後が楽しみな講座となりました。		

番号	8	講演タイトル	青少年活動交流センター連携イベントソーラートレインを動かそう！・ミニミニツリーを作ってみよう～	
	日時	令和6年10月14日（月・祝）10:00～15:00		
	講師	1ソーラートレイン：株式会社パナソニックエレクトリックワークス社 2ミニミニツリー：センタースタッフ		
	参加者数	841名		
内容	～ソーラートレインを動かそう！・ミニミニツリーを作ってみよう～			
成果	センターオープン時間とともに親子連れが来館、延べ841名の来場者となりました。過去一番のセンター来場者です。エコチェックアンケートも入り口で声掛け、景品係をスタッフが行いスムーズな流れで合計312名の方にご参加いただくことができました。親子連れ1家族3名～5名なのでほぼ全家族に声掛けができたこととなります。 プログラムとして組み込んだパナソニック株式会社エレクトリックワークス社のソーラートレインとセンタープログラムのミニミニツリーはともに大盛況でした。ミニミニツリーは午前中で70個はけてしまい午後から来た方はとても残念そうでした。次回同じプログラムの提供の場合には飾り付けの材料を購入するかどうかの検討が必要となります。 作品は新聞エコバッグに入れて渡したので新聞エコバッグづくりにも興味をもたれたようでセンタープログラムの宣伝にもなりました。 特別プログラムの他、常設の体験や展示の見学も皆さん興味を持っていただき初めて来館された方々にもセンターを知っていただく良い機会となりました。			

番号	9	講演タイトル	純綿まくら作り体験！親子で一緒に 学んで！作って！楽しんで！	
	日時	令和6年11月23日（土・祝）10:00～12:00		
	講師	やよいLiving 羽田 流星氏		
	参加者数	5名		
内容	1エンカル消費について 2まくら作り体験 3綿当てクイズ			
成果	エンカル消費についてクイズ形式で学んだあと、まくら作り体験、綿当てクイズとメリハリがあって内容的には楽しめる講座でした。 但し枕づくり体験は料金が発生するため参加するにはハードルが高いような気がします。また、まくら作りは最初に綿の広げる段階で、かなり場所をとるのでお部屋の広さにもよりますがセンターの場合では5～6人が限界のようでした。 もともとお仕事体験としてキッズに企画された企画をそのまま実施しましたが、内容を大人向けに変えるなどしてもよいのではと感じた講座でした。			

番号	10	講演タイトル	水と緑の交流フォーラム連携講座 木の実の工作体験ミニミニツリーを作ってみよう！	
	日時	令和6年11月30日（土）11:00～16:00		
	講師	センタースタッフ		
	参加者数	105名		
内容	自然体験・パネル展示(まつぼっくりいろいろ・どんぐりいろいろ・落ち葉いろいろ)・木の実のデコレーションケーキ型) 木の実を使った工作体験「ミニミニツリーを作ってみよう！」			
成果	水と緑の交流フォーラムイベントとの連携で環境学習交流センターでは通常の展示や体験のほかに自然体験をテーマに木の実の工作体験コーナーとパネルを設置した。木の実を使った「ミニミニツリーを作ってみよう！」は好評で、たくさんの方に楽しみながら作品を作っていただくことができた。木の実や松ぼっくり等材料が揃っていることも参加者の皆様は一様に驚かれ採取場所や名前など身近な自然について興味をもたれたことが良かった。			

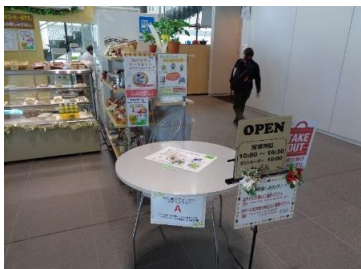
令和6年アイーナ入居施設との連携協力実施状況一覧

アイーナ館内の各センターと連携し、イベント等を効果的に実施しています。

1		イベント名	アイーナ内運営協議会 & アイーナ施設との連携協力		
		日時	令和6年4月～令和7年3月		
		場所	アイーナ内会議室		
		連携団体	アイーナ指定管理・入居施設		
内容	①アイーナ内運営協議会 ・指定管理からの毎月の情報を入手するとともにセンターからの情報提供の場となっている。4月～11月 ②センター長会議 ・アイーナ運営協議会毎月参加し各施設との情報共有の機会となっている。 ③アイーナ管理事務室との連携 ・アイーナ内防災訓練(6/30)、アイーナ周辺草取り・ごみ拾い活動協力(9/12)、アイーナ自衛訓練(2/28)等への参加、連携協力を 行っている。				

2		イベント名	「環境の日」グリーンライトアップキャンペーン		
		日時	令和6年6月1日～6月7日 19:00～22:00		
		場所	アイーナ6階ラウンジライト		
		連携団体	NPO活動交流センター		
内容	6月の「環境月間」「環境の日」に合わせ環境のテーマカラーであるグリーンのカラーで6階のラウンジライトをライトアップし、SNS等で 発信することで環境への関心を高める機会とした。				

3		イベント名	いわて親子フェスティバルinアイーナ	
 		日時	令和6年10月14日(月・祝)10:00～15:00	
		場所	環境学習交流センター	
		連携団体	青少年活動交流センター・岩手県青少年育成会議	
		内容	親子フェスティバル実行委員会第1回・2回・3回出席 青少年活動交流センターのいわて親子フェスティバルで環境学習応援隊企業の 株式会社パナソニックの「ソーラートレインを動かしてみよう!」とセンタープログラ ム「ミニミニツリーを作ってみよう」の2種類を提供した。連携することでたくさん の方にセンターに足を運んでいただき終日かなりの賑わいであった。二種類のプロ グラムも好評であった。	

3		イベント名	水と緑の交流フォーラム	
  		日時	令和6年11月30日(土)10:00～15:00	
		場所	アイーナ4階	
		連携団体	ファブテラス・杜のカフェ	
		内容	水と緑の交流フォーラムにおいて杜のカフェにはスタンプラリーポイントで協力が いただきファブテラスにはスタンプラリーのゴールでご協力をいただくとともに、先着 30名様にプレゼントのコースターには無料で名入れをしていただき参加者の皆様 には大変好評であった。イベント終了後、来年も是非連携したいとの申し出があり アイーナ内の施設との繋がりを深めることができた。	

令和6年度訪問学習実施一覧 ※許可をいただいた団体のみ写真掲載

06

環境学習交流センターの展示等を活用した学習プログラムにより、随時学校や市民団体等の訪問学習を受け付けています。展示や体験キットを使った学習のほか、クイズや工作など、楽しみながら環境について学べるプログラムを用意しています。

番号	1	団体名	金ヶ崎町立金ヶ崎小学校
		属性	4年生
		日時	令和6年6月28日(金)12:30~13:20
		場所	環境学習交流センター
		人数	児童60名 引率5名 合計65名
		対応スタッフ	田近 志保子・大石 光子
内容	・発電体験(白熱電球と蛍光灯の比較)・センター内の自由見学		
事後評価	【成果】 ・30人の生徒全員に短時間で発電体験をしていただくために、貸出用の発電キットを4台追加して対応したので、スムーズにプログラムを進めることができた。 ・Zoomoのキツネの剥製が人気があり、「これ本物のなの?!。」と興味深く間近で眺めている子が何人もいて、動物の好きな子供たちが、とても喜んでいました。 ・木のつみきも大人気で、何人かの仲良しグループで力を合わせて、背丈より高く積み上げ、素敵な作品を作って盛り上がった。 【反省】 ・1グループが30分程度の見学時間しかないため、自転車の発電体験などをすることができず、少し残念そうだった。		
番号	2	団体名	岩手県立盛岡第一高等学校
		属性	2学年
		日時	令和6年7月16日(火)16:30~17:30
		場所	環境学習交流センター
		人数	3名
		対応スタッフ	櫻井 則彰・大石 光子
内容	・SDGsのお話・食品ロスに関する質問やクイズ・地球温暖化とプラスチックの海洋汚染について詳しく解説。		
事後評価	【成果】 ・高校生が食品ロスに関心を持ち調べたいとの要望に対しクイズ形式にて質問を出し、回答してもらい形で進めた。食品ロスとSDGsの他のゴールの関連が密接であることを知らせた。 【反省】 ・発展途上国の各種課題と自分たちの暮らしがどうつながるかを十分伝えきれない面があった。		
番号	3	団体名	八幡平市寺田コミュニティセンター「寺田っ子クラブ」
		属性	小学1年生~6年生
		日時	令和6年8月7日(水)10:00~11:45
		場所	環境学習交流センター
		人数	生徒25名 引率4名 計29名
		対応スタッフ	大石 光子・田近 志保子・坂下 慶夏・相澤 美奈・齊藤 富美子
内容	・環境紙芝居「ももたろう」・牛乳パックで作るリサイクル工作(紙すき体験)・アイーナの森探検(クイズラリー) ・センター内の自由見学発電体験(発電体験・積み木広場など)		
事後評価	【成果】 ・2グループに分けて2つのプログラムを体験していただいたが、なんとか予定時間通りにスムーズに進めることができた。 ・自由時間の発電体験などにも手厚いスタッフ人数で対応したので、センター内の見学も十分楽しんでいただけた。 【反省】 ・紙すき体験に対応する4名で、当日までにしっかりと打ち合わせをし、手厚い対応ができるような体制を整えておいたつもりだったが、結果的に紙すき体験を、ほぼ3名で対応する形になってしまった。子ども達25名の紙すき指導を1人でするのは非常に効率が悪く、いくら木枠の型枠の在庫が増えても、丁寧にワンツーマンで対応しないと、木枠の重ね方を最初に間違えると、せっかく飾りつけをしても、また最初からやり直しをしなければならない子供もでてしまうので、注意が必要。その様子に見かねた先方の付き添いの先生が、紙すきの補助をするために1人付きっきりで作業を手伝っていただくことになってしまった。本来は、紙すきの指導は2名のスタッフが行い、アイロンがけや名前つけやエコチェックアンケート記入をするスタッフが2名いないといけなかったと思う。アイーナの森探検(クイズラリー)は、参加者が自由にアイーナ内を歩き回ってクイズを解いてセンターに戻ってくるプログラムなので、そこにスタッフが同行する必要はなく、センター内のプログラムに力を注ぐべきだった。次回からはそのようなことが起きないように、十分注意して、打ち合わせの段階から、役割分担の再確認を行いたいと思う。		

番号	4	団体名	岩手県福祉総合相談センター
	属性	5・6年生	
	日時	令和6年8月30日(金)13:20～14:20	
	場所	環境学習交流センター	
	人数	5年生1名・6年生1名 引率3名 合計5名	
	対応スタッフ	齊藤 富美子	
	内容	・森の工作体験・センター内自由見学	
事後評価	【成果】 ・材料の木の实など身近にあることを知ってもらう機会となった。 ・自由に思い思いの作品を作り上げることができた。 ・センター内の発電体験・自転車発電・もてるかな？を体験しエネルギーについて知る機会となった。 【反省】 ・訪問学習担当者不在の上、直近での申し込みであったがプログラム内容は難しいものではなかったため対応することにした。直近の申し込みは状況を見て受け入れるかの判断が必要。		

番号	5	団体名	奥州市立胆沢第一小学校
	属性	4年生	
	日時	令和6年9月18日(水)10:00～11:40	
	場所	環境学習交流センター	
	人数	生徒38名 引率4名 計42名	
	対応スタッフ	大石 光子・田近 志保子・相澤 美奈・齊藤 富美子	
	内容	・環境紙芝居「地球が大変だ～」・自由見学・発電体験	
事後評価	【成果】 ・特別展示のサイの展示を真剣に見てくれた子どもがおり「こんなにサイが殺されているということを知りました。」と感想で述べてくれた。展示の主旨やメッセージをちゃんと受け取ってくれたことが嬉しかった。 ・木彫りのクマの展示を非常に気に入ってくれた女の子がおり、クマと同じ目線の高さで四つん這いになってハイハイしながら4頭のクマに体を摺り寄せて寄り添ってみたり、背中から抱きしめるように、べったりとくっついている様子が見られ、とても微笑ましい光景だった。こちらも特別期間の展示物だが、4年生の子供たちにも大人気だということが実証された。 ・訪問学習の感想では、「紙芝居を通して、地球温暖化のことが良くわかりました。」「自分のできることをもっとやって、エネルギーを使わない暮らしをしていきたい。」「発電体験が面白かった。」「けん玉が楽しかった。」「積み木が楽しかった。」など、ほぼ全員の感想を聞くことができ、一人一人が展示や体験を通して、様々なことを感じ取ってくれたことが良く分かった。 ・エコチェックアンケートを事前に提出していただいたおかげで、データーの集計結果をお渡しすることができた。 ・昨年も4年生の担当だった先生が、直接スタッフに「昨年の4年生が、こちらの訪問学習が終わった後から、あきらかに環境意識が高まり、使わない電気をすぐに消すなど、目に見えて行動変容につながったので、とてもありがたかったです。こちらの環境学習交流センターで学んだことによって、これほどまでに子ども達が自分で感じ取ったことを実践するようになるんだと、本当に驚きました。ありがとうございました。」と話してくださった。 【反省】 ・もう少し時間のゆとりがある場合には、一つ一つの展示について補足説明して、どういった主旨で展示しているのか、伝えたいテーマはどんなことなのかなど、4年生にもっと分かる説明時間を加えると、より良いかもしれないと感じた。 ・手回し発電体験コーナーが狭いため、大勢の人数が一斉に発電体験すると、コードが絡まって隣とクロスしてしまい、自分が手回して発電しているものがどれにつながっているのか分かりにくくなってしまう。人数が多い場合は長テーブルを出して、余裕を持ったスペースで手回し発電ができるようにしていきたい。		

番号	6	団体名	盛岡市立飯岡小学校
	属性	2年生	
	日時	令和6年10月30日(水)10:40～11:40	
	場所	環境学習交流センター	
	人数	2年生 生徒50名 引率5名 計55名	
	対応スタッフ	大石 光子・田近 志保子	
内容	自由見学・発電体験		
事後評価	【成果】 ・木のつみきが大人気で、最後の感想でも、「木のつみきを自分の背より高く積み上げられて、とても楽しかったです！」と感想を述べてくれた子がいた。 ・大勢の子ども達が一気に体験できるように、手回し発電の体験コーナーを広くして対応するため、テーブルを1つ追加して展示した。子供同士が順番待ちをするときにも余裕をもって並んで待つことができたので、よかった。 ・「おもしろかった。」「また遊びにきたい。」という声も多く、生徒たちの満足度がうかがえた。 【反省】 ・当日、2グループに分かれてセンター見学をする予定となっており、最初の1グループ目の担当の先生が、自由見学が始まった時に、「発達障害の子どもが3名混じっているの、急に怒り出したり、足でけったりするような暴力をふるったり、言うことを聞かないで遠くに行ってしまうたり、床に寝そべってしまうような落ち着きのない子どもが混じっていて、その対応もしなければならぬので、一緒に子ども達の様子を見ていただければ助かります。」と、小さな声で伝えてくださった。このクラスには引率の先生が2名しかいなかったの、大変苦労している様子が見受けられた。珍しいパターンだったが、できるだけ注意して対応するようにした。今後もこのようなクラスが来ることもあるので、その点は十分に考慮して、怪我のないように目を配るようにしていきたいと思う。		

番号	7	団体名	一関市東山地域公衆衛生組合連合会
	属性	一般大人	
	日時	令和6年11月30日(水)13:30～15:00	
	場所	環境学習交流センター	
	人数	17名	
	対応スタッフ	櫻井 則彰	
内容	外来種の課題、自由見学・発電体験等		
事後評価	【成果】 ・外来種は悪者なのか？Q形式で答えを求める。チャールズ・エルトン：イギリスの動物学者(1900－1991)が在来種優先、外来種はだめという考えを広げた。 ・国立環境研：五箇公一氏の外来種の考え方の伝達。日本在来種でも日本国内での移送(本州に生息していた生物が、人の手により生息していなかった北海道に持ち込まれたなど)も対象となる(“国内由来の外来種”)。人間への脅威を考えた場合、外来種に限らない。熊、イノシシ、鹿などの害獣問題は深刻。畑を荒らすだけでなく、人を襲って事故が起こる。岩手県に侵入した外来種の紹介：カバキコマチグモ：咬傷に注意、、セアカゴケグモ、セイヨウオオマルハナバチ、特定外来生物「オオハンゴンソウ」・盛岡で確認された外来種：アライグマ(哺乳類)、オオクチバス(ブラックバス)(魚類)、アカミミガメ(爬虫類)、アメリカザリガニ(甲殻類)、アレチウリ(植物)、オオキンケイギク(植物) ・生物多様性の危機、生物の絶滅、30by30、自然界のつながりなどを話す。 【反省】 外来種を防ぐにはどうすればよいか？アンケートに書かれていたが、防ぐ方法については話をしていなかった。		

番号	8	団体名	岩手県立不来方高校
	学年	高校1年生	
	日時	令和6年12月3日（火） 15:00～16:00	
	場所	環境学習交流センター	
	人数	生徒4名	
	対応スタッフ	櫻井 則彰・田近 志保子	
	内容	・総合的な学習の一環として温暖化による海面上昇を知りたい。不来方高校1年生4名が来訪したため、SDGs、地球温暖化、海面上昇などの解説を実施。 海面上昇に何故特化して話を聴きたいのか？尋ねたところ、それに関心を持った程度とのことであった。海面上昇に関する資料を作成しお渡し同時にSDGsの1～17全般を解説した。特に15陸の豊かさ、14海の豊かさ、13気候変動を防ぐことの重要性、生物多様性の喪失などの課題を解説。	
事後評価	【成果】 ヨハンロックストローム博士が提唱したプラネタリーバウンダリーとSDGsウェディングケーキモデルの意味、内容も解説。温暖化を防ぐために私たちもできることがある。省エネ、節電、声を上げる。他の人に伝えることの重要性を伝える。 【反省】パリ協定の2℃、1.5℃等の言葉も初めて聞くようであり、この辺りも丁寧に解説する必要がある。		

番号	9	団体名	金ヶ崎町公衆衛生組合連合会
	学年	一般・成人	
	日時	令和6年12月9日（月） 10:00～11:30	
	場所	環境学習交流センター	
	人数	9名	
	対応スタッフ	櫻井 則彰・田近 志保子・大石 光子	
内容	・映像を使いSDGs、MDGs、プラスチックの海洋汚染、地球温暖化、生物多様性の喪失について、transformが重要、現状の理不尽な世界を変革していかなければならない。このままだと人類の未来が危ない。地球環境の激変が生じている。 ・SDGsとMDGs（ミレニアム開発目標）の関係、MDGsの成果と課題、MDGsは、途上国の多くの問題を解決する原動力となった。具体的な目標値を掲げ、15年間世界が取り組んだ結果、多くの命が守られ、人々の生活環境が改善された。しかし一方では、目標の未達成部分や様々な格差、“取り残された人々”が存在した。解決できなかった課題や、次々と新たに発生する環境問題や社会課題に対して対応するために、世界が取り組むSDGsが誕生した等。		
事後評価	【成果】 映像（動画を含む）を用い解説したため一定の理解は得られた。 【反省】 課題は自分事としてどう落とし込んでいくかである。多くの人は自分の事ばかりに関心があり、気づいた時は手遅れになるとの発言も参加者からあがった。そこをどう自分事とするか、それが大事であり次回につなげる必要がある。		

●こどもエコクラブ交流会

各団体の活動内容を共有することにより、活動が深化することを目的として、小学生及び保護者（サポーター等）を対象として交流会の開催をすること。

	事業名	こどもエコクラブ交流会 「親子で岩手町の不思議を体験」
	開催日時	令和6年9月14日（土）8:30～16:00
	場所	岩手町肉のふがね&石神の丘美術館
	参加者	子ども:11名 大人8名 合計19名
	対応スタッフ	櫻井 則彰、森 一夫、大石 光子、田近 志保子
内容	9:00 バス、エコカーゴ出発 9:50 「肉のふがね」に到着 現地集合の1家族と合流 集合写真 10:00 身支度をして工場へ 10:10 作業開始 11:10 作業終了の家族から店舗前のテーブルでランチタイム 12:00 美術館へ出発 12:30 美術館前で集合写真 12:40 美術館入場 14:10 「肉のふがね」へ出発 14:30 ソーセージうけとり 15:30 マリオス到着	
	●ソーセージ作り 材料のお肉は「そらくもポーク」という自然農法で育てているポークで、岩手町産の春みどりの入ったもので、スモーク1時間して、ちゃんと熱が通っているか確認して、冷やし、袋に入れて2次殺菌。この行程は、約2時間。キャベツフランクのできあがり。 	
	●ランチ 「肉のふがね」の自社製のハンバーガーとジャガイモとマカロニのサラダとソーセージのお弁当、このソーセージが、私たちの体験したキャベツフランクと同じ物と聞いてびっくり。あれがこんな白っぽくなるの？（不思議体験→スモークの時間や温度で、できあがりの色具合が違って来るそうです） 	
	●石神の丘美術館 野外の丘に入ると、さあ大変、こどもたちは、一斉にかけだすし、車椅子の方も速い、速い。スタッフは自分の担当の家族めがけて、追いかける、追いかける。 お花よりもアート作品よりも、思いっきり、坂道を、広場を駆け回るのが一番のようでした。汗だらけでなって、真っ赤になっていた子もいました。 	

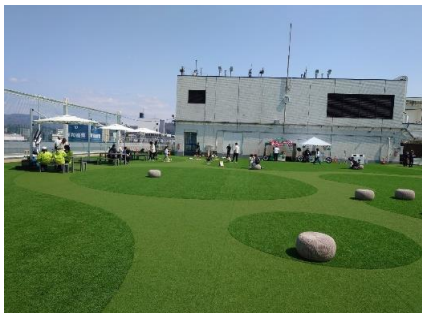
令和6年度岩手県環境アドバイザー派遣実施状況

県民の皆様が環境問題に関する研修会等を開催する場合に、その研修会の講師として環境アドバイザーを派遣しています。

実施日	4月3日	主催者	リメイクサークル御所	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	10名		
研修会		リメイクサークル御所			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより 古着・着物で新しく作る。 *主催者より いつも笑いの絶えない研修会となっています。			

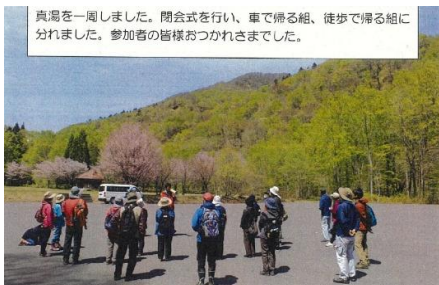


実施日	4/13・4/14	主催者	岩手医科大学 アウトドア同好会	アドバイザー	吉田 偉峰 吉田 美幸
		対象	一般200人		
研修会		りんごネードキャラバン			
テーマ		誰でも楽しめるアウトドア活動について(天体観測)			
内容		*アドバイザーより 日中の星空観察を通じた、大気環境や星空環境、光害の周知 *主催者より 来場者の方に医療的ケアが必要なお客様がいらっしゃり車で利用可能な望遠鏡を楽しんでいただきました。非常に有意義な講演会でした。			



実施日	4月21日	主催者	一関健康の森	アドバイザー	多門 真咲
		対象	16名		
研修会		自然観察「春の妖精」			
テーマ		春の草木について			
内容		*アドバイザーより 真湯周辺の遊歩道を散策しながら、春の林床の植物を中心に観察した。初夏の山野草、木々について *主催者より 天気も良く観察会日和でした。参加者が講師の先生にいろいろな質問をしたり、参加者同士の会話も弾み楽しい観察会となりました。			

真湯を一周しました。閉会式を行い、車で帰る組、徒歩で帰る組に分れました。参加者の皆様おつかれさまでした。



実施日	4月27日	主催者	岩手県立野外活動センター	アドバイザー	大友 晃
		対象	22名		
研修会		野活トレッキング～春の氷上山～			
テーマ		自然観察・自然保護			
内容		*アドバイザーより 野活トレッキング春の氷上山 氷上山登山を通して余暇の充実を図るとともに、三陸の自然に親しむ 今シーズン初登山の参加者もいたが、天気にも恵まれ、全員登頂、下山。 *主催者より 新緑の山は気持ち良く、参加者同士の会話も弾み、このような自然環境があることの喜びと大切さを感じられる自然体験であった。			



実施日	5月2日	主催者	リメイクサークル御所	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	11名		
研修会		リメイクサークル御所			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより 古着・着物で新しく作る。 *主催者より いつも笑いの絶えない研修会となっています。			



実施日	5月10日	主催者	紫波みらい研究所	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	5名		
研修会		環境講座「着物リメイク講座」			
テーマ		着物リメイク			
内容		*アドバイザーより 着物リメイク 継続は力なりだなと感じている。 紫波みらい研究所のリメイク教室は、生徒一人一人が熱心で素晴らしい。みんなでお昼を食べるときも、熱心にたくさんのことを聞いてくる。生徒、一人一人が様々な個性を持っているため、教えてるこちらにも楽しく学ばせてもらっている。 *主催者より 第二金曜日12回の開催(うち4月、7月～3月の10回は自主開催)となります。 環境講座としてタンスにしまいこんでいる着物の活用方法について学びます。 毎年アイーナで10月に開催しているファッションショー参加のほか、紫波町の芸術祭へ作品の出展も予定しています。			



実施日	5月11日	主催者	縁日里山整備プロジェクト	アドバイザー	石塚 勇太
		対象	13名		
研修会		春の里山観察会			
テーマ		樹木・草花の見分け方、山菜採り、森林の空間利用など			
内容		*アドバイザーより 樹木、草花の見分け方、山菜取り、森林の空間利用などについての解説・助言 *主催者より ・山菜の種類、識別方法、採るときの注意などの説明をしながら里山を散策した。 ・参加者で採ってきた山菜を天ぷらにして試食した。			



実施日	5月18日	主催者	赤生津地域活性化協議会	アドバイザー	川田 昌代
		対象	一般大人子ども合計26名		
研修会		赤生津の里山“経塚・月山”散策・体験会シリーズ(1)			
テーマ		経塚山・音羽山の春の草花のツツジの解説			
内容		*アドバイザーより 経塚山と音羽山の春の草花やツツジの解説を行いました。 また、「しぜんのなかでたからものをさがそう」というカードを配布し、五感を使って自然を感じてもらいました。ゆっくりと散策しながら、美しい景色や美味しい空気、気持ちのいい風、色々な植物の香り、足元のかわいらしい花などを観察して、地域の素晴らしさを再認識することが出来ました。 地域の方だけでなく、近隣から初めて経塚・音羽山を訪れる方もおり、地域の素晴らしさをPRすることもできました。環境を維持するためには、適度な管理を行っていくことが大切であることなども、参加者と一緒に考える時間も持てました。参加者はそれぞれの楽しみ方をしてくださり、最後は笑顔で満足いただけた観察会となったと思います。 *主催者より 地域の歴史の中で気づかれてきた里山の春の草花を広く知ってもらい楽しんでもらう散策会を実施した。ここの自然が持つ機能や大切さを知ってもらいたい。			



実施日	5月26日	主催者	一関健康の森	アドバイザー	多門 真咲
		対象	13名		
研修会		自然観察会「ノビネドリとエドハルゼミ」			
テーマ		自然観察会			
内容		*アドバイザーより 一関健康の森周辺を歩いて回りながらノビネドリをはじめとする植物を中心に観察し解説を加えた。 *主催者より 快晴で少し風のある爽やかな観察会日和となりました。メインのノビネドリの花々や初夏の木々について楽しく観察することができました。			

実施日	5月26日	主催者	生活クラブ生協岩手	アドバイザー	多門 祐純
		対象	生産者 JAIいわて平泉組合員親子50名		
研修会		田植え交流会と生き物調査			
テーマ		水路の生き物調査			
内容		*アドバイザーより 子供達や保護者の皆様と協力して田植えを実施した。田植えが終わった後は、水田近くの水路で水遊びや捕まえた生き物の観察会を行った。 子供達は楽しそうで、生き物の解説に耳を傾けてくれる子がいたのがとても嬉しかった。解説に熱が入るあまり、子供達が危ないことをしていないか気を配ることが足りなかったと思っている。今回は誰もけがをせずに終われたが、今後はさらに安全管理を徹底したい。 *主催者より 生き物調査で川に入り、川の生き物を調べたり網をかけてもらっていたので魚などを沢山見ることができました。子供たちは、生き物の名前を覚えてもらったり、触ったりして学習しました。 今年は、雪が少なかったので川の水が少ないことを確認することができました。			

実施日	5月28日	主催者	株式会社 テレビ岩手	アドバイザー	若生 和江
		対象	テレビ岩手スタッフ2名・岩手県1名 合計3名		
研修会		元気〇らいふ			
テーマ		食品ロス			
内容		*アドバイザーより (1) 食品ロスについて (2) 食材まるごと使い切りレシピ（春キャベツ丸ごと使い切り）レシピ作成・作り方収録 ・旬の食材で、無理なくできる使い切りを紹介 ・工程がわかりやすいよう工夫して紹介 ・対話形式で、見ている人に伝わりやすく食ロスについて紹介した。 アナウンサーの方が、聞いてくれることにこたえる形で和やかに収録ができた。 *主催者より 6月は環境月間。県内の食品ロスの現状・食材丸ごと使い切りレシピなどを紹介し、家庭でも出来る食品ロス削減の取り組みを紹介。 「食材丸ごと使い切りレシピ」の実演・解説 →テレビ岩手スタジオにて実際に調理し、その様子を撮影。 若生さまには「食材まるごと使い切りレシピ」を紹介していただき、実演・レシピのポイントなど分かりやすく解説していただきました。 県民に広く「食品ロス削減」を呼びかける今回のコーナーにぴったりな講師を派遣していただき、有難うございました。			

実施日	5月29日	主催者	和賀地区自治協議会	アドバイザー	佐井 守
		対象	北上市立笠松小学校4年生児童18名 北上市立和賀西小学校4年生児童4名 大人11名 計33名		
研修会		水生生物学習会			
テーマ		自然の大切さやすばらしさ			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査 *主催者より ①川が増水していたため、大人のみ川に入り、生き物の採取を行った。 ②子ども達が水生生物の仲間分けを行い、尻平川がきれいな川であることを確認した。 ③採取した生物、標本やはく製を用いて、水生生物の生態についての講義が行われた。 ④児童から質問時間を設け、最後に感想を発表してもらった。 前日の雨による増水で、中止を考えたが、講師の提案により、大人だけが川に入り子ども達が陸で仲間分けするという形に変更し、現地での調査を実施した。採取した生物から、尻平川がきれいな川であることがよく分かった。生きている生物を見て触れることができたので大変良かった。			

実施日	5月31日	主催者	盛岡市立城南小学校	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	5学年児童72名 教員2名 合計74名		
研修会		環境問題について調べよう			
テーマ		水生生物調査事前学習			
内容		*アドバイザーより ・水生生物調査の事前学習会を開催し実施の際の諸注意を伝達。 ・中津川の地理的位置 ・水生生物調査で何が分かるのか ・中津川に見られる動植物 ・多くの生命が生息することの意義 ・既知の生物種の数と未知の生物種の数 ・川で遊ぶ際の注意点、特にその場所が晴れていても上流山間部での降雨により瞬間的に増水することの危険を動画で知らせる ・捕虫網の使い方、水生生物の網に対する追い込み方法 ・子どもたちは活発に意見を述べる ・こちらの質問にも元気に答えてくれる *主催者より 中津川について現在の状況や歴史生き物のことなど様々な視点からご指導いただいた。後日予定している中津川水生生物調査法などについてもわかりやすくご指導いただいた。			



実施日	6月1日	主催者	公益財団法人 岩手県スポーツ振興事業団 県北青少年の家	アドバイザー	大友 晃
		対象	施設職員5名		
研修会		サマーチャレンジキャンプ(8/4～8)8/5(月)姫神山登山のための下見			
テーマ		安全な登山事業を成功させる。			
内容		*アドバイザーより ・主催者事業8月5日予定のサマーチャレンジキャンプ、姫神山登山の職員による事前踏査同行 ・当日の登山ルートを予定時程に沿って登山。注意事項、歩行ペース、 休憩場所、登山中のアクティビティ、危険箇所、体調不良者や怪我人 が出た場合の対処法、天候急変時の対応 などを職員と確認。 *主催者より ・体に急な負荷をかけない歩行ペースについて、体験を通して学ぶことができた。児童生徒の体力差を考慮し、休憩頻度と補食のタイミングを計画する必要があると感じた。 ・季節に合わせた動植物の紹介をいただき、姫神山の植生に興味を持てた。			



実施日	6月3日	主催者	二戸市立御辺地小学校	アドバイザー	松尾 亨
		対象	5,6年児童9名 引率2名 合計11名		
研修会		安比高原ブナ林観察会			
テーマ		ブナ林と川の関係			
内容		*アドバイザーより ・安比川の源流及び周辺森林の観察を通して、川と森と海の関連を学ぶ。(実習及びテキストと講和により) ・観察会をゲーム感覚で楽しむために「ウオッチングビンゴ」を活用し、子供たちの自らの発見や気づきを重視した体験学習を実施。 研修の目的であるブナ林の観察と安比川の関連について、子供たちからの質問も多く出され曇天なかでしたが、1時間30分楽しく学習できたと喜んでいました。課題として学習時間をもう少し長く取ると学習メニューの追加やテーマの探求につながると考えています。 *主催者より ブナの駅からブナ林に少し入り、もどってくるコースを歩いた。 森林ビンゴカードを使って、樹木、草花、昆虫、鳥に着目させながら、森林を歩いた。 森林を作っているもの、森林の役割、安比川との関係など、多岐にわたってお話して下さった。			



実施日	6月5日	主催者	奥州市市民環境部生活環境課	アドバイザー	花澤 淳
		対象	奥州市立稲生小学校4学年12名 教師2名 生徒の保護者4名 合計18名		
研修会		奥州市環境学習事業(水生生物調査)			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 稲瀬小学校4年生12名及びその父兄数名に対し、水生生物調査を活用した水質調査を実施し、併せて、川遊びの安全確保や生態系、生物多様性について解説した。また、川の中のゴミ拾いも実施した。 *主催者より 昨年度は講師が事前に採取した水生生物を分類する室内学習であったが、今年度は川で実施することに。講師がこの調査の中で危険なことは何か質問し、自然に対する理解を深めたうえで、実際に川で生きものを採取した。指標となる生物類のほかにヨシノボリなどの魚も捕獲でき、歓声があがっていた。水生昆虫の仕分けは難しいようだったが、最終的に水質判定はⅠであると結論付けていた。講師から、水生生物の羽化後の写真を見せてもらったほか、生態系ピラミッドの説明とその生態系外にいる人間が生態系を守ることが大切との講義があり、真剣に聞いていた。			



実施日	6月6日	主催者	リメイクサークル御所	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	11名		
研修会		リメイクサークル御所			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより 古着・着物で新しく作る。 *主催者より いつも笑いの絶えない研修会となっています。			



実施日	6月6日	主催者	盛岡市立城南小学校	アドバイザー	櫻井 則彰 高橋 良和
		対象	5学年児童72名 引率教員4名 合計76名		
研修会		水生生物調査を通して環境問題について調べよう！			
テーマ		水生生物学習			
内容		*アドバイザーより 中津川に入り、水生生物採取と河川のきれい度調査。採取は、水中生物用網を使う。また、水中の石を両手で持ち上げ、石に取り付いている水生生物を採取。出発前に、虫の好き嫌いを尋ねたら、半数以上は嫌いだと答えたので、今日は、採取した虫をよく観察して好きになるように促した。防災士の観点からは、自然には楽しいことが多くあるが、危険もあることを伝える。今回は、川の中で転倒し、ずぶ濡れの学童も多くいたので、緊急時の重要対応の3番目に、ぬれたりしての低体温症対策の話をする。気温が低かったり、風が強かったりすれば、その危険性は高まることも話す。また、川にいる時は、常に上流下流を意識して、上流の天候や変化する水温等にも注意するように伝える。 *主催者より 中津川の水生生物を採取し指標生物かどうかを確認し、数を数えた。その後水質階級ごとの生物の多さから中津川の水が「きれいな水」「ややきれいな水」であることを確かめた。			



実施日	6月7日	主催者	盛岡市西部公民館	アドバイザー	大友 晃
		対象	16名		
研修会		自然環境講座・春「安比高原ブナ2次林」			
テーマ		「安比高原ブナ2次林」の観察			
内容		*アドバイザーより 安比高原の「中のまきば」に広がるブナの森から、「奥のまきば」の湿原への森林トレッキングを通し、主に次の点について学習・ブナの森の果たす役目・安比ブナ林周辺に生息するクマの痕跡確認、クマの生態・この時期の高山植物観察・ブナ林の中に建つ二酸化炭素動態観測塔の見学・安比高原千年の歴史(人と馬との関り)など *主催者より 安比ブナ二次林を歩きながら、安比ブナ二次林の成り立ちや、ブナ・ブナの森の特性、自然の植物動物について講師から話を聞くとともに、自然(土、木、花、虫、動物)に触れ、自然の素晴らしさを堪能した。参加者は大変満足しており、充実した研修会となった。			



実施日	6月8日	主催者	岩手県立県南青少年の家	アドバイザー	大友 晃
		対象	応募者24名 職員8名 合計32名		
研修会		ファミリートレッキング			
テーマ		トレッキングガイド			
内容		*アドバイザーより ・遊林ランド～せせらぎ広場～水辺の広場～カタクリの広場～カッコウの経～アザリアの経～モナドノックス～巨人の左足のルートで物見山頂上へ、ワイルドにアクティブ(飛び石渡り、倒木渡り、木くぐり、ヤブ漕ぎ、プチトレランなど)にトレッキング・青少年の家が用意した自然のビンゴシート *主催者より 大友氏のガイドにより、大人にも小学生にも負担のないペースで安全に登山することが出来た。途中では倒木の上や沢の脇を歩くなど変化に富む案内をしていただき、初めて会う人同士の交流もたくさん見られた。また、野鳥や植物などの解説もたくさんしていただき、参加者は自然を満喫している様子だった。			



実施日	6月8日	主催者	グリーンスマイル☆キッズ	アドバイザー	高橋 良和
		対象	グリーンスマイルキッズ+スタッフ(地域住民 小学生52名 岩大EMSC6名 医大IM2EDiCo6名) 合計355名		
研修会		第4回大ザリガニ釣り大会			
テーマ		水生生物調査による水質調査活動について			
内容		*アドバイザーより 数年前、子供たちは盛岡城跡公園周辺のトンボが減っているとの情報から色々調査を始める。その原因は、生態系への影響が大きいと思われる、ザリガニの増加も一要因と考えた。更に、周辺の環境保護に貢献することも考え、第4回目となる『大ザリガニ釣り大会』を引き続き、今年も開催。小学生と中学生姉妹を中心に、親御さんや盛岡市や地域を巻き込んでの開催には、感心させられる。私も、準備会(4日)と当日(8日)の両日、参加者を前にして特定外来種や在来生物とその生態系について知り得ている範囲で、解説をする。更に、当日は、特定外来種の詳しい説明や釣り上げたザリガニの処理の説明等に加え、環境の話も参加者に伝える。注意点として終了時は良く手を洗うことと、少しでも出血があれば、医大生の救護班に出向き、適切な消毒をすることなどの協力要請もする。素晴らしいことに、子供達で、説明用模造紙書き、司会進行から、各チームの役割や発表などすべてに中心となり進めていることである。また、今日の釣り上げたザリガニは、その場でゆで上げた後、パック詰めにして近くの魚店で冷凍保存。その後八幡平市の農業ファームで粉にして、花卉類の肥料として使う予定と聞いています。立派な循環のしくみを完成させ、取り組んでいて、今後も応援したい。 *主催者より 盛岡城跡公園 鶴ヶ池に生息する水生生物を採取し水槽で展示し参加者の子供たちに棲息する水生生物の名前や生態を説明頂き、改めて鶴ヶ池に生息する水生生物が多様であることを知ることができた。(トシヨウ、川エビ、アマゴ、アメリカザリガニ等々)来年も引き続きよろしくお願いします。			

実施日	6月9日	主催者	いちのせき健康の森	アドバイザー	多門 真咲
		対象	一般参加者10名		
研修会		自然散策「栗駒散策」			
テーマ		須川高原の植物について			
内容		*アドバイザーより 須川高原温泉から名残が原、剣岳、賽の河原を通るコースをめぐり、高山植物と樹木を観察した。 *主催者より 天候にも恵まれ、絶好の観察日和でした。草花について色々講師の先生に解説頂きました。参加者からも好評でした。			

実施日	6月11日	主催者	岩手県国民健康保険団体連合会女性部	アドバイザー	田鎖 みよ子
		対象	職員男7名 女37名 合計44名		
研修会		職場や家庭におけるゴミの減量」～環境を考える企画～			
テーマ		ごみ減量			
内容		*アドバイザーより 参加者が環境を考えるきっかけとして、ゴミ・リサイクルの必要性を理解できる内容を実施。パワーポイントと実践用品を使って伝えた。 *主催者より 自宅の写真等を用いてわかりやすく説明いただき、ゴミの捨て方の事例の実物を持参して説明していた点が理解しやすく実践できそうだと感じました。ごみの捨て方や片付け方を考えるきっかけになったと思います			

実施日	6月11日	主催者	金ヶ崎町西部地区生涯教育センター	アドバイザー	大友 晃
		対象	一般8人 スタッフ4人 講師1人 合計12名		
研修会		令和6年度成人講座「国見山新緑トレッキング」			
テーマ		トレッキングガイド			
内容		*アドバイザーより 「里山トレッキングを通し、ふるさとへの理解を深め、参加者同士の交流を図る」という目的が達成されるよう、いこいの森から北上市展望の亀の子岩、旧伊達領南部領藩境点、珊瑚岳を経て国見山へ登り、大観音を礼拝、千田正 元岩手県知事書のレリーフを拝察、展望東屋で昼食を取り、下山は廃寺跡地をめぐる極楽寺まで、国見山周辺の自然観察、歴史探訪の約3時間30分の山歩きを行った。 *主催者より 夏を思わせるような天候だったが、山の中は涼しく心地よい風が吹いていた。講師の指導の下、初心者も経験者もトレッキングを楽しんだ。自然の中で心が解放されたひとときだった。親子での登山など。			












実施日	6月11日	主催者	盛岡市立都南東小学校	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	第5学年19名		
研修会		乙部川水質調査			
テーマ		乙部川の水生生物			
内容		*アドバイザーより ・水生生物調査当日朝正面玄関前に生徒19名整列、靴、水筒、帽子の確認、環境アドバイザーの紹介・教員4名、アドバイザー1名で乙部川(乙部館橋下)に向かう・川原が狭い。荷物を脇に寄せ、網の使い方を説明する(網は水流と直角に立て網の手前を靴で川原石をゴリゴリする)・水の流速を測定(5mのひもをつけたペットボトルで何秒かかるか)児童に計測させ18秒であることを確認・乙部館橋下より下流側に行かないを注意(教師1名がそこに立つ)・各自に網、バットが支給され、網を持って川に入り水生生物を探す・途中水分補給休憩を5分挟み水生生物調査を2回実施する・幼虫が成虫になった場合の写真を持参し見せる。・昆虫が絶滅しかかっていることを説明、生態系の中で人間がどの位置にあるのか、現在の生物絶滅の状況などを話し、子どもたちに考えを促す。 *主催者より 児童は、櫻井氏の指導の下、どんな水質を好む生物が採取できたかを調べることで、乙部川の水質がきれいで、自然豊かな地域であることを確認することができた。実際に現地に出かけて水中生物を採取するという活動は児童にとって大変有意義であった。この体験を今後の学習に生かし、学区の自然環境の良さを全校に伝える活動につなげることが出来ればと思う。			



実施日	6月11日	主催者	一関市小梨市民センター	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	11名		
研修会		せんまや里山塾「リフォームコース」			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより リメイク講座 *主催者より 数年続いている講座ですが前年度参加した方が声がけて初めて参加する方が増えてきました。1回目から来年も参加したいというほど楽しく参加していただきました。			



実施日	6月11日	主催者	宮古市磯鶏小学校	アドバイザー	水木 高志
		対象	磯鶏小4年生37名 教員3名 ボランティア2名 高浜小4年生9名 教員1名 合計52名		
研修会		総合的な学習の時間「八木沢川探検隊」			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 川に入り生物調査、観察。自然の豊かさ説明。 *主催者より 水生生物や植物について実施で詳しく教えていただいた。			



実施日	6月12日	主催者	涌津まちづくり協議会	アドバイザー	多門 真咲 多門 祐純
		対象	涌津地区住民19名		
研修会		涌津市民センター成人学級「須川岳トレッキング」			
テーマ		自然観察:高山の動植物			
内容		*アドバイザーより 須川高原温泉から名残が原、剣岳、賽の河原を通るコースを巡り高山植物と樹木を観察した。 *主催者より 19名を2班に分けて、須川岳の名残が原をトレッキングしながら、花などの植物のほか動物についても、ホワイトボードを使用しわかりやすく説明いただいた。			



実施日	6月14日	主催者	矢巾町活動交流センター	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	20名		
研修会			やはばーくにじいろモール6月の星空観察会		
テーマ			星空観察		
内容			*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 春～夏の星空と当日の夜空の暗さ・星空環境保全 地域の星空を観察しながら、星空環境について理解を深めて頂いた。 雲は少なかったが、盛岡から紫波にかけての光害が顕著であった。 身近なエネルギー問題にも、興味を持って頂く機会となった。 *主催者より やはばーくイベントに宮沢賢治の展示コーナーがあるため、小惑星である宮沢賢治、藤原健次郎、南昌山の説明をお願いしていた。その内容をしっかり説明してくださいました。望遠鏡で月を見たときは感動の声が多かった。		
実施日	6月14日	主催者	特定非営利活動法人紫波みらい研究所	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	紫波町内住民5名		
研修会			環境講座「着物リメイク講座」		
テーマ			着物リメイク		
内容			*アドバイザーより 着物リメイク *主催者より 環境講座としてダンスにしまいこんでいる着物の活用方法について学んだ。		
実施日	6月15日	主催者	情報誌ゆうゆうイオン盛岡南	アドバイザー	皆川 千里
		対象	一般7名		
研修会			環境フェスティバル		
テーマ			脱プラ・リサイクル		
内容			*アドバイザーより お母様がお買い物の間にお父様とお子様で参加のパートンで体験されました。台所で使うアイテムですがお父様にもお伝え出来たのは良い機会だったと思います。親子体験で仲良く行う姿はほほえましかったです。 *主催者より みつろうエコラップの役割と作り方について		
実施日	6月15日	主催者	奥州市市民環境部生活環境課(水沢中学校)	アドバイザー	川田 昌代 小沢 宗
			。 総合文化部1～3学年28名 教師3名、生徒の保護者2名 合計33名		
研修会			奥州市環境学習事業(水生生物調査)		
テーマ			水生生物調査を活用した水質調査		
内容			*アドバイザーより 水生生物調査とパックテストによる水質判定。 まず、川に入る注意点、生き物の捕獲法を説明した後、ライフジャケットを着用。川の水温や水深、流速、水の臭い、川幅などを確認した後、2か所に分かれて、水生生物を採取。約15分後に川からあがり、班ごとに生き物を調べて調査用紙に記入。判定を行ってもらい、発表してもらった。その後、透視度計による水の濁りの判定をしながら、パックテストにて、PHとCODを水道水、地下水、川の水それぞれ調べた。最後に、まとめを行い終了。 *主催者より 暑さが厳しく早い時間に川に入ることにし、流速測定後に生物を捕獲した。右岸と左岸に分かれ実施したが、川底の環境の違いにより生物数に差が出た。分類と水質判定には、下敷をみたり講師に質問したりして取り組んだ。橋の下の日陰に移動し、透視度測定と、川の水・地下水・水道水の3種類での化学的水質調査(PH、COD)を実施した。最後に生態系ピラミッドについてと、水生生物が川の有機物を地上に戻す役割を担っている旨説明があった。パックテストの反応時間管理があわただしかった。		

実施日	6月15日	主催者	骨寺村ガイドス運営協議会	アドバイザー	多門 真咲
		対象	一関市民30名		
研修会		須川と本寺の自然観察			
テーマ		自然観察			
内容		*アドバイザーより 須川高原温泉から名残が原、剣岳、賽の河原を通るコースを巡り高山植物と樹木を観察した。 *主催者より 天気に恵まれ、水分と休憩をとりながら行いました。 募集人数を超える応募があり自然観察への興味関心の高さを感じました。 参加者からの質問にも丁寧に答えていただき、参加者から楽しかったとの感想をいただきました。			



実施日	6月16日	主催者	身近な環境問題を学ぶ①	アドバイザー	粒針 文子
		対象	10名		
研修会		盛岡市民生活研究会			
テーマ		身近な環境問題について			
内容		*アドバイザーより 一般市民の生活に関わる身近な環境問題を学びたいということで最近各地の調査報告が相次いでいる有機フッ素化合物(PFASなど)について問題点と暮らしの中で注意すべき点についてお話ししました。他にも身近な有害物質についてどのようなところで使われているか、どのような健康被害、人体への影響が懸念されているか、どうしたら避けられるかについてお伝えしました。皆さん熱心にメモを取りながら聞いていただきました。 また国や行政が法律や基準値を設けてはいても一般の生活者がそのひとつひとつに普段から目を向けることはありません。問題となって初めて知るばかりなので、むしろ問題にならないようなやり方はないのかと聞かれ、そちらの事例を国内で探すのもなかなか難しくはありますが、自分らにもわかりやすくなるべく平易な言葉で伝える岩手県のアドバイザー制度は行政と市民の間をつないでいるのでこれからも続けてほしいとのことでした。 *主催者より PFASの汚染状況について日常に使われているものに含まれている現実を考察する。			



実施日	6月20日	主催者	盛岡市立山岸小学校	アドバイザー	内田 尚宏 佐井 守 吉田 美幸
		対象	3年生児童 男子49名 女子54名 引率4名 合計107名		
研修会		中津川探検			
テーマ		中津川の水生生物について			
内容		*アドバイザーより 水生生物の採集、及び指標生物の同定指導、水生生物と自然との関係について子供たちが水生生物と自然や自分達とのかかわりについて、興味深く学んでいる様子だった。 中津川文化橋上流の河川敷で、周りの様子を観察したのち水生生物を採取し、指標生物表に基づいて水質判定をおこなった。判定結果は「ややきれい」でした。 *主催者より 中津川の水生生物調査を行った。水生生物採取方法、調査中の安全などについてご指導いただいた。その後、学年を3つのグループに分けて実際に中津川に入り、水生生物調査を行った。採取した生物についての質問などに答えていただきながらグループごとに分類していった。最後に学級ごとに採取した生物を発表し、中津川の水質判定の仕方を教えていただ			



実施日	6月21日	主催者	盛岡市上田公民館	アドバイザー	大友 晃
		対象	受講者20名、担当者2名 合計22名		
研修会		エンジョイ！ 生き生きライフ 八幡平の魅力			
テーマ		「八幡平の魅力」(八幡平の夏)			
内容		*アドバイザーより 自作のパワーポイントとテキストを使用 「八幡平の魅力」と言うテーマに沿って、山としての八幡平の歴史、名前の由来、山の特徴、山域、トレッキングの服装、持ち物、注意点等を学ぶ。 受講者の半数以上が山歩きの経験がないということであったが、関心を持って受講されたようであった。山の写真をふんだんに使ったパワーポイントは効果的で、次回の実践トレッキングへの意欲が高まっようだ。テキストを書き込み式にしたことで、熱心に話を聴いてノートをとっていた。 *主催者より 八幡平の魅力に関する全2回の第1回目の講座で、次回の実際のトレッキングへの興味関心の高め、トレッキングの基本について知ることができ、有意義であった。			



実施日	6月21日	主催者	一戸町教育委員会	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	一般子ども連れ10名		
研修会		ごしよのdeまなびプログラム「縄文の星空観察会～夏～」			
テーマ		近年の星空環境とSDGs			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 春～夏の星空と当日の夜空の暗さ・縄文時代と現代の星空環境 地域の星空を観察しながら、星空環境について理解を深めて頂いた。 曇天ではあったが、日没後から薄明終にかけての夜空の暗さの変化を観察しながら、縄文時代と現代の夜の環境について理解を深めた。 *主催者より 初めに、岩手県や一戸周辺を取り巻く環境について星空を中心としてお話いただき、その後屋外に出て夜空の観察を行った。薄曇りの天候であったが、うしかい座アークトゥルス、こと座のベガ、おとめ座のスピカ、北斗七星などの星が視認できた。			



実施日	6月25日	主催者	MCL盛岡ペットワールド専門学校	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	11名		
研修会		自然と生き物の繋がり調査			
テーマ		多くの生物と自然と人間のつながりについて			
内容		*アドバイザーより 水生生物の採集、及び指標生物の同定指導 水生生物と自然との関係について 昨年度も水生生物調査を実施した学年で、全体的にスムーズな調査となった。雷雲の接近を警戒した為、予定よりも短時間で切り上げた。 *主催者より 天気は曇り空だったが、水位も低く非常にやりやすい状況であった。ただ、時期的に水生生物は少なく、オタマジャクシやアブラハヤの稚魚などが多く捕獲された。また、チスイビルやマツモムシなどの危険生物が捕獲された。			



実施日	6月25日	主催者	遠野市立上郷小学校	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	3年生児童4名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査(雨天のため教室での学習)			
内容		*アドバイザーより(雨天のため講義) ・水生生物の調査は水の「きれいさ」をそこに棲む生物で調べるもの ・水生生物にはどんな生き物がいるか？魚類、水生昆虫、貝类等 ・指標生物とは何か？ ・水の汚れの程度Ⅰ～Ⅳ段階とは何か？ ・その他 成虫になったらどんな姿になるのか？数種類を見せる ・安全のために！調査は指導者(大人)と一緒に、数名のグループで *主催者より 雨天のため、現地での調査はできませんでした。学習会では、水生生物の種類や生物が住む川の環境についての説明を聞いたり、調査に使う道具に実際に触れたりしながら学びました。SDGsと関連づけた解説もしていただきました。 雨天のため、現地での調査はできませんでしたが、写真や映像を見ながら、楽しく学習することができました。新しく知ることも多く、とても新鮮な気持ちで学習会に臨むことができました。学習会のための資料を準備していただき、ありがとうございました。			



実施日	6月25日	主催者	紫波連合婦人会	アドバイザー	岸本 敬子
		対象	5名		
研修会		「豊かな人生を創造する愛のシンフォニー」ほっこりSDGs講座			
テーマ		身の回りにある残り毛糸の活用術			
内容		*アドバイザーより 押入れの不要物の再利用で快適な冬期のシニアライフを過ごすアイデアグッズの制作 *主催者より 冬に眠っている毛布、毛布丹前、こたつの上掛け、ブランケット、綿毛布などひざ掛けのサイズに裁断しそれに合った軽地で縁取り乃愛見方を実演した。編み物にとどまらずリメイクについても教えていただきあつという間の時間でしたが要点はしっかり押さえ次回の講座で初回の人をアシストできるようにすることで閉会しました。			

実施日	6月26日	主催者	山田町役場町民課	アドバイザー	吉田 偉峰 吉田 美幸
		対象	山田小学校(4年生)66人 引率教職員3人 引率保護者7人 山田町役場職員4人 地域学校支援コーディネーター2人 活動サポーター2人 合計84名		
研修会		水生生物による水質調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物の採集、及び指標生物の同定指導 水生生物と自然との関係について 今回の織笠川は、指標生物が少ない印象であった。 子供たちが水生生物と自然や自分達とのかかわりについて、興味深く学んでいる様子だった。 *主催者より 晴れてはいたが、やませにより気温が下がり、寒がる児童がいたが、調査は問題なく行った。児童は講師の説明のとおり調査を行った。水質判定後は、水生生物と人間の関わり、水資源の重要性についての説明を受け、児童は関心深く聞いていた。			

実施日	6月28日	主催者	つちのこアトリエ	アドバイザー	藤原 正
		対象	幼児・小学生親子9組28名		
研修会		ゲンジボタル観察会			
テーマ		ホタルについて			
内容		*アドバイザーより 観察する前にホタルの生態や環境についてお話をして学習 現場ではヘイケボタルとゲンジボタルの観察を行う 親子での観察会で感動していました 温暖化のせいかホタルの発生が早まったのではないかとと思われる *主催者より ホタルの種類(ゲンジ・ヘイケ・ヒメ)や、ゲンジボタルの餌になるカワニナの話など 教えていただき、自然環境や生き物との共存などを考えるきっかけになりました。 3年連続参加親子も何組かおり、ホタルから水の環境へと興味が広がっているようです。			

実施日	6月28日	主催者	奥州市市民環境部生活環境課	アドバイザー	川田 昌代
		対象	衣川小学校4学年9名 教師2名 合計11名		
研修会		奥州市環境学習事業(水生生物調査)			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 川の様子を観察。(水温、流速の測定、水深、川幅、水の臭い、川底の様子など)入る際の注意点、生き物の捕獲法、調査範囲などを説明した後、水生生物を採取。約30分後に川から上がり、衣川ふるさと自然塾へ移動。室内で、班ごとに生き物を調べて調査用紙に記入。判定を行ってもらい、発表してもらった。最後に、まとめを行い終了。 *主催者より 天候曇りで暑すぎず、流速測定などもじっくりとしていただいた。生物採取は、3班編成で協力しながら積極的に行っていた。ヨコエビが多く採れたが、同じ種類の生き物ばかり採れると残念がっている生徒もいた。アブ等の害虫によるケガが心配されるため、衣川ふるさと自然塾に移動し、屋内で分類・観察を行った。講師に質問しながら真剣に分類していた。虫眼鏡などで詳しく観察をすることができた。			

					
---	--	--	--	--	--

実施日	6月29日	主催者	ボーイスカウト北上第1団	アドバイザー	藤原 正
		対象	25名		
研修会		ホタル観察会			
テーマ		ホタルの現状			
内容		*アドバイザーより ホタルの種類と生態の違いについて学習する。 水田の側溝での飛翔観察と自然環境の変化を知る。 親子で観察し感動して喜んでいた。 今年はホタルの発生が早かった様に思われる。 *主催者より 先ず講師によりホタルの生育、種類、餌や最近の環境状況等の説明があり、20時を過ぎホタル観察に適した時間になったところで、徒歩で1km程度の場所にあるホタル生育地に行き、ホタル観察を行いました。ホタル発生ピークを1週間経過した時期でしたので源氏ボタルがほとんどで、平家ボタルは数匹程度の観察となりました。発生場所の個体差が毎年違っていること、カワニナを捕まえてホタルを保護していること、温暖化の影響で発生ピークの時期が早まっていることについて、講師より説明がありました。			



実施日	6月29日	主催者	盛岡中央公民館	アドバイザー	内田 尚宏 佐井 守
		対象	子ども10名 保護者10名 講座担当者2名 合計22名		
研修会		わくわく盛岡チャレンジクラブ(自然調査編)第1回			
テーマ		水生生物調査による河川の水質調査			
内容		*アドバイザーより ライフジャケット着用し、河川活動時の親が知っておきたい安全対策について。 水生生物採取と指標生物による水質判定。 生物多様性について。 小学1年生から4年生の親子参加なので、親(大人)が子どもと水辺や川で遊ぶ時の留意点など、学習より河川活動にポイントを置いた。 希望参加の為か、子ども達は学校が行う水生生物調査時よりも虫の採取も進んでおこない質問も多かった。参加者20名だが、チャレンジングな子ども達に応えるにはアドバイザー2名だったので良かった。 *主催者より 気温が高い日であったが、子どもたちの健康・安全に配慮していただきながら、親子で楽しく水生生物を探ることができました。			



実施日	7月1日	主催者	特定非営利活動法人おはなしころりん	アドバイザー	本多 サト子
		対象	8人 手伝い2人 合計10人		
研修会		おしゃれなチュニック作り ～着物リフォーム裁縫教室～			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより 着物リフォームチュニックづくり指導 8人の受講者全員が上手に出来上がり満足そうでしたのでほっとしました。古い着物(浴衣など)からチュニックは2枚できるので2枚、3枚と作りたいと意欲的に取り組んでいました。 *主催者より 例年は参加者数を10名としていたが、時間が足らず完成しないケースが少なくなかったため、今回は8名にして、先生の指導が余裕をもっていきわたるよう工夫した。結果、時間内に全員が完成までたどり着き、着衣し記念撮影まででき、満足度は大。			



実施日	7月2日	主催者	一関市民センター	アドバイザー	大友 晃
		対象	参加者12名 センター長 岩手日日新聞の記者 合計14名		
研修会		低山トレッキング教室			
テーマ		自然保護・自然観察			
内容		*アドバイザーより 一関市民センター霜紅大学の環境講座 八幡平トレッキング 八幡平アスピーテライン 黒谷地バス停～黒谷地～源太森～八幡沼～山頂～アスピーテライン山頂バス停 のルートで、高山植物(固有種ハチマンタイアザミや発見者の高橋喜平氏の話)、八幡平特有の景観(日本百名山の著者 深田久弥氏の話)、植生(オオシラビソの植生密度は日本一とも言われる など)、歴史(名前の由来) などについて話をしながら4時間のトレッキング。 *主催者より 梅雨の時期にもかかわらず晴天に恵まれての研修となり、八幡平の自然観察を通じての環境学習は充実したものになった。参加者には不調や事故等が一切なく終了しました。			



実施日	7月3日	主催者	盛岡市立中野小学校	アドバイザー	内田 尚宏 櫻井 則彰 吉田 美幸
		対象	5年生児童89名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより ・網の使用法、河川の特徴、最初は石の裏に付着する水生生物をとり、網を使うのはその後を使うことなどを説明 ・川に入り採取作業に入る(1時間ほど) ・川から上がり分類作業(30分ほど) ・虫が嫌い、触れない子どもが半分くらい、川にズック靴のまま入り、大騒ぎとなる ・ヒゲナガカワトビケラが多数みつかると ・川の水質は「ややきれいな川」になる ・内田氏はアブラハヤ、カジカ数匹をつかまえる ・子供たちが水生生物と自然や自分達とのかかわりについて、興味深く学んでいる様子だった。 *主催者より 調査の仕方をわかりやすく教えていただいたので安全に実施することができた。指標生物から梁川は「ややきれい」ということがわかり子どもたちが喜んでいてた。			



実施日	7月3日	主催者	陸前高田市立矢作小学校	アドバイザー	臼澤 良一
		対象	児童13名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより ・初めに生物の採取方法を説明後、児童10人が3班に分かれ、採取。 ・班ごとに「川の生きものを調べよう」の下敷きを用い、判定。 ・最後に、パネルを用いて全体の判定。結果は「きれいな水」と判定。 ・初めて見る生物に興味津々の様子。環境学習は現地での観察が一番と感じた。 ・幼虫と成虫の写真を見せたところ、その違いにビックリした様子。 ・この時期は羽化後のため、全体的に小さい生物が多い。調査時期は、5月～6月頃が良いのではないかと感じた。 ・川の汚れの原因と対策について説明。 ・一昨年と比較して水量が50%程減。 *主催者より 矢作川の水生生物調査をして、きれいな川だということが分かった。			



実施日	7月3日	主催者	二戸市御辺地小学校	アドバイザー	松尾 亨
		対象	児童9名 引率1名 合計10名		
研修会		安比川水生生物調査			
テーマ		水生生物調査による水質調査			
内容		*アドバイザーより 安比川の水生生物調査を通して、指標となる水生生物から水質調査を実施し、身近な河川環境とを学ぶ。(実習及びテキストと講話により) 6月に実施した森林学習の関連として、森と川が地域の農業や生活にどのような関連性を持っているのかを講話で学ぶ。 研修の目的である安比川の水生生物調査を通じて、水質環境や安比川が地域の産業(農業や漆)への関連について学ぶことが、前回の森林環境学習と関連付けられ学習効果がより得られたので、「森林と川、海」との組み合わせた学習は今後さらに広げることも大事なことと考えられます。また子供たちが実体験を積極的に楽しみながら調査できたことが、今後の環境問題への取組等に役立つのではないかと考えています。 *主催者より 水生生物調査の方法を知り、実際にやってみた、きれいな川に棲む生き物が多かった。カワシンジュガイの発見もあり、とても有意義な水生生物調査となった。			



実施日	7月3日	主催者	一関市立大原小学校	アドバイザー	花澤 淳
		対象	4年生児童17名		
研修会		水生生物調査による水質調査			
テーマ		砂鉄川の水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 大原小学校4年生17名に対し、水生生物調査を活用した水質調査を実施し、併せて、川遊びの安全確保や生態系、生物多様性について解説した。 *主催者より 水生生物調査は初めての児童が多かったが、講師の先生の丁寧な安全指導のもと、多くの生き物を見つけることができた。 ・きれいな川の保全のために、自分たちができることを考えるきっかけになった。 ・砂鉄川がきれいなことが分かり、町の宝を大切にしたいという思いを強くした。			



実施日	7月5日	主催者	盛岡市文化振興事業団 都南公民館	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	42名		
研修会		親子ホタル観察講座			
テーマ		ホタルの生態など基礎知識の学習と現地視察			
内容		*アドバイザーより ・初めに都南公民館にて30分ほどホタルの生態などをクイズ形式にて子どもたちに解説 ・ホタルが最近いなくなったのは、どうしてですか?・外来種コモチカワツボとホタルのかかわり ・光害とホタルのかかわり・昆虫絶滅と生物多様性の関係・ホタルキャッチャーと簡易虫かごの使い方 ・昔、紫波町で行われていた「風物詩」カヤとホタルの楽しみ方 ・現地にて:心配されていた雨も降らず、源氏、平家、姫ホタルが多数みつき子どもたちは大喜び ・交尾状態の源氏ホタルを捕まえた子もいた ・明かり付き虫メガネでホタルの頭部から背中の中を確認し多くが平家ボタルであることを確認する *主催者 ・第1研修室にて講話。その後大ケ生へバスにて移動。 ・大ケ生到着後、大ケ生金山前にて下車。下流に向かって徒歩にて観察。 ・天候もよくアスパラを使用し観察。ヘイケボタルを全員が観察できた。 ・都南公民館にて 21:00 解散。 天候にも恵まれ例年観察できるヘイケホタル、ゲンジボタル、ヒメボタルを観察することができた。 昨年は多くのヒメボタル、飛び交うヘイケボタルが観察できたが、下見の時点で昨年と比べホタルの数が少なく、全員が観察できてほっとしている。気候や気温の変化にも影響を受けるホタルの観察を通して環境の変化を知ることができた。今後も希少な場所であることを認識するとともに、はじめての感動を多くの子ども達に伝えていきたい。アスパラでホタルをつかまえ、習字用紙で作った入れ物で観察するスタイルが大変好評だった。親子とも関心が高く、講師の講話も、ホタルの生態と同時に豊かな自然を守ることの大切さも学ぶことができ大変有意義であった。			



実施日	7月5日	主催者	盛岡市立下橋中学校	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	生徒67名 職員4名 合計71名		
研修会		第一学年川体験学習(講演)			
テーマ		川の役割と生物			
内容		*アドバイザーより 講義「川の環境と森と海と人のつながりについて考える」と次回の水生生物調査の予習。下橋中とは環境アドバイザー制度が始まる以前から講習をおこなっているが、毎年質問も多く、環境問題への意識が高いと感じる。 *主催者 森と海をつなぐ川の役割についての講演会。生徒たちとやりとりしながら水生生物の生態や身近な中津川の様子に興味・関心をひくような広く多角的な視点でお話いただいた。生徒たちは楽しく自然の大切さについて学ぶことができた。講演会を受けての川体験が中止になったことは残念であったが、自然との関わりは安全に留意し、油断できないものであることも生徒たちは学ぶことができたと思う。事前に様々なアドバイスもいただき、内田先生には感謝申し上げます。			



実施日	7月5日	主催者	宮古市立千徳小学校	アドバイザー	佐井 守
		対象	4学年児童66名 引率者4名 合計70名		
研修会		近内川環境調査隊			
テーマ		水生生物			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査 ・沿岸河川の水生生物については、汽水域及び海洋環境の知識が必要。 ・今回も国立研究開発法人水産研究教育機構のご協力をいただいた。 *主催者 近内川の水生生物調査の実施 水生生物を調査したことから、近内川の水質がきれいなことが分かり、児童自身ができる川をきれいにする活動を一人一人が考えることができた。川に入ったり、虫を触ったりする活動に抵抗感をもっていた児童も、講師の方の丁寧な指導のおかげで楽しみながら活動することができ、貴重な体験となった。			



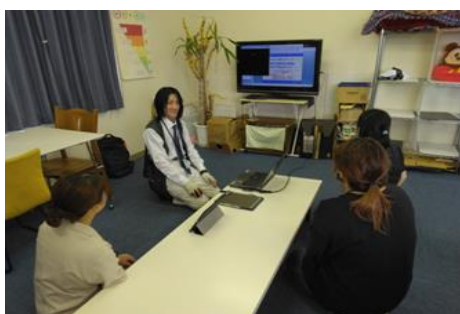
実施日	7月5日	主催者	遠野市立附馬牛小学校	アドバイザー	花澤 淳
		対象	3・4年生児童11名 引率2名 合計13名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 附馬牛小学校3・4年生11名に対し、水生生物調査を活用した水質調査を実施し、併せて、川遊びの安全確保や生態系、生物多様性について解説した。 *主催者より 講師の花澤先生と一緒に川に入り、水生生物を探しました。その後、川の中にいた生物を教えてくださいました。水生生物の種類によって、川が綺麗であることが分かったので、児童にとっていい経験になりました。ありがとうございました。 普段何気なく見ている川の中に、様々な生物がいることを実際に取って見ることができ、その水生生物の種類によって川が綺麗であることを自覚することができたので良かったと思います。			



実施日	7月6日	主催者	岩手県立宮古高等学校	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	自然科学部 男子5名 女子14名 顧問2名 合計16名		
研修会		宮古市山口川の水質調査			
テーマ		山口川の指標生物の生態観察と水質調査			
内容		*アドバイザーより 山口川の指標生物の生態観察と水質調査 河川の指標生物の種類と特徴、及び生物多様性について 高校生は知識もあり、質問も積極的で良かった。 知識はあるが実際に水生生物を見て触れることが無い生徒がほとんどだったので、担当の高橋先生は「実体験の大切さを感じてもらって良かった。」との事でした。 *主催者より バックテストは例年通りの内容で実施し、特に変化はなかった。指標生物の他に様々な生物を採取し、観察を行うことができた。カワニナが昨年度に比べ大きく成長したものを採取することができ、山口川の水質環境が良い状況であることも分かった。カワニナとゲンジボタルやヘイケボタルの生息関係について詳しくご助言をいただきたい。			



実施日	7月6日	主催者	Ambiデイ仙北駅前教室	アドバイザー	吉田 偉峰 吉田 美幸
		対象	子ども6名 大人6名 合計12名		
研修会		七夕の星空観察会			
テーマ		七夕の星空観察			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・地球の環境と資源 七夕にちなんだお話会で、星空環境について理解を深めて頂いた。 地球の水や資源の希少さ、宇宙の中の地球の大切さを感じて頂けたようであった。 地球のビニールボールでクイズを出したりして、楽しく地球環境について学べた。概ね好評だった。 *主催者より ソラの要素、七夕の星々、本日の七夕、環境のお話、宇宙のお話の五つの内容について、テレビモニターに星空等を実際に映しながら学習した。 子どもたちに温かく接していただき、感謝しています。特性を伝えた上で五つの内容に設定していただき、集中が途切れても、次の内容のタイミングで講演に戻って来れて、構成もぴったりでした。空から宇宙まで幅広い情報を飽きさせることなく伝えていただき、良い学びになりました。ありがとうございました。			



実施日	7月6日	主催者	老松みどりの郷協議会	アドバイザー	川田 昌代
		対象	小学生とその保護者15名		
研修会		「藤田川の水生物調査」			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより ・水生生物調査の仕方と網の使い方などをレクチャー。(センター内) ・藤田川にて川の観察と水生生物の捕獲。 ・水生生物の仕分け、観察、記録とまとめ。(センター内) ・プラバンで工作。水生生物の色塗りをしてキーホルダーを作る。(センター内) 実際に身近な川に入って、魚やカニ、ザリガニ、トンボのヤゴなど色々な種類の水生生物を捕獲することができ、親子一緒に楽しい活動ができました。さらに、涼しい室内で、ゆっくりと記録観察ができ、皆さん、とても興味津々でした。川の生き物を通して、私たちと水の関わりについても考えてもらおうきっかけになったと思います。最後に、工作のキーホルダーと私の手作りミニ図鑑を持ち帰っていただきました。 *主催者より 経験者(児童)は捕獲網の使い方様になり、積極的に活動していた。持ち帰った生物の観察や名前調べも、講師が準備したプリントや下敷きを使い、しっかりできていた。保護者も夢中になって参加してくれた。水生生物調査の指標生物ではないが、オタマジャクシがしっぽだけのもの、足が出てきたものを実際に見ることができ、子どもたちは喜んでいた(男子ですが)。ホタルが生息している川なので、環境保護も考えていきたい。			





実施日	7月6日	主催者	奥州市 市民環境部 生活環境課(東水沢中学校)	アドバイザー	小沢 宗
		対象	総合文化部1～3学年14名 教師1名 合計15名		
研修会		奥州市環境学習事業(水生生物調査)			
テーマ		水生生物調査を活用した水質調査			
内容		*アドバイザーより 広瀬川(桜木橋付近)で採取した水生生物を分類し水質調査 当日、広瀬川の水量が多く、環境アドバイザーが採取した水生生物を理科室での水質調査調査でしたが、生き物の顕微鏡観察、化学的水質調査(バックテスト)、も実施でき、充実した水質調査でした。 *主催者より 室内学習のため、講師に早朝広瀬川から水生生物を採取してきていただいた。前日の雨などで水に濁りはあったが、水生昆虫のほか小魚やエビなど様々な生物を観察できた。分類と水質判定では下敷きに沿って分類し、水質ⅠまたはⅡの結果であった。講師の準備した川の水・地下水・水道水の3種類で、バックテストによる化学的水質調査(PH、COD、リン酸)も実施した。畑の肥料などにも含まれるリンは、地下水には少なかったが川の水で反応があり、多く使用すると河川下流の水質に影響がでるとの説明があった。最後に生態系ピラミッドについて説明があった。			



実施日	7月8日	主催者	遠野市立宮守小学校	アドバイザー	根子 英郎
		対象	4年生児童8名 引率教員2名 合計10名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 天候不順により二度の延期により県の調査日程に影響した。遠野地域(この地域に多分布)の外来生物(コモチカワツボ)が確認されたためその周知を図る必要がある。 *主催者より 講師の方に調査の概要を説明していただき、採取した。その後、水生生物の分類を行った。			



実施日	7月8日	主催者	盛岡市民生活研究会	アドバイザー	粒針 文子
		対象	会員とその家族10名		
研修会		身近な環境問題を学ぶ②			
テーマ		ごみの削減と資源化			
内容		*アドバイザーより 例えばゼロエミッションなどの環境関連のキーワードを県や市が一般向けに発行するもので目にしたり耳にしたりする機会は増えていても、はたして実際にその内容や何をする話なのか一般市民が理解できているとはいいいがたい状況です。行政に携わる側がどれだけ仕事を頑張っているもそれがすなわち脱炭素に繋がってすぐに行動にうつせることばかりではありません。だからこそ、身近な暮らしの中ですぐ出来ることをきちんと理解し皆が当たり前になっていく素地をつくる。そのための講座を行いました。ごみを資源化すること、ごみを分別することは、商品の数が膨大なこの世の中でなかなか大変な作業です。知識も考えることも必要です。盛岡市はスマホアプリを開発していることから、高齢者へのスマホの使い方、アプリの意味、インストールの仕方、実際にどうアプリを使うかだけでも分別や資源化を実践しやすくなるのを今回皆さんに体験してもらいました。 *主催者より ごみの分別と資源化について実際に現物を見てごみの分別をする。一つのものでも2種類に分けられるものもある。回収場所を確認する。			

実施日	7月9日	主催者	盛岡市文化振興事業団 都南公民館	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	小学生とその保護者46名		
研修会		親子ホタル講座			
テーマ		ホタルの生態など基礎知識の学習と視察			
内容		*アドバイザーより ・初めに都南公民館にて30分ほどホタルの生態などをクイズ形式にて子どもたちに解説 ・ホタルが最近いなくなったのは、どうしてですか？ ・外来種コモチカワツボとホタルのかかわり ・光害とホタルのかかわり ・昆虫絶滅と生物多様性の関係 ・ホタルキャッチャーと簡易虫かごの使い方 ・昔、紫波町で行われていた「風物詩」カヤとホタルの楽しみ方 *主催者より 第1研修室にて講話。その後大ケ生へバスにて移動。大ケ生到着後、大ケ生金山前にて下車。下流に向かって徒歩にて観察。 ・夕方には雨もやみアスパラを使用し観察。草陰にいたヘイケボタルを全員が観察できた。 ・20:30 都南公民館へ出発 21:00 解散。・前日からの大雨のため、川の状況を事前に確認後開講した。幸いにも雨がやみ気温は低かったものの、ヘイケボタルを観察することができた。下見の時点で昨年と比べホタルの数が少なく、全員が観察できてほっとしている。気候や気温の変化にも影響を受けるホタルの観察を通して環境の変化を知ることができた。今後も希少な場所であることを認識するとともに、はじめての感動を多くの子ども達に伝えていきたい。 ・アスパラでホタルをつかまえ、習字用紙で作った入れ物で観察するスタイルが大変好評だった。・親子とも関心が高く、講師の講話も、ホタルの生態と同時に豊かな自然を守ることの大切さも学ぶことができ大変有意義であった。			

実施日	7月11日	主催者	九戸市立戸田小学校	アドバイザー	松尾 亨
		対象	児童16名 引率4名 合計20名		
研修会		水生生物調査による水質調査			
テーマ		瀬月内川の水質調査を通じて身近な自然環境を考える			
内容		*アドバイザーより 1瀬月川の水生生物調査を通して、指標となる水生生物から水質調査を実施し、身近な河川環境を学ぶ。(実習及びテキストと講話により) 2水質階級に影響する、森と川が地域の農業や生活にどのような関連性を持っているのかを講話で学ぶ。 研修の目的である瀬月内川の水生生物調査を通じて、水質環境や地域の産業(農業や林業)との関連や「森林、川、海」と人間の活動について学習できた。総合学習で農業(稲作)を体験していることから、今回の水生生物調査による体験がより身近な生活環境についての学びとつながったと考えられる。また、子供たちが実体験を積極的に楽しみながら調査できたことが、今後の環境問題への取組等に役立つのではないかと考えています。 *主催者より ・水生生物の種類について ・身近な自然環境の様子について 前日の雨が心配されたが、当日朝現地での確認をしていただいた。安全確認を十分していただいたので、安心して実施することができた。ライフジャケットを貸与していただき、水中メガネなどの用具も適切に使用させていただいたので、児童は安全に配慮しながら十分川に親しむことができた。			

実施日	7月11日	主催者	西和賀町立沢内小学校	アドバイザー	佐井 守
		対象	3年生児童12名(男子6名 女子6名)教諭1名 合計13名		
研修会		第3学年「水生生物調査」			
テーマ		水生生物調査の意味、方法、実地調査の指導			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査(7月3日予定だったが、大雨の為、11日に延期となった。) *主催者より 学校横の水路の水を採取し、それを基に水質について教えていただいた。採取した水の水質は水質階級Ⅰのきれいな水であることを確認することができた。また、水生生物と地上生物の関係や、地域による水生生物の違いを教えていただき、子どもたちも興味津々で聞き入って学習した。			

実施日	7月12日	主催者	盛岡乙部地区公民館	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	参加者13人 職員2人 合計15名		
研修会		親子ホタル観察講座			
テーマ		ホタルの生態について			
内容		*アドバイザーより ・初めに乙部公民館にて30分ほどホタルの生態などをクイズ形式にて子どもたちに解説 ・ホタルが最近いなくなったのは、どうしてですか？ ・外来種コモチカワツボとホタルのかかわり ・光害とホタルのかかわり ・昆虫絶滅と生物多様性の関係 ・ホタルキャッチャーと簡易虫かごの使い方 ・昔、紫波町で行われていた「風物詩」カヤとホタルの楽しみ方 *主催者より ・座学では、先生からの質問を子どもたち自身で考え答えていたのが印象的でした。 ・研修室にて講話・大ケ生へバスにて移動・大ケ生到着後、虫壁川の下流に向かって徒歩にて観察。 ・子供たちと保護者が共に飛んでいるホタルを追ったのが印象的であった。また、参加者した子どもたち全員がホタルを捕まえ、本物のホタルを間近で観察することができたことは、よい体験になったと思う。 ・晴れて肌寒かったが、水路のあるあたりで飛んでいるホタルや草むらで光るホタルを観察することができた。10匹前後のホタルを捕まえる親子もあり、好評であった。 ・乙部地区公民館へ移動 乙部地区公民館到着 解散。			

実施日	7月12日	主催者	MCL盛岡ペットワールド専門学校	アドバイザー	高橋 良和
		対象	15名 引率者1名 合計16名		
研修会		自然と生き物の繋がり調査			
テーマ		多くの生物と自然と人間のつながりについて			
内容		*アドバイザーより ①環境学習は、配布資料(環境セミナー「やっぱり少し勉強しよう、環境のこと」)を見ながら、・環境にやさしいとは何か。・環境を入口、利用時、出口に分けて捉えることで、対応の大切さを伝える。また、割りばしを使うことは、環境にやさしいかを質問し、いつどこで作られたか、などが分からなければ、環境に良いか悪いかは回答できないと伝える。また、野菜の「国産」、「国内産」表示の意味を知る。環境は、目に見える事ばかりではなく、むしろ目に見えない部分での影響にも注意する。また、皆さんが接するペット動物は、自分ではエサを選べないので、皆さんが人への影響を考えて選ぶように、ペットフードでも、安全・安心・環境面から考えて選んでください。 ②その後、中津川に移動し、水生生物採取と河川のきれい度調査をする。まだ川の水量が多いため、採取に充分注意をする。ヤゴ類が多く採種された。また、熱中症対策を十分に行う。特に、朝食抜きの場合、水分摂取量も少なくなるので、より十分な水分補給を学習させる。実際は、水分摂取の声掛けを30分ごとに行う。 *主催者より 天気は曇り空だったが、増水した後だった。ただ、時期的に水生生物は少なく、ヤツメウナギのアンモシーテスやアブラハヤの稚魚なども捕獲された。コオニヤンマのヤゴが多く捕獲された。			

実施日	7月12日	主催者	宮古市立宮古小学校	アドバイザー	佐井 守
		対象	児童31名 教員2名 合計33名		
研修会		水生生物調査による水質調査			
テーマ		山口川と環境問題について			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査 ・ニホンウナギを確認した。 *主催者より 山口川の水質について生物から判断する方法。子どもたちの疑問にわかりやすく丁寧に教えていただきました。また水生生物の扱い方についても教えていただいたため生命尊重の気持ちも育てていただきました。明るく接していただいたおかげもあり、虫が苦手の子も抵抗感なく参加させることができました。			



実施日	7月12日	主催者	奥州市市民環境部生活環境課	アドバイザー	小沢 宗
		対象	江刺ひがし小学校児童24名 教師4名 合計28名		
研修会		奥州市環境学習事業(水生生物調査)			
テーマ		水生生物調査を活用した水質調査			
内容		*アドバイザーより 広瀬川(火石橋付近)で水生生物調査を実施 調査場所が広瀬川の上流であり、水温が14℃と低かったがきれいな水に棲む生き物が観察された。卵を抱いたサワガニを見つけることができ感動した。 *主催者より 集団宿泊学習の最後日メインイベントとして実施されたが、小さなタマゴを持っているサワガニや小魚がいて生徒たちはとても楽しんでた。大雨後の増水により、若干水位があり、水流が早かったものの真夏日ではなく、実施しやすい気温であった。また、水温が14度と冷たく橋下で生物分類作業が出来たので良かった。 生物も、ヘビトンボなど数種が見つかり、生物の分類・水質判定では講師の指導を受け熱心に取り組んでいた。			



実施日	7月16日	主催者	軽米町立軽米小学校	アドバイザー	松尾 亨
		対象	児童17名 大人3名 合計20名		
研修会		総合的な学習の時間水生生物について			
テーマ		身近な川に住む生物と水質			
内容		*アドバイザーより 1雪谷川の水生生物調査を通して、指標となる水生生物から水質調査を実施し、身近な河川環境を学ぶ。(実習及びテキストと講話により) 2水質階級に影響する、森と川が地域の農業や生活にどのような関連性を持っているのかを講話で学ぶ。 研修の目的である雪谷川の水生生物調査を通じて、水質環境や地域の産業(農業や林業)との関連や「森林、川、海」と人間の活動について学習できた。今回の水生生物調査による体験がより身近な生活環境についての学びとつながったと考えられる。また、子供たちが実体験を積極的に楽しみながら調査できたことが、今後の環境問題への関心を持つきっかけとなればとよいと考えています。 *主催者より 初めて水生生物調査を行う児童には順を追ってわかりやすく説明ながら指導してくださいました。3グループに児童と場所を分けて比べながら調査しました。			



実施日	7月16日	主催者	盛岡市立太田東小学校	アドバイザー	高橋 良和 平元 尚人
		対象	5年生児童50名, 引率教員3名, 環境アドバイザー2名 計55名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		川・森林の働き			
内容		*アドバイザーより 5年生50人に実施。小学校の先生3人引率。 増水後であったが、十分実施できる水量であった。コオニヤンマなどが多く採集された。 *主催者より 雫石川の水生生物調査と川虫と親しむ方法を学ぶ事。網の使い方。川虫の主な特徴。また、防災士として、ライフジャケットの正しい装着の仕方。自然と楽しく親しむための川遊びの注意点。川の上流と下流の見極め方。上流側の雨雲を見て、天候予測と避難方法を学ぶ。給水の大切さを話しながら伝える。 学校前で、先ず給水を実施して出発。日中の川岸は暑いので、先生と相談して、確実な給水を定期的に実施。最初の網の使い方から、直ぐに上達して、うまくなった。この日は、コオニヤンマの幼虫が多く採種された。			



実施日	7月16日	主催者	遠野市立綾織小学校	アドバイザー	藤原 正
		対象	児童6名 教諭1名 合計7名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査を行う前に調査の目的と注意事項を話し調査現場に移動 ライフジャケットを着用して調査、その後学校で調査表の取りまとめ 9日の予定が雨のため中止となり、本日の実施となった。 遠野市から調査用器材を借用して実施したが、網の形状が大きく使い勝手が悪いので考えて欲しいと思います。 *主催者より ・水生生物調査に向けての注意事項 ・現地での水生生物調査方法の説明と実施 ・理科室での水生生物の分類作業 ・水生生物を基にした川の水質の判定 ・充実した研修内容であり、児童も体験を通して多くのことを学ぶことができた。 ・来年度もぜひ実施したいと考えている。			



実施日	7月17日	主催者	遠野市立遠野北小学校	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	4年生児童26名 教員2名 合計28名		
研修会		総合的な学習(環境学習)			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物の採集、及び指標生物の同定指導 水生生物と自然との関係について 昨年度よりも参加者数が少なかったため、比較的丁寧に観察ができた。 前週の大雨の影響も落ち着いており、良い川体験となった。 *主催者より 数日前までに大雨があったこともあり、水量に心配があったが、当日は良い状態だった。 初めに、深さによって川の色が違うことを説明いただき、子供たちも自分の目で確認しながら、入ってはいけない場所を確認していた。暑い日が続いていたこともあり、水の冷たさが心地よいようだった。児童は、意欲的に水生生物を採取し、生物の種類を調べることで、自分たちの身近にある川がきれいであることに気付くことができた。子供たちにとって、非常に有意義な時間を過ごすことができた。			



実施日	7月17日	主催者	胆沢平野土地改良区	アドバイザー	川田 昌代
		対象	若柳小学校3年生児童14名 随行教師2名 胆沢平野土地改良区職員2名 合計26名		
研修会		胆沢平野土地改良区 ビオトープ池生物観察会			
テーマ		ビオトープ池に居る生き物・植物の説明			
内容		*アドバイザーより ①生き物・植物についての学習:カード(資料)を使って、ビオトープ周辺の植物を探す活動 ②植物のスケッチ ③植物についてのまとめ(ビオトープ内の植物の役割などについて) ④池の中の生物勉強会:池の生き物の捕獲 ⑤捕獲した生き物の観察 ⑥まとめ(ビオトープ池をどうしていったらいいか、考えよう) *主催者より ビオトープ池の生物観察及び生態調査について説明して頂いた。 胆沢ダムの水位低下による、ビオトープ池の水量変化があり、生き物が生息しているか心配でしたが、子供たちの探求心のおかげで様々な生き物を見つけることができました。 川田先生の説明を聞き、自ら植物の匂いを嗅いだり、実を割ってみたりする子も見られました。			



実施日	7月19日	主催者	一戸町立一戸南小学校	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	4学年児童8名		
研修会		4学年総合学習			
テーマ		馬淵川に生きる水生生物について・馬淵川の水のきれいさについて			
内容		*アドバイザーより 水生生物の採集、及び指標生物の同定指導 水生生物と自然との関係について 大きめの指標生物や魚類も見られ、地域の自然の豊かさを再認識する好機となった。 *主催者より ・水生生物調査の目的と方法について ・馬淵川中流域(一戸町岩根橋付近)の水生生物調査と河川の様子 ・環境や季節による水生生物の変化について 講師の吉田偉峰先生の丁寧な説明のおかげで、子どもたちはしっかりと学習できました。 水生生物調査を通して、馬淵川の水質の良さや水環境の豊かさを体感することができました。 また、事前に現地に足を運んでいただき、安全面についても考えていただき、安心して学習を進めることができました。心から感謝申し上げます。			



実施日	7月20日	主催者	岩谷堂地区振興会	アドバイザー	小沢 宗
		対象	小学生10名 保護者7名 中4名 講師1名 事務局3名 計25名		
研修会		水質調査と水生生物の観察会			
テーマ		水質調査と水生生物の観察			
内容		*アドバイザーより 重染寺橋付近で水生生物を採取し、地区センターで水質調査を実施 広瀬川の水量が多く、子供たちによる水生生物採取は難しいため、アドバイザーが採取。 地区センターで水生生物を分類、水質判定をした。また、採取した水生生物を顕微鏡で観察し、絵に描き、親しみを感じていただいた。 *主催者より 例年観察会を行っていた川の中州が地形の変化で、安全性に不安が出てきたため、始めから講師さんにその地点の川の水を汲んで来ていただいたの室内での観察会だった。 汲んできた川の水にいた生き物により、川の汚れ具合を測定した後、小学校からお借りした解剖顕微鏡で、生き物を観察・スケッチした。 年々川の状況や、天候の激化により、川に直接出向いての観察会ができない状況となってきたので、同じ川の継続観察を約20年行ってきたが、内容検討・変更の時期に来ているのではないかという相談をさせていただいた。今後の環境学習で、人気があって安全性の高い内容などを教えていただけた。今後の企画の参考にしていきたい。			



実施日	7月17日	主催者	御明神小学校	アドバイザー	高橋 良和
		対象	4年生児童14名 教諭2名 合計16名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		環境を考える 竜川の水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 雫石川の水生生物調査と川虫と親しむ方法を学ぶ事。網の使い方。川虫の主な特徴。また、防災士として、ライフジャケットの正しい装着の仕方。自然と楽しく親しむための川遊びの注意点。川の上流と下流の見極め方。上流側の雨雲を見て、天候予測と避難方法を学ぶ。給水の大切さを話しながら伝える。 学校前で、先ず給水を実施して出発。日中の川岸は暑いので、先生と相談して、確実な給水を定期的に実施。最初の網の使い方から、直ぐに上達して、うまくなった。この日は、コオニヤンマの幼虫が多く採種された。 *主催者より ・川での活動についての留意点。 ・水生生物の調査の仕方。 ・自然と(水生生物とも)共生していくことについて。 ・水生生物の調査だけではなく、川での活動の際に気を付けることを分かりやすく説明してもらい有意義だった。虫は苦手でも、殺虫剤で処理するのではなく逃がしてやるという意識をもって暮らすことが、地球全体を守っていくことになるという内容が子どもたちに響いたようである。			



実施日	7月21日	主催者	とうわ野鳥の会	アドバイザー	根子 英郎
		対象	子供9名 大人20名 合計29名		
研修会		川の生き物調べ			
テーマ		水生生物の採捕指導と同定			
内容		*アドバイザーより 水生生物採取・分類を実施。2013年からのデータをもとに説明。7月13日の予備調査結果と併せて天候不順にも言及した。天候不順により河川水量の増減の影響のよるものか、確認生物の種類、数量に例年と異なる傾向がみられた。 *主催者より 連日の雨で心配したが、当日はやや水量が多いくらいだったので、危険な場所には監視役を配置、子ども達はライフジャケット着用で実施した。田んぼや沼から流れ出たと思われ小物も見られた。子どもたちからアメリカザリガニを飼育したいとの申し出があったが、準特定外来動物であるため、事情を説明し断ったが、子どもたちはいまいち納得できていないように思った。 いつものことであるが、細かいところまでわかりやすく説明いただき大変勉強になった			



実施日	7月21日	主催者	葛丸の農村環境を守る会	アドバイザー	佐井 守
		対象	62名		
研修会		親子環境学習会			
テーマ		山と川の生き物調べ			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査 *主催者より 昆虫の標本を持ってきて下さり、実物を見ながらの講義がとても分かりやすかった。			


学習会の様子1


学習会の様子2


学習会の様子3


産卵池イワナの状況

実施日	7月26日	主催者	盛岡市上田公民館	アドバイザー	大友 晃
		対象	受講者17名 担当者2名 合計19名		
研修会		「エンジョイ！生き生きライフ(前期)全2回」の講座第2回「八幡沼周辺自然散策」			
テーマ		「八幡平の魅力」(7月の八幡平の自然)			
内容		*アドバイザーより 八幡平の八幡沼周辺トレッキングの予定であったが、八幡平アスピーテライン山頂レストハウスに着くと、雨は降っていなかったが気温約14℃で濃い霧。トレッキング初心者が参加していることや展望が望めないなど好条件ではないと判断し、フィールドをアスピーテライン冬期閉鎖ゲート付近八幡平市緑が丘の御在所湿原に変更。霧もなく青空もみえる中、御在所湿原入口から御在所沼(五色沼)を経て松尾八幡平地熱発電施設のある赤沼神社までトレッキング。湿原の植物、周囲の景色を楽しみながら湿原の木道を歩き五色沼へ。五色沼の東屋で昼食。五色に変わる沼の色の秘密を学び、落葉広葉樹の幹にクマの爪痕、野生動物がミズバショウの葉をなぎ倒して歩いた跡などを観察しながら赤沼神社まで約2時間のトレッキング。 *主催者より 八幡平の魅力に関する全2回の第2回目の講座で、八幡沼周辺をトレッキングする予定でしたが、頂上付近がガスの発生で視界不良のため、トレッキングコースを御在所、赤沼周辺の縦走コースに切り替えトレッキングを行った。 ほとんどの受講者がはじめてのコースであったことや、トレッキングに精通しているアドバイザーのお話興味深いものが多く、楽しく活動することができた。 受講者は、やや高齢者や初心者の方も多く、登山やトレッキングに関する具体的で基本事項を網羅した事前講座も有効と思われた。			



実施日	7月26日	主催者	達曽部子どもエコクラブ	アドバイザー	根子 英郎
		対象	12名		
研修会		子どもエコクラブ活動			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 河川増水により水生生物調査を中止7/18実施予備データを配布し東和町毒沢川とひかくする形で説明した。 *主催者より ・7月18日(木)事前打ち合わせを行う。数日の雨の為に現地調査は中止となる。 会議室で川の生き物について事前に根子先生が達曽部川で調査した資料を見ながらお話を聞き、最後は自分の気になる生物の絵を描く。 ・自分たちの住んでいる川には色々な生物がいること、きれいな川なんだと分かりやすく説明を受ける事が出来て良かったです。			



		主催者	畑地区農地水資源保存組合	アドバイザー	高橋 良和 花澤 淳
実施日	7月28日	対象	柏台地域内児童等及び保護者45名 畑地区農地水保全組合10 名 柏台地域青年会5名八幡平市消防団第8分団2名(安全員) 合計62名		
研修会		地域の川へふれよう			
テーマ		地域環境状況の理解・河川環境保全の意識啓発			
内容		*アドバイザーより 室内会場への変更のため、主催者と相談し、講師二人の話を、①環境学習の時間と②事前捕獲の水生生物体験を体育館内で実施し、野外と同様の生物との触れ合いを楽しんだ。私が担当する①の環境学習では、環境にやさしいとは何かを伝えた。環境行動は、一般的にガマンやゴミの分別等では複雑さを強要する場合が多く、長続きしない原因ともなっている。楽しみながらやるための見本を見ながら、また触りながら実感してもらう。特にお母さん方には、楽しい環境行動を共感してもらうような事例、『卵のブラケースのラベルの扱い方』や『国産と国内産』の違い等を伝える。また、瓶のラベルを剥がして、分別する人にしかわからない、メーカーからの内緒のメッセージを伝えた。時々、お母さん方や子供たちに質問するが、嫌がらずに答えてもらえました。終了後、二人のお母さんから環境への質問を受け、良く聴いてもらったのが分かる。 *主催者より 花澤様に 朝方に川で生き物を採集頂き、体育館にて子供たちと調査を行いました。			



実施日	7月28日	主催者	南都田第5自治会子供会	アドバイザー	川田 昌代
		対象	児童10名 保護者11名 未就学児2名 合計23名		
研修会		第5自治会子供会夏休みレクリエーション活動			
テーマ		野山の動植物に関する解説			
内容		*アドバイザーより まず、生き物を当てる簡単なクイズをしました。ある生き物をヒントから推測し、特徴や生態を学びました。それから、道のわきに目立たないように置かれた人工物を注意深く探しました。数を数えてもらい、いくつ見つけられるかやってもらいました。答え合わせをした後、絵本などを使って、生き物が自然の中でどのように隠れたりしているのか、生き物の色や形の意味について考えました。最後に、グループにわかれて、自然の中で色々なものを探しました。探すものの書いてあるカードに印をつけながら、ビンゴゲームを行いました。終わりに、森の役割について、簡単に解説をして活動を終わめました。 前日に大雨が降ったので、当日の開催が危ぶまれましたが、曇天で無事に実施できて良かったです。最初は、虫がこわいなどと言っていた子供たちも、最後の活動では、積極的に自然のものを探して楽しんでくれたようです。 *主催者より 山林を散策しながら植物を探すゲームや自生している植物や生き物の説明など。見て、触れての山林での体験は、子供たちや保護者にも好評でした。川田先生の植物のお話は、大変興味深い経験をさせて頂きました。今回、このような講師の方を迎えたイベント開催は初めてで不安もありましたが、川田先生がたくさん案を出して頂き、大変助かりました。また、機会があればお願いしたいです。			

実施日	7月29日	主催者	遠野市グリーンキッズ	アドバイザー	根子 英郎
		対象	児童13名 サポーター2名 合計15名		
研修会		こどもエコクラブ活動			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物採取と分類を実施。2019年調査データとの比較により水質悪化の傾向がみられることを説明した。 *主催者より 施設内で活動内容を確認する。実際に川に入って水生生物を採取し、アドバイスや下敷きを見ながら虫の種類を特定する。 児童は目を輝かせながら水生生物を探し、熱心に講師に虫の種類について質問していた。結果、きれいな川という判定をいただいたことで、児童は満足感を得ることができていた。次年度も継続して行いたいと思う。			

実施日	7月30日	主催者	田野畑村教育委員会	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	星空に興味のある人全般(約20名)		
研修会		令和6年度趣味・教養講座「星空観察会～夏の空は不思議がいっぱい～」			
テーマ		星空観察会			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 夏の星空と当日の夜空の暗さ・星空環境保全 地域の星空を観察しながら、星空環境について理解を深めて頂いた。 北東北に広く雷雲が点在する天候であったが、観察会終盤の時間帯だけ晴れ上がり、三陸沿岸の素晴らしい星空を観察できた。地域の自然環境の良さや身近な光害問題にも、興味を持って頂く機会となった。 *主催者より 夏の星空についての学習、星空環境についての学習を行い、屋外での星空観察会を行った。豊富な知識を参加者の皆様にわかりやすく説明していただいた。天候に左右される観察会でありながらも様々なパターンを用意して下さり、安全を考慮し進めていただいた。			

実施日	7月30日	主催者	北上市立北上中学校	アドバイザー	藤原 正 佐井 守
		対象	科学部40名		
研修会		北上中学校科学部活動			
テーマ		河川の水質			
内容		*アドバイザーより 黒沢川で水生生物を採取し、学校で生物を分類して川の汚染度を調査 雨降りが続き川の水位が高く、生徒の水生生物の採取が不可能となりアドバイザーが行った。 調査は生徒に実施して頂くのが本来の目的であり今後の課題です。 *主催者より ・水棲生物についての説明の後、黒沢川に行き講師の先生方が生物の採集を行なった。 (水量が多かったため生徒は川に入らずその様子をみた。)その後、理科室に戻り、生物の同定を行ない、水質について考察した。 ・今回は水量が多く、生徒自身が川に入り水棲生物を採集することができなかったのも、実際にとる体験をさせたい。			



実施日	7月31日	主催者	奥州市市民環境部生活環境課	アドバイザー	花澤 淳
		対象	水沢南中学校生徒15名 教師2名 合計17名		
研修会		奥州市環境学習事業(水生生物調査)			
テーマ		水生生物調査を活用した水質調査			
内容		*アドバイザーより 水沢南中学校総合文化部の中学生計15名(＋引率教員2名)に対し、水生生物調査を実施した。水生生物調査後にパックテストを用いた簡易水質調査も行った。 連日の雨で河川水量が通常よりも多少多めで濁りもあったが、安全に実施できた。また気温が30℃に達していたため、熱中症には十分注意して研修会を行った。生物の分類を行う岸辺に木陰がなかったため、タープテントを持参してその中で分類作業やパックテストを実施できたのは良かった。 アメリカザリガニが採取できたため、特定外来生物についても少し話すことができた。採取したザリガニの処遇を子どもたちに決めてもらったが、生物多様性や生態系だけでなく生物の命について考える機会を提供できたのは良かったと思う。 *主催者より 雨天が続いたため若干の増水があった。日差しが強く気温も高かったが、水温が21℃と入りやすく、調査ポイントが日陰であったことから熱中症のリスクを軽減することができた。川から上がった後は設営したテントの下で生物分類と観察、水質判定を行った。 水量が増えていたため指標種が混在し、水生生物による水質判定を難しくしていた。 採取した生物の中にアメリカザリガニがいたため、環境アドバイザーが特定外来生物であることとその取扱いについて説明し、そのアメリカザリガニをどうすべきか生徒たちに問いかけ、生命への向き合い方と責任について考えてもらった。			



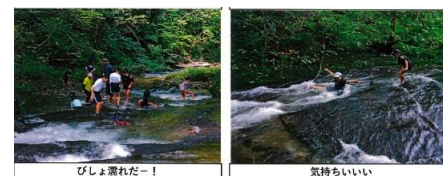
実施日	7月31日	主催者	八幡平市立寺田コミュニティセンター	アドバイザー	粒針 文子
		対象	41人		
研修会		七時雨大学			
テーマ		世界環境の変化と食品の安全について			
内容		*アドバイザーより 「環境と健康」を「テーマに日々私たちを取り巻く環境で何が問題視されているか、どのように課題をクリアしようとしているか等、普段のニュースを理解し、健康を維持するための知識と行動についてお話をしました。今年は特に猛暑と大雨という温暖化の影響を体感しているような状況で、例えばレジ袋削減で温暖化対策にどんな企業努力があったか等にも少しふれました。全国的には有機河川調査が行われており岩手県では9月末を目途に調査を進めていますが、何が問題なのか、似たような化合物が過去どのように扱われたか、健康を守るために今できることは何なのかなど熱心に聴講いただきました。			
		*主査者より 講師のわかりやすい説明で、環境と健康、ゴミの分別と環境破壊などを学んだ。			



実施日	7月31日	主催者	一関学習交流館	アドバイザー	多門 真咲	
		対象	児童30名 保護者2名 指導員3名 職員2名 千田典史氏 合計38名			
研修会		放課後こども教室推進事業				
テーマ		自然体験				
内容		*アドバイザーより 桂沢で水辺の生物を観察するとともに、沢下りのような水遊びを体験してもらった。長年続いている恒例行事であるので、行事の運営はスムーズで特に問題点はなかった。子ども達もこの行事を心待ちにしており、今年は沢の水量も適度にあって水遊びを心ゆくまで楽しむことができた。 *主催者より 学校養育や家庭生活ではなかなか体験できない自然とのふれあいを体験しようと、毎年、夏休みの時期に沢登を計画しています。今年は、環境アドバイザーの多門様と前環境アドバイザーの千田様にご協力をいただきました。最初に、多門さまから沢遊びの注意点や沢に生息する動植物の説明をしていただきました。その後沢登を行い、貴重な体験をすることができましたミヤマクワガタやサンショウウオを捕まえて喜んでいる児童、水の冷たさにたじろいでいる児童、深場を避けながら沢を登る児童、足を取られずぶぬれになる児童、皆それぞれに沢登を楽しんでいました。慣れてくると、ちょっとした深場に体をしずめ、ずぶぬれになった遊んでいました。				

実施日	7月31日	主催者	小友児童クラブ	アドバイザー	佐井 守	
		対象	児童21名			
研修会		こどもエコクラ活動				
テーマ		水生生物調査				
内容		*アドバイザーより 水生生物調査 *主催者より 水生生物調査に向けての学習会と調査 珍しい水生生物も一人一人に見やすくしてくれた。事前学習では水生生物の標本も見せてくれてわかりやすかった。近年の環境の変化についてわかりやすく話があった。				

実施日	7月31日	主催者	遠野市立遠野小学校	アドバイザー	根子 英郎	
		対象	児童10名 教員2名 計12名			
研修会		水生生物調査				
テーマ		水生生物調査				
内容		*アドバイザーより 水生生物採取・分類を実施2019年及び7/29日結果と併せて説明した。 *主催者より 開会后、現地に移動し、30分程度生物採集を行った。その後分類を行い、きれいな水に住む生物とややきれいな水に住む生物が両方いることを確認した。様々な水生昆虫類が見つかったが、その種類を詳しく教えていただいた。きれいな水だった環境がややきれいな水に変わりつつあるということで、生活排水や上流部のダムの問題が解決してほしいと感じた。				



実施日	8月1日	主催者	げんきキッズエコクラブ	アドバイザー	花澤 淳
		対象	児童10名 引率2名 合計12名		
研修会		コドモエコクラブ活動			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより げんきキッズエコクラブ所属の小学生10名と引率者2名の併せて12名に対し、水生生物調査を行った。はじめに児童館に集合し、今回の研修会の目的や宮守川の特徴について簡単に説明したのち、河川に移動して調査を実施した。この日は気温が高く熱中症の危険性があったため、調査河川の近くにタープテントを張り、その中で説明や水生生物の分類を実施した。時間に余裕があったため、ライフジャケットを着て流された際の練習も行った。また、児童館にエコクラブに非所属の児童が十数名いたため、採取された水生生物の一部を児童館に持ち帰って、その子どもたちにも観察してもらった。この日は陽射しが強く、また河川横の場所の地面がコンクリートだったためいっそう暑く、念のために持参したタープテントが非常に役立った。調査箇所は川底質や流れが変化に富んでおり、水生生物がとても豊富で、15種類以上もの生きものが観察された。なかでも絶滅危惧種のスナヤツメが観察されたことは、子どもたちにとっても非常に良い経験であったと思われる。ライフジャケットを着て流される経験では、子どもたちもかなり楽しんでおり、河川に親しむことができたのは良かった。現地での臨機応変の対応に応じてくれたエコクラブのスタッフと、それをサポートしてくれた遠野市？の環境課職員に感謝したい。願わくば、子どもたち用の捕虫網がグループ(3人)で一つではなく、1人一つであれば良かった。 *主催者より 調査当日は天候もよく、講師先生、環境課さんに教えて頂きながら、地元の川に住んでいる生き物を採取し調査をしました。とにかく川の水が気持ちよく、スナヤツメやヤマメなどきれいな川に生息する生き物も採取しみんなで盛り上がりながら楽しんで実施できました。また、ライフジャケットを着用していたので川に流される体験もさせていただきました。自分たちの町の慣れ親しんだ川にいる生き物を見て触って知ることが出来ました。また、川に入り水流や歩みにくさなどを身をもって体験することができました。今後はさらにきれいな川を保つために自分たちが出来ることを考えていきたいと思います。最初は生物に触れなかった子も触れるようになり、みんな「楽しかった!」と口々に話していました。			



実施日	8月1日	主催者	岩手陸中海岸青少年の家	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	小学生31名 ボランティアスタッフ2名 合計33名		
研修会		令和6年度マリンランド陸中自然体験塾①海の子野外教室			
テーマ		星空観察会			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 夏の星空と当日の夜空の暗さ・星空環境保全 地域の星空を観察しながら、星空環境について理解を深めて頂いた。 雲が広がる天候であったが、観察会の時間帯にかけて部分的に晴れ間が見られた。山田町や自宅周辺等の身近な自然環境や光害問題に、興味を持って頂く機会となった。 *主催者より 観察の前に12星座の話をしていただき、星座への興味を高めていただいた。空の観察や講話を通して、身近な自然環境の素晴らしさについて考えるよい機会となった。参加者からも「星のことが知ることができて参加して良かった。」との感想があった。グループに1台の天体望遠鏡や様々な種類の望遠鏡をご用意いただき、とても満足度が高い研修であった。			





実施日	8月3日	主催者	赤生津地域活性化協議会	アドバイザー	川田 昌代
		対象	24名		
研修会		赤生津の里山“経塚・月山”散策・体験シリーズ(2)			
テーマ		月山の夏の植物解説			
内容		*アドバイザーより 月山いこいの広場から出発し、女二子神社の入口から山頂まで、ゆっくりと植物を観察しました。下見で確認した植物の名前と解説を書いたカードを、参加者と一緒に植物に掲示(洗濯ばさみで挟んだり、テープでつけたり)しながら、観察を行いました。 その後さまざまな体験活動(巻き割り、火起こし、綱引き、水鉄砲、ボードづくりなど)を活性化協議会メンバー担当で行いましたので、そのサポートとボード作りの材料提供を行いました。(飾り付け用のドングリや松ぼっくり、様々な木の実) 小さな子供から80代女性の参加もあり、短いコースを、ゆっくり植物観察をして喜ばれました。たくさんのカードを参加者が手分けして持ち、植物のカードを探してもらうことで、飽きない工夫をしました。列が長くなっても、後ろの人が植物の名前や解説を読むことができるのもよかったのではないかと思います。今回は、植物を詳しく知りたい、景色を楽しみたい、色々な体験活動をしたいなど様々な活動ができ、参加者と地域の良さ、楽しさを十分に感じることができました。 *主催者より 「里山」である“夏の月山”の植物を紹介案内していただいた。講師の川田さんは、特製ミニハンドブックを作成し現場で参加者に配布して、わかりやすく理解しやすい説明を工夫していただいた。その後、自然体験を通して自然の楽しさを味わってもらった。 ・今度は、秋の植物の紹介と解説を今回同様にわかりやすく聞きたい。 ・併せて、なぜこの植物がここに存在するのか？この植物が生き続けるために必要な保全は何んなのか？これらを守ることの今日的な意義は？そこに住み続ける人々にどんなことをもたらすのか？かも聞きしたい。(今日的な里山の意義・役割)			



実施日	8月4日	主催者	盛岡市民生活研究会	アドバイザー	粒針 文子
		対象	10名		
研修会		身近な環境問題を学ぶ③			
テーマ		香り害と健康・水を守る			
内容		*アドバイザーより 身近な環境問題香り害について原因と影響についてお話ししました。日本は4大公害や薬害、カネミ油症、新型コロナウイルス感染症など幅広い世代の健康に悪影響のある原因を突き止め対策行ってきた歴史があります。香り害は現在、各省庁や自治体も啓発を促している最中ですが対策が十分とは言えず、被害者の相談も自治体取材で増えている状況です。過去には環境中に残存しやすい人工化合物の規制が行われてきたことを振り返りながらこれまで謎の多かった香料の中身が国際的な流れとして現在規制が現在つよまっており、日用品、消耗品の選択や利用の見直を消費者の側で環境と健康の視点から行う大切さに気付いてもらう機会といたしました。 *主催者より 香り害と健康について考える。日本には4大公害があります。(イタイタイ病・水俣病・新潟水俣病・四日市ぜんそく強い香りが残る芳香剤はカプセル(マクロサイズ)は温度で破裂し大気汚染を生じる。植物性由来のものから化合物に置き換えられている。消費者も注意して使うことが大事。			



実施日	8月5日	主催者	岩手県立不来方高等学校	アドバイザー	平元 尚人
		対象	1学年生徒2名 教員2名 合計4名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 実施場所を相談して決めたのち、採集方法を教え実施した。天候はよく、橋の下の水深は浅く緩やかで調査しやすかった。ドジョウやシジミが採集された。 学生2人と先生2人で実施した。学生はとても楽しんでおり、時間が足りない感じであった。 *主催者より どじょう、しじみなど、身近な河川に多くの生物が生息することを体感でき、環境への意識が高まる有意義な研修であった。 大変有意義でした。このような組織や活動があることが今より広く伝わると、より利用者が増えるのではないかと感じました。			



実施日	8月5日	主催者	公益財団法人 岩手県スポーツ振興事業団 県北青少年の家	アドバイザー	大友 晃
		対象	小学生24名中学生6名高校生ボランティア4名、職員4名 合計38名		
研修会		サマーチャレンジキャンプ(8/4～8/5) 姫神山登山			
テーマ		安全な登山事業を成功させる。			
内容		*アドバイザーより ・主催者事業サマーチャレンジキャンプ、姫神山登山 ・小学生24人、中学生6人の30名と倒木渡り、岩登り、プチトレランなどをしながらアクティブに登山 ・登山ルート(登り 一本杉コース・下り こわ坂コース全行程4時間30分) ・一班5人、6班体制にし、県北青少年の家職員4名と高校生ボランティア4名が各班をまとめる形で行動。 ・スタッフが多いことで、ペースが遅くなった児童生徒の対応がしっかりできた。 ・滑って転んだりする児童生徒もいたが、それも自然体験。 ・水分補給、けが予防などの声かけを適宜行い、熱中症や怪我もなく全員登頂、下山した。 *主催者より ・登山指導(小中学生の引率) ・姫神山の動植物の種類や特徴について ・児童生徒の体力差を考慮して休憩をとり、安全に登山できた。 ・ただ登るだけでなく、アドベンチャー的な要素を含んだ登り方を指導いただき、小中学生が楽しく登ることができた。			



実施日	8月6日	主催者	二戸中央コミュニティセンター	アドバイザー	皆川 千里
		対象	10名		
研修会		ミツロウラップ創作体験講座			
テーマ		みつろうラップ創作体験			
内容		*アドバイザーより ミツロウラップを作る体験を通して、日常で頻繁に使用している化学製品の使い捨てラップごみを減らす意義、地球環境に及ぼす日常のごみ問題についてディスカッションし、意識を高める。 また、ハチの巣から採れる自然素材で安全性が高く、抗菌効果や保湿、保水効果が高くラップに向いているミツロウを知る機会にし、蜂が自然界の環境指針になっていることなどを伝えた。 * 松脂、食用油をブレンドしたミツロウとアイロンセットと布で作る * 保存方法、使い方を伝えた。 主婦の参加者さんで手際よく持参の布やこちらが用意した布でカラフルに完成できたことに喜びの声をいただいた。 布によってミツロウの使用量が違い、ちょうどいい使用感になるまでミツロウを追加してあげたので材料費が思いのほかかかってしまったものもあった。用意した布だけで作ってもらうかどうか、検討する *主催者より ミツロウラップ(材料、用途など)について説明後、生地を選んで創作をしました。予定よりも大きいサイズに変更する方、複数枚作った方もいました。皆川様のエコリユース食器利用促進や盛岡市内でのお弁当のリユース利用促進に取り組みについて教えていただきました。平和記念日ということで、講師の提案により、ラップを折り鶴にして記念写真を撮りました。 初めての方ばかりで、参加者は熱心にお話に耳を傾けていました。なかなかロウが染みず、時間がかかった方もいましたが、出来上がりに大変満足されているようでした。自宅でも挑戦したいとロウの持ち帰りを希望された方も複数人おり、大変好評でした。環境に対して出来ることを少しずつ増やしていきたいとの感想がありました。ありがとうございました。			



実施日	8月6日	主催者	一関市小梨市民センター	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	6名		
研修会		せんまや里山塾「リフォームコース」			
テーマ		リフォーム			
内容		*アドバイザーより 10月12日開催のファッションショーに向けて着物リメイクによる作品づくりの指導を行った。ファッションショーに向けてみなさん張り切って作業を行っていました。 *主催者より 先月先生の工房にお邪魔しリフォーム以外の作品も拝見し受講者のみなさんはいろいろと刺激を受けたようです。作品作りにも一層熱が入ったようです。			



実施日	8月6日	主催者	附馬牛児童館	アドバイザー	佐井 守
		対象	児童20名 職員3名 合計23名		
研修会		子どもエコクラブ			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより こどもエコクラブ活動(水生生物調査) *主催者より 水生生物に関する学習会 水生生物の標本・はく製などを使用し、とても丁寧に説明をしてもらいました。また、カブトムシなどの昆虫のお話もしていただきたくさん興味をもつことができました。次回は、昆虫(虫)のお話を」中心に学習会を行いたいと思いました。			



実施日	8月6日	主催者	㈱八幡平市温泉開発	アドバイザー	高橋 良和
		対象	大人(男性)10名		
研修会		オオハングソウ(特定外来生物)駆除活動			
テーマ		特定外来生物の講義及びオオハングソウ駆除			
内容		*アドバイザーより 八幡平市内で昨年に続き、2年目のオオハングソウの駆除。場所も参加者も異なる場所での開催。予備知識として作業前、オオハングソウの特性、繁殖方法を紹介。まだ適正な駆除方法は確立していないが、年に数回の刈り取りでは、駆除の効果はなく、開花時期中に、根から引き抜き、根を残さず回収方法に効果があることを伝える。特性として、地下茎から他の植物の発芽を抑制する物質を分泌し、地下茎からと種子からとの二つの方法で増殖する。また特定外来植物なので、抜き取った根や枝葉は、一旦現地で乾燥後、焼却場へ運び込む手順が必要と伝える。次に防災士の立場から、防げる熱中症の対策として、作業開始後30分からの給水タイムではなく、スタート時から直ぐ給水タイム設定する。また、人は食事で必要な水分の半分を補給すると言われるが、朝食抜きの人は、補給までの時間が長くなり、熱中症の危険性が増すためである。また、除草の現場は、2週間前に草刈り済みの場所であるが、すでに30センチの新枝葉が密集。今回の作業は、根が密集し、スコップの根掘り駆除は、労力の大変さを参加者で感じる。そのため、途中から小型バックホーンでの仮掘り後の除去作業を行い、根の除去が楽になる。成果は、70リットルのゴミ袋10袋となる。高枝部分が無いので、量としてはあった。最後に、自宅敷地周りのオオハングソウの除去をお願いした。 *主催者より 講師の高橋氏から「特定外来生物について」の講義を受けた後、オオハングソウ駆除活動を実施した。駆除の場所は数週間前に地域の環境整備で刈り取りが行われており、今回は刈り取り後の新芽(根を含む)の駆除を実施した。 オオハングソウの根絶は難しいが、活動参加者が特定外来生物への理解を深め、今後も継続して実施することで市民へ周知されるものと考えている。			



実施日	8月7日	主催者	松野学童保育クラブ	アドバイザー	佐井 守
		対象	14名		
研修会		八幡平市の生き物教室			
テーマ		水生生物・生物多様性他			
内容		*アドバイザーより 八幡平市の生き物教室 *主催者より 水生生物や昆虫について、標本を見て教えてもらったり、虫の知識やVR体験をすることができた。 地球温暖化や自然保護等、これからの子ども達が関心を持って一人ひとりができることを教えていただきたい。			



実施日	8月8日	主催者	三陸春風の会	アドバイザー	藤原 由美子
		対象	18名		
研修会		三陸春風SDGsサロン＝ミツバチをめぐる世界～			
テーマ		ミツバチをめぐる世界と環境問題について			
内容		*アドバイザーより 昆虫と自然環境というテーマで主にミツバチスズメバチについて講義 *主催者より 1ミツバチと自然環境2岩手の暮らしからのメッセージと題して2つの環境学習講座を行いました。身近な生き物がどれほど人の暮らしに関わっているか、私たちがすべきことは何かとても分かりやすく聴講できたし実際にできることからやる気になったと大好評でした。			



実施日	8月8日	主催者	盛岡市立見前中学校	アドバイザー	高橋 良和
		対象	生徒8名 教諭3名 合計11名		
研修会		文化科学部水生生物物調査			
テーマ		水生生物物調査			
内容		*アドバイザーより ①水生生物調査の注意点を伝える。②防災士として、自然は楽しい反面、危険も伴うため、災害への知識に敏感になること。また、事故災害等で、緊急救命措置の重要度の順からa.呼吸の確保b.止血処置c.低体温症への対応がある。最後の低体温症の対応が見過ごされがちであり夏場でも発生する。基本は体温低下防止で、ぬれた衣類を脱ぎ、皮膚を乾燥させること。強風下での濡れ着衣の場合、急激に体温が奪われるので注意する。③1～3年生の文化科学部の生徒の調査のため、正しい生きたデータの取り方を伝える。科学部では各種のデータ取捨があるので、データと共に日にちや気温などの情報も加え、生きたデータを取る必要性も伝える。また何かを購入する場合、例えば会社においても、データを通じて語ることで、信頼されるものになる、と伝える。④今回の水生生物調査では、ヤゴ類やヘビトンボ、トビゲラ類等が見られず、小さな石粒の巣も確認できず残念です。また、ヒラタドROMシ等の数種が見られた程度でした。⑤熱中症対策は。実施すれば防げる症状で、普通の3食の食事からも水分を取っている。そのため朝食抜きの場合、水分の不足となる。今回の調査会などでは、先ず集合時点で水分摂取を行い、現場に着いてから、更に作業スタートから30分ごとに水分補給する大切さを伝える。 *主催者より 前日の雨で多少水量が多い状態であったが講師先生のご助言のもと安全に水生生物調査を行うことができた。			



実施日	8月8日	主催者	奥州市市民環境部生活環境課	アドバイザー	花澤 淳 小沢 宗
		対象	江刺第一中学校科学部1～2学年29名 教師2名 合計31名		
研修会		奥州市環境学習事業(水生生物調査)			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより ・江刺第一中学校科学部の中学生計32名(＋引率教員2名)に対し、水生生物調査(2時間)を実施する予定であったが、前日の雨で河川が増水して濁っていたため水生生物調査を断念し、水生生物に関する室内学習(1.5時間)を実施した。はじめに水生生物を利用した水質調査について解説し、直前に河川で採取した水生生物を、ルーペ等で見て、触れて、観察してもらい、それらの生物について補足説明し、最後に生態系や食物連鎖について解説した。 現地での水生生物調査はできなかったが、実施予定場所(人首川)の少し上流で水生生物を採取でき、それらに実際に触れてもらえたことは良かった。 水生昆虫ばかりでなく、モクズガニやニゴイ稚魚、アブラハヤ、ヌマチチブ、ギバチ、ハリガネムシなど種々の生きものが採取でき、人首川の生きものが豊富であることを実感してもらえた。 ただ、淀みでアメリカザリガニやブルーギルといった特定外来種も採取された。外来種問題についても話したかったが時間的に困難であった。 学校が集合場所を現地としていたため、現地から学校に移動しての室内学習となったが、現地調査の中止の判断とその参加者連絡がもう少しスムーズにいけば十分な時間を確保できたと思うので、次年度以降検討いただければ有難い。 ・重染寺橋付近で水生生物を採取し、学校で水質調査を実施した。 *主催者より 増水の影響で、室内学習に切り替え実施したため、講師に研修開始前に人首川から水生生物を採取してきていただいた。川の水に濁りはあったものの、水生昆虫のほか小魚、カニやエビなど様々な生物を観察できた。ただし、指標となる水生生物の採取が難しく少なかったため、水質判定はせず、下敷きに該当するもの、興味のあった生物を確認しあった。その後、講師から、生態系ピラミッドについて説明があった。また、講師の準備した川の水・水道水・炭酸水の3種類で、バックテストによる化学的水質調査(PH、COD)も実施した。水質的には、COD調査の際に、川の水について濁っていたが、ややきれいな値であった。水生生物調査を経験した生徒が多かったものの、多種に渡る生物を観察でき、多くの生徒が興味を持ち学習していた印象であった。化学的水質調査は、教室内で行う方が落ち着いて実施できてよかったように感じた。			



実施日	8月8日	主催者	さんりくESD閉伊川大学校	アドバイザー	水木 高志
		対象	小学生品川区11名 宮古市11名 大人21名 品川区 合計43名		
研修会		2024年度つながろう宮古と品川！防災を学び、森川海まちを巡る三陸宮古ツアー			
テーマ		川の水辺の生き物調べ、川流れ体験他			
内容		*アドバイザーより 川流れ体験、生物調査、ヤマメ放流、ヤマメの串焼き(食の体験)使用資料なし。 川流れ体験を行い、安全教育を実施。その後は子供だけでなく大人も一緒に繰り返し楽しまれていた。品川区、宮古市の参加者共に満足された発言が多く聞かれ、やりがいのあるイベントでした。 *主催者より 当日は、閉伊川 本流の川辺をメインフィールドとし、最初に 川の体験を 安全に行うために、ライフジャケットを着用し、ライフジャケットの役割や川の流れ方の説明を受け、実際に川流れを体験してもらい、それから体験活動を実施しました。 生物調査ではアブラハヤ やアカザ が確認できたほか、トンボのヤゴや 水カマキリ も見られ、それらの生態と生物の棲み分けについて 講師からお話をいただきました。 放流体験 は、閉伊川漁業協同組合さんから提供いただいた ヤマメ の幼魚 を 観察及び放流 しました。参加したこどもたちは、ヤマメを初めて見た り触れたりしながら、講師から生態などを学び、有意義な活動となりました。			



実施日	8月9日	主催者	さんりくESD閉伊川大学校	アドバイザー	水木 高志
		対象	小学生品川区11名 宮古市7名 大人21名 品川区 合計39名		
研修会		2024年度つながろう宮古と品川！防災を学び、森川海まちを巡る三陸宮古ツアー			
テーマ		海の水辺の生き物調べ、シュノーケリング体験			
内容		*アドバイザーより シュノーケリング、シーカヤック、SUP、ヨット、シーフードBBQ(食の体験)使用資料なし。 川流れ体験を行い、安全教育を実施。その後は子供だけでなく大人も品川区、宮古市の親子共に全員大変楽しませていました。品川区のスタッフさんらも参加し楽しまれ、大変喜ばれました。 *主催者より 当日は、閉伊川が流れ注ぐ 宮古湾の 浜辺 リアスハーバー 宮古 周辺 をメインフィールドとし最初にライフジャケット、水中メガネ 及びシュノーケル を着用し、内湾の波が穏やかな フィールド でシュノーケリングの体験活動を実施しました。 参加者がシュノーケリングに慣れてきたころに 海中の 生きもの観察を行いました。イワシや イソガニ が確認できたほか、海岸の 砂 は、閉伊川源流の 岩が 川を 流れるうちに 砕かれたり、削られたりしてできている こと 例に 森 川 海 の つながり を 講師 から お話いただき、子どもたちは興味 深く 聞いて いました。また、シーカヤックや SUP ボード などの マリンスポーツ体験 も 行い、楽しむことが できました。			



実施日	8月10日	主催者	(株)岩手マイタック	アドバイザー	佐井 守
		対象	20名		
研修会		薮川夏の夜の虫探し探検			
テーマ		森林の活用、森の生態系を学ぶため			
内容		*アドバイザーより 薮川夏の夜の虫探し探検 *主催者 キャンプ場宿泊のお客様を対象に開催しました。 ライトトラップにどんな虫が寄ってくるか？なぜ寄ってくるのか？ など、標本も見させていただきながら、開催いただきました。 目を引く昆虫はつかまえられませんでした、参加者から多数質問もあり、盛り上がりしました。			



実施日	8月21日	主催者	一関市立猿沢小学校	アドバイザー	多門 真咲
		対象	4年生児童8名 大人4名 合計12名		
研修会		水生生物調査による水質調査			
テーマ		猿沢川水生生物調査の仕方について			
内容		*アドバイザーより 猿沢小学校4年生児童8名が猿沢川にて、水生昆虫の採集・分類を行い結果を記録した。学校に戻り、パワーポイントを用いて調査の結果や調査の意義等について講義を行った。参加した児童の調査に取り組む姿勢は大変熱心で素晴らしかった。事前学習が十分にされているという印象を受けた。水質指標生物以外にも多くの種の生息を確認でき、改めて郷土の川に豊かな自然が残っていることを実感できたようである。 *主催者より 猿沢川で水生生物の採取の方法を教えてくださいました。サワガニやカワゲラ類など、たくさんの水生生物を採取することができました。水生生物の採取の秘訣などアドバイスをいただき、児童は大変活発に活動できました。 水生生物の採取後は、川辺で捕った生物について教えてくださいました。児童は自分達が持ってきた水生生物の下敷きと見比べながら、名前と特徴を教えてくださいました。サワガニの雄と雌の見分け方についても教えてください、児童は大変興味深く感じたようでした。 学校に戻ってきた後は、猿沢川に生息する水生生物の特徴を、パワーポイントを用いて教えてくださいました。幼虫だけでなく、成虫の写真も見せていただき、成長した後の違いも知ることができました。また、猿沢川はきれいな水が流れているということ、たくさんの水生生物がいるということは森や自然が豊かだということ等、猿沢の環境についても視野を広げられるような講義をしていただきました。 川の中に入るという体験をしたことがない児童が多く、最初は抵抗感を示す児童も数名おりました。講師の先生が意欲をかきたてるお話をしてくださり、最後には「まだ探したい」と児童が話すほどでした。水生生物に関しても、実際に触ってみて分かったことがあり、大変貴重な学習となりました。ありがとうございました。			

実施日	8月22日	主催者	葛巻町立小屋瀬小学校	アドバイザー	佐井 守
		対象	児童10名 引率9名 合計19名		
研修会		水生生物による水質調査指定校活動事業			
テーマ		地元の川の水生背物生息調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物による水質調査研究指定校活動事業 *主催者より 自分たちが住んでいる地域の河川について興味を持って楽しみながら水生生物について調査することができた。児童にとっては身近な川に入ってさまざまな生き物がいることにきつき講師の先生のお話から河川はきれいな川、ややきれいな川と判断することができた。毎年継続することで地域への関心がさらに強くなったといえる。 今年は河川の工事があったが盛岡広域振興局土木部の方や工事の方々のご協力で無事終わることができた。ご協力ありがとうございました。ついてもわかりやすく子どもたちに説明してくださいました。いまの時期にいる生き物や成虫の標本も見せてくださいました。自分たちの住んでいる地域の川の事が詳しくわかり喜んでいました。来年度お子ぜひご指導いただきたいです。			

実施日	8月22日	主催者	二戸市立石切所小学校	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	児童31名 引率2名 市役所担当2名 アドバイザー2名 合計37名		
研修会		水生生物調査による水質調査			
テーマ		馬淵川の水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物の採集、及び指標生物の同定指導 水生生物と自然との関係について 天候に恵まれた他、調査時間も長めに確保して頂いた為、内容的にも充実した水生生物調査となった。 同一河川の上流域での水生生物調査の状況も紹介し、流域のつながりの重要性を理解して頂いた。 *主催者より 水生生物による水質調査や自然体験、また安全面について教えてくださいました。専門的なお話をたくさんいただくことができました。環境保全についてもお話しいただき、児童の自然を大切にしようとする意識も向上したと感じます。活動後の感想では、実体験を通して、水をより大切にしていきたい、と意識を高めていました。			

実施日	8月22日	主催者	長内川 川の会	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	長内小学校5年生児童及び教職員合計41名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査 (1) 水生生物の調査方法について説明 (2) 水生生物の種類・名前・生息環境等について説明 (3) 指標生物による水質判定の実施 長内川川の会の方々が熱心で、調査地点の草刈りや事前準備をしていたのでスムーズに進められた。川の状態は浅瀬の近くに深場や流れの早い場所もあったので、全員ライフジャケットを着用し、安全講習をおこなうと共に、子どもたちが浅瀬から出ないように長内川川の方3名にスローロープでバックアップして頂いて実施した。 結果、とても良い川の学習ができた。 *主催者より 長内川川の会が主催し、地域の小学港に協力いただき多くの子ども達に参加していただけたことから、水辺での事故に遭わないようフローティングベストや救命用ゴムボート等を準備し細心の注意を払い開催した。 普段川で遊ぶことがほとんどない子どもたちに、地域の川に多くの水生生物が生息していることや川の水資源としての大切さを知っていただく貴重な機会になった。 事故等も無く、無事に終了させていただきました。 水生生物調査は、今後も毎年開催したい。 カヌー体験の研修やそれに伴う講師派遣等を依頼したい。			

実施日	8月23日	主催者	九戸村立伊保内小学校	アドバイザー	松尾 亨
		対象	児童15名 教員2名 合計17名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		川にいる水生生物から川の状態を知ろう			
内容		*アドバイザーより 1瀬月川の水生生物調査を通して、指標となる水生生物から水質調査を実施し、身近な河川環境を学ぶ。(実習及びテキストと講話により) 2水質階級に影響する、森と川が地域の農業や生活にどのような関連性を持っているのかを講話で学ぶ。 研修の目的である瀬月内川の水生生物調査を通じて、水質環境や地域の産業(農業や林業)との関連や「森林、川、海」と人間の活動について学習できた。今回の水生生物調査による体験がより身近な生活環境についての学びとつながったと考えられる。また、子供たちが実体験を積極的に楽しみながら調査できたことが、今後の環境問題への取組等に役立つのではないかと考えています。 *主催者より 瀬月内川の水生昆虫等を採取、観察した。 川の生き物や自然に直接触れ合いながら学習を進めることができた。			

実施日	8月23日	主催者	安代地域多面的機能保全組織	アドバイザー	高橋 良和 佐井 守
		対象	安代地域多面的機能保全組織荒屋地区構成員2名・安代土地改良区2名・安代小学校生徒14名 引率者2名 合計20名		
研修会		安比川水生生物・水質調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 佐井さんとの二人で、今回の講師を担当。水生生物調査は、生徒15名を二班に分け実施。最初の解説と最後の解説は、二人で分担。佐井さんは網の使い方等実施面での注意点を解説。私は、防災士の観点で自然と災害防止についての身に付けるべき注意事項を解説。また、今回の採取した水生生物は、石の裏側の虫は、見られなかったため、苦労して捕獲する。水質判定生物以外では、オタマジャクシ、カジカは、各五匹以上を、楽しく捕獲していた。最初、虫が嫌いな学童の6名は、お気に入りの虫を、手のひらに載せ、私に見せるなど、虫嫌いが0人となる。 安比川水生生物・水質調査 *主催者より 講師による調査方法の説明後、実際に水生生物を捕獲し川の生き物から安比川の水質判定を行った。水質の保全や自然保護についての講義を行った。			



実施日	8月24日	主催者	西和賀町立湯田中学校1年	アドバイザー	佐井 守
		対象	1学年生徒12名 小学生4名 大人19名 合計35名		
研修会		湯田中学校第一学年「親子学習会(和賀川の水生生物調査)」			
テーマ		和賀川の水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 湯田中学校1学年「親子学習会(和賀川の水生生物調査)」 *主催者より 河川環境や洪水などの川の作用のほか、川と人の暮らしの関係について学びました。			



実施日	8月25日	主催者	岩手銀行地域貢献部	アドバイザー	内田 尚宏 小沢 宗
		対象	35名		
研修会		いわぎん30by30プロジェクト～親子で川の水生物を見つけてみようin中津川～			
テーマ		水生生物物調査			
内容		*アドバイザーより (1) 県内の地域ごとで環境の違い (2) 各地域で調査に最適な時期や具体的な場所の選び方 (3) ほかの地域での活動時に気を付けるべき安全対策や注意 主催者の開催趣旨が研修兼レクリエーションでしたので、楽しく、安全な川体験をメインに研修を行いました。 中ノ橋橋付近で水生生物を採取し、水質調査を実施 ・岩手銀行社員の家族(親子)を対象としたによる水質調査のため、保育園児から小学生、大人までなので調査の仕方に工夫がいった。 ・中ノ橋が中津川の調査場所として適当なのか疑問でした。 *主催者より 講師から調査の意義や手法、安全配慮などについて指南いただいたのち、川の水生物を調査を行い、水質判定や、生態系の仕組みや生物多様性の保全の重要について触れながら当日の内容を総括いただき、終了しました。 この度は当行として初めての取組みで大変ご面倒をおかけしたにもかかわらず懇切丁寧に対応いただきました。誠にありがとうございました。 生物多様性や脱炭素推進に関連するような講演などがあれば受講したいです。			



実施日	8月25日	主催者	ボーイスカウト盛岡第5団カブ隊	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	40名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		中津川の水生生物と水質の関係			
内容		*アドバザーより ・水生生物調査は何のために実施するのか？→採取した生物による河川のきれいさを判定するために実施する。 ・自然界の繋がりと水生生物の占める位置。人間の位置はどこか、食物連鎖の意味 ・世界的な昆虫の絶滅が報告されるが、その原因はなにか？ ・ライフジャケットの着用方法とこれを着用しての川流れ体験 ・多くの生命が生息することの意義 ・幼虫と成虫になった時の姿の差異(数種類を見せる) ・水生生物を採取する方法(網を動かすのではなく、網は流れに垂直に立て、手前の川底を靴でゴシゴシし、水生生物を網に流し込む) ・生命の種類175万種類の分布はどうなっているのか ・子どもたちは活発に意見を述べる ・こちらの質問にも元気に答えてくれる *主催者より 冒頭で川の水生物と地球環境全体とのかかわりについてお話をいただき、のち中津川の水生生物採取では、採取のコツや生物の見分け方などをご教示いただきました。 手作りの説明資料をつかったの丁寧なご指導に感心いたしました。			



実施日	8月25日	主催者	ボーイスカウト北上第一団	アドバイザー	藤原 正
		対象	20名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査の正しい実施方法と全国水生生物調査結果報告の指導			
内容		*アドバイザーより 幼児から小学生児童が主であり安全対策として全員がライフジャケットを着用して実施。水質良好 雨天の予報であったが曇り空で実施する事が出来た。 良好な状態で水生生物調査ができた。 *主催者より 川の安全確認後、講師による水生生物調査の目的、網・バケツ・バット等道具の使い方の説明があり、5つの組に分かれ川に入り調査を行った。正しい調査方法を学ぶことができ、全国水生生物調査結果報告の提出への足掛かりとなった。 季節の里山自然観察会			



実施日	8月26日	主催者	八幡平市立田山小学校	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	児童3名 教諭3名 合計6名		
研修会		総合的な学習の時間			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査による水質判定 ライフジャケットを着用し、安全に楽しく活動ができた。 水質判定は「きれいな水」でした。 *主催者より 天候に恵まれ、児童たちは水生生物調査に意欲的に取り組むことができた。講師の方の説明がわかりやすく自分たちの住む地域の川がきれいであることを知り、ふるさとの自然を守ろうとする気持ちが育った。			



実施日	8月27日	主催者	岩手県南広域振興局保健福祉環境部 一関保健福祉環境センター	アドバイザー	川田 昌代
		対象	15名		
研修会		令和6年度いわい地域流域協議会及び連携交流会			
テーマ		地域課題の共有及び目指すべき姿について			
内容		*アドバイザーより 流域の連携ということで、前半は「いわい地域の水環境」で私が感じていることについてお話をさせていただいて、後半は内閣官房水循環政策本部事務局が作成している流域マネジメントの事例集をもとに、水循環に関する課題や流域マネジメントの効果について基本的なお話をさせていただいた後、グループに分かれて、「健全な水循環の維持または回復を目指すことを目標とするために、いわい地域流域協議会の各団体が連携を深めるには具体的にどんな活動をしたらいいだろう」というテーマでアイデアを出していただきました。 *主催者より 今般、川田先生からのご講義において「いわい地域流域協議会の目指す姿」について様々な視点から掘り下げた知見や、当流域協議会のマネジメントに係る留意点（ポイント）についてご教示いただき、ご講義の後実施したグループワークで今後の流域協議会の活動の在り方について意見交換の時間を作っていただきました。 参加者の皆さんにおいても興味深くご受講され、かつ熱心に意見交換に取り組んでいただいていたものと存じます。 グループワークにおける意見交換は、いわい地域流域協議会（西磐地区と東磐地区とで組織されていた2流域協議会を統合）の発足後初めての取組でしたが、先生のお力添えがありとても有意義なものとなったことと存じます。			



実施日	8月27日	主催者	盛岡市立米内小学校	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	児童20名・引率教員2名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 米内川の水生生物調査と水質判定。 全員ライフジャケットを着用し、安全に楽しく調査活動ができた。 水質判定は「きれいな水」 活動終了後の夕方から大雨が降り、米内川が氾濫した。 *主催者より米内 川に生息する生物について・米内川の水質・環境保全 ・安全に配慮しながら、河川の中で活動することができた。 ・水生生物や魚の追い込み漁みたいな活動など、自然に親しめるように楽しい活動になった。 ・水生生物だけでなく、川の魚や川の生き物の食物連鎖についてなどの説明もあり、見識を広げられるような話をしてくださった。			





実施日	8月27日	主催者	洋野町立帯島小学校	アドバイザー	中野 雅之 松尾 亨
		対象	児童18名 引率3名 合計21名		
研修会		海洋教育 海とつながろう			
テーマ		海とつながろう			
内容		*アドバイザーより 1海洋生物調査を通して、海洋環境の食物連鎖の低層にあるイサダ(アミ類)の捕獲観察から身近な海洋環境を学ぶ。(実習と講話) 2海岸清掃からプラスチックゴミの問題を考えるとともに海とのつながりについて学習。(実習と講話) 3採集したイサダを撒き餌にして、食物連鎖の上位にいる魚類を釣りにより捕獲し生き物たちの関係について学ぶ。(実習と講話) 研修の目的である海とのつながりについて、イサダの捕獲やサバやアジの釣りの初めての体験をとおして、児童の多くが生き物を直接触れ、命について考えるいい体験学習になったと考えています。また、プラゴミからマイクロプラスチックの問題について考える体験となった砂浜清掃も人間の活動影響について学習できたと考えています。今後の環境問題への取組等に役立つのではないかと考えています。 *主催者より 有家浜でえさとなるイサダを取り、海辺のごみを拾いました。その後、有家港に移動し、取ったイサダを使って釣り体験をしました。 えさ取りや釣り体験など、なかなか経験できないことをさせていただいて、子供達はとても喜んでいました。講師の方々に、とても丁寧に指導や手助けをしていただいて、とてもありがたかったです。			





実施日	8月28日	主催者	花巻市建設部都市政策課公園緑地係	アドバイザー	多門 真咲
		対象	花巻市民14名		
研修会		花壇見学ツアー			
テーマ		自然保護・観察			
内容		*アドバイザーより まなび学園に集合の後、花巻市のバスで市内の地域住民が管理している花壇を巡り、それぞれの管理者から説明を受けた。 各花壇に共通する課題として、管理運営に携わる人の減少とメンバーの高齢化をあげていた。宮沢賢治ゆかりの「下の花壇」が今でも保存されていることを初めて知った。 *主催者より 市内の花壇を実践者のお話し(取り組みのきっかけ、管理方法、花壇デザインのポイントなど)を交えながら見学した。 見学先にて多門先生から講評いただいた。花の特徴や、育て方のコツなどをお話しいただき、参加者は興味深そうに耳を傾けていた。			





実施日	8月28日	主催者	八幡平市立田頭小学校	アドバイザー	高橋 良和
		対象	4年児童10名教員2名 合計12名		
研修会		水生生物調査(雨天のため座学に切り替え)			
テーマ		水生生物調査(雨天のため座学に切り替え環境について講義)			
内容		*アドバイザーより 大雨注意報が多発のため、前日に中止の相談を受ける。しかし、私から教室での環境学習会への変更を提案し採用となる。そのため、当日の資料1枚(別紙添付)を急遽作り渡す。最初に、防災士の立場から、川遊びの注意点を伝える。簡単に水生生物の生態と水質の関係に触れる。次に、環境にやさしいとは何かを、持参した実物を見せて、触れさせて解説する。また、朝一に校長から、火山防災を始めたので、盛り込んでほしいとの要望があり実施する。子供達には、今後5年先、10年先は、自分で勉強した環境知識を基に、環境への気づき、そして、気づきから行動へと自分で考えて行動して欲しいと伝える。最後に、口笛演奏を一曲プレゼントする。口笛は、持って生まれた口を大切に使い、最後まで替えることなく使い切るすばらしい楽器であること。また音の出るしくみは、不要になった残った空気を使い、口から放出する寸前に、演奏に活かし、人を和ませる過程こそ、環境に優しい仕組みとして、考えてもらう。			
		*主催者より 川の増水のより、水生生物の調査を行うことができなかったため、教室で高橋氏から、環境について講義をしていただくことにした。川の上流・下流を理解すること、雨雲の発生から災害を感じる、環境活動を楽しむことなどを教えていただいた。最後に、口笛の演奏を聴き、「環境に優しい」ことについて考えることができた。			

実施日	8月29日	主催者	奥州市 市民環境部 生活環境課	アドバイザー	川田 昌代
		対象	奥州市立羽田小学校		
研修会		奥州市環境学習事業(水生生物調査)			
テーマ		水生生物調査を活用した水質調査			
内容		*アドバイザーより まず、川の様子を観察。(水温、流速の測定、水深、川幅、水の臭い、川底の様子など)入る際の注意点、生き物の捕獲法、調査範囲などを説明した後、捕獲を行いました。その後、各班ごとに採取した生き物の記録分類、水質判定をしました。最後に各班ごとに興味深かった生き物の発表をしてもらいました。まとめでは、川の水をきれいにするために、私たちが出来ることは何かを考えてもらい、水の大切さや川の生き物が生態系で行っている役割について解説をして活動を終わりました。 学校の先生方も草刈りや準備に大変協力的でした。児童の皆さんも、大人の指示に従って、しっかり学習してくれて、川での活動がとても楽しかったと喜んでいました。ただ、護岸がでこぼこで、移動が怖かったり、観察をする場所が十分にとれなかったため、次回は少し工夫をしたいと思います。活動後に斜めの側溝に足をとられ、私が滑って落ちてしまい(けがはありませんでした)川岸の安全面の配慮に反省の残るところでした。 *主催者より 最初に講師が調査の説明をし、速度測定や川の状況観察などをしてから生物を捕獲した。今年の児童は、生き物を触れない、川に入るのも恐る恐るという児童がとても多かったが、サワガニが見つかるかと慣れない網を一生懸命使って捕獲しようとしていた。カニやエビ、川魚の稚魚が沢山取れて、皆大喜びしていた。実際に川に入り水生生物を実感したことは、現代の児童にはもはや贅沢なことかもしれないと感じた。実施時期が遅く指標となる水生昆虫は少なかったが、講師の準備した生物の写真のシートを利用しながら、皆と一緒に水質判定を行った。講師がヘビトンボの羽化後の写真を見せると、その姿の変化に皆驚いていた。最後に、講師から食物連鎖や環境を守るためにどんなことができるか考えてみようとして投げかけていた。 水辺での危険回避に必要なことを学ぶ機会としても、こういった機会を通じて場所に応じた危険性を児童に考えさせることは、とても大事と感じた。川で遊ぶことは、もはや貴重な機会なのだと強く感じた。この学校の現場は斜面を降りて川に入るため、降りる場所まで行く際に上部で水路をまたぐが、今年講師が転倒したので、今後注意が必要。			



実施日	8月31日	主催者	安代地域多面的機能保全組織安代土地改良区	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	・安代地域多面的機能保全組織浅沢地区構成員2名 安代土地改良区2名 小学生1名 幼児1名 保護者4名 環境アドバイザー講師 1名 合計11名		
研修会		安比川水生生物調査・水質調査			
テーマ		水生生物にける水質調査			
内容		*アドバイザーより ・雨天により現地での水生生物調査が困難になったため、会場を八幡平市浅沢コミュニティセンターに急遽変更し、集合した大人、子どもを対象に水生生物調査は何のために実施するのか等、調査の方法、意義などを解説した。 ・水生生物調査とは？小学生でも水質判定が採取した生物でできる ・下敷きに掲載された水生生物の種類と水質判定の方法 ・水生生物調査で使う網の使い方 ・生態系の中での動植物の占める位置、食物連鎖と上位の生物の存在意義、生態系の中にいる種の数とその割合（昆虫が最も多いことなど） ・昆虫の数が著しく減少している現実とその原因 ・多くの生命が生息することの意義 ・生物大量絶滅時代と1981年にイギリスの生態学者Nマイヤースが発表した年代と絶滅する種の数 ・水生生物の幼虫は大きくなったらどんな姿になるのか（数種類の幼虫と成虫の写真を提示） ・SDGsの若干の解説と陸、海の豊かさ、温暖化防止の話 *主催者より 雨のため室内にて講師による調査方法の説明後、水質の保全や自然保護についての講義を行った。 環境問題から生態系の命の大切さについて学ぶことができた。			



実施日	9月2日	主催者	宮古市立重茂小学校	アドバイザー	水木 高志
		対象	児童11名 引率担任2名 合計13名		
研修会		第6学年総合 重茂の環境調査			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 重茂川の生物調査をし、モクズガニ、スジエビ、ウグイ、ゴリなどの他、カワトンボ、ヒラタカゲロウが採取された。土地柄か、海は仕事の場で海で遊んだことのある子が2名、川で遊んだことのある子はいなかった。体験を通し、川の楽しさを学んでいた。また、アユが多く泳ぐ姿も見られ、自然の豊かさを感じ取っていた。 *主催者より 重茂川に生息する水生生物を手持ち網で探す。モクズガニやウグイの稚魚などを採り、観察することができた。 環境アドバイザーの方から水質調査には昆虫の採集がいいと聞きました。今回は、昆虫についてはあまり見つけることができなかったのも、重茂川の水質では具体的にどのような昆虫が採集できるのか学習させてみたいです。			



実施日	9月2日	主催者	金ヶ崎町立西小学校	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	児童10名 教師2名 合計12名		
研修会		水生生物調査			
テーマ		環境問題と水質の関連			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査と水生生物による水質判定 金ヶ崎町生活環境課の協力で、現地の草刈りと安全監視2名が下流でロープを張り、全員ライフジャケットを付けて安全で楽しく円滑、円滑な調査活動ができた。 調査では、カワシンジュガイ（環境省絶滅危惧種Ⅱ類）を12個確認。全て10cmクラスで80歳前後と思われる。最も小さい個体で約5cm（約30歳～50歳）が1個あったが、稚貝は確認できなかった。他にカワシンジュガイを産卵母貝とするタナゴも一匹確認。 是非今後も調査を続け、カワシンジュガイの稚貝とグロキディウム幼生の寄生宿主となるヤマメなどサケ科魚類を確認できれば、金ヶ崎西小学校として全国的にも素晴らしい研究成果が上げられると思います。 *主催者より 黒沢川に生息してる水生生物を採取し、その中の指標生物の数を調べ水質階級は「ややきれいな川」でした。ライフジャケットの着方や水泳生物の採取の仕方を丁寧に教えていただいたので安心して調査ができた。採取した結果もわかりやすく丁寧に教えていただいたのでとても充実した学習となった。			



実施日	9月5日	主催者	盛岡市立太田小学校	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	児童17名 教員3名 合計20名		
研修会		水生生物による水質調査			
テーマ		水に棲む生き物			
内容		*アドバイザーより 水生生物の採集、及び指標生物の同定指導 水生生物と自然との関係について 調査時間が短かった為、事前学習会を行った上で実施した。 指標生物種は少なかったが大きな個体が多く、体長10cm程のニホンヒキガエルも見られ、児童達を驚かせていた。 また、捕獲したサワガニから稚ガニが出てくる場面も観察でき、とても充実した水生生物調査となった。			
		*主催者より 非常にわかりやすく説明頂き子どもたちも意欲的に学習することができました。地域のふるさと学習にもつなげながら学びを深めていきたいと思います。			



実施日	9月6日	主催者	岩手大学教育学部附属小学校つつじ組	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	第3学年児童107名 教諭4名 教育実習生7名 合計118名		
研修会		総合的な学習の時間「中津川のトレジャー探すんジャー」			
テーマ		中津川の生物さがし・体験活動			
内容		*アドバイザーより ・8/27盛岡周辺を襲った大雨の影響で中津川が増水し、氾濫危険情報(警戒レベル4相当)が発表された。この余波が続く9/6になっても川の流れて速く水も不透明の状態が続く、水生生物調査の実施は危険であるため現地調査を断念、室内講義に切り替え実施した。 ・氾濫危険水位に到達したのは、中津川の山岸水位観測所(盛岡市)で、氾濫により浸水被害が発生する恐れがあり一部の地区で避難指示が出た。この模様をTVニュースの動画、水位観測所のデータを交えて解説。 ・9/6の8:20頃の中津川の模様をビデオ撮影しPPTに組み込み動画で紹介した。 ・水生生物調査は水の「きれいさ」をそこに棲む生物で調べるものであり小学生でも十分可能。 ・中津川の動植物にはどんなものがあるかを杜陵小学校前のタイルに示された25枚の写真で解説、中津川の歴史、川と市民とのかかわりも解説。 ・水生生物にはどんな生き物がいるか？魚類、水生昆虫、貝类等 ・指標生物とは何か？ 川の生き物は水質の程度によって種類が変わる どんな生き物が住んでいるかを調べれば水質がわかる 水生生物調査では、29種類の水生生物を選び、どの生物が多く見られたかを調べ、水の汚れの程度を判断する。これを『生物学的水質判定』という。判定に使う生き物が『指標生物』 ・水の汚れの程度Ⅰ～Ⅳ段階とは何か？ 水生生物調査では水質を4区分し、水質階級をⅠ～Ⅳに分け、水質階級ごとに指標生物が決めている 水質階級と指標生物、階級Ⅰ(10種類)・きれいな水、水質階級Ⅱ(8種類)・ややきれいな水、水質階級Ⅲ(6種類)・きたない水、水質階級Ⅳ(5種類)・とてもきたない水 ・川に入って虫の捕獲、どんな水生生物が捕れたか！、理科室で仲間分け、記録用紙に種類ごとに記録、まとまったら黒板に！黒板に書いたら話し合う、川の調査をまとめてみる、川の調査で分かった事は？等調査とまとめの過程を解説。 ・その他 成虫になったらどんな姿になるのか？数種類を見せる ・安全のために！調査は指導者(大人)と一緒に、数名のグループで準備は万全か？体調は大丈夫？川底に危険な物が落ちてませんか？サンダルよりもシューズの方が安全。安全を確認してから入る、川底に泥など積もって滑りやすい。濁っていて深さが分からない？急に深くなっていないか？など 思った以上に川の流れて速いことがある *主催者より 中津川の歴史・水生生物について、パワーポイントを使用しながら詳しく教えていただいた。中津川が盛岡市民から愛され守られていることや、川に住んでいる生物を調査することによって、中津川の水質を調べることができることを学ぶことができた。 大雨の影響により、何度も日程変更がある中、丁寧に対応していただき大変ありがたかった。児童の質問にも丁寧に対応していただいた。			

実施日	9月6日	主催者	一戸南小学校	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	児童12名 教諭1名 合計13名		
研修会		6年理科学習会			
テーマ		月の満ち欠け 人と環境との関わり			
内容		*アドバイザーより 月の満ち欠けと地球圏・太陽系の星々 地球環境と人類・身近な星空環境 理科学習の発展として、天体や地球環境について解説した。 熱心な生徒が多く、身近な自然に関心を持たせる好機となった。 *主催者より 月の形と太陽、地球に生きるについて受講した。			

実施日	9月7日	主催者	紫波町連合婦人会	アドバイザー	岸本 敬子
		対象	28名		
研修会		ほっこりSDGs～毛布ひざ掛けと移動式マイディスクの手芸講座			
テーマ		豊かな人生を創造するほっこりSDGs講座			
内容		*アドバイザーより 押し入れに眠っている古い毛布やマットレス等を用い10月～3月まで使うほっこり手作りひざ掛けとほっこり膝上マイデスクだんぼうの床暖房省エネを夜くつろぐときや読書の時姿勢を保ち肩こりや猫背老眼で視力が進まず楽しく過ごすためのグッズの作成。6月の研修下で核となるアシスタント5名がセミナーを受けていたので28名近くの参加でもスムーズに終わられた。 *主催者より 毛布ひざ掛けグループとマイディスクグループに分かれ、6組の班に編成した。各々材料をそろえおよそ3時間、完成に向けてスタートした。毛布やマットレスはかさばるものなので材料を揃えにくい面があったが今回はリユースの方法についてアイデアを学び生まれ変わる楽しさを体験できた。			

実施日	9月7日	主催者	縁日里山整備プロジェクト	アドバイザー	石塚 勇太
		対象	10名		
研修会		秋の里山観察会			
テーマ		森林整備、山菜・キノコ採り、森林の空間利用など			
内容		*アドバイザーより 草花の漢方や薬草としての活用方法、森林の空間利用などについての解説・助言 里山にある草花をターゲットに、草花の漢方や薬草としての活用方法について解説した。 自然観察会終了後には、参加者全員でセンブリ茶を飲みながら、活用方法の可能性を話し合った。 *主催者より ・草花の種類、識別方法、薬効や漢方などの説明をしながら里山を散策した。 ・講師が持参したセンブリ茶を参加者全員で堪能した。 山林整備に関する講演なども聞ける機会があれば受けたい。			

実施日	9月10日	主催者	葛巻町立葛巻小学校	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	20名		
研修会		葛巻小学校水生生物調査			
テーマ		水生生物と自然環境			
内容		*アドバイザーより ①水生生物調査による水質判定 ② 捕獲した水生生物の生態や特徴 を説明 ③ 環境(水質)保全のための取り組みについて説明 ④川と森林のつながりについて説明 *主催者より 水生生物の採集 川の危険性について 水質判定の仕方 講師の豊富な知識に基づいての活動だったので、児童の興味関心が高まり、児童が意欲的に活動することができた。川の増水により、水生生物の数が少ないとのことであったが、生き物の見つけ方やポイントを分かりやすくご指導していただいた。おかげで短い時間の中で生物の採集、水質の判定を楽しく学習することができた。大変有意義な研修となった。			

実施日	9月10日	主催者	奥州市生活環境課		アドバイザー	小沢 宗
		対象	若柳小学校3学年14名教師1名合計15名			
研修会		奥州市環境学習事業(水生生物調査)				
テーマ		水生生物調査				
内容		*アドバイザーより 蘆ノ隋橋付近で水生生物を採取し、若柳小学校で水質調査を実施 蘆ノ隋橋付近で熊の出没が確認されたため、児童による水生生物採取は危険と判断し、アドバイザーが採取。教室で水生生物を分類、水質判定をした。また、顕微鏡を使って採取した生き物を観察し、絵に書いて親しみを持ってもらった。 *主催者より 昨年度に水路付近でクマの目撃情報があったことから校地内もしくは室内での学習希望であったため、事前に講師が水路から採取した生物を持ち込み、仕分け・観察をした。定期的に虫の種類は少なかったが、ヨコエビや小さなサワガニがいて児童は喜んでいて。プヨの羽化最中の身体が青緑色に透き透っている様子など、解剖顕微鏡での観察スケッチも行った。講師より、生きものを採取した巾ノ下水路は、田んぼ近くでヒルなどもあるが、湧水があるためカワニナやサワガニがいる貴重な水路との話があった。生物の分類・水質判定は、3学年であることも考慮しやさしく指導した。				

実施日	9月10日	主催者	一関市小梨市民センター		アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	5名			
研修会		せんまや里山塾「リフォームコース」				
テーマ		リメイク				
内容		*アドバイザーより リメイク講座 *主催者より 完成に向けてラストスパートです。市民センターの文化祭にも出品します。				

実施日	9月10日	主催者	軽米町立軽米小学校		アドバイザー	中野 雅幸 松尾 亨
		対象	31名			
研修会		「水生生物調査による水質調査」出前講座				
テーマ		「水生生物調査による水質調査」				
内容		*アドバイザーより 1 雪谷川の水生生物調査を通して、指標となる水生生物から水質調査を実施し、身近な河川環境を学ぶ。(実習及びテキストと講話により) 2 雪谷川の防災や歴史を学び平成11年の水害復旧と、森と川が地域の農業や生活にどのような関連性を持っているのかを講話で学ぶ。 研修の目的である雪谷川の水生生物調査を通じて、水質環境や地域の産業(農業や林業)との関連や「森林、川、海」と人間の活動について学習できた。今回の水生生物調査による体験がより身近な生活環境についての学びとつながったと考えられる。また、子供たちが実体験を積極的に楽しみながら調査できたことが、今後の環境問題への関心を持つきっかけとなればとよいと考えています。 *主催者より 最初に雪谷川の氾濫についてお話を聞いた。次に坊里沢川の地形について実際を見ながら学んだ。最後に雪谷川に移動し、水生生物による水質調査を行った。 最初に氾濫についてのお話を聞いたことで、雪谷川の水質にも目を向けることができた。氾濫のつながりから雪谷川にも入って調査したが、4年生の体の大きさに対してやや深い場所があったため、調査場所を検討する必要があると感じた。				

					
---	--	--	--	--	--

					
--	--	--	--	--	--

					
---	--	--	--	--	--

実施日	9月12日	主催者	一関市立弥栄小学校	アドバイザー	多門 真咲
		対象	児童14名 引率教諭2名 合計16名		
研修会		弥栄環境守り隊～水生生物調査～			
テーマ		水辺の環境調査			
内容		*アドバイザーより 弥栄小学校3.4年生14名が平沢川にて4つの班に分かれて、水生生物の採集を行い、集めた個体の種の同定を行った。その後学校に戻って各班から結果を発表してもらい、そこから平沢川の水質判定を行った。 児童たちはみな興味を持って実習に取り組み、多くの種類の水生生物の生息を確認できた。カワリヌマエビ属(岩手県では未確認の外来生物)と思われる個体が多数見つかった。 *主催者より 棲んでいる生き物によって水質が分かることや、石のうらや流れのゆるいところなど、生き物がどんなところに棲んでいるのか学ぶことができた。水生生物調査により、北沢川が水質階級はⅠで、多様な生物が共生していることが分かった。川を汚さずに、弥栄の環境を守っていきこうという気持ちをもつことができた。 児童にとってとても有意義な時間となった。講師の先生の説明も分かりやすく、PowerPointのスライドを用いて、丁寧に教えてくださったので、深く学ぶことができた。			

実施日	9月13日	主催者	洋野町立林郷小学校	アドバイザー	中野 雅之
		対象	9名		
研修会		海洋教育有家川の自然を調べよう～林郷小から源流へ			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 水生生物調査を通して人間の生活への影響を知る。 当河川下流の海辺において別の小学校がプランクトンの採取と流れ着いたゴミの清掃と調査を行った。上下の生物圏を計画的に調査保存するのは科学的にも有効である。 *主催者より 予定していた6日は川の流れが速く、深かったため、1週遅らせて行った。川の状態が良くなり、活動することができた。活動時間が少なかったため、見つけた生物は少なかった。			

実施日	9月18日	主催者	盛岡市立太田小学校	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	4学年児童17名		
研修会		月や星の見える方			
テーマ		月や星の見える方			
内容		*アドバイザーより 季節の星座と星々・星の動きと地球 地球環境と人類・身近な星空環境 理科学習の発展として、天体や地球環境について解説した。 理科以外の内容も盛り込み、身近な自然に関心を持たせる機会となった。 *主催者より 理科室にてスクリーンにうつしだされた「月や星の見える方」を中心に天体について楽しくわかりやすく教えていただきました。			

実施日	9月19日	主催者	一関市立大東中学校 3学年	アドバイザー	多門 真咲
		対象	生徒6名 教諭1名 計7名		
研修会		大東地区の特定外来生物調査			
テーマ		特定外来生物調査			
内容		*アドバイザーより 外来植物を調べるグループは中学校周辺と砂鉄川の道路沿いを歩きながら観察し、特定外来植物2種を含む多くの種を確認した。すいせいせいぶつを調べるグループは砂鉄川に入って水生昆虫や魚類を採集し水質判定を行った。 *主催者より 砂鉄川の綺麗さを確かめるため、水生生物調査を実施した。ヒラタカゲロウやヨコエビなどの水生生物や、ギバチやヤマメなどの魚を観察することができた。			

実施日	9月24日	主催者	葛巻町立葛巻小学校	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	18人		
研修会		「川と自然」(座学)			
テーマ		水生生物調査結果			
内容		*アドバイザーより 以下の内容についてパワーポイントを使って説明した。 ①捕獲した水生生物の生態や特徴 ② 環境(水質)保全のための取り組みについて ③川と森林のつながりについて 実体験を踏まえての学習だったので生徒の理解も早く、質問や意見も積極的で良い授業になった。 *主催者より ・水生生物調査の結果 ・川をきれいになっているもの ・森と海をつなぐ川の役割 ・治水・利水と環境(世界の川づくり、海洋ごみについて) ・自分たちの川づくり(これからの探求・課題) 児童は、川が森と海をつないでいること、そして自分たちの住む場所の川が世界とつながっていることを知り、川を守り大切にしていこうという気持ちを強くした。また、暮らしを豊かにしてくれる川の役目と、その川を守るための様々な仕事あることを知り、治水と利水の環境づくりの大切さを学ぶことができた。			



実施日	9月27日	主催者	一戸町教育委員会	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	11名		
研修会		ごしよのdeまなびプロジェクト			
テーマ		「縄文の星空観察会～秋～」			
内容		*主催者より 初めに、岩手県や一戸周辺の星空環境や光害についてお話いただき、その後屋外に出て天体望遠鏡を展開し、夜空の観察を行った。金星、水星、うしかい座アークトゥルス、こと座のベガ、さそり座のアンタレスのほか、2万光年離れた星団であるM13などが視認できた。夕暮れの薄明時の空から暗くなる空のグラデーションを楽しむことができた。晴天に恵まれたものの上空にはガスがかかっており、やや見づらかったものの、さまざまな星を見ることができた。また、博物館裏の森からはキツネの鳴き声も聞こえ、閉園後の御所野遺跡の様子を楽しむことができた。 *アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 夏～秋の星空と当日の夜空の暗さ・縄文時代と現代の星空環境 地域の星空を観察しながら、星空環境について理解を深めて頂いた。 今回も曇天ではあったが、日没後から薄明終にかけての夜空の暗さの変化を観察しながら、縄文時代と現代の夜の環境について理解を深めた。 中盤から晴れ間が見られ、季節の星々も楽しんで頂いた。			



実施日	9月28日	主催者	乙部地域協働のまちづくり事業推進委員会	アドバイザー	平元 尚人
		対象	児童・父兄 30人 委員会・先生7人 合計37名		
研修会		わくわくチャレンジふれあいの日「水生生物調査」			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザー 大沢橋付近の河川調査。約35人が参加。 靴や着替えが事前に指示がなく準備不足であった。 様々な水質の生き物が採集された。ヤマメの稚魚の放流は、良い取り組みなので、ほかの地域でも実施してほしい。 *より主催者より ホールで開講式や講師から調査内容等の説明の後、調査現場に移動。現地で調査の仕方などの説明を受けた後、児童や父兄は実際に川に入り生物を採取した。ヤマメの稚魚放流、記録用紙への記入後、採取した生物は川に戻した(アメリカザリガニは飼育希望者に渡したほか、講師が持ち帰った。)。 わくわくチャレンジふれあいの日は、5年ぶりの開催とのこと。多分、来年も開催されるものと思われる。また、思っていた以上に多種の生物がいることが分かった。児童はもちろんだが、父兄も楽しんでいるようだった。			



実施日	9月29日	主催者	環境学習交流センター出張環境学習会(盛岡・紫波地区環境施設組合)	アドバイザー	川邊 弥生 高橋 功
		対象	イベント来場者水素カー体験118名・紙すき体験141名(体験者 保護者含む) 合計259名		
研修会		清掃センター3Rツアー			
テーマ		ごみリサイクル			
内容		*アドバイザーより ・高橋 功氏 水素カーと世界最小のソーラーカーを走らせながら、二酸化炭素を出さないエネルギーについて考えていただいた。 中でも、水素は水を電気分解してつくり、使う時には二酸化炭素は発生しないが、水素をつくるときに再生可能エネルギーでつくった電気をつくった水素(グリーン水素)は、つくるときから二酸化炭素は発生しないが、化石燃料を使ってつくった電気(ブルー水素)をつくると、使う時には二酸化炭素は発生しないものの、電気をつくるときに二酸化炭素が発生していることについて説明し理解を深めていただいた。 太陽光パネルにあたる光の傾きと量で発電量が変わることや、水素は使う時には二酸化炭素を出さなくとも、つくるときに二酸化炭素を出していることもあるんですね!と言った声を聞くことができた。 ・川邊弥生氏 3Rの普及啓発の推進として、来場者の呼びかけてごみの減量に関心を持ってもらう。 身近な材料を活用した、紙すき体験を通して物を大切にする事や、出来上がった作品で豊かな気持ちになって頂き、ごみ減量へ家族で取り組んでもらう。また清掃事業所の公開見学を通してごみについてや環境問題を考えて行動に繋げてもらう。 *主催者より ・高橋功氏には発電体験・水素カー・太陽光パネル搭載のミニカー対応をしていただきました。小さなお子様から大人までわかりやすく丁寧にエネルギーについてご説明頂きました。 ・川邊弥生氏には紙すき体験対応を中心に来場者対応をしていただきました。小さなお子様から大人まで優しく対応していただき、特に紙漉きのアイロンがけは小さなお子様にも丁寧にやけどをしないようにご対応いただきました。			

実施日	10月1日	主催者	雫石町立七ツ森小学校	アドバイザー	高橋 良和
		対象	3年生児童12名 教員3名		
研修会		勘十郎森探検			
テーマ		自然保全・自然観察			
内容		*アドバイザーより 今回、この時期の森を楽しむ『4つの注意』を提示と、さらに学校依頼の『七ツ森の自然環境を保全するために小学生に何ができるか』を考えた。 1.4つの注意については、①『熊への対応』;音(話し声と鈴の音)を使い人の存在を知らせる。日頃から学校で対応実施。②『ハチへの対応』;先日鞍掛山での事故を踏まえ、事前調査と当日の蜂への注意を促す。特に危険なハチは地中に巣があること。秋の分蜂時期の特徴も知らせる。③『うるしの知識を持つ』;ウルシの木とツタウルシの実物を見せ、その都度解説。④『熱中症の必要な対応』;活動のスタートは、全て水分補給から始めること。以上の4点を行程中の適切な時機に実行。 2.『人工林と二次林の違い』の実体験;途中の休憩所で詳しく解説する。①山頂までの人工林(杉林)の環境は、うす暗くて光が中まで当たらない、シダ系植物が多く繁殖し、多くの花や低木が見られない。②山頂からのくぐりの二次林(雑木林)は、森の中が明るく、気持ちが良い。今は時季外れだが、数種の花が見られ、地表にはドングリや栗の実などが多く散乱し、多くの低木が見られるなど、その違いに気が付くか。 3.今日の勘十郎森での貴重な体験を、各自家庭に戻って話をしてほしいと伝える。両親や祖父母からの貴重な話が聴けるかもしれない。この様に、家庭で勘十郎森の話題を出すことも、大切な地域の自然環境を守る行動につながることを知る。 *主催者より 予定通り実施することができた。登山中や休憩中に、勘十郎森の様子や環境について話していただき、学習することができた。			

実施日	10月2日	主催者	長内川川の会	アドバイザー	中野 雅之
		対象	長内川川の会会員 10名程度		
研修会		カヌー・カヤック体験の事前研修			
テーマ		カヌー・カヤック体験			
内容		*アドバイザーより カヌー・カヤックの特徴、安全と危険な扱い方。川の場合、湖、海の場合などの注意すべき現象や必要な技術。 新しく購入したカヤックなどを活用できるように指導者研修は複数回が必要。年齢の幅を広げるには「森と湖の旬間」などで毎年行っているイベントなどを継続することが必須。 *主催者より 河川での研修であることから、前日の台風接近も危惧されたが影響もなく、天候も良く河川状況も良好であった中で研修を行うことができた。開会后、中野講師よりカヌー・カヤックの基本構造や安全な操作方法と落水した際の救助方法、用具の使用方法等を研修。その後、実際にカヌー・カヤックを河川に浮かべて、実地での操作等を研修した。			



実施日	10月2日	主催者	涌津まちづくり協議会	アドバイザー	多門 真咲 多門 祐純
		対象	23名		
研修会		涌津市民センター成人学級「紅葉の八幡平トレッキング」			
テーマ		トレッキング			
内容		*アドバイザーより 八幡平見返り峠登山口から八幡平頂上にかけて周回登山した。 歩く傍ら、紅葉が美しい樹木(ナナカマドやカエデなど)や花を発見しては解説を行った。 当日は霧がひどく、観察途中からは雨も降り出した。 今回はケガ人も体調不良者もいなかったが、ご高齢の参加者も多いことから、リスクを考えて次以降はもっと慎重な判断が必要になると思われる。 *主催者より 天候は濃霧で予定ルートを変更し、駐車場から八幡平山頂を経由し駐車場へ戻るルートで実施。23名を2班に分けて、遊歩道脇の植物について説明をいただいた。			



実施日	10月2日	主催者	大槌町立大槌学園	アドバイザー	臼澤 良一
		対象	4年生児童57名 4年担任2名 合計59名		
研修会		1DAY親子ぼうさいキャンプ			
テーマ		防災について			
内容		*アドバイザーより 9月24日開催予定の水生生物調査が降雨増水のため中止となり、代わりに座学による学習を行った。 ・内容はパワーポイントを使用し下記のことについて話した。 ①お米の出来るまで ②水の中の生き物 ③大槌町民の使用水量 ④土の大切さ ⑤食物連鎖・SDGsについて ・一粒の米が出来るまでの話の中で、お百姓さんの努力以外に大切な物は何かについて考えを引き出しながら進めた。 *主催者より 予定していた水生生物調査が雨による川の増水で中止になり、代わりに講義をしていただきました。子ども達は興味をもって話を聞き、意欲的に学んでいました。			



実施日	10月4日	主催者	盛岡市乙部地区公民館	アドバイザー	川村 晃寛
		対象	11人		
研修会		ミニチュア 箱庭づくり教室			
テーマ		自然素材のクラフト			
内容		*アドバイザーより 地域の環境を考えながら身近な自然素材を使って作る「ミニチュア枯山水・箱庭づくり」 *主催者より ・砂や石や木の実、乾燥した葉、松ぼっくり、コケなどの天然素材等を使って箱庭の作り方について説明。 ・箱庭に使う天然素材は、私たちの身近に存在する自然のものを多く使う。 身近にそういったものが存在するので、是非、自然の恵みに興味を持ち、ご自分でも今後、作って欲しい。また様々な場所で、利用できる樹木の葉や実があるので、そういった観点から色々な場所に行かれるのも楽しいのではないかと。また、旋盤の金属くず等も使えることを聞いた。 ・また、先生が持ってきた材料をどこで採れたかなどの説明を受けた。 ・参加者は興味深く聞きいていた。 ・各自、箱庭づくりの容器と材料を思い思いに持っていき、作業に取りかかった。 ・参加者が作る箱庭は、みなどれも特徴的で楽しんで作っているのが印象的であった。 ・できあがった作品を写真撮影のため、随時展示し先生が写真に収めた。 ・参加者はそれぞれの作品の良いところを褒め合い賑やかだった。 12:00 講座終了。			



実施日	10月4日	主催者	山田町教育委員会	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	一般参加者26名(大人13名、子ども13名) ボランティア1名、山田町教育委員会職員4名、計31名		
研修会	秋の子ども向け講座「秋の星空観察会」				
テーマ	星空観察				
内容	*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 夏～秋の星空と当日の夜空の暗さ・星空環境保全 悪天候のため、星空環境の学習会と位置付けて講話を中心に実施した。 曇りベースで小雨が混じる空模様であったものの、実際にバルコニーや屋上に出て、山田町の夜空を観察する時間を設けた。周辺地域の光害に対して興味を持って頂く機会となった。 *主催者より 当日は天候に恵まれず、星空観察は実施することができなかった。しかしながら、講義室での座学は講師による星空や環境の話、光の強さが与える影響について等、参加者の興味を引き付ける話題に富んでおり、皆楽しく聴講していた。				

実施日	10月5日	主催者	奥州市 市民環境部 市民環境課	アドバイザー	川田 昌代
		対象	21名		
研修会	衣川ふるさと自然塾				
テーマ	自然観察				
内容	*アドバイザーより まず、事前に準備した手作りのビンゴカードを配り、秋の木の実や草花、生き物など五感を使いながら、それぞれ探してもらいました。途中、薪炭林の話やナラ枯れの話なども交え、まとめでは、キノコの森での役割や植物の種や実がどのように移動しているのかなどのお話をしました。 次に、額縁を持って、自然の一部を切り取って森の中に美術館を作りました。それぞれ工夫したタイトルをつけてもらい、みんなでそれを鑑賞しました。 最後に、森の役割について簡単にお話して活動を終わりました。 *主催者より ○フィールドビンゴ 自然の中で色、花、虫等を自ら探して、ビンゴをする。 ○森の美術館 ある程度の範囲の中で、各々大小様々なフレームを用いて、自分だけの美術館を創作する。また、その美術館(フレーム)をみんなに発表、見せ合う。				

実施日	10月5日	主催者	奥州市 市民環境部 市民環境課	アドバイザー	若生 和江
		対象	21名		
研修会	衣川ふるさと自然塾				
テーマ	自然観察				
内容	*アドバイザーより 森の自然観察会における案内、説明等 (1)森の中を歩いたり、立ち止まったりしながら、「森の宝物」を探すこと。森のビンゴゲーム、森の美術館ほか のサポート ・主たる講師の川田さんのわくわくする森の体験をサポート ・事前の自然塾の森の下見、コース決め等、当日担当するめぐみネットの小沢さん、花澤さんとともに2度行い、安全面、(うるし、蜂など)あらかじめ印をつけるなど注意喚起を行った。 ・今年は、参加者の人数を絞り、スタッフを増やしたことで、一人ひとり興味を持ったものに、じっくりこたえることができた。 ・本事業をきっかけに、自然塾での森林活動が地元とつながって継続できるよう今後も協力していきたい。 *主催者より ○フィールドビンゴ 自然の中で色、花、虫等を自ら探して、ビンゴをする。 ○森の美術館 ある程度の範囲の中で、各々大小様々なフレームを用いて、自分だけの美術館を創作する。また、その美術館(フレーム)をみんなに発表、見せ合う。				

実施日	10月5日	主催者	陸中海岸青少年の家 研修班	アドバイザー	中島 崇
		対象	20名		
研修会	1DAY親子防災キャンプ				
テーマ	防災体験プログラム				
内容	*アドバイザーより ロケットストーブを作り、落ち葉や枯れ木を使った環境に配慮した火おこし体験 *主催者より ロケットストーブ作りでは、細やかに製作手順を説明をさせていただいたことにより参加者が安全に製作活動を行うことができた。ロケットストーブの使い方では、火の起こし方を分かりやすく演示させていただいた。参加者全員が薪を使った火の仕方を理解することができた。				

実施日	10月6日	主催者	三陸春風の会	アドバイザー	藤原 由美子
		対象	14名		
研修会		いわて環境SDGsサロン 第二回			
テーマ		「ミツバチが支える私たちの暮らし」			
内容		*アドバイザーより ミツバチやスズメバチの生産物を人がどのように利用しているのかそして生産物を得るためにはその生き物の生態を理解し豊かな自然環境が必要であることについて話しました。 *主催者より ミツバチやスズメバチの生態とハチミツについてとても面白いお話が聞けたと好評でした。女王バチのこと雄バチの役割など写真や動画も素晴らしく身近な昆虫なのに知らないことばかり、ハチミツをさらに大事に味わいたいと受講の皆さん話していました。			

実施日	10月7日	主催者	八幡平市寺田コミュニティーセンター	アドバイザー	松尾 亨
		対象	6名		
研修会		寺田水環境保全協議会			
テーマ		環境保全			
内容		*アドバイザーより 1 寺田水保全協議会の研修会として寺田コミセンが企画、涼川の水生生物調査を通して、指標となる水生生物から水質調査を実施し水質環境を学ぶ。(実習及びテキストと講話により) 2 涼川の源流域に大規模農地(キャベツ、大根)の再開発により水生生物減少が懸念されておりそのことについて、農業や生活にどのような関連性を持っているのかを講話で学ぶとともに相互ディスカッション *主催者より 講師と涼川へ出向き、水生生物の調査を行った。寺田コミセンにて水質・環境問題についてプロジェクターを使用しての講話を行った。			

実施日	10月12日	主催者	きこりや	アドバイザー	川田 昌代
		対象	小学生8名、保護者等17名、中学生ボランティア生徒5名 合計30名		
研修会		お物見公園散策会			
テーマ		自然観察			
内容		*アドバイザーより 参加者をツリークライミングするグループと公園内樹木観察グループとに分け、樹木観察の担当をしました。(交代制で2回実施)まず、樹木について基本的なところを①②③の番号を配り三択でクイズをした後、公園内で見られる木の実や虫、五感を使うようなものが記入されているビンゴカードに印をつけながら公園内を散策しました。途中、公園の歴史や樹木について解説を行いました。一周した後、箱に入れた木の実などを手探りで当ててもらいゲームをして活動を終わりました。最後に全体のまとめで、森や木の役割について簡単に絵を使って説明しました。 *主催者より 小学生を2グループに分け、保護者や中学生と一緒に公園内の樹木観察を行っていただきました。丁寧な現地下見に基づくネイチャーゲームを取り入れて、参加者が楽しみながら自然に目を向ける工夫をされていました。地球環境に果たしている木の役割などについて、小学校高学年や中学生に向けての講話をいただく機会を持ちたいと考えています。			

実施日	10月12日	主催者	岩手県立県南青少年の家	アドバイザー	大友 晃
		対象	11名		
研修会		大人ワンダークラブ登山			
テーマ		トレッキング			
内容		*アドバイザーより 県南青少年の家事業「大人ワンダークラブ～登山編～秋の栗駒山登山」の山案内 ・登山前 山の特徴、山への持ち物、歩き方などについて説明 ストレッチ 班分け ・登山中 ゆっくり歩き、危険個所など要所で注意喚起 参加者の体調に留意 植生、気象、動物などについての説明 ・下山後 振り返り *主催者より 大友氏のガイドにより、参加者の年齢層に合わせた歩き方やゆとりのあるペース配分で、全員が安全に楽しく終えることができた。また、山や植物に関することや、自然や動物との共存についても教えていただき、環境に関する意識も高めることができた。天気にも恵まれ、すばらしい紅葉を味わうことができ、参加者全員が満足できた内容であった。			

実施日	10月13日	主催者	長内川 川の会	アドバイザー	内田 尚宏
		対象	2名		
研修会		カヌーカヤック体験の事前研修			
テーマ		カヌーカヤック体験活動時の安全対策など			
内容		※アドバイザーより カヌー・カヤック講師。 (1)河川活動時の安全対策について、ディフェンシブスイム、フローティングベストの正しい着用、救助の仕方、され方など) (2)カヤックを安全に体験する方法 (3)カヤックの操作方法、パドルの漕ぎ方 (3) カヤック体験からわかる水辺環境について ※主催者より 好天に恵まれ、予定時刻に開会された。申し込みいただいた一般市民の皆様には開始時間より早めにお越しただいており、カヤック体験への関心が感じられた。講師の内田先生には、カヤック体験を始める前に、安全に体験するための注意事項やカヤックの操作方法等細かな説明をいただきカヤック体験に臨んだ。休憩をはさみ前半と後半に分けて体験を行ったが、事故等もなく無事カヤック体験会を終了することが出来た。			

実施日	10月17日	主催者	盛岡市西部公民館	アドバイザー	大友 晃
		対象	15名		
研修会		自然環境講座・秋～「いわて県民の森 七滝」の観察～			
テーマ		岩手の山の魅力			
内容		*アドバイザーより 当初の予定は、岩手山麓 秋の七滝トレッキングであったが、岩手山 の入山禁止措置にともない、室内での自然環境講座に変更となった。 テーマは「岩手の山の魅力」。パワーポイントを用いて、山歩きの楽しみ方、岩手の名山や隠れ名山、高山植物、野生動物などについて、映像と体験談をもとに講演した。 *主催者より 最初は「八幡平七滝軽登山」を計画し募集を行ったが、岩手山の噴火レベル引き上げに伴い、登山を中止し講話「岩手の山」に変更した。 ・講師のパワーポイントを使った講話が大変楽しく、山の魅力を存分に感じる事ができた。受講者も皆満足していた。			

実施日	11月1日	主催者	刈屋公民館	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	一般16名		
研修会		星空観察会			
テーマ		新里地区の星空観察会			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 夏～秋の星空と当日の夜空の暗さ・星空環境保全 曇天のため、星空環境の座学を中心に実施した。市街地や幹線道路から離れた立地で、空の暗さが顕著であった。周辺地域の光害に対して興味を持って頂く機会となった。 *主催者より 星を見ることが出来なかったが、屋外に出て空の暗さについても解説してもらった			

実施日	11月1日	主催者	盛岡市立山岸小学校	アドバイザー	内田 尚宏 佐井 守 吉田 美幸
		対象	3年生児童104名 教師4名 合計108名		
研修会		中津川探検			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 吉田美幸 ・鮭と自然との関係について ・海洋ゴミ問題と地球温暖化 子供たちが鮭と地球温暖化や自然とのかかわりについて、興味深く学んでいる様子だった。 内田 尚宏 ・中津川文化橋付近の河川環境観察とサケの遡上調査を行なった。サケの遡上は確認できなかった。 ・学校に戻り、講義。私が作成したサケ産卵のビデオ上映とパワーポイントで「中津川を遡上するサケの生態について」説明と意見交換をした。 佐井 守 ・中津川探検(中津川を遡上するサケの生態について) *主催者より 中津川河川敷で、実際に遡上するサケの観察を行ったが、残念ながら当日出会うことはできなかった。学校に戻ってからは、動画や映像資料を利用してサケに関する講話をしていただいた。中津川の環境やサケに関するクイズを出題するなどして、環境保全に関わる分野まで教えていただくことができた。子どもたちの興味を引く工夫を凝らしながら、発達段階に応じた分かりやすい説明をして頂き、充実した時間を過ごすことができた。ありがとうございました。			

実施日	11月2日	主催者	久慈市衛生班連合会	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	市内の小学1年生～6年生までの親子 23名		
研修会		環境学習講座			
テーマ		海洋ごみをテーマとした環境教室			
内容		*アドバイザーより ・海の大きさはどれだけか？クイズ30%、50%、70% ・地球で一番高い山、一番深い海はどちらか？ ・太平洋と陸地全体を合わせたものはどちらの面積が大きい？ ・海はでっかい！今その「海」に大変なことが起きている！ ・プラスチックはとても便利、しかし腐らないからいつまでも環境中に残り続ける。プラスチックの海洋汚染はとても深刻な問題！ ・人が捨てたプラスチックで多くの海洋生物が被害を受けている(動画で示す) ・分別を徹底、ごみを出さないリデュースが一番大事 ・その他 1.もぐらんぴ館長、宇部修氏の講演 プラスチックが海洋を汚染している話 2.海岸でのごみ拾いと砂を採取し、水を加え微小プラスチックを浮遊させ濾過し残差の中にプラスチックがあるかどうかを顕微鏡で検査を実施。プラスチックの破片を発見する。 *主催者より 本研修は海洋プラスチックをテーマにし、小学生の親子を対象とした内容としたが、子どもたちの興味を引くスライドを使用いただき、大変ありがたく感じた。 海洋プラスチックごみだけではなく、私たちの生活から排出されるごみについて考える機会が増えればと思います。			

実施日	11月3日	主催者	奥州市水沢新城地区振興会	アドバイザー	高橋 功
		対象	約250名		
研修会		「真城祭り」のイベントとして			
テーマ		わくわくエネルギー教室			
内容		*アドバイザーより 発電体験として、手回し発電機を回すと段ボールでつくった家の煙突からハロウィン風船が飛び出す道具を用い、電気をつくり続ける大変さを学んでいただいた。また、エコな遊びとして、すすきとカラー輪ゴムを使って、すすき鉄砲をつくり射って遊び、自分でつくったすすき鉄砲は持ち帰っていただいた。 *主催者より わくわくエネルギー教室 ・手回し発電機により、便利な電気を作る大変さの理解を深めた。 ・すすき鉄砲により、身近な材料活用でエコな遊びが出来た。			

実施日	11月3日	主催者	八木沢川を守り育てる会	アドバイザー	水木 高志
		対象	18名		
研修会		八木沢川に親しもう			
テーマ		水生生物調査			
内容		*アドバイザーより 河川清掃、八木沢川の生物調査及び講話（採取した生き物を鑑賞）、ヤマメの稚魚放流体験 ※採取した生き物はその場で放流 *主催者より 今回の活動は、河川のゴミ拾い、生物調査・講話、ヤマメの放流を実施しました。河川のゴミ拾いでは拾ったゴミのうち大半がプラスチックごみだったため、海ごみ対策について触れ、参加者は理解を深めていました。生物調査では、カワゲラ類やヒラタカゲロウ類が確認できたほか、八木沢川で生まれたイワナの稚魚やスジエビ類がみられました。スジエビは昨年あたりから見られるようになりました。			



実施日	11月6日	主催者	矢巾町立煙山児童館	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	児童8名、保護者10名、児童館職員2名 合計20名		
研修会		煙山児童館施設開放事業「星空観察会」			
テーマ		星空環境・光害			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 夏～秋の星空と当日の夜空の暗さ・星空環境保全 雲が多く、開会直前に小雨が降るなど、微妙な天気であった。星空環境に関する簡単な座学の後、天気が回復し晴れ間が広がった為、観測器材を展開して惑星や季節の恒星を観察した。星空観察会の実績が少ない地域であり、今後の継続に期待したい。 *主催者より 今回の研修では、親子向けに星空観察会を行いました。貴重な学習をさせていただきありがとうございました。星空に興味を持つことができました。			



実施日	11月9日	主催者	盛岡市環境生活部環境企画課	アドバイザー	若生 和江
		対象	一般61名		
研修会		盛岡市環境部「もりおかゼロカーボン2050～もっと面白いデコ活」			
テーマ		フードマイレージ、ほか			
内容		*アドバイザーより 「地球にやさしい食べ方」 ・フードマイレージの話 ・日本の食糧自給率のはなし ・「郷土料理」ってエコなの？ ・わたしたちにできることの提案 *主催者より イベントの一環として、講演を目的に来られた方、会場に居合わせた方に対し、講演を開催した。身近なところからフードマイレージや食料自給率のお話を分かりやすくお話いただき、自分たちが食べるもの、使うものの経緯や理由を知ったり考えたりすることで、環境にもいいことをみんなで少しずつ広げていこうという意識の啓発につながった。司会者との掛け合いもあり、楽しく和やかな講演となった。講演といっても堅苦しくなく、講師の温かみと親近感のある分かりやすいお話のおかげで、聞いた方の満足度も高かったものと感じる。			



実施日	11月10日	主催者	赤生津地域活性化協議会	アドバイザー	川田 昌代
		対象	一般17名		
研修会		赤生津の里山観察会(3)秋の経塚山・音羽山散策会			
テーマ		植物の観察&木の実を使ったクラフト			
内容		*アドバイザーより 月山いこいの広場から出発し、女二子神社の入口から山頂まで、ゆっくりと植物を観察しました。下見で確認した植物の名前と解説を書いたカードを、参加者と一緒に植物に掲示（洗濯ばさみで挟んだり、テープでついたり）しながら、観察を行いました。その後さまざまな体験活動（巻き割り、火起こし、綱引き、水鉄砲、ボードづくりなど）を活性化協議会メンバー担当で行いましたので、そのサポートとボード作りの材料提供を行いました。（飾り付け用のドングリや松ぼっくり、様々な木の実） *主催者より 「里山」の秋を散策。「ネイチャーゲームNO93森の色合わせカード」を持つての散策。今回も講師の川田さんには、特製ミニハンドブックを作成していただき、解説を聴きながら草花や木々の紹介をしていただいた。小学生から高齢者までの参加者に、わかりやすく理解しやすく説明いただいた。動物達の足跡や木々への爪痕等の解説も加えて頂き、越冬に向けた山の営みを解説いただいた。			



実施日	11月16日	主催者	陸中海岸青少年の家	アドバイザー	佐々木 洋介
		対象	一般25名		
研修会		ワンダフルネイチャー③みちのく潮風トレイルを歩こうin MIYAKO			
テーマ		自然観察会(トレッキング指導)			
内容		*アドバイザーより みちのく潮風トレイルコースのトレッキング及び三陸ジオパークのジオサイトにおいて見学を通し、岩手の豊かな自然を味わう。 *主催者より 浄土ヶ浜ビジターセンターから姉ヶ崎オートキャンプ場までみちのく潮風トレイルのトレッキングを実施した。佐々木氏には、トレイルコース、動植物及びジオサイトについてのガイドをしていただいた。佐々木氏のガイドについて、満足と評価する参加者が多かった。			



実施日	11月21日	主催者	一関市千厩地域公衆衛生組合連合会	アドバイザー	櫻田 文明
		対象	一般76名		
研修会		令和6年度千厩地域環境セミナー			
テーマ		再生可能エネルギー			
内容		*アドバイザーより 再生可能エネルギー (1) 再生可能エネルギー導入による二酸化炭素排出量削減の成果について (2) 誰もが手軽に導入しやすい家庭の省エネルギー対策について (3) 投資から見た再生可能エネルギーの将来性について 非常に質問が活発にあり地域の課題が共有でき素晴らしい機会でした。 *主催者より 講演会演題「再生可能エネルギーと家庭の省エネルギー対策」			



実施日	11月23日	主催者	盛岡市環境部環境企画課	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	一般9名		
研修会		盛岡市環境学習講座「盛岡の秋の夜空を観察しよう！」			
テーマ		星空観察			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 夏～冬の星空と当日の夜空の暗さ・星空環境保全 雲が多く、開会直前に小雨が降るなど、微妙な天気であった。星空環境に関する座学を中心に、光害の現状について理解を深めて頂いた。 *主催者より 手を使った角度の測り方の目安を教わり、ちょうど通過するISSの通過を観察したり、単眼鏡で雲の合間から見える夏の大三角や宵の明星を観察した。また、外灯による影の出方やその周りの見え方を体感することで光害の影響を実感でき、星空の見える環境の尊さを考えさせられる観察会となった。 参加された方には満足度が高く、星空環境を守っていくことが自然環境や地球環境の保全にもつながることを継続して機会を設けていきたい。			



実施日	11月24日	主催者	紫波町彦部婦人会	アドバイザー	岸本 敬子
		対象	地域住民12名		
研修会		豊かな人生を想像するステップアップ ほっこりSDGs講座			
テーマ		SDGs			
内容		*アドバイザーより 普段あまり使わなくなったスカーフを再利用してつくるペンダント制作、クリスマス、お正月ミニアレンジメント *主催者より 家に眠っているスカーフを使ってネックレスに変身させるテクニックを手始めにちょっとしたアイデアですべてのものが輝いていくヒントを教えてくださいました。サプライズとしてクリスマス用とお正月用の素敵な花もたくさんお持ちくださり研修会自体が明るく華やかになりました。			



実施日	12月1日	主催者	生活クラブ生活協同組合岩手	アドバイザー	薄井 信次
		対象	17名		
研修会		電気の生産者交流会			
テーマ		再生可能エネルギー			
内容		*アドバイザーより 市民発電立ち上げ経緯手法 地域で再エネ発電所を作ることの意義、協議会の設立など 10年目を迎えての現在の状況 地球温暖化情報、 太陽光発電の体験 少し知識と意識がある方たちなので地球温暖化情報は興味を持っていたようだ。 市民発電は実際の内容なので分かりやすく、担当の菅原佐喜雄に手伝ってもらい伝えた。 小規模の太陽光発電システムを持ち込み電圧を自分で測るなど体験してもらった。 *主催者より 講師より、地球温暖化のひっ迫した状況や、一関で市民がそれぞれの仕事を持ちながら自分達で再エネの発電所を立ち上げた思いや経緯、地域で再エネの発電所をつくる意味等について話を聞いた。実際にソーラーパネルからどのように電気を発電するのか見て、体験した。 自分たちで手作りの再エネの発電所をつくるという、その思いと行動力に感動し、自分の家で小さな太陽光パネルで発電したいという感想を持った人も多く、具体的なことを相談したいという人もいた。			



実施日	12月5日	主催者	久保公民館	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	7名		
研修会		成人学級「楽しくリメイク！体験講座」			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより ニンジンパンツを作成 *主催者より 一人一人の希望にそった提案をし生地を切って縫うまでを行った			



実施日	12月6日	主催者	盛岡市立太田小学校4年生	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	児童17名 教師2名		
研修会		冬の星			
テーマ		冬の星について			
内容		*アドバイザーより 季節の星座と星々・星の動きと地球 地球環境と人類・身近な星空環境 *主催者より 冬の星を中心に星座早見盤の使い方や星座についてわかりやすく教えていただきました。 冬の星の他にも星座や宇宙についての知識や環境問題、SDGsにも触れていただき子どもたちの知的好奇心も高まり「もっと知りたい学びたい」という気持ちも高まっていました。			



実施日	12月7日	主催者	紫波町連合婦人会	アドバイザー	岸本 敬子
		対象	49名		
研修会		紫波町連合婦人会会員研修会			
テーマ		SDGs11, 12, 13の目標のために私たちにできること			
内容		*アドバイザーより 婦人会の総会での講義（パワーポイントは初めて使用のこと）で準備に1ヶ月かけいろいろな11, 12, 13に関する資料を読みまとめたが地産地消の部分が肝心であるが時間不足で残念だった。次回依頼あったら地産地消を具体的、希望的例題でまとめたい。地域と婦人との関係は地域づくりは歴史と生活と世界と未来づくりなのでふるさとづくりとしてみんなで課題に積極的ににかかわることにより自分たちの課題も大きく改善できると結んだ。 *主催者より パワーポイントでSDGs17の目標のうち3つを学んだ。			



実施日	12月9日	主催者	三陸春風の会	アドバイザー	清水 義輝
		対象	18名		
研修会		いわて環境SDGsサロン 第三回			
テーマ		米、農業、自然環境のお話			
内容		*アドバイザーより 環境に負荷をかけない農法を紹介し、生物多様性の有益性と環境保護の在り方、農業の役割をお話しました。18名が参加し、クイズや食を通して体験させることができましたが、今後はさらに体験型の研修会をとりたいと思いました。 *主催者より 自然農法でどのような農業を営んでおられるのか、岩手の自然がどのような恵みにつながるのか、大変有意義で興味深いお話と写真の数々に参加者一同楽しく聴講しました。これからの農業政策を見る目が変わったという参加者もいました。			



実施日	12月11日	主催者	学校法人健康科学大学 一関修紅高等学校	アドバイザー	薄井 信次
		対象	1学年3名		
研修会		総合的な探求の時間フィールドワーク			
テーマ		そもそも地球温暖化の何が悪いのか			
内容		*アドバイザーより データや資料を与え地球温暖化に対する質問の答えへのアプローチ、太陽光発電のシステムの体験。 *主催者より KJ法を使いながら質問事項や疑問点を整理する。各カテゴリについては岩手県の担当課などに問い合わせる。解答を検討するなど。 ただただ講義式のレクチャーではなく、KJ法を使いながら自分たちの疑問も整理させ、外部機関とも連携しながら生徒は自分たちの課題に向き合った。また、太陽光発電の実験を実際にさせていただき事で地球温暖化の抑止策を考察した。			



実施日	12月12日	主催者	久保公民館	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	8名		
研修会		成人学級「楽しくリメイク！体験講座」			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより ニンジンパンツ・マフラーでポーチ・ワイドパンツ作成。 *主催者より 一人一人の希望にそった提案をいただき生地を切って縫うまでを行った。			



実施日	12月14日	主催者	大槌文化交流センター	アドバイザー	吉田 美幸
		対象	未就学児 4 名、小学 1 年 2 名、小学 3 年 3 名、小学 4 年 1 名、保護者 合計 14 名		
研修会		天体望遠鏡工作ワークショップ			
テーマ		天体望遠鏡づくり			
内容		*アドバイザーより 天体観察器具の使用方法和注意点 星空観察の方法と安全管理に関する説明 *主催者より 今回の研修会では、参加者が天体望遠鏡に興味を持ち、楽しみながら製作していた。製作前に、講師による天体望遠鏡の基礎知識や歴史、クイズを行い、楽しんでいる様子だった。天体望遠鏡の製作手順では、子供にとって少々難しい内容だったため、講師と参加者が同時進行で行い、保護者とともに楽しみながら製作していた。完成した天体望遠鏡は吉田美幸先生が用意したシール等の装飾で自分なりの装飾を楽しんでいた。最後に使用方法について説明を行い、天体望遠鏡を製作する楽しさや自然(星空観察)に関心を持つこと、自分で製作した天体望遠鏡で星の観察を行っていた。その夜、大気は澄み渡り大槌の自然環境の美しさを感じながら星空観察会に参加していた。天体望遠鏡に親しんでいる様子で有意義な研修会だった。			



実施日	12月14日	主催者	大槌文化交流センター	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	未就学児 5 名、小学 1 年 2 名、小学 3 年 4 名、小学 4 年 1 名、中学 2 年 1 名、高校 1 年 1 名、保護者含む大人 24 名 合計38名		
研修会	星空講座、星空観察会				
テーマ	星空観察会				
内容	*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 秋～冬の星空と当日の夜空の暗さ・星空環境保全 *主催者より 講座では講師による天体望遠鏡で冬に見える星の解説や天体望遠鏡の取り扱い方をお話しいただき、興味を持って聞いている様子だった。星空観察会の研修会を始めて 3 回目にして、快晴の夜空に恵まれ、月、金星、木星を観察することができ、吉田偉峰先生の解説による、天体望遠鏡で見た星々に参加者一同魅了していた。寒い中での観察会だったため、途中、講師の提案により館内エントランスにて 15 分程度星空講座を実施し、その後、改めて外で観察会を行い、星空や自然環境について楽しく触れながら興味関心を持っていた。星空に親しんでいる様子で有意義な研修会だった。				
実施日	12月19日	主催者	久保公民館	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	7名		
研修会	成人学級「楽しくリメイク！体験講座」				
テーマ	リメイク				
内容	*アドバイザーより ニンジンパンツ・Tシャツを使ったショーツを作成 *主催者より 仕上げをする前に、先生がいるうちにと別の生地での相談とカットで時間が終了しました。				
実施日	12月20日	主催者	盛岡市乙部公民館	アドバイザー	川村 晃寛
		対象	12名		
研修会	乙部地区公民館講座「ミニ門松手作り体験講座」				
テーマ	門松づくり				
内容	*アドバイザーより 門松づくり *主催者より 10:00～ 講座開始 ・竹や松の葉、ウメモドキなどの天然素材を使ってミニ門松の作り方について説明。 ・ミニ門松に使う天然素材は、私たちの身近に存在する自然のものを多く使う。 身近にそういったものが存在するので、是非、自然の恵みに興味を持ち、ご自分でも今後、作って欲しい。また大きな公園には、利用できる色々な樹木の葉や実があるので、そういった観点から自然を楽しんでみてはどうか。 ・また、先生が持ってきた材料をどこで探しているのか、どんな意味があるのかななどの説明を受けた。 ・参加者は興味深く聞きいていた。 10:30～ ・各自、材料となる竹や松の葉を思い思いに持っていき、作業に取りかかった。 ・3本の竹の切り口をきれいに见せるように竹を切ったり縄で結わえるのに各参加者は苦労していたが、かわいらしく立派なミニ門松が出来上がったのが印象的だった。 12:00 講座終了。				



実施日	12月20日	主催者	一戸町教育委員会	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	3名		
研修会		ごしよのdeまなびプログラム「縄文の星空観察会～冬～」			
テーマ		冬の夜空の観察と近年の星空環境とSDGs			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境と季節の星々・光害と地域のエネルギー消費等の相関 夏～冬の星空と当日の夜空の暗さ・縄文時代と現代の星空環境 *主催者より 初めに、夕方の薄明や星が見える時間、光害問題についてお話いただき、その後屋外に出て、冬の御所野遺跡の様子について解説した後、天体望遠鏡を展開し、夜空の観察を行った。金星、木星、おうし座のアルデバラン、みなみのうお座のフォーマルハウトなどを視認できた。 雲がかかっていたものの、雲の切れ間から星を見ることができた。また、参加者に竪穴建物の中に入ってもらい、冬の御所野遺跡の雰囲気味わってもらった。しかし、厳冬期の開催のためか参加者が少なく、冬季の参加者をどのように増やしていくか検討する必要があると感じた。			

実施日	12月22日	主催者	原中第3子ども会	アドバイザー	若生 和江
		対象	26名		
研修会		冬レク			
テーマ		地域の郷土料理について学ぶ			
内容		*アドバイザーより 「旬」の食材、地産地消を考えながら子供たちと一緒にクッキング ・学年に合わせて体験ができるようグループでおかずづくりを切ったり、炒めたり、普段はなかなかできないこともそれぞれのペースでできるよう大人には見守りをお願いした。 ・青菜のゆで方など普段の調理で役立つことも組み込んだ。 ・インフルエンザが流行っている時期なので、出来上がった料理は弁当箱に詰めて持ち帰るようにした。 *主催者より 小学校1年生から小学校6年生まで、またママやパパも参加し、みんなが自分で出来る事を担当し、お弁当を作り上げることが出来た。 とても楽しかったと皆さんが話していて、また是非若生さんに機会があったら、お願いしたいと思う。お弁当もめちゃくちゃ美味しかった。			

実施日	12月26日	主催者	永井地域交流活性化センター	アドバイザー	川村 晃寛
		対象	10名		
研修会		センター主催講座「ミニ門松手作り教室」			
テーマ		門松づくり			
内容		*主催者より 竹を切って形を整え、紐で結び、植物の南天や松などで飾り付けをしました。 *アドバイザーより 門松づくり			

実施日	1月8日	主催者	盛岡市 教育委員会 飯岡地区公民館	アドバイザー	川村 晃寛
		対象	9名		
研修会		はこ庭づくりから学ぶ「SDGsってな～に？」			
テーマ		自然素材を使ったアート作品とSDGs			
内容		*アドバイザーより 箱庭で知るSDGs *主催者より ・低学年の参加者が多かったことから、SDGsの説明は短時間で切り上げ、木片を使ったゲームや箱庭作りの時間を多く取った。 ・箱庭の材料が良く、種類も豊富だったこともあり、個性豊かな作品が出来上がった。 参加者は制作中、試行錯誤しながら真剣に取り組んでいた。			

実施日	1月11日	主催者	奥州市環境市民会議「奥州めぐみネット」	アドバイザー	花澤 淳
		対象	一般市民19名、スタッフ2名、他講師1名、事務局2名 合計24名		
研修会		奥州めぐみネットイベント「再生可能エネルギーの可能性を学ぼう」			
テーマ		再生可能エネルギー			
内容		*アドバイザーより 奥州めぐみネット主催の1月イベント「再生可能エネルギーの可能性を学ぼう ～ソーラーモーターカー工作体験～」において、参加者計19名(大人11名、子ども8名)に対し、ソーラーカー工作に先立って再生可能エネルギーに関する講演を40分ほど行った。小学生を中心とした子どもが主役のイベントであったため、ソーラーカーの走る原理と絡めて、エネルギー、化石燃料、温暖化の現状・影響・対策、再エネ、省エネなどを基本的なことを中心に、イラストや写真を多用して解説した。また、環境学習交流センターから手回し発電の実験キットを借りて、省エネを体験してもらった。 *主催者より 生活に必要なガソリンなどの化石燃料はいつか枯渇してしまう資源であり、「再生可能エネルギー」の利用と「省エネルギー化」が今後の地球温暖化対策に重要なことを、丁寧に説明いただいた。手回し発電機で、機器の負荷によりエネルギー利用の多寡を実感することができた。企業提供の工作キットでソーラーカーを作り日当たりのよいところで走らせてみたが、スタッフが準備したLED投光器(強弱2種類)でも試したところ、光源が強いものであれば、LEDでも走行に必要な発電がなされることが分かった。			

実施日	1月18日	主催者	環境フロンティア遠野	アドバイザー	渋谷 晃太郎
		対象	65名		
研修会		「明日の遠野の環境を考えるフォーラム2024」			
テーマ		森林・里山など自然環境、生物多様性に関する内容			
内容		*アドバイザーより 限られた時間でしたが、熱心に聞いていただきました *主催者より 毎年開催している市民向けの環境フォーラムにおいて、基調講演として講師をお願いしました。例年よりも多めの参加があり、分かりやすい内容と資料映像により、今後の活動の参考となりました。			

実施日	1月20日	主催者	チームオレンジたきざわ	アドバイザー	高橋 功
		対象	16名		
研修会		チームオレンジたきざわスキルアップ研修			
テーマ		省エネ			
内容		*アドバイザー 温暖化のしくみや影響について手づくりのブック本を見ながら理解を深めて頂いた後、再生可能エネルギーを使った発電について体験して頂き、再生可能エネルギーを使った発電にも工夫が必要な点も多いことから、身近にできるエコへの対策が必要なことについて、手づくりの道具で模擬体験して頂きながら理解を深めていただいた。また、省エネ対策として我が家で行っている窓の断熱対策「ビニールカーテン」を紹介した。その後、電気を使わないエコな遊びとして、段ボールとビニール袋を使ってエアカーリングをつくり遊んでいただいた。 *主催者より 参加者は皆熱心に話を聞いていた。工作では童心にかえって楽しく取り組んでいた			

実施日	1月21日	主催者	雫石環境対策課	アドバイザー	高橋 良和
		対象	雫石町女性団体連絡協議会 会員22名		
研修会		令和6年度環境講座「環境を考える会」			
テーマ		地球温暖化対策			
内容		*アドバイザーより 事前に主催者と良く協議し、主催者側・参加者・講師の三方にある程度満足でき、すでに得ている知識を行動に移す為のアップデートを目指す。➡①環境にやさしいとは何か？を再考する。②自然界物質は、循環で成立。現在は、多くの人工物質を含め、自然界の物質までもが循環出来ずに弊害が出てきたことを学ぶ。③私が気づいた、環境にやさしい製品からの楽しみの学習。④プラスチックを減らすため、身の回りの見えるものや見えないプラスチックに気づく➡効果の持続する除草剤の仕組みを知る。畑作業で使われるPP紐を麻紐へ転換する、など。⑤ごみの減らすポイントは、インプット、利用、アウトプットの3段階の全体を見て考える。ゴミの減量効果は、アウトプット＜利用＜インプットの順に差がでる。⑥環境にやさしい製品を提供する会社は、人にも優しい物造りをしている➡会社からの隠れたメッセージに気づく楽しみ。⑦油など下水に流すことも一つの分別と考え、最初に油を紙でふき取り、燃えるゴミに出し、油を下水に流さないように分別。■便利で楽なものを、日常生活で手に入れてきた。その反面、自然を感じ楽しむ余裕を手放してきた。むしろ、ひと手間をかけて、自然や生活を楽しむ余裕を生活の中に取り戻したいと考える。・・・等のことを本日の話の中で伝えた。■口笛演奏で、環境にやさしいとは何か、を一事例から考えてもらう。 *主催者 講演前の導入として借用した環境DVD（見直そう私たちのくらし地球温暖化防止に向けた取り組み始まっています）を視聴後、派遣頂いた講師による講演を行った。日々の暮らしの中で気づきの大切さについて学ぶ機会とすることができた。			



実施日	1月30日	主催者	特定非営利活動法人 まあむたかた	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	11名		
研修会		着物リメイク「袴パンツを作ろう」			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより 古着リサイクル にんじんパンツやはかまパンツの制作。 今回は、陸前高田に移住した若い世代の方も参加してくれて、皆喜んでにんじんパンツを作ってくれた。今年も10月のファッションショーを目指してにんじんパンツの輪を広げていきたい。 *主催者より 事前に着物を解いてきて、自分サイズの袴パンツ作りをした。			



実施日	1月31日	主催者	特定非営利活動法人 まあむたかた	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	10名		
研修会		着物リメイク「袴パンツを作ろう」			
テーマ		リメイク			
内容		*アドバイザーより 古着リサイクル にんじんパンツやはかまパンツの制作 *主催者より 前日に続いて袴パンツ作りを行った。先生の作品の中から、にんじんパンツやブラウスなど、他の作品の作り方を聞いたり、制作に取り掛かっている参加者もいた。			



実施日	2月8日	主催者	二戸市立二戸西小学校	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	全校児童17名、保護者12名、教職員5名 計34名		
研修会		家庭教育学級講演会「親子星空学習会」			
テーマ		「親子星空学習会」			
内容		*アドバイザーより 季節の星座と星々・地域の星空と文化 地球環境と人類・身近な星空環境 *主催者より 親子で星や星座にまつわる講話を聞き、星についての理解を深めるとともに、自然環境を守っていこうとする心情を育てる。			





実施日	2月5日	主催者	特定非営利活動法人 いわてNPOフォーラム21	アドバイザー	若生 和江
		対象	18名		
研修会		エコ協力店いわて認定制度 認定店等意見交換会			
テーマ		消費者目線での環境にやさしいお店について			
内容		*アドバイザーより ・事業者、市町村それぞれの立場からの視点を踏まえて双方が協力して取り組むメリットについて助言を行った。 ・買い物ついでになじみのお店でリサイクル…という消費者が多くなっていること、環境に配慮したいという意識も高まっていることを踏まえて、出しやすい環境づくりに各店舗とも取り組んでいることはよいことであり、リサイクル率の向上にも役立っていると思う。 ・岩手から捨てずに引き継ぐ文化が生まれるような企業と行政の連携も生まれているので、そのあたりをさらに伸ばしていけるよう横の連携を取りつつさらなる展開を楽しみにしている…とまとめた。 *主催者より 取組事例の発表をお願いした事業者ほか、全参加者からそれぞれの事業所での環境に配慮した取組の発表後、若生先生から講評とアドバイスをいただいた。 各エコ協力店いわて認定店では、消費者目線で環境にやさしい、買い物のついでに気持ちよく、ごみを出しやすい場所づくりなど様々な工夫をしてくれているとお話をいただいた。また、暮らしを支えるお店として、小さいスペースでもいいので、店内にリユース、リサイクルのコーナーを設けてどうか等アドバイスもいただいた。			

実施日	2月12日	主催者	奥州市環境市民会議「奥州めぐみネット」	アドバイザー	坂下洋子
		対象	70名		
研修会		水沢環境公社「環境学習会」			
テーマ		ごみ減量化・リサイクルについて			
内容		*アドバイザーより 講演先の水沢環境公社は、普段からごみ収集、下水道保全事業、廃棄物収集事業を通じて、日々の生活に密着した取り組みをされている団体であることから、私が知り得ないその現場ならではのリアル情報と、私自身が二年間のドイツ生活で経験してきた生の体験を重ね合わせつつ、かつドイツ環境視察で経験した情報も伝えながら、それぞれが今できることを考える時間になるように心がけた。できるだけ臨場感を感じてもらうために、パワーポイントを使用し、ドイツの暮らし、エコなシステムはもとより、生で体験したスイス氷河がかなり縮小している現状などもお伝えした。 *主催者より 「今できること」と題し、講師からごみ減量化・リサイクルについて講演いただき、ドイツの状況なども併せて講演いただいた。			

実施日	2月15日	主催者	おものみ自然倶楽部	アドバイザー	川田 昌代
		対象	幼児5名、小学7名、保護者等10名、中学生・成人ボランティア16名 合計38名		
研修会		冬のお物見公園で遊ぼう～雪遊びとツリークライミング～			
テーマ		自然体験(ツリークライミング・かまくら作り・ネイチャーゲーム)			
内容		*アドバイザーより ツリークライミングの準備作業の間、25歳厄年の方たちが集めてくれた雪山を小学生と中学生ボランティアと固めて、かまくらづくりをしました。その後、参加者をツリークライミングするグループとネイチャーゲームをするグループとに分け、ネイチャーゲームを担当しました。 公園内で探してもらう宝物が書かれているカードを配り、バンダナで作ったバックの中に入れて集めてきてもらう活動をしました。 ちくちくするもの、匂いのするもの、木の実など。公園内で色々なものを発見して冬の自然を感じてもらいました。 *主催者より 全員で雪遊び(川田さんにも手を貸していただきました)をしたのち、小学生を2グループに分け、保護者や中学生と一緒に指示された条件に合う自然物を探す「宝探し」を指導してもらいました。見つけられた数に応じてポイントを獲得するようにして次のプログラム(くじ引き)にうまくつながるように配慮していただきました。			

実施日	2月20日	主催者	遠野緑峰高等学校	アドバイザー	平元 尚人
		対象	1年生21名及び引率者3名 合計24名		
研修会		生産技術科1年校外見学研修			
テーマ		人と動物と自然環境の繋がりについて			
内容		*アドバイザーより 主に野生動物による農業被害について講話を実施した。 今回の授業は、シカの生息が多い遠野の高校生相手であったこともあり、内容後とてもマッチしていたように感じた。シカの皮やくくり罠は学生がとても興味を持っていた。 *主催者より 「人と動物と自然環境」をテーマに、映像を交えながら御話いただいた。またシカ皮や罠などの実物にも触れることができた。 ・自然環境(絶滅危惧種:動植物)に関する講演を受けたいと思います。 ・動物との関わり方生態について、非常に興味深く学ぶことが出来ました。			

実施日	2月25日	主催者	岩手県立岩谷堂高等学校	アドバイザー	若生 和江
		対象	2年生9名		
研修会		郷土の食材を使ってエコな調理技術を学ぼう			
テーマ		エコクッキング			
内容		*アドバイザーより 郷土料理を通じて、地産地消や無駄なく食材を活かしきる工夫を学ぶ。「がんづき」とこれからに向けて、自分で料理する力を身に付けてほしいと思い、お昼ご飯も一緒に作った。 *主催者より 小麦粉を使って江刺の郷土料理「がんづき」を作った。江刺のくるみやりんごを使って美味しいがんづきができた。フードマイレージに着目したことで地元食材の美味しさを活かすことができた。また、労力が費やされるため、家庭であまり行われていないくるみ割りを実際に体験した。フライパンで乾煎りする方法を教わり簡単にくるみを割ることかできることに感心を示す生徒が多かった。			

実施日	2月28日	主催者	東京エレクトロン テクノロジーソリューションズ	アドバイザー	松尾 亨
		対象	職員10名		
研修会		東京エレクトロン「企業の森づくり」現場視察			
テーマ		今後の「企業の森づくり」活動に関する方向性のご相談			
内容		*アドバイザーより 1 企業の森の現地視察を行い森林の状態について分析し今後の施業方法等についてアドバイスを実施。 2 東京エレクトロン「企業の森づくり」に関する研修会を企業担当者及び奥州市担当職員に実施。(会議室にてテキストと講話により) 3 森林づくりについて、ネイチャーポジティブな企業の森、地域貢献社会貢献のあり方について研修参加者とディスカッションを実施。 *主催者より ＜現地視察＞時間:13:00～14:00 場所:「企業の森」活動予定地の現場視察 ＜研修会＞ 時間:14:00～15:30 ご講話「企業の森づくり」(松尾様)および全体討議 CSR活動の一環として企業の森づくり活動をご相談するうえで最も相応しいということでこの度、松尾様をご紹介いただきました。時間的な制約もあり松尾様には事前に今までの会社の植林活動や現在の状況をお伝えして特別に弊社向けの研修資料をご準備いただきご講演およびアドバイスいただきました。大変参考になりました。			

実施日	3月5日	主催者	めだかの学校	アドバイザー	小赤澤 直子
		対象	8名		
研修会		夢工房ハンドメイドキャロット工房			
テーマ		めだかの学校			
内容		*アドバイザーより 長年タンスにしまい込んでいた着物を取り出し型紙なしで服を作り上げ、その過程を参加者同士で楽しむ。単なるリサイクルにとどまらずアップサイクルをめざし最終的に発表会までつなげるようにする。参加者とお話をする中で参加者同士が気軽に会話をしたり、大声で笑ったり、笑顔が多く見られてくる。この活動を通じて環境委意識の大切さを伝える。 *主催者より 長時間でしたが楽しい時間を小赤澤先生と参加者一同で共有することができました。			

実施日	3月6日	主催者	本宮第一町内会 いきいき	アドバイザー	高橋 良和
		対象	町内住民29名		
研修会		70歳以上の楽しむ会			
テーマ		本宮いきいきサロン			
内容		*アドバイザーより いきいき音楽サロンでの歌唱と私が担当する口笛演奏と、環境講演をする。内容は、環境行動は、ガマンや義務からではなく、安全・安心、そして健康面からの行動であり、結果的に楽しみにつながる行動が、持続可能となる。更に、皆さんが培った生活の中での技術(料理・裁縫・庭仕事・修理技術等)は、アップサイクルとして大切、出来るだけ絶やさないように使って継承してほしい。先日の事例として、先日百均の手袋の両親指に穴が開いた。妻が、色の違う毛糸で親指の全体を色違いで補修。ある店のレジの店員がそれを見て、かわいいと隣の店員と話し笑顔になった一例を伝える。また、効果が異常に長続きする除草剤の仕組みには、知らぬ間にマイクロプラスチックが介在すること。これらの内容等、出来るだけに日常の話を交えて、環境行動の必要性を伝えた。 *主催者より 話の内容がわかりやすかった			

実施日	3月17日	主催者	岩手子育て環境連絡会	アドバイザー	粒針 文子
		対象	15名		
研修会		土と水の環境問題を知る			
テーマ		土と水の環境問題について			
内容		*アドバイザーより 「今ある土と水の環境汚染問題について」というテーマで河川環境、土壌環境にみられる最近のニュースをもとに何が起きているか、どのように対処しているかをお話しました。 *主催者より 人が生活するのに一番大切な水の循環と土について基本的なことと今Newsで伝えられている問題についていろいろとお話していただきました。毎日つかっているのによく考えていなかった問題にも気づきました。みんなでシェアしながら大切にきれいに使うようにしたいと思います。			

実施日	3月20日	主催者	ひろの星をみる会	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	20名		
研修会		ひろの星をみる会研修会			
テーマ		地球温暖化防止対策と新月に電気を消して星空を見ようプロジェクトについて			
内容		*アドバイザーより ・SDGsの始まり。国連での参加国全員一致の採択 ・日本が立ち遅れている項目は何か？ ・世界でもっとも大きな課題「貧困」「飢餓」「健康」「教育」 ・プラスチックの海洋汚染、地球温暖化、生物多様性の喪失は深刻な課題 ・プラスチックの海洋汚染は人間の恥、海にごみを捨てれば、人間に跳ね返ってくる。それが現実化している ・温暖化で生態系に重大な変化が起こっている ・私たちがやらなければならないことは何か？ ・若者たちの活動をサポートしよう ・地球生態系は私たちにとって欠かすことのできない存在、ホームである。国連が作成した映画HOMEで締めくくる。 *主催者より 「地球温暖化と私たちの行き方」と題し、SDGsの重要性、地球温暖化やプラスチックごみ対策に係る心構え等について講話いただき、参加会員が自然環境への理解を深めることができました。			

実施日	3月21日	主催者	久慈市役衛生班連合会	アドバイザー	櫻井 則彰
		対象	29名		
研修会		環境学習講座			
テーマ		プラスチックと私たちの暮らし			
内容		*アドバイザーより ・プラスチックに囲まれた私たちの暮らし ・環境中に捨てれば分解しないから永遠に残り続ける ・私たちは毎週平均で5gのプラスチック食べている ・マイクロプラスチックは血管の中に入っている。健康にも悪影響 ・ごみの適正な処理のため私たちができることは何か？ ・まずはリデュースが1番重要なこと *主催者より スライドを用いて講演いただいた。また、スライド内で動画を用いて説明いただいたが、それにより一層理解が深まったと感じた。			

実施日	3月23日	主催者	松崎森歩きの会	アドバイザー	石塚 勇太
		対象	9名		
研修会		早春の森歩き			
テーマ		春の観察会			
内容		*アドバイザーより 講師1名、事務局1名・参加者7名の計9名で山林所有者の山林にて森歩きを実施。冬芽の観察等を行い、落葉期の樹種の班別の仕方や方法について解説した。山林所有者自宅に10時に集合したのち、徒歩1分程度の所有者山林へ移動。部分的にヤブ漕ぎするような現場もあったが、天候に恵まれたこともあり、楽しく森歩きができた。 *主催者より ・里山にある樹木の種類や同定の仕方を学んだ。 ・目標とする里山の状態に対して、適切な整備・除伐の仕方についてアドバイスをいただいた。			

環境学習広報車に環境学習キット等を積んで、県内のイベント・地域の学習会に出張しています。

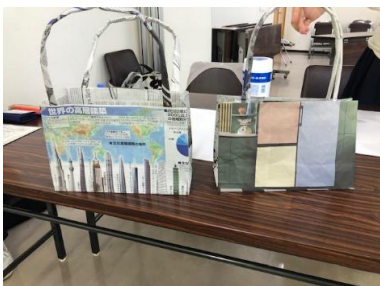
番号	1	イベント名等	山田町船越春のむらまつり
	主催団体	山田町・一般社団法人「山田町観光協会」	
	日時	令和6年5月3日(金・祝)10:00～15:00	
	場所	船越公園鯨と海の科学館	
	参加者数	一般278名	
	スタッフ	齊藤 富美子 櫻井 則彰 坂下 慶夏	
	内容	テーマ: 自然環境・自然体験・エネルギー 森の工作体験・木のぬくもり体験(積木)・発電体験・エコチェックアンケート 【良かった点】 ・準備段階で風が吹いており材料やパネルなど風に飛ばされない工夫ができた。 ・風の影響から森の工作体験の材料をテーブルに配置せず箱から使う分をリサイクル封筒バッグに入れる方法を取ったことによりテーブルを広く使うことができた。また材料を選ぶときに木の葉の名前やどんどこにあるのか、どんぐりの虫の処理の仕方などの話でコミュニケーションを取ることができたことはよかった。 ・各体験場所の状況を見てスタッフが適宜移動し対応することができた。 ・段ボールの台紙の大きさを小さめにしたことにより製作時間の短縮となり多くの方にご参加いただけた。 ・コロナで使用していなかった「木でできた釣り」や様々な「木の木琴」を持参したことにより積木コーナーも充実した。 【反省点】 ・冒頭来場者への対応が中心となりエコチェックアンケートの声掛けを忘れていた。今後はエコチェックまでの流れを共有し来場された方には漏れなく参加していただくようにする。	
番号	2	イベント名等	釜石市自然・環境展
	主催団体	釜石市生活環境課	
	日時	令和6年6月1日(土)10:00～17:00 令和6年6月2日(日)10:00～15:00	
	場所	イオンタウン釜石	
	参加者数	6/1: 217名 6/2: 152名 合計369名	
	スタッフ	6/1: 齊藤 富美子 櫻井 則彰 6/2: 齊藤 富美子 櫻井 則彰	
	内容	テーマ: 自然体験 内容: 積木・木の葉の工作 【良かった点】 ・積み木・森の工作館とも2日間にわたりたくさんの方に体験をしていただいた。 ・木の葉の工作では盛岡から持参した木の葉が釜石市ではどこにあるのか身近に考える機会となった。 ・盛岡から来ている情報をお伝えしたところセンター事業について興味を示され新規開拓の機会となった。 ・「釜石市自然・環境展」とのテーマに沿ったプログラムの提供となった。 【反省点】 ・作品が立体的なものが多く持ち帰り用の封筒バッグに収まらないものもあった。(空き箱を提供して対応した。) ・ポスカの白の消費が思いがけず早く購入して追加した。(イオンであったためすぐ対応できた) ・主催者アンケートもあったためエコチェックアンケートの声掛けがしにくい状況であった。	

番号	3	イベント名等	花と緑の祭り2024
	主催団体	花と緑の祭り実行委員会	
	日時	令和6年6月8日(土)10:00～16:00 令和6年6月9日(日)10:00～15:00	
	場所	花巻市総合体育館	
	参加者数	6/8:378名 6/9:246名 合計624名	
	スタッフ	6/8:齊藤 富美子 櫻井 則彰 相澤 美奈 6/9:齊藤 富美子 田近 志保子 大石 光子	
内容	テーマ:自然体験・地球温暖化・エネルギー 内容:積木・木の実の工作・エコチェックアンケート 【良かった点】 ・会場の入り口に環境学習交流センターのブースがあるので人が立ち寄りやすく家族連れを中心に森の工作館や積み木が人気だった。 ・アイーナによく行ってますという来場者や山田のイベントにも参加しましたという親子連れもあり再会にも感謝のイベントとなった。 ・センターイベント環境学習講座チラシも2日間にわたり情報発信し、早速申込みがあるなど手ごたえがあった。(パナソニックの講座) ・今年度は森の工作体験プラス積み木の展示を提案し前例踏襲にならない工夫を行った。積み木を追加したことにより小さなお子様連れのご利用が増え木の実の工作が無理そうな幼児連れの家族には癒しの空間となったようだ。 ・昨年度まで金・土・日の三日間の実施であったが今年度からは2日間で実施の意向をお伝えして了承された。出展内容に積み木を追加したことにより日数が減ったにもかかわらず来場者増となった。 【反省点】 ・相変わらず森の工作館は人気が高くテーブルの配置を工夫すればもっと多くの方に体験していただけたと感じた。木の実関連を別テーブルに配作業台を増やすなど工夫したい。 ・昨年度の課題でもあったが、1人で同じ材料をたくさん使用するケースがあった。材料には限りがあることをお伝えしできる限り同じものを大量には使用しないよう声掛けを行う。 ・木の実やまつぼっくり等の写真パネルは展示していたが箱にも名前を記載すれば尚よかった。 ・コロナでしまい込んでいた魚釣りを復活させたところかなり人気が高く奪い合いが起きるほどであった。楽しんでいただいたが幼児にはなかなか釣るのが難しそうなのでマグネットにする、釣り竿の本数を増やすなど工夫したい。		

番号	4	イベント名等	環境フェスティバル
	主催団体	株式会社倅生舎(情報誌ゆうゆう)	
	日時	令和6年6月15日(土) 10:00～16:30 令和6年6月16日(日) 10:00～16:30	
	場所	イオンモール盛岡南センターコート	
	参加者数	令和6年6月15日(土):450名 令和6年6月16日(日):468名 合計918名	
	スタッフ	齊藤 富美子 櫻井 則彰 推進員:高橋 功 川邊 弥生 アドバイザー:皆川 千里	
内容	テーマ:環境(脱プラ・リサイクル) 内容:紙すき体験・新聞エコバッグづくり・リサイクル封筒バッグ・風呂敷包み講座・みつろうエコラップ・発電体験・自転車発電体験もてるかな?エネルギーのかばん・積み木・エコチェックアンケート 【良かった点】 ・ブースに近寄りやすい工夫として間伐材の積み木を設置し気軽に立ち寄れる雰囲気作りができた。親子連れのちょっとした休憩にも使える体験ブースとなった。 ・発電体験ブースでは水素エネルギーを使ったミニカー・世界最小の光パネル搭載のミニカーがとても人気で来場者の興味を引き再生可能エネルギーについて親子で学ぶ機会の提供となった。 ・紙すき体験・新聞バッグづくり・みつろうエコラップづくりなどの体験ブースは各回定員を10名に設定し、随時受け入れとして対応した。紙すき体験は特に人気が高かった。 【反省点】 ・各プログラムの時間割り当ての検討が必要(間にゆとりの時間を設ける) ・プログラム対応としては人員の確保はできていたが、休憩時間時の交代要員がたりなかった。 ・自転車発電がなかなか利用する方がいないのでなくてもよかった。 ・対応スタッフがたりないためエコチェックアンケートの声掛けが集中して行うことが出来ず来場者918名に対してエコチェック回収枚数は大人子どもあわせて91名であった。 ・紙すき体験の木枠が3個と少なく効率が悪い。グループ分けの目安人数である10個を用意して待ち時間の短縮を図りたい。		

番号	5	イベント名等	岩手沿岸南部クリーンセンター施設見学会
	主催団体	岩手沿岸南部クリーンセンター	
	日時	令和6年7月20日(土)10:00～14:00	
	場所	岩手沿岸南部クリーンセンター	
	参加者数	一般91名	
	スタッフ	齊藤 富美子 櫻井 則彰	
内容	テーマ:ごみ問題・地球温暖化・エネルギー・自然環境・自然体験 内容:発電体験・ほぼ日のボール・積木・木の実の工作・3R情報パネル・木の実パネル・エコチェックアンケートの実施 【良かった点】 ・新しく購入した「ほぼ日のボール」を持参して体験していただき概ね好評であった。 ・外部のWi-Fiを使用しての実施は初めてであったが通信障害もなく実施することができた。 ・森の工作館で持ち帰り用に作成している封筒バッグに興味を持たれた方が多く木の実の工作体験がリサイクル封筒バッグづくりにもつながった。 ・イオンタウン釜石にも来ていただいた方が今回のイベントにも来ていただき交流を深めることができた。 ・来場者の方々に全員にエコチェックアンケートの声掛けを行いご参加いただくことができた。(幼児除く) ・省エネキャンペーンについても口頭で告知し興味を示していただいた。 ・ごみクイズの代わりに3Rパネルを展示し、ごみ問題を考える機会となった。 クリーンセンターのテーマに沿った展示の提供となった。 【反省点】 ・森の工作館のPOPを会場に忘れてきた。最終確認が必要。(掲示) ・タブレットのバッテリーの持ち時間が5時間程度であること、途中充電が必要。 ・タブレットを落とししたりする危険性もある為、首から下げるストラップが必要。		

番号	6	イベント名等	ジュニア体験広場 子どもSDGs
	主催団体	宮古市田老公民館	
	日時	令和6年7月26日(金)14:00～15:30	
	場所	宮古市田老公民館	
	参加者数	児童14名	
	スタッフ	齊藤 富美子 相澤 美奈 推進員:高橋 功	
内容	テーマ:地球温暖化・エネルギー・水素エネルギー 内容:環境紙芝居～ちきゅうがたいへんだ～・水素エネルギーについて(水素カーを走らせてみよう)・比較発電体験・エコチェックアンケート 【良かった点】 ・田老公民館はこれまで3回出張環境学習会を実施しているが昨年も参加した児童が今年度も参加する などつながりの感じられる環境学習となった。 ・環境紙芝居は初めてという子供たちの参加で皆、真剣に聞いて積極的にクイズにも答えるなど手応えのあるプログラムであった。 ・発電体験も初めての児童が多くLEDと白熱球のエネルギーの使われ方の違いを実際に体験することで理解することができたようだ。 ・学年が小さくてもストーブの設定温度などしっかり応えられる児童がいて感心する場面があった。 ・水素エネルギーについてのプログラムは推進員の高橋功氏にお願いしセンタープログラムとの組み合わせで連携することができた。 ・子どもたちは水素で走る車と光パネル搭載世界最小の車に興味津々であった。 【反省点】 ・主催者の要望で水素カー体験のプログラムとなったが、1年生から6年までと学年に差がある場合には理解することが難しそうだと感じた。 水(H₂O)を水素(H₂)と酸素(O)に分解することの意味が理解できない属性の場合には、詳しい説明は逆に避けたほうが良いかもしれない。 ・プログラムの順番と締め方の工夫が必要。最後に難しい話をしてしまうと子どもたちが飽きてしまうので最後は楽しく終わる形にした。		

番号	7	イベント名等	夏休み☆エコ体験教室
	主催団体	一関市生活環境課	
	日時	令和6年7月27日(土)10:00～12:00	
	場所	一関市役所1階会議室	
	参加者数	親子11名	
	スタッフ	齊藤 富美子 坂下 慶夏	
	内容	テーマ:地球温暖化・エネルギー・ごみリサイクル 【内容】 環境紙芝居「地球が大変だ～」発電体験・自転車発電体験・ごみクイズ・新聞バッグづくり 【良かった点】 ・それぞれのプログラムを満足度の高い時間配分で実施し、計画通りに終わることができた。 ・スタッフの役割を決め、体験前に説明をしっかりと行った。理解を深めたうえで安全に体験していただくことができた。 ・参加者人数は保護者児童・市職員併せて11名であったが少人数ならではの充実した内容となった。相互のキャッチボールがとてもやりやすく終始和やかな雰囲気であった。 ・一関市職員係長様・担当者の高橋様も新聞バッグづくりに参加され楽しかったとの感想でした。 【反省点】 ・ごみ問題クイズ7問の中には難しいと感じるものもあったようなので内容の見直しを行いたい。 ・新聞バッグづくりでは細やかな説明をして間違いのないような進め方をしていたが、なぜか表面を中面にしてしまう場面があった。今後はさらに細やかなサポートが必要。	

番号	8	イベント名等	令和6年度五葉湖畔の集い(森と湖に親しむ旬間行事)
	主催団体	沿岸広域振興局保健福祉環境部大船渡保健センター	
	日時	令和6年7月28日(日)10:00～14:00	
	場所	鷹生ダム(大船渡市日頃市町)	
	参加者数	一般49名	
	スタッフ	櫻井 則彰 森 一夫	
	内容	テーマ:自然・地球温暖化・エネルギー 内容:積木・木の実の工作・発電体験・エコチェックアンケート 【良かった点】 ・発電体験ではLED電球、白熱電球の発電の負荷の違いから消費電力量の差異を十分感じ取ってもらえた。 ・電気の使用、消費はスイッチ1つを押すだけだが自分で電気を作ることの大変さを感じてもらえた。 ・森の工作館では、さまざまな材料を組み合わせ造形物を作る楽しさを感じてもらえた。 【反省点】 ・天候不順により参加者が少なかった。 ・一般来場者よりスタッフが多い状況 ・9時集合であったが、9時から振興局のテント張り作業があり当方の準備作業が多少遅れた。	

番号	9	イベント名等	夏休み環境教室part1
		主催団体	紫波町赤石公民館
		日時	令和6年8月1日(木)・令和6年8月8日(木)10:00～12:00
		場所	紫波町赤石公民館和室
		参加者数	児童18名 サポーター2名 公民館職員1名 合計21名
		スタッフ	齊藤 富美子 櫻井 則彰 田近 志保子
		内容 テーマ:ごみ・リサイクル 内容:紙すき体験・SDGsすごろく 【良かった点】 ・紙すき体験用に木枠を10セット準備したことにより体験者の待ち時間の短縮となった。 ・紙漉き体験はみな楽しく体験し、それぞれ素敵な作品を作り上げることができた。 ・20名と参加者が多いため3グループに分け待ちのグループにはSDGsすごろくを提供し、楽しみながらSDGsについて学ぶ機会となった。 ・県立大学看護課3年生の方がアルバイトでサポートを行ってくれたことにより子どもたちの作業がスムーズに行えた。 ・15分前には参加者がそろったため開始時間を早めにするなど臨機応変に対応できた。(子供にとって15分待つのは厳しい) 【反省点】 ・水生生物用のプラスチックバットを貸出物として持参したが、かなり汚れていた。一番上がきれいであったため気づかなかった。今後持ち出し物は全部確認する。	
番号	10	イベント名等	森の工作館
		主催団体	津軽石学童の家
		日時	令和6年8月2日(金)13:00～15:00
		場所	津軽石学童の家
		参加者数	児童15名 児童館職員2名 合計17名
		スタッフ	齊藤 富美子 櫻井 則彰
内容		テーマ:自然環境・自然体験 内容:森の工作体験 【良かった点】 ・とても素直な子どもたちで何を話しても反応が良かった。 ・工作体験を楽しみながら集中して作品を作り上げどの児童の作品も素晴らしかった。 ・子どもたちの多様な感性を引き出すプログラムとなった。 ・ちょっと面白いものができるの見せにくるなど素直でコミュニケーションが取れる子どもたちだと感じた。 ・木の実のパネルをみて名前を覚えようとするなど学びを深めようとする姿勢が見受けられた。 ・片付けを積極的に手伝ってくれ、日ごろの生活態度が垣間見えた。 ・開始前にトイレを済ませるようにとのことで何名かトイレに入ったが、最後に入った児童に他の児童から「電気消した?」と声がかかり日ごろの節電行動が垣間見えた。 【反省点】 ・ボンドの使い方は事前にお伝えしたが、ボスカについての注意事項についての説明をしなかった。思いきり出しすぎている児童があり、手や養生用のポスターにもあふれるほどついてた。今後は予め注意事項としてお伝えする。 ・エコチェックアンケートの質問項目が学年児童によってはわかりにくいようなので時間があれば説明しながら○をつけてもらうなど工夫したい。	

番号	11	イベント名等	青少年学級 ソーラークッカーを体験しよう！
	主催団体		一方井公民館
	日時		令和6年8月5日(月)13:00～15:00
	場所		一方井公民館
	参加者数		児童28名 引率3名 公民館職員2名 合計33名
	スタッフ		齊藤 富美子 櫻井 則彰
内容	テーマ:自然エネルギー・自然環境・自然体験 内容:ソーラークッカー・森の工作体験 【良かった点】 ・28名とたくさんの児童に参加していただいた。一方井小学校は全学年で70名程度の児童数であることから考えるとかなりの参加率であった。 ・ソーラークッカーと森の工作体験をうまく組み合わせ児童が飽きないプログラムの提案ができた。 ・ソーラークッカーの学習については「夏休み体験教室」と題してオリジナルワークシートを作成し数値化できる工夫をおこない、学習の要素をきちんと取り入れることができた。 ・ソーラークッカーの時間経過待ちを活用して森の工作館を実施したが、皆思い思いの素晴らしい作品を作り上げることができた。「夏休みの工作にします！」と皆頑張って作っていた。 ・ソーラークッカーの鍋の温度は61℃まで上昇し温泉卵ができた。 ・日向に置いた透明のペットボトルと黒のビニールテープを巻いたペットボトルでは温度上昇に5℃くらいの違いが出たことを水温計で確認し、数値化することができた。 ・森の工作館実施時には木の実のパネルを持参しているが、かなり好評で児童も大人も真剣に見入っていた。(どんぐりにもこんなに種類があるんだねと驚いていた。) ・持参した木の実がどこで採取したか等の質問があり公園などにあることを伝え、身近な自然について理解を深める機会となった。 【反省点】 ・ソーラークッカーのワークシートはさらにブラッシュアップして小学一年生でも記入しやすいものにしたい。 ・エコチェックアンケートも1年生は記入に戸惑っていた。項目を読み上げながら行う等工夫したい。 ・学童の引率の方に水筒を持参したか確認をしたところ「近いのでおいてきました」とのことであったが、後半のどが渴いたと訴える児童がおり、児童館に取りに戻った。今回指導員の方の判断で持参しなかったが、夏場の体験では初めから水筒持参の指示を行う必要がある。		
番号	12	イベント名等	夏休み環境教室part2
	主催団体		紫波町赤石公民館
	日時		令和6年8月8日(月)10:00～12:00
	場所		紫波町赤石公民館和室
	参加者数		児童7名 保護者3名 公民館職員1名 合計11名
	スタッフ		齊藤 富美子 大石 光子 相澤 美奈
内容	テーマ:ごみリサイクル 内容:紙すき体験・SDGsすごろく・環境紙芝居「ももたろう」 【成果】 ・赤石公民館2回目は参加者が8名程度のため時間の進みが早いことが想定されたので環境紙芝居を持参して臨機応変に対応することができた。紙芝居は好評であった。 ・紙漉き体験導入として「牛乳パックはなぜ水が漏れないか？」について考えてもらった。“コーティングしているから”と回答があったところで、ビニールをはがす作業を体験してもらい、牛乳パックの構造と素材について理解を深めることができた。身近な材料で紙すきのもとができることを学び家でもやってみたいといった声を聴くことができた。 ・紙すき体験はとても楽しそうに体験し、素敵な作品をつくることができ皆満足していた。付き添いの保護者の方にも参加していただき子どもたちと共有できる体験となった。 【課題】 ・紙漉きはがきを持ち帰ってからの処理についてもう少し詳しい説明が必要。		

番号	13	イベント名等	清掃センター3R体験ツアー
	主催団体	盛岡・紫波地区環境施設組合清掃センター	
	日時	令和6年9月29日(日)10:00～14:00	
	場所	盛岡・紫波地区環境施設組合清掃センター	
	参加者数	442名	
	スタッフ	齊藤 富美子 相澤 美奈 アドバイザー:高橋功氏 川邊弥生氏	
内容	テーマ:ごみリサイクル 内容:紙すき体験・積木・発電体験・エコチェックアンケート 【成果】 ・お声がけをすると気持ちよく皆さんにご参加頂くことができた。 ・各プログラムの担当を決め集中して対応できる体制とした。特にエコチェックアンケートは手薄になりがちなので発電体験とエコチェックアンケートを集中して1名にお願いし、子ども23名、大人25名にご参加いただくことができ、センターの今後のイベント情報なども漏れなくお知らせした。 ・プログラム対応を依頼した2名のアドバイザーとともに楽しく対応することができた。 ・つみきは小さなお子さん連れの方を中心に人気であった。(間伐材のため軽くてお子様にも安心で素材をほめてくれた方もいた) ・高く積み上げるのに集中して楽しむ家族が印象的であった。 ・アドバイザーのお二人の対応はそれぞれの個性を活かした対応でとても良かった。 ・紙すき体験も短時間のイベントではあったがたくさんの方に体験していただき牛乳パックを活用したリサイクルについて知っていただく機会となった。 ・水素エネルギーについて体験をとおして理解を深めていただくことができた。 【課題】 ・紙漉き体験は内容を熟知しているもの最低2名が必要。今回アドバイザー1名をサポートとしてお願いしたが、木枠の重ね方や晒をかけるタイミングなどがまだ熟知できていなかったため一人の男の子が3回やり直しとなった。今後はセンタースタッフで対応できるようスタッフ間の学びの機会を作り誰でも対応可能となるようにしたい。 ・参加者人数が決まっていないイベントでの対応はある程度ざっくり感が必要。時間をかけすぎて流れが滞った場面があった。		

番号	14	イベント名等	久慈地方産業まつり
	主催団体	久慈市生活環境課	
	日時	令和6年10月12日(土)10:00～16:00	
	場所	久慈市文化会館(アンバーホール)	
	参加者数	628名	
	スタッフ	齊藤 富美子 相澤 美奈	
内容	テーマ:ごみ問題 内容:新聞エコバッグづくり・エコチェックアンケート 【成果】 ・終日体験される方でにぎわった。 ・大人の方は子ども優先かと思いきや遠慮していたが、おとなの方もどうぞと声掛けをすると「やってみようかな」という方が多く、皆さん木の実の工作の魅力にはまったようであった。 ・毎回様々な視点の材料の使い方と素敵な作品に出来上がっていることが素晴らしい。 ・木の実が豊富なこと自然環境にも興味を持てただけ。(名前やどんなところから採取するのか、どんぐりの虫の処理の仕方など説明した) ・久慈市の職員が見本の新聞バッグをもって館内を回って声掛けをして頂いたおかげでイベント情報を来場者の方に効率よく発信することができた。 ・参加された方々はみな素敵な新聞バッグを完成することができた。 ・新聞バッグづくりは大人向けかなと思っていたところに「新聞バッグづくりを体験したい」と、小学生の女児が来てくれたのは嬉しかった。しっかり作品を仕上げることもできた。 ・新聞バッグづくりを通してリサイクルについて学ぶとともに活用の仕方、資源としての重要性を伝える機会となった。 ・大きなイベントでは積木コーナーはゆったりとした空間として毎回人気が高く小さなお子様連れの方から大人まで楽しんでいただけた。また、設置のPOPから間伐材とはについて知る機会となった。 【課題】 ・無駄な材料の使い方をしている場面があった。その都度優しくルールや材料を大切にする気持ちを伝え学ぶ機会とした。 ・作品を忘れていった子供が2名おり、できた作品は置きっぱなしにしない工夫が必要。(親に渡す等) ・視聴覚室での開催ということであまり広い部屋ではないことから持ち出し物の配置に工夫が必要。 ・エコチェックアンケート大人用は高齢者には字が小さい。読み上げる対応が必要となった。字の大きさと簡易版の作成など工夫が必要。		

番号	15	イベント名等	2024しずくいし産業まつり環境展
	主催団体	雫石町	
	日時	令和6年10月19日(土)9:30～16:00 令和6年10月20日(日)9:30～15:30	
	場所	雫石町営体育館	
	参加者数	10/19:716人、 10/20:1,095人 合計1,811名	
	スタッフ	19日:櫻井則彰 坂下慶夏 峠館絵里 20日:櫻井則彰 坂下慶夏 相澤美奈	
内容	テーマ:地球温暖化・エネルギー・自然体験・自然環境・エコチェックアンケートの実施 内容:森の工作館、もてるかな、積み木、発電体験、20日(日)はパナソニックさんの手回し発電による電車の模型運行(協賛) 【成果】 ・発電体験(LED、白熱電球の違い、積み木、森の工作館などいずれも大人気で大勢の人たちに体験してもらえた。 【課題】 ・家庭のエコチェックアンケート2日目は大人用の用紙がなくなり、急遽こども用で対応した。 ・大勢の人が来場し「もてるかな」の説明に手が回らない状況が生じた。		

番号	16	イベント名等	新聞エコバッグづくり
	主催団体	矢巾町教育委員会事務局文化スポーツ課	
	日時	令和6年10月21日(月)14:00～15:00	
	場所	矢巾町立不動児童館	
	参加者数	児童11名 児童館職員3名 矢巾町1名 地域の方3名 合計18名	
	スタッフ	齊藤 富美子	
内容	テーマ:ごみ問題 内容:新聞エコバッグづくり・エコチェックアンケート 【成果】 ・低学年の児童1.2年生が多かったが、職員の方、地域のお手伝いの方のサポートがあり皆完成させることができた。 ・難しかったけれど楽しかったとの感想があり完成させる喜びの体験となった。 ・エコチェックアンケートにも参加いただき身近なエコな取り組みについて考える機会となった。 【課題】 ・学年にばらつきのある場合の体験について提案の工夫(今回森の工作体験や紙すき体験も提案したが新聞エコバグづくりでお願いしたいとの事であった。) ・糊のつけ方の指導が必要な場面があった。 ・子供用エコチェックも低学年には内容の理解が難しい項目があり説明が必要であった。(防ごう隊ノートや小4アンケートに合わせているため)		

番号	17	イベント名等	第51回ひらいずみ芸術文化祭
	主催団体	ひらいずみ地球温暖化対策協議会	
	日時	令和6年11月3日(日)9:00～15:00	
	場所	平泉町学習交流施設「エピカ」	
	参加者数	272名	
	スタッフ	齊藤 富美子 櫻井 則彰	
内容	テーマ:比較発電体験・もてるかな?エネルギーのかばん・温暖化パネル・自然環境 内容:エネルギーのかばん・環境パネル・自然環境POP・発電体験・エコチェックアンケート 【成果】 ・前日は雨天で100名ほどの来場者だったようですが(平泉町の熊谷様より報告あり)、二日目は天候にも恵まれ172名の方にご参加いただくことができた。 ・エコチェックアンケートはこども29名大人29名合計58名にご協力いただけた。親子で家庭での状況を振り返り、話しながらチェックする様子はほほえましかった。 ・LEDと白熱球の比較体験では大人も子どももエネルギーの使われ方の違いについて理解を深めることができ行動変容への機会となった。 ・「エネルギーのかばん」にも興味を持たれる方が多かったが付属のヒントだけでは勘違いされる部分もあるのでその都度補足説明を行った。(中国が少ないのは人口が多いから一人あたりだと少なくなる、エネルギーのかばんの中身について実際は石油の量を表した重さですが、持参のものは水が入っていること、エネルギーの単位が、電気・灯油・ガソリンなどそれぞれ違うことから石油換算にしている等) 【課題】 ・「もてるかな?エネルギーのかばん」に付属の夜の衛星写真が、一部色が剥げており、この明るいところはこの国?と勘違いされた場面があった。かなり古い写真なので直近の衛星写真があれば変更するか検討が必要。(まずは色が剥けている部分を修復する必要がある)		

番号	18	イベント名等	盛岡ゼロカーボン2050～もっとおもしろいデコ活～
	主催団体	盛岡市環境部環境企画課	
	日時	令和6年11月9日(土)10:00～16:00 令和6年11月10日(日)10:00～16:00	
	場所	イオンモール盛岡南センターコート	
	参加者数	11/9:294名 11/10:454名 合計748名	
	スタッフ	11/9:齊藤 富美子 田近 志保子(設営:櫻井 則彰) 11/10:齊藤 富美子 相澤 美奈	
内容	テーマ:地球温暖化・エネルギー・自然体験・ 内容:発電体験各種・自転車発電体験・積み木・木の実を使った工作「ミニミニツリーを作ってみよう」 【成果】 ・2日間を通じて発電体験・積み木・自転車発電・ミニミニツリー作り・展示物(パネルとケーキ型木の実コレクション)を748名の方に見ていただく及び体験をしていただくことができた。 ・エコチェックアンケートも子ども・大人用合わせて133名の方にご参加いただいた。 ・エコチェックアンケートは大人用と子ども用を持参したが、名前記入欄がある参加のハードルが高くなりそうであったため子どもと一緒に丸をつけていただくなど臨機応変に対応した。 ・急遽追加となったプログラム「ミニミニツリーづくり」は好評であった。盛岡市様から綿花・千日紅のご提供がありとてもうれしかったと同時に参加者とのコミュニケーションツールともなった。ツリーの出来栄の満足度もかなり高かった。 ・センターから持参のデコレーション型木の実コレクションはできた作品をてっぺんに飾ってフォトスポットとして活用した。 ・落ち葉・木の実やまつぼっくり図鑑のパネルは見て行かれる方も多く丁度良い季節のパネル展示となった。(自然に興味があるということが分かった。) ・持ち帰り用のリサイクル封筒バッグやトイレットペーパーの芯を活用したりリサイクル工作の視点は盛岡市環境課様の資源循環やリサイクルなどイベントテーマ「～もっと面白いデコ活」に沿ったプログラムを提案となった。 【課題】 ・1日目の出展物の配置に苦慮した。特に自転車発電体験の安全管理が重要。対応スタッフが2名と手薄であったため端の目立たない場所に設置した。2日目は盛岡市様にサポート体制を強化していただいたので岩手大学の隣に設置してご来場者の方の目につくようにした。 ・「ミニミニツリー作り」の土台付き松ぼっくり(70個)が1日目ですべてはけてしまった。そのため2日目の土台作りを自宅で内職して70個作成した。今後は事前に2日分対応できるよう準備を行う。		

番号	19	イベント名等	2024年度大気汚染防止推進月間フォーラム
		主催団体	三陸自然学校大槌
		日時	令和6年12月19日(木)
		場所	文化交流センターおしゃっち
		参加者数	フォーラム:60名 体験ブース:112名 合計172名
		スタッフ	齊藤 富美子 櫻井 則彰 坂下 慶夏
内容	①フォーラムテーマ:大気汚染防止推進 ②体験テーマ:地球温暖化・エネルギー・自然体験 内容:藤井貴彦教授による講演・環境学習交流センターによるパネル・発電体験・自然体験ブース対応 【①フォーラム成果】 ・三陸の海水温上昇、海洋酸性化を詳しく解説される ・海洋酸性化と海の生物への影響を化学式で詳しく解説 ・大槌高校の生徒30人ほどが聴講する ・アラゴナイト飽和度(Ω 上記図中)を初めて知る 【①課題】 ・海水温の上昇、海洋のPHIに影響が出始めていることを多くの人が知り、日々の生活習慣(省エネ・節電)に結び付けることが重要である 【②体験ブース成果】 ・おしゃっちのスタッフの方の協力でイベントチラシを配架していただき周知することができた。入口にブースを設けてくれたことで、平日にも関わらず多くの人に参加してもらえた。 ・大槌の地域協議会との連携によって大槌町民の優しい人柄に触れることができた。朝9時からの町民ラジオ体操に参加させていただき爽やかな気持ちで一日を過ごすことができた。 ・役場の方にも協力してもらい、スムーズに撤去作業ができた。 ・マテバシイという貴重などんぐりを提供していただき感謝。 ・午前中は大人のサークルメンバー、午後は学生たちが来館し、老若男女楽しんでいただけた。 ・館内に多くのフリースペースや、近隣に飲食店・コンビニ等があったおかげでゆったりお昼休憩ができた。 【②課題】 ・地域協議会がさらに活性化するためにセンターとしてどのような支援、協力ができるか。 ・再スタートした地域協議会が町を挙げての活動になるよう役場との密な連携が必要。状況収集なども必要。		
番号	20	イベント名等	清庵「学び塾」
		主催団体	一関市市民センター
		日時	令和7年3月19日(水)11:00~12:00
		場所	一関市市民センター
		参加者数	12名
		スタッフ	齊藤 富美子 大石 光子 田近 志保子
内容	テーマ:リサイクル 内容:紙すき体験・SDGsすごろく・こんちゅうさがしゲーム・うみのいきものさがしゲーム・どうぶつさがしゲーム 【成果】 ・導入でリサイクルについての説明を行い環境学習の位置づけをしっかりと行ってから体験することができた。 ・牛乳パックから紙すきの素ができるまでの工程を説明するとともに、実際にビニールコーティングをはがす作業も体験させることができた。 ・子どもの参加は7名であったことから飾りつけ、アイロンがけなどゆっくりと行うようにして満足度を高めることができた。 ・センタースタッフの役割分担をしっかりと行いそれぞれの対応に集中することができた。 ・アイロンがけではやけどの危険性など事前に注意し実施した。やけどをする児童はいなかった。 ・一関地球温暖化対策地域協議会のメンバー4名に参加していただき地域との連携を深めるとともに、センタープログラムについて理解を深めていた 大く機会となった。 ・地域の協議会の方の参加によりグループ分けで待機児童の相手をしてくれるなど和やかな雰囲気での学習会となった。 【課題】 ・グループ分けによる待機児童に対するプログラムの充実。特に学年が低学年から高学年と多岐にわたる場合には低学年でも理解できるものを用意する工夫が必要。 ・作品を持ち帰ってからの対応についての補足説明が必要。		

令和6年度流域活動支援実施状況一覧

10

「岩手県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例」に基づく流域基本計画により、取り組みを推進するためのネットワークづくりや活動のコーディネート及び情報提供を行っています。

番号	1	イベント名等	郷土財活用湧き水エリア活動事業 ミズアオイの生息池をみんなで守りませんか！
		主催・協力	岩手県立大学総合政策学部島田研究室
		日時	令和6年4月13日(土曜日) 9:30 ~ 12:00
		場所	大槌町郷土財活用湧き水エリア
		参加者	釜石大槌住民・町職員・県沿岸広域振興局・岩手県立大学・三陸自然学校大槌・県立大槌高校はま研究会・三陸ジオパーク推進協議会・日本ビオトープ協会・朝日新聞 など 合計35名
		対応スタッフ	森 一夫 坂下 慶夏
内容	9:30 大槌到着 9:40 ミズアオイ生息地付近の観察 10:00 開会式 10:20 作業開始 ・攪乱グループ(ミズアオイの攪乱担当) ・ごみ拾いグループ ・杭打ちグループ 3グループに分かれ作業開始 12:00 閉会式 4年前は参加者が5人のみだったミズアオイのかく乱作業。町全体で郷土財や自然の価値を守り、それを未来まで残し続けていこうという人が、どんどん増えていることに感銘を受けています。一昨年から植樹を始めた柳の木、うまく育ってくれているもののあれば、まだ小さいままのものもありました。丁寧にメンテナンスを行い、元気に育ってくれることを願いながら作業に望みました。ミズアオイの攪乱作業については、がちがちに硬いところもあれば、ぶによぶによで結構な深さのあるところもあるので、慎重に攪乱作業を行いました。みんなで声を掛け合い、手を取り合って作業に臨める瞬間がとても好きな時間です。開会式ではみんな静かでしたが、終了時には自分の汚れを見ず知らずの人に自慢する中になっていました。おいしい空気を吸い、体を動かしながら、故郷の郷土財を保全する作業を行えるということに、改めて感謝した一日でした。		
番号	2	イベント名等	根浜ビオトープ観察会
		主催・協力	かまいし環境ネットワーク・日本ビオトープ協会相談役・根浜シーサイドオフィススタッフ・地域の方
		日時	令和6年5月6日(月)
		場所	根浜シーサイドレストハウス敷地内
		参加者	50名
		対応スタッフ	森 一夫
内容	2011年の東日本大震災で失われた生態系の復旧に向け釜石市鶴住居町根浜地区に「根浜ビオトープ」が整備された。2023年にビオトープ整備の相談を受けて、環境パートナーシップいわてそして環境学習交流センターとして可能な範囲で後方支援を行って来たところ、この度のビオトープ整備に結び付いて事の意義は大きいと感じる。今回、5月6日はビオトープ開設記念に一環として観察会と称して開催されたものである。環境パートナーシップいわてそして環境学習交流センターでは、今回の観察会前に準備作業から観察会開催までを支援した。 〔支援項目〕 1.ビオトープ周辺整備(雑木等刈払い作業や障害物除去) 2.棲息生物観察支援 3.生物棲息環境整備部材準備作業(仮払い雑木カッティング) 4.生物棲息環境整備(子供たちの棲息域整備作業支援) 評価: 根浜地区の前向きな活動にはいつも感心する。今回、環境アドバイザーでもある加藤直子氏の強い想いが実ったことも含め、震災以前の生態系が復旧・復活する一助となることを期待する。今回整備したビオトープは、本来の生き物たちが棲息する場となるには、2~3年程度の期間を要するので息の長いフォローが欠かせない。地域の住民や専門家に加え自治体も一体とした取り組みスキームの構築が欠かせない。 感想: 昨年相談を受けてから、資金調達と土地の利用権についての課題があったが、ロータリークラブが資金提供を市に申し出たことで一挙に課題クリアできたことがすごい！！ 整備されたビオトープはまだ真新しい中、早くもイモリや日本サンショウウオの卵、オタマジャクシやアメンボなど複数種の生物の棲息が確認できたのは生態系の生み出すスピード感に驚かされる。 今後、トンボが飛来して産卵するなど益々の棲息生物の多様化に期待するとともに保全の体制や仕方など逐次適正な管理が求められる。環境パートナーシップいわてそして環境学習交流センターとしても可能な限りのバックアップを行って行けることを祈念する。		

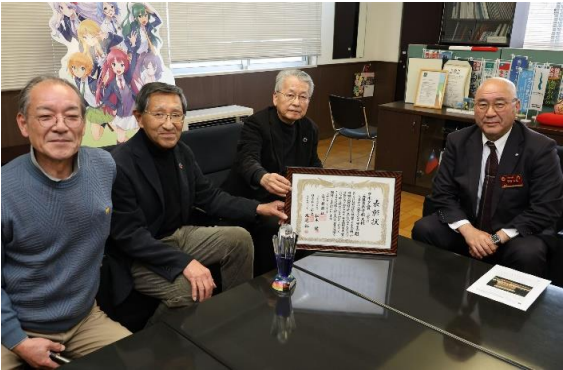
番号	3	イベント名等	根浜海岸林再生事業①
		主催・協力	根浜海岸林再生実行委員会
		日時	令和6年5月27日(月曜日)13:00～15:30
		場所	釜石市立釜石東中学校
		参加者	県立大学 島田先生・釜石東中学校1年生 教員の方・釜石市 産業振興部 商工観光課・株式会社かまいしDMC 佐藤氏 合計60名
		対応スタッフ	森 一夫 坂下 慶夏 大石 光子
内容	1年生13:30～14:20 島田先生による「岩手の砂浜・根浜の砂浜と海辺の植物～海岸林・海浜植生～」についての講義と、ハマヒルガオの種子を削る作業。 2年生 14:30 ～ 15:20 1. 昨年の振り返り 2. 3グループごとに分かれて作業（ハマヒルガオ班、ハマナス班、ハマエンドウ班の3グループ） ・ハマヒルガオ班 ①ポットに土を入れる 35ポット×2花かご ②1ポットに2個ずつ種子を蒔く ・ハマナス班 ①プランター2つに土を入れる ②タネを蒔く ・ハマエンドウ班 ①爪切りでハマエンドウに傷をつける ②残りの人はポットに土を入れる 35ポット×3花かご ③1ポットに2個ずつ種子を蒔く ・作業終了した人みんなで ①プランターから植物をバラバラにする ②残りの人はポットに土を入れて待機 ③残りの人はポットに植え替え ④水まき 本年度の第1回目も例年通り、1年生は島田先生から根浜海岸の歴史についての講義と、海浜植物の種子を削る作業、2年生はポットに種子を蒔く作業を行いました。 今年の1年生は2011年生まれで、東日本大震災の時はちょうどお腹にいた子供達にあたるそうです。被害がひどかった鵜住居地域で、親御さんが津波から逃げ切ってくれたおかげで、彼らの命があると考え、非常に尊い存在に思えます。 島田先生の講義から、彼・彼女らが毎年お世話になっている根浜海岸の存在価値を再認識したようでした。 2年生の種蒔き作業も、各班にリーダーを設けたことで、種の植物を確認しながら丁寧に作業に臨み、最後の水やりまでスムーズに終わることができました。 引き続きこの活動に参加し、根浜海岸林再生の様子、生徒たちの成長を見守りながら、一緒に連携し、活動を続け、広げていきたいと強く思いました。		
番号	4	イベント名等	根浜海岸林再生事業②
		主催・協力	根浜海岸林再生実行委員会
		日時	令和5年6月5日(水)13:00～15:30
		場所	根浜海岸
		参加者	・県立大学 島田先生・釜石東中学校1年生と2年生 教員の方・いわて地域脱炭素推進員 臼澤良一氏 ・日鉄ソリューションズ2名・株式会社かまいしDMC 佐藤氏・宝来館 岩崎女将 ・地域の方 合計80名
		対応スタッフ	森 一夫 坂下 慶夏
内容	スタッフ打合せ 13:00 ～ 13:30 島田先生説明 13:30 ～ 13:40 草取り作業 13:40 ～ 14:30 海ゴミ拾い 14:30 ～ 15:00 根浜海岸林再生事業は、1回目・2回目共に天気に恵まれ、無事に終了しました。 2回目の今回は、前半の50分で海岸林の草取り作業、後半の30分で浜辺の清掃活動を行いました。 毎年のことながら、最初の方は、雑草と海浜植物を見分けるのに四苦八苦しながらも、真剣に作業にのぞんでいました。釜石東中学校の生徒はとて元気で、場の空気をとても明るくしてくれるので、終始笑顔溢れる回となりました。 一昨年、昨年に植えた海浜植物も順調に育っている様子も伺えてとても安心しました。しかし、震災に傷つきながら耐えた松も、徐々に弱まってきており、倒木する危険もあるので、メンテナンスしていかなければならないという課題も見えてきました。		

番号	5	イベント名等	大アメリカザリガニ釣り大会
	主催・協力	グリーンスマイルキッズ 協力:EMSD6名、医大IM2岩手大学	
	日時	令和6年6月8日(土)8:30～10:00	
	場所	盛岡城跡多目的広場&公園鶴ヶ池	
	参加者	・グリーンスマイルキッズ+スタッフ(地域住民、小学生:52名、岩大EMSD:6名、医大IM2EDiCo:6名、計355名)	
	対応スタッフ	森 一夫	
内容	7:30～8:30 スタッフ打合せ(本日の活動内容+準備作業等) 8:00～8:30 受付(4ヶ所の受付を準備して受付実施。) 8:30～8:50 開会式 8:55～9:40 アメリカザリガニ釣り開始(ボイルも並行で釣れた分から開始) 釣果は209匹(鶴ヶ池にはまだまだ棲息している模様です。) 8:55～9:40 アメリカザリガニ釣り開始(ボイルも並行で釣れた分から開始) 9:45～10:00 閉会式 2021年の第1回開催から数えて4回目の開催。 年々回数を重ねるごとに参加者数が増えています。盛岡の一つの風物として認識されつつあるように感じます。参加者の声を拾うと、釣れた人も釣れなかった人も来年も参加したいと、要望が出ています。 釣りの参加者たちが安全に行動できるように気を配り巡回を行いました。今年も池に落ちた人が…!! ケガはありませんでした。良かったホッ! 今年の強みは医大生と現役の看護師さんが6名体制で救護班に加わってくれたこと。そして岩大のEMSDメンバ6名が大会の実行支援を行ってくれたことが大きな成果です。大人そして大学生、子ども達一丸となって開催し、楽しんで無事に終了出来たことは何事にも代えがたい思いが湧いてきます。 環境パートナーシップいわてとして森と海のわIwateとして、今年度の実行に際して様々な支援を行いました。 [支援項目] 1.開催作戦会議2回に参加 2.鶴ヶ池の棲息生物観察支援(環境アドバイザー派遣) 3.鶴ヶ池の棲息生物採取作業支援 4.鶴ヶ池の棲息生物展示・説明作業支援 5.川の生き物たちシート準備および配布 6.連携先ネットワークを大学生にも拡大 評価:グリーンスマイルキッズが取り組む活動は4回目。わかなさん中心から、なのはさん中心に代替わりして継続する取り組みにつながっている。また、参加する子供たちも中学生から小学生中心にシフトし、今年は新しい試みとして鶴ヶ池に生息する生物を採取して展示。以外に参加者の皆さんの興味を引きました。(展示物:アメリカザリガニ、アマコ、川エビ、ドジョウ、ジャンボタニシ(スクリンゴカイ)等) 外来種であるジャンボタニシも生息数が増えている傾向のように感じました。また、ブラックバスなども盛ることができるそうです。(小生はまだ見ていません。鯉は体長50cmくらいのものを見ることができました。)生息物の展示アイデアはグリーンスマイルキッズの淳平君が考案して実施した初めての試みでした。好評で良かったです。 釣り上げたアメリカザリガニにも一つの大切な命があり、決してアメリカザリガニが悪い訳ではないこと、人間の勝手な現在の被害をもたらしていることを認識を持つ必要があります。 また、毎年の新たなチャレンジと実施した後の反省会を着実に毎回実施しておるのが、継続する原点になっていることを改めて感じます。 環境パートナーシップいわて、森と海のわIwateそして環境学習交流センターとしても可能な限りの支援を継続し続けられることを祈念する。		

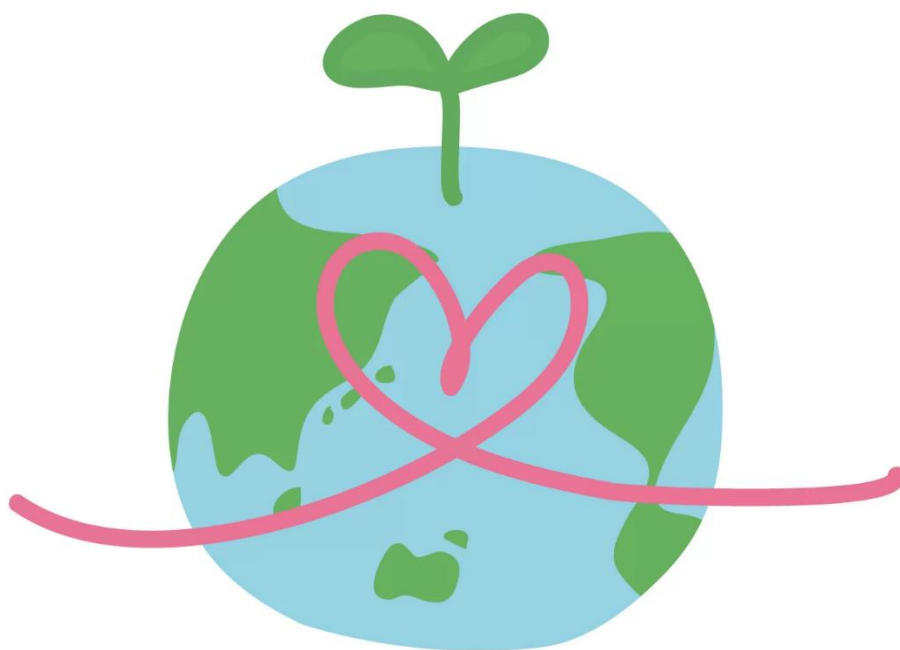
番号	6	イベント名等	大アメリカザリガニ釣り大会反省会
		主催・協力	グリーンスマイルキッズ+スタッフ(地域住民名、小学生、中学生)
		日時	令和6年6月8日(土)8:30~10:00
		場所	盛岡城跡多目的広場&公園鶴ヶ池
		参加者	グリーンスマイルキッズ+スタッフ(地域住民21名、小学生:3名、中学生:1名)計35名
		対応スタッフ	森 一夫
内容	2021年の第1回開催から数えて4回目の開催。 年々回数を重ねるごとに参加者数が増えています。盛岡の一つの風物として認識されつつあるように感じます。参加者の声を拾うと、釣れた人も釣れなかった人も来年も参加したいと、要望が出ています。 今年の強みは医大生と現役の看護師さんが6名体制で救護班に加わったことと、岩大のEMSCメンバ6名が大会の実行支援をしてくれたことが大きな力です。大人そして大学生、子ども達一丸となって開催し、楽しんで無事に終了したことはいつも反省会で出されること。 環境パートナーシップいわてとして森と海のわIwateとして環境学習交流センターとして、以下の支援を行いました。 [支援項目] 1.開催作戦会議2回に参加 2.鶴ヶ池の棲息生物観察支援(環境アドバイザー派遣) 3.鶴ヶ池の棲息生物採取作業支援 4.鶴ヶ池の棲息生物展示・説明作業支援 5.川の生き物たちシート準備および配布 6.連携先ネットワークを大学生にも拡大		
番号	7	イベント名等	根浜海岸林再生事業③
		主催・協力	根浜海岸林再生実行委員会
		日時	令和6年7月17日(水)13:00~15:30
		場所	釜石市 根浜海岸
		参加者	県立大学 島田先生・釜石東中学校 全校生徒/教員の方・宝来館の女将・かまいしDMC佐藤氏・地域の方 計80名
		対応スタッフ	森 一夫 坂下 慶夏
内容	スタッフ打合せ 13:00 ~ 13:30 島田先生説明 13:30 ~ 13:40 草取り作業 13:40 ~ 14:30 海ゴミ拾い 14:30 ~ 15:00 第3回目も無事に終了しました。蒸し暑い中での作業でしたが、生徒の皆さんは作業に熱心に取り組んでいました。 絶滅危惧植物にも指定されたケカモノハシも、根浜海岸で至る所に生えており、根浜海岸の環境の良さが窺え、とても幸せな気持ちで第3回目の再生事業に取り組みました。 今回で最後になる3年生にインタビューしたところ、再生事業は、中学校での夏の恒例行事になっていたの、寂しいと話してくれました。 また、宝来館の岩崎さんは、海浜植物のハマボウフウで素揚げと、ドーナツを作ってみんなに振る舞ってくださいました。身近な郷土の物で、美味しい物が作れることにとても感心していました。生徒の皆さんも、改めて海浜植物を身近に感じられる瞬間になったと思います。さすが、岩崎さん！ 今回も楽しく、安全に、学びのある根浜海岸再生事業となりました。9月の第4回目も引き続き頑張ります。		

番号	8	イベント名等	大槌の自然はすばらしい！・・・郷土財活用湧水エリアのミズアオイを見に行こう・・
		主催・協力	三陸自然学校大槌
		日時	令和6年8月24日(土)10:00～12:00
		場所	大槌郷土活用湧水エリア・大槌町文化交流センターおしゃっち
		参加者	・釜石大槌住民 ・大阪府民 ・町職員・県沿岸広域振興局・岩手県立大学 ・三陸自然学校大槌・日本ビオトープ協会 ・福島大学など 計30名
		対応スタッフ	森 一夫
内容	春に湧水地の攪乱作業を行った影響で、やや小ぶりではあるがミズアオイが元気に花を咲かせた情景が見て取れた。あまり攪乱作業ができていない池ではミズアオイの棲息域が狭く花が咲いているミズアオイは少数に止まっている様子が確認できた。 [観察ポイント] ・花卉が6枚あるようにみえるが、小さい部分は花びらではなくかきである。 ・雄しべ×6本と雌しべ×1本で構成され、雄しべ6本中の1本は青黒い。 ・青黒い雄しべの位置は花によって右側にある場合と左側にある場合がある。 当日は朝から気温35℃を指す中での観察会となり、体力が奪われることを痛感しました。 講演は平塚先生のミズアオイについての説明で、島田先生の説明に加えて更に詳しく知ることができた。また、兼子先生が講演したミズアオイのDNA鑑定の結果が驚くべき内容であったことで、改めて大槌町のミズアオイが貴重でこれからも大切に保存すべき植物であることが認識できた。 参加者の皆さんそれぞれが、大変感激していたことが印象的でした。		

番号	9	イベント名等	根浜海岸林再生事業④
		主催・協力	根浜海岸林再生実行委員会
		日時	令和6年9月17日(水)13:00～15:30
		場所	釜石市 根浜海岸
		参加者	計50名程の参加者 ・県立大学 島田先生 ・釜石東中学校2年生 教員の方・日鉄ソリューションズ3名 ・株式会社かまいしDMC 佐藤氏・宝来館 岩崎女将 ・地域の方
		対応スタッフ	森 一夫 坂下 慶夏
内容	スタッフ打合せ 10:00 ～ 10:30 島田先生説明 10:30 ～ 10:45 草取り作業 10:45 ～ 11:30 植樹作業 11:30 ～ 12:30 今年度最後の根浜海岸林再生事業でした。毎年恒例最後の授業の参加者は、2年生のみです。 第1回目の授業で、海浜植物の種薪を行った2年生が、地域の人と協力して育てた苗を、実際に根浜海岸林の地に植樹するという重要な作業を今回行いました。また、今回は根浜のビオトープのエリアの浮草除去作業を行いました。(浮草が生えていると、水の中の生物植物たちが光合成できないため。) 毎年思うことですが、1年生の入学当時のあどけない時から知っている彼女・彼らが、1年しかたっていないのに、2年生の秋にはすっかり先輩の顔になっている姿を見ると、なんだか幸せな気持ちになります。 今年度の釜石東中学校入学生がお腹にいた時に震災があったという話を聞くと、震災を経験していない世代にいかにも、根浜の地域や自然の魅力、尊さを伝承していく必要性があると今年度、より強く実感しました。		

番号	10	イベント名等	流域活動支援「鵜住居・根浜・箱崎」地域における情報交換交流会
		主催・協力	根浜シーサイドオフィス
		日時	令和7年1月13日(木)13:00～16:30
		場所	根浜シーサイドオフィス
		参加者	東北環境事務所、EPO東北、かまいしDMC 根浜の地域住民 岩手県立大学 計25名
		対応スタッフ	森 一夫
内容	今回、根浜地域だけに限らず鵜住居と箱崎も含めて包括した地域連携の推進を各地域の団体を巻き込んで進めようとする考え方は評価できる。地域連携の輪を広げ、地域循環共生圏の創生に向けた一つの動きと捉えたい。当法人が掲げる「ここちよく豊かに生きる」を具現化につなげる一つの試みとして支援を継続してゆきたい。 鵜住居、箱崎、根浜で合わせて13の活動団体が、活動内容を聴くと様々な取り組みの可能性の広がりを感じ取れた。		
番号	11	イベント名等	盛岡広域管内流域協議会総会
		主催・協力	盛岡広域管内流域協議会
		日時	令和7年3月7日(金)13:30～16:00
		場所	ふれあいランド岩手 2階 第1・第2研修室
		参加者	構成団体
		対応スタッフ	櫻井 則彰
内容	(1)盛岡広域管内流域基本計画の進捗状況 (2)令和6年度盛岡広域管内流域協議会の活動状況及び令和7年度活動計画 (3)構成団体における令和6年度活動状況及び令和7年度活動計画 (4)情報提供、情報交換		
番号	12	イベント名等	三陸自然学校大槌 ミズアオイの池をみんなで守る会
		主催・協力	大槌町 町長室
		日時	令和7年3月18日(金)13:30～16:00
		場所	大槌町
		参加者	計8名の参加 ・大槌町町長、副町長 他町職員2名 ・三陸自然学校大槌 代表 臼澤 良一氏 ・ビオトープ協会 野澤 日出夫氏 ・毎日新聞三陸支社 奥田氏 ・環境パートナーシップいわて 森 一夫
		対応スタッフ	森 一夫
内容	クボタ毎日地球未来賞受賞報告会 受賞団体:大槌郷土財活用湧水エリア「三陸自然学校 ミズアオイの池をみんなで守る」 懇談 毎日新聞取材 今回の受賞は、ミズアオイの池をみんなで守る会参加者全員の活動に対して評価されたもの。代表は臼澤氏が務めるが、各協力団体に対しての感謝の念が伝えられた。 また、町長に受賞報告を行った際に町としても支援したい旨の申し出が出されたことと、湧水地と道路を挟んで整備される鎮魂の森(仮称)との連携に話が及んだので今後の展開で、新たな展望が開ける感じがした。		

●岩手県地球温暖化防止活動推進センター



●いわてわんこ節電所 (https://www.co2-diet.com/)

「いわてわんこ節電所」とは、2050年温室効果ガス排出量実質ゼロに向けて、エネルギー消費の少ないライフスタイルへの転換を促進することを目的としたサイトです。

* 家庭のエコチェック

<https://www.carbon-neutral.pref.iwate.jp/>

普段の生活で取り組んだ省エネ行動によるCO₂削減量を、岩手県名物「わんこそば」の「わんこ」に見立てて積み重ねていく参加型の取組です。わんこが重なるほど、より多くのCO₂を減らせたということになります。

令和6年度実績(2024年4月1日～2025年3月31日)
のべ参加者数 10,960名
家庭の二酸化炭素削減数 306,330kg-CO₂

令和7年度4月1日よりリニューアル



* トピックスで最新情報をチェック！

<https://www.carbon-neutral.pref.iwate.jp/>



* 各種補助金・助成金をチェック！

<https://www.carbon-neutral.pref.iwate.jp/katei-hojo/>

<https://www.carbon-neutral.pref.iwate.jp/company-hojo/>



* いわてわんこ節電所ニュース

<https://www.co2-diet.com/tonics/detail.php?id=960>



* 気候変動

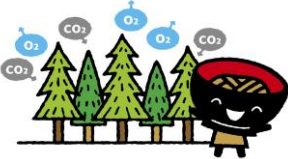
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankvou/gx/1067444/index.htm>



* ツール・ダウンロード

<https://www.carbon-neutral.pref.iwate.jp/pic/>

2050年温室効果ガス排出量実質ゼロに向けて、地球温暖化対策を推進する取組について広報する場合に活用いただけるキャラクター「エコわんこきょうだい」や、啓発ポスターなどがダウンロードできます。また、岩手県が制作した地球温暖化などによる気候変動の影響と対策に関する動画も紹介しています。



岩手県の小学生が取り組む地球温暖化対策です。隊員に任命された小学生は、隊員ノートを使ってお家でできる身近な省エネなどに取り組めます。いわてわんこ節電所では、隊員の取組事例紹介などを行っています。令和6年度は2校の事例発表をホームページで紹介しました。

令和6年度「地球温暖化を防ごう隊」の活動で減らしたCO₂136,471kg-CO₂
参加した「地球温暖化を防ごう隊」児童数 5,763人
実施小学校 13校

①久慈市立宇部小学校 3年生・4年生児童 14名
②盛岡市立飯岡小学校 4年生1組29名・2組28名



地球温暖化を防ごう隊の皆さんには、温暖化のことがよく分かる「地球温暖化防ごう隊ノート」を配布しています。

①地球温暖化を防ごう隊事例発表 久慈市立宇部小学校
⇒<https://www.co2-diet.com/topics/detail.php?id=934>

②地球温暖化を防ごう隊事例発表 盛岡市立飯岡小学校
⇒<https://www.co2-diet.com/topics/detail.php?id=959>



地球温暖化防ごう隊への取り組みを伺いました



久慈市立宇部小学校
3.4年担任
三輪 友奈 教諭

Q1 今期、宇部小学校は、地球温暖化を防ごう隊の活動を始めるきっかけとなったことはなんですか。

今年度の総合的な学習の時間は「環境」をテーマとしたため、地球温暖化について学習し、その一つとして行いました。

Q2 この活動をすることによって、児童の皆様の行動に
どんな変化がありましたか。

地球温暖化を自分事として捉えるようになってきた
と思います。

Q3 これから宇部小学校がこの活動で目指すことをお教え下さい。

地球温暖化について、自ら実践できるような人になることを目指しこれからも機会があるごとに取り組んでいきたいです。

活動の表彰も励みになります。ありがとうございます。

Q1) 地球温暖化を本気で防ごうの活動を始めるときかになったこと、思い出はありますか？

4年生が毎年行っている「総合的な学習」の時間で「地球温暖化」を学習した事です。
 授業の中で4年生にわかりやすい資料を提示してました。
 今回の授業では、「地球温暖化を防ぐ7つのノート」を活用しながら、自分たちで調べまとめた。
 このノートは、本を学んでの調べ学習より良い資料だと感じています。
 次の担任へも、化学部実習で行っていただく予定です。

Q2) いつからどのような活動を行っていますか

5月後半から学習に取り組み、地球温暖化を防ごう隊員ノートを活用し、1人1人が決めた課題を調べ、まとめました。
又、「地球温暖化を防ごう隊チェックシート」を使用し、各家庭でのCO₂削減に取り組みました。

Q3) この活動をすることによって、児童の皆さんの行動にどんな変化がありましたか？

自分が行動することで地球温暖化を防ぐことが出来ることを知り、
生活のちょっとしたことに気をつけてみようという意識を持つようになりました。

Q4) これから飯岡小学校の防ごう隊が目指す活動は何ですか

一つ一つ小さな事でも、それらの取り組みが大きな成果へとつながる事を意識して、防ごう隊活動を続けていく事です。



4年担任
井上望実 先生（左）山崎千晶 先生

取材に伺った当日は、今年度の「地球温暖化を防ごう隊」表彰式が行われていました。県北広域振興局の高橋課長から表彰状が贈られ、

「この活動で体験したこと、勉強したことをこれから生活に活かしていって下さい。」とこれからも活動を続けてほしい思いが伝えられました。



小学校の周りには、木、川、田んぼ、畑などの自然が
あふれています。
今の子どもたちは、そこにどんな生物がいるのか、
四季を通してどのような植物があるのか、よく知らないと思います。

「地球温暖化を防ごうね」をはじめ環境学習交流センター・
岩手県地球温暖化防止活動推進センターの環境アドバイザー・
地球温暖化防止活動推進課の近畑なども活用して、
子どもたちに岩手の自然を知ってもらい、
環境の大切さを考えていける大人になって欲しいですね。



盛岡市立飯岡小学校
大澤 滋 校長

●省エネ・節電キャンペーン

「省エネ・節電キャンペーン」は、岩手のみなさんの省エネ・節電活動を応援するキャンペーンです。

12

■キャンペーン概要

岩手県地球温暖化防止活動推進センターでは、ご家庭での省エネ行動を促進し、地球温暖化対策につなげるため、県民参加型の省エネ・節電キャンペーンを実施しています。（主催：温暖化防止いわて県民会議／岩手県／岩手県地球温暖化防止活動推進センター）

令和6年度夏編では、「わたしエコで賞」コンテスト、冬編では「いわて『あったかecoキャンペーン』」を実施した。

いわてエコアクション2024夏編 「わたしエコで賞」コンテスト

期間：令和6年7月16日～令和5年9月30日

応募総数：138名

STEP1で自身のエコ活動を振り返る家庭のエコチェックに参加し、STEP2ではエコ活動に対する経済消費行動を促し、ポイントの高い人から「わたしエコで賞」を決定し、STEP1のみ実施の方の中から抽選で「エコ参加賞」をプレゼントした。

▼Webページ

<https://www.co2-diet.com/topics/detail.php?id=85>



▼チラシデザイン表



▼チラシデザイン裏



○最優秀賞：株式会社やよいディライト・・・1名様

商品名：tsumugiumou布団



○エコ頑張ったで賞

岩手県産株式会社：サヴァ缶2種詰合せ(6缶化粧箱入)・・・3名

MOMIJI株式会社：大槌鹿のこく旨シチュー缶詰・・・3名

有限会社中村家：海鮮スープセット(乾燥スープ)・・・10名

株式会社浅沼醤油店：いわて健民しょうゆ・・・12名

株式会社愛真館：ご入浴券・・・10名

株式会社田澤洋紙店：は紙っこ・・・5名

大和リース株式会社：つながるWaバッグ・・・10名

北日本製袋株式会社：COMESACKライスレジminimarche・・・5名

いわてエコアクション2024冬編 「いわてあったかecoキャンペーン」

期間：令和6年12月20日～令和7年2月10日

応募総数：185名

家庭のエコチェックに参加し「衣・食・住」に関わるあったかエコアクションのうち3つ以上を実践した方が自動的にキャンペーンに参加する仕組みとし県民が取り組みやすい環境を整えて実施した。

▼Webページ



▼チラシデザイン表



▼チラシデザイン裏



○岩手県/温暖化防止県民会議/岩手県地球温暖化防止活動推進センター

商品名：お米券：5,000円分・・・10名



B385 akashiya yoggy：チューブロールカードケース・・・1名

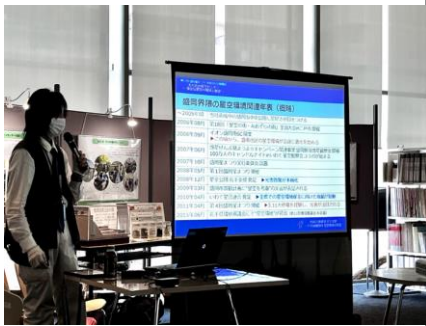
アロニア同盟：アロニアパウダー・・・3名

株式会社ミクニ盛岡事業所：小型加湿器「ちょこっとオアシス」・・・10名

令和6年度いわて地域脱炭素推進員派遣状況一覧

13

いわて地域脱炭素推進員（以下「推進員」という。）が、地域において地球温暖化の現状や地球温暖化防止に関する知識の普及など地球温暖化対策を推進する活動。

実施日	4月20日	主催者	盛岡市環境部環境企画課	推進員	吉田 偉峰
		対象	一般18名		
研修会			盛岡市環境学習講座「春の夜空を観察しようin盛岡星まつり」		
テーマ			星空環境の現状と課題、保全と対策・星空の観光案内などの講座		
内容			*推進員より 空の要素、星空環境の基礎知識・星空環境保全、及び調査手法の変遷・県内の星空環境調査事例の紹介・いわて星空環境調査の進捗。 *主催者より 昨今、県内の星空環境を取り巻く情勢は大きな変化が見られ、一般市民への普及啓発の好機となった。今年度も熱心な参加者が多かった。セミナーから観望会の時間と会場が離れたため、セミナーへの参加は少なかったが、観望会への参加が多く、心配された天候も後半には回復し、思う存分夜空を観察することができた。		
実施日	4月25日	主催者	みんなの家	アドバイザー	若生 和江
		対象	地域住民 3人		
研修会			みんなの家特別企画 お役立ちクッキング		
テーマ			SDGsで美味しいごはん		
内容			*推進員より 大人対象のエコクッキング講座・日々の暮らしの中で生かせる工夫の紹介・旬の野菜を使い・食材から考える献立、活かしきり応用など。調理の手順、段取りなどつかんでおくと役立つものを伝えた。料理が苦手…と思う人でも無理なくできる切り方、ゆで方今まで聞けなかったことが聞けて良かったという声が聞けて良かった。今の春野菜、これからたくさん出てくる夏野菜を使った料理を選び、役立ててもらえるように工夫した。 *主催者より 旬の食材と常にある調味料を使って、栄養ある美味しいおかずを簡単に作れる方法を教えていただき、食材を余らせることなく摂取できることを教えていただきました。		
実施日	4月27日	主催者	浄土ヶ浜ビジター運営協議会	アドバイザー	吉田 偉峰
		対象	一般18名		
研修会			浄土ヶ浜春の星空観望会		
テーマ			天体と光害		
内容			*推進員より 室内で(当日)観望できる天体について解説をいただいたのち、屋外にて天体望遠鏡を使用した星空観望を実施。 *主催者より 例年、好評イベントにつき同様イベントを12月にも開催予定。		
実施日	5月7日	主催者	矢巾町立煙山児童館	推進員	櫻井 則彰
		対象	小学校1年生 2年生 合計67名		
研修会			SDGsはじめのいっぽ		
テーマ			SDGs		
内容			*推進員より SDGsの17項目のうち、1番の貧困をなくそう、2番の飢餓をゼロに、6番の安全な水とトイレを世界中に、11番住み続けるまちづくりを、13番気候変動に具体的な対策を、14番海の豊かさを守ろう、15番陸の豊かさを守ろうを中心に解説する。小学校1、2年生であったがSDGsは半数くらいの子どもたちが知っていた。プラスチックの海洋汚染に始まり、ゴミの分別が必要なこと、矢巾町では、ゴミの分別にしっかり取り組んでいること、子どもたちも分別に協力する必要があることを訴えた。地球温暖化の話では、「うんこ先生」がクイズを行う形式にて、日頃のちょっとした節約の積み重ねが温暖化防止に寄与することを伝えた。 *主催者より 低学年が、初めて外部講師さんのお話を伺いました。子どもたちが興味を持てるように、世界の様子・温暖化とプラスチックごみについての動画・クイズなど、内容を工夫していただいたおかげで、子どもも大人も解りやすく興味をもってお話を伺うことができました。		

実施日	5月15日	主催者	奥州市市民環境部生活環境課	推進員	若生 和江
		対象	協和学院水沢第一高等学校1学年142名、教諭4名 合計146名		
研修会		奥州市環境学習事業（SDGsに関する学習会）			
テーマ		SDGs			
内容		*推進員より ・SDGsの概要 ・私たちとのつながり ・地域での事例紹介など *主催者より 「ハッピーな持続可能性を創っていこう！」と題し、若生氏が講義。SDGsの課題はつながっており、1項目だけに注視しては取組効果や持続性が弱い。パートナーシップの活用で解決策が増える。自分事として捉え、困りごとや気になること、できることを考え、誰かの取組に参加したり、自分で新しく始めてみたり、情報発信しながらやってみよう、と投げかけた。市内の子ども食堂や資源循環に取り組む市内企業の紹介等、様々な取組みも紹介した。			

実施日	5月15日	主催者	奥州市市民環境部生活環境課	推進員	花澤 淳
		対象	協和学院水沢第一高等学校1学年142名、教諭4名 合計146名		
研修会		奥州市環境学習事業（SDGsに関する学習会）			
テーマ		SDGs			
内容		*推進員より 奥州市の環境学習事業「SDGs学習会」のなかで、アクションカードゲームクロス体験学習（60分）の司会進行を担当した。 最初にゲームについて15分程解説し、その後15分ゲームを行い、残り30分を発表の時間とした。ゲームは6人1グループの全24グループで行い、ゲーム中に他の推進員1名と主催者側2名の計4名でアドバイス等のサポートを実施するとともに、グループ毎の成果発表に対しても講評を行った。 *主催者より 花澤氏は、SDGsカードゲームX体験を担当。生徒らは手法説明をうけて24班に分かれ話し合いを行った。解決方法に、料理・ファッションなどのリソースカードをシェアサービスで利用する等の若者らしい視点の発表があった。講師の「入口に立つところまで、誰かと一緒に考えることはとても大切。まじめなことを言い合える間柄の構築を、ぜひして欲しい」との言葉が印象的でした。			

実施日	5月15日	主催者	大平老人クラブ・宝築老人クラブ	推進員	川邊 弥生
		対象	13名		
研修会		暮らしの環境学習会			
テーマ		老人対象の省エネ節電講話			
内容		*推進員より 節電・省エネの工夫」についてスライドで説明しました ①節電・省エネの違い ②エネルギー消費の現状について ③岩手県のごみ排出量から家庭ごみの今と昔 一関市のごみの出し方 ④ごみの分別の工夫 ⑤「3R」や「もったいない」について ⑥プラごみや食品ロス問題・3マイ運動について ⑦はちどりのひとしづく 80歳以上の老人クラブの皆さんが良くわかるように、スライドの字を大きくしたり、写真などを多くして工夫しました。家庭ごみの変化や分別の工夫等、理解して頂けました。ごみ削減では風呂敷の活用など紹介し、特に興味を持って聞いていました。老人クラブの皆さんはとても元気で、楽しく研修が出来ました。「見返り美人」になって待機電力を減らしたり、水道の使い方や電気の消し忘れなど気をつけるよう説明しました。風呂敷活用については今後開催の希望がありました。 *主催者より パワポ資料やエコ風呂敷を使い、暮らしの中で取り組める環境対策について、楽しく学ぶことができました。高齢者、老人が学べる環境学習のメニューがあれば、お願いしてみたいです。メールで情報提供願います。			

実施日	5月17日	主催者	工藤建設株式会社	推進員	田鎖 みよ子
		対象	職員48名		
研修会	工藤建設 令和6年度 安全大会/ISO 年次教育研修会				
テーマ	物理的片付けと非物理的型付けによる脱炭素				
内容	*推進員より 安全管理及び労働生産性向上のため、物理的片づけ・非物理的片づけをすることにより「脱炭素」につながる研修会を実施。 社長様はじめ参加者の方々の熱心な受講姿勢に工藤建設株式会社様の安全・脱炭素の意識の高さを感じました。ワークでは規定時間を超えて笑顔で話す方が多数でした。概ね、好意的な反応(アンケート回答)でした。今後の励みにします。事前アンケートを申込者花澤様に集めて頂きました。お陰でワークを2つ減らし、時間内に納めることができました。参加者の方が疲れないようにパワーポイントを極力見やすくし、話も解り易い言葉を選択して構成いたしました。最新の写真を開催日前日に頂き、より正確な内容にできました。又、私のお客様がbefore・afterの写真提供をしていただいたのでより解り易い実践的な構成にできたと思います。 課題:事後アンケート回答が参加者(約48名)に対し少なかった(15件)ので、回収率を上げる呼びかけを増やす。 *主催者より 予定より開始時間が多少前後しましたが、柔軟に対応いただきました。 講演は話もスライドもとてもわかりやすく、講演中に実践演習も組み込まれており、飽きずに楽しく聴くことができました。 片付けが仕事の生産性向上や安全、さらには脱炭素にまでつながることをたくさんの事例を交えて解説いただき、主催者側の目的に沿った研修を行うことができました。				



実施日	5月26日	主催者	環境学習交流センター	推進員	谷目 葉
		対象	一般15名		
研修会		脱炭素アドバイザーから学ぶ			
テーマ		気候変動・環境問題・脱炭素アドバイザー			
内容		*推進員より 第1部としては、世界・日本・岩手県における気候変動問題に対する取り組みに関して説明を行った。私からは日本の取り組みとして政策目標と具体的な施策に関して、岩手県における取り組みとして第一次産業由来のカーボンクレジットの取り組みと、取り組みを通して森林再生へどう貢献できるのか、学術的知見も加味して紹介した。 脱炭素という幅広いテーマで初めて講演会の準備を経験し、これまであまり深く理解していなかった内容についても調べるきっかけとなった。結果的に、講演時間に対して濃い内容になってしまったので、もっとわかりやすく伝えられる話し方は無いのかと講演内容を見直してみたいと思う。また今回は参加者ターゲットが幅広かったので準備と本番で感触が掴みづらかったが、これを機に市民を伝える場合には何が適切なのかを改めて考えてみたい。 *主催者より 話の組み立てが良かった。脱炭素アドバイザーの資格を持っていることが信頼性の担保となる。環境 問題・脱炭素アドバイザーについて知ることができた。いわて地域脱炭素推進員の方々が脱炭素アドバイザーの試験を受けることによって知識の統一化が図れる。			



実施日	5月26日	主催者	環境学習交流センター	推進員	吉田 健一郎
		対象	一般15名		
研修会	脱炭素アドバイザーから学ぶ				
テーマ	気候変動・環境問題・脱炭素アドバイザー				
内容	*推進員より 難しい単語などはわかりやすい表現で説明するよう心掛けた。早口になってしまう場面があり気を付けなければならない。来てよかったと思えるような講座にしたい。内容や伝え方などブラッシュ御アップして次回はもっと良くしたい。 *主催者より 話の組み立てが良かった。脱炭素アドバイザーの資格を持っていることが信頼性の担保となる。環境 問題・脱炭素アドバイザーについて知ることができた。いわて地域脱炭素推進員の方々が脱炭素アドバイザーの試験を受けることによって知識の統一化が図れる。				

実施日	6月1日	主催者	久慈市立図書館		推進員	高橋 功
		対象	小学生8名 保護者2名 合計10名			
研修会		ライブラリーサイエンス 水素で走るミニカー実験				
テーマ		水素エネルギー				
内容		*推進員より 参加者に水素カーの体験を通して、水素燃料や環境問題に関心を持っていただくことを目的としていたことから、「地球温暖化を防ごう隊員ノート」や手づくりの道具で体験してもらいながら理解を深めていただいた。 中でも、家庭からの二酸化炭素排出量が一番なのは「電気」で、二酸化炭素を排出しない「再生可能エネルギー」は天候の影響を受けやすいとを説明し、屋上で「世界最小のソーラーカー」を走らせ体験して頂きました。 *主催者より 水を電気分解して水素カーを走らせる実験や、太陽光や懐中電灯でソーラーカーを走らせる実験を行い、電気のしくみ、節電、エネルギーなどの解説をしていただいた。参加者の年齢にあわせて親子で楽しめる話をしていただきまた多くの小道具を用いてわかりやすい解説をしていただけた。				

実施日	6月3日	主催者	北上市立飯豊小学校 第4学年		推進員	川邊 弥生
		対象	児童77名 教師 5名 合計82名			
研修会		総合 環境教育「人にやさしい町 北上 ～リサイクルって何？～」				
テーマ		環境・リサイクルについて				
内容		*推進員より 環境教育「人にやさしいまち 北上～リサイクルについて」をテーマにスライドで説明。ごみやリサイクルなどはSDGsの中の9つの目標に関連しており、ごみを見直して減らすことが重要。家庭から出るごみの種類や分別の仕方、リサイクルされるとどんな物に変わるか？など。 どうしてごみを減らさないといけないのか？は「資源」「環境」「天然資源」の面からみる事も大切。北上市のごみの現状やクリーンセンターについてわかりやすくお話をしました。 *主催者より 北上市のゴミの様子、3R活動について等、パワーポイントを使いながら4年生の児童に分かりやすく説明していただきました。 4年生は、住んでいる北上市の現状について、環境を視点にしながら社会科や総合的な学習の時間で学習していきます。それに沿った内容だったのでとても良かったです。				

実施日	6月3日	主催者	奥州市 市民環境部 生活環境課		推進員	若生 和江
		対象	奥州市立若柳小学校4学年26名 教諭3名 合計29名			
研修会		ごみ・リサイクルに関する学習会				
テーマ		ごみ・リサイクル				
内容		*推進員より ・ごみとリサイクルの何が課題かを考える ・分別体験を通じ、やってみるにつなげる ・家庭や学校で、リサイクルやごみ減量に取り組むきっかけをつくる。 *主催者より 講師が、ごみ・リサイクルの現状と問題について説明。「なぜごみが増えると問題か？」「ごみを出さないためにどんな選択が必要か？」などを児童に問いかけながら進行。児童らも「ごみだらけになる」「水が汚れる」などと元気よく答えていました。その後、講師が準備した空缶や食品トレイ、ペットボトルなどで、奥州市のごみ・リサイクルの分別について児童らが体験。講師と市職員による答え合わせの中で、リサイクルのルールには理由があること（例えばペットボトルの蓋を外して出すのは、蓋があるとうまく圧縮できないため）、そのルールを守ることが大切であることを、分かりやすく解説していました。児童からは、海のごみが川や水路から流れていっていることや、リサイクルができるものできないものがあることを知ることができたとの感想があった。				

実施日	6月5日	主催者	奥州市 市民環境部 生活環境課	推進員	若生 和江
		対象	奥州市立真城小学校4年生31名		
研修会		ごみ・リサイクルに関する学習会			
テーマ		ごみ・リサイクル			
内容		*推進員より ごみ・リサイクルに関する学習会 ・ごみが増えるとなぜ困る？・ごみってなんだろう？・資源を大切に、分別体験してみよう！・なぜ？を考え分別しよう ・普段分別をしたことがないという子供たちが多かったので、実際に体験から感じることや学ぶことが多かったと思う。 ・衛生係の職員の方から奥州市での分別について、わかりやすく話してもらったのが良かった。 ・なぜ？を考えながら、ごみを減らすことやリサイクルに取り組むことを 自分から取り組んでみてほしいと思う。 *主催者より 講師から、ごみ・リサイクルの現状と問題について説明。説明されたことについて「どうしてだろう」「じゃあ、これはどうだろう」と考える姿勢がうかがえた。 その後、講師が準備した空缶や食品トレイ、ペットボトルなどで、奥州市のごみ・リサイクルの分別について児童らが体験。普段からリサイクルをしているという児童は少なく、悩みながら分別していた。 講師と市職員で答え合わせを行い、リサイクルのルールやその理由、同じプラスチックでも容器と商品の違いなどを説明した。児童からは、リサイクルできるものとできないものの違いや、同じように見えて違うもの（アルミとスチールなど）が理解できたとの感想があった。新たな疑問が浮かんできて、終了後、残って質問していく児童もいた。			

実施日	6月8日	主催者	岩手県環境生活部環境生活企画室	推進員	高橋 功
		対象	103名		
研修会		イオン盛岡店における環境イベント			
テーマ		主に子どもや家族連れを対象とした、手回し発電機等を用いて楽しく脱炭素について学ぶ体験			
内容		*推進員より 段ボールでつくった屋根に太陽光パネルが設置してある我が家をはじめ、世界最小のソーラーカーを使い、太陽光発電のしくみについて体験して頂いた。 また、我が家を冷蔵庫に変身させ、冷蔵庫のエコな使い方についても理解を深めて頂いた。 体験を通して、太陽光パネルに当たる光の傾きで発電量が大きく変わることが解ったと言う声を多く聞くことができた。 *主催者より イオン来店者に「家庭のエコチェック」の参加を促すとともに、主に子どもを対象とした手回し発電機などの体験を実施したことで、県民一般にエコな行動の実践の意識づけを行った。			

実施日	6月9日	主催者	岩手県環境生活部環境生活企画室	推進員	若生 和江
		対象	一般来場者63名		
研修会		イオン盛岡店における環境イベント			
テーマ		主に子どもや家族連れを対象とした、手回し発電機等を用いて楽しく脱炭素について学ぶ体験			
内容		*推進員より イオン盛岡店における環境イベント ・「環境月間」の3Rの推進等の普及啓発活動 ・手回し発電体験等による省エネやエネルギーに関心を寄せてもらうこと ・エコチェックアンケートの呼びかけ ・小さなお子さん連れのご家族、高齢者のご婦人の関心度が高かった *主催者より イオン来店者に「家庭のエコチェック」の参加を促すとともに、主に子どもを対象とした手回し発電機などの体験を実施したことで、県民一般にエコな行動の実践の意識づけを行った。			

実施日	6/15 6/16	主催者	情報誌ゆうゆう	推進員	高橋 功
		対象	6/15:450名 6/16:468名		
研修会		環境フェスティバル			
テーマ		環境			
内容		*内容 環境フェスティバルイベント来場者対応、環境学習交流センターの出張環境学習会プログラムのサポート等(特に水素エネルギーについて学ぶ水素カーと光パネル搭載のミニカー対応) *主催者より 環境フェスティバルイベント来場者対応、環境学習交流センターの出張環境学習会プログラムのサポート等(特に水素エネルギーについて学ぶ水素カーと光パネル搭載のミニカー対応)			

実施日	6/15 6/16	主催者	情報誌ゆうゆう	推進員	川邊 弥生
		対象	6/15:450名 6/16:468名		
研修会		環境フェスティバル			
テーマ		環境			
内容		*推進員より 「リサイクル」「脱プラ」をテーマにエコワークショップを開催し、①牛乳パックでリサイクルはがきを作ろう ②新聞紙でエコバックを作ろう③使用済み封筒でエコバックを作ろう④エコ風呂敷の包み方を学ぼうのブースで来場者に呼びかけや作り方の説明等しました。親子参加が多いので、小さいお子さんは積み木コーナーで遊んだり、手回し発電キットや簡単ソーラーカーに夢中でした。エコチェックアンケート記入もスムーズに出来ました。 *主催者より 川邊さんの風呂敷包み講座及び環境フェスティバルイベント来場者対応、環境学習交流センターの出張環境学習会プログラムのサポート等			

実施日	6月19日	主催者	県北広域振興局保健福祉環境部	推進員	櫻井 則彰
		対象	生徒21名 教員10名		
研修会		令和6年度環境セミナー			
テーマ		ゲリラ豪雨や大雨の原因、対策、身を守るためにできること			
内容		*推進員より ・ゲリラ豪雨ではなく気象庁の正式呼称は局地的大雨 ・積乱雲発達の仕組みと近づいてきた場合の注意点、現地が晴れていても山間部で大雨が降り急激に川の水量が増えることがある。これに対処するには ・線状降水帯発生メカニズム、西日本の出来事ではなく岩手でも発生する ・大雨警戒レベルと避難の段階・日本近海の海水温の近年の上昇 ・洋野町ハザードマップの確認 ・地球温暖化発生メカニズム、何も対策しないとどうなるか ・プラネタリバウンダリー、ウエディングケーキ モデル 経済学者 ケネス エドワードホールディングの言葉 ・温室効果ガスを減らすための対策、今日からできそうなことは何か ・適応とはどういうことか *主催者より 「ゲリラ豪雨や大雨の原因、対策、身を守るためにできること」という演題で講演頂いた。洋野町でも集中豪雨が増えており、自らの身を守る意識を高める必要がある。その点において本研修は良い機会になったと思われる。			

実施日	6月19日	主催者	黒沢尻西地区自治協議会	推進員	川邊 弥生
		対象	北上市立黒沢尻西小学校児童と保護者合計120名		
研修会		地域協働学習 黒沢尻西小学校5年『環境学習』			
テーマ		SDGsについて			
内容		*推進員より 環境学習会を親子参加で開催。環境問題などSDGsの17の目標に沿って説明。地球温暖化の現状やごみの減量・資源の有効活用について。 最初はSDGsについて子供が出来る取組みを実例などを取り入れて説明。 次はマイ箸作りをグループ毎に体験。作ったお箸で輪ゴムゲームやつまみ方競争など行いませんでした。手回し発電キットやエネルギーのかばんの体験を行い、エネルギーの量を重さから気づいてもらい、エネルギーの使い方を考えてもらいました。 *主催者より ・SDGsについて ・自分たちにできるSDGs			

実施日	6月28日	主催者	奥州市 市民環境部 生活環境課(岩手県立水沢工業高等学校)		推進員	若生 和江
		対象	機械科8名			
研修会	SDGsに関する学習会					
テーマ	SDGsに関する学習会					
内容	*推進員より ・概要 ・日常の中での関りと個人としてできること ・水工生としてのスキルを活かしてできること ・地域の人達とつながり、パートナーシップで課題解決にあたること *主催者より 「ぼくらができることを活かしたSDGs～スキルで地域と地球をハッピーに～」と題し、若生氏が講演。SDGsの課題を自分事として捉え、発生源になっていないか、解決方策を持っていないか考えようと投げかけた。また、モノづくりの視点から持続可能について考えるために、地域のロングライフデザインである南部鉄器を紹介し、ホットサンド調理を通じて製品の良さを体感した。また、市の大内課長補佐もSDGsに絡めた研究・取組のポイントを動画とパワーポイントで解説し、情報発信しながらやってみよう、と投げかけた。					

実施日	6月28日	主催者	ひらいずみ地球温暖化対策協議会(平泉町町民福祉課)		推進員	徳谷 喜久子
		対象	10名			
研修会	地球温暖化学習会					
テーマ	地球温暖化・エネルギー					
内容	*推進員より ・世界の温暖化の現状を大まかに説明 ・2030年までの国の目標・岩手県の目標を具体的に説明 ・具体的な取り組み例として九州の「ゆめソーラー」の「私たち個人が出来る10の取り組み」を説明 ・環境マーク4種類 エコマーク・統一省エネラベル・FSC認証制度R100についての説明と、購入時にはラベルを確認しようと呼びかける ・「FEC自給圏」についてクイズ、これからの地域の在り方について →「持続可能な暮らしとは？」全員参加で話し合う *主催者より 「地球温暖化の今」と際して、学習会講師を依頼しました。家庭部門で実行可能な省エネ対策やCO2削減方法をわかりやすく丁寧に教えて頂きました。					

実施日	7月2日	主催者	矢巾町立煙山小学校		推進員	川邊 弥生
		対象	4年生児童105名 教職員5名 環境課1名 合計111名			
研修会	令和6年度環境学習					
テーマ	リサイクル、ゴミ					
内容	*推進員より ごみ問題を小学生が理解しやすいようにスライドで説明しました 「ごみを減らそう・リサイクルしよう」と題して、ごみやリサイクルなどはSDGsの17の目標のうち9つの目標に関連しており、ごみを見直して減らすことが重要。家庭から出るごみの種類や分別の仕方、リサイクルされるとどんな物に変わるか？など分かりやすく説明。どうしてごみを減らさないといけないのか？は「資源」「環境」「天然資源」の面から考える事も大切。県のごみ速報値では矢巾町のごみの現状や他の市町村と比較して減らすことの大切さを紹介。「クリーンセンター」や「やはなび」など子供達にもわかりやすくお話ししました。 *主催者より リサイクル、ゴミの分別について環境学習を実施することで、児童にごみの分別の大切さや自分でごみを減らしていくきっかけを与えることができました。					

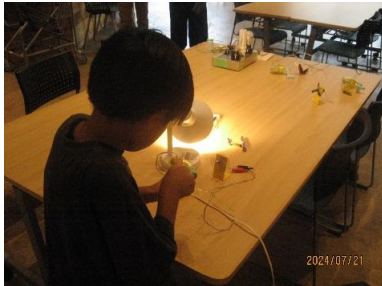
実施日	7月2日	主催者	奥玉市民センター	推進員	若生 和江
		対象	成人女性60代～70代15名		
研修会		食べて健康コース受講生			
テーマ		エコクッキング			
内容		*推進員より ・野菜を美味しく食べるエコクッキング ・季節の野菜を無駄なく活用した献立 ・食品ロスをなくすにはどのような事に気をつければよいか というテーマで、夏野菜を保存、活用できる内容のレシピを作成。 夏を乗り切るためにきゅうりなどをいろいろな方法で食べる事を提唱 *主催者より 昨年に引き続き、今年も材料等は若生さんに準備をしていただきました。今回は夏野菜を取り入れたテーマということで、これから採れる野菜(キュウリやナスなど)を使用し、アレンジの方法なども指導いただきながら講座を行うことができました。身近に取り入れやすい材料を使用していただき、家庭でも作りやすい内容でした。			

実施日	7月5日	主催者	公益社団法人岩手県農業公社	推進員	櫻井 則彰
		対象	岩手県農業公社職員38名		
研修会		令和6年度第1回職員全体研修会			
テーマ		SDGsについて			
内容		*推進員より SDGsとMDGs（ミレニアム開発目標）の関係、MDGsの成果と課題、MDGsは、途上国の多くの問題を解決する原動力となった。具体的な目標値を掲げ、15年間世界が一丸となって取り組んだ結果、多くの命が守られ、人々の生活環境が改善された。一方で、未達成の目標や様々な格差、“取り残された人々”が存在。解決できなかった課題や、次々と新たに発生する環境問題や社会課題に対して対応するために、世界中が取り組むSDGsが誕生！ ・Transformとは？、何故いまSDGsなのか？世界の課題にはどんなものがあるか？ ・人為起源のCO2排出量、日本のCO2排出量の内訳 ・SDGs3つのキーワード(地球規模、Global scale、バックキャスト Backcasting)誰一人取り残さない(No one will be lefto behind) ・農業とSDGsの関係、SDGsと私たちのつながり ・SDGsを自分ごととして捉える(自分にとって何が出来るか) *主催者より SDGsについての知識や理解を深めることができ、これからの業務や生活の役立てるきっかけになりました。			

実施日	7月6日	主催者	盛岡市環境部環境企画課	推進員	若生 和江
		対象	一般親子25名		
研修会		盛岡市環境学習講座「eco キッズ～新じゃがでエコクッキング！」			
テーマ		エコクッキング			
内容		*推進員より 盛岡市環境学習講座「ecoキッズ～新じゃがでエコクッキング！」 ・新じゃがで蒸し芋＆田楽味噌のせ ・ハッシュドポテトピザ 地産地消・フードマイレージ・食品ロスについてのお話 収穫体験後のクッキングだったので、新じゃがを味わいつつ楽しめるメニューを考えました。 ・フライパンで作れるよう具材等も火の通りやすいものにした。 ・子供たちがゆっくり時間をかけても大丈夫なように、一品を作る事にした。 ・買い物から調理までの間に気づくこと、できることがいろいろあることに気づいてもらったのはよかった。 ・子供たちが親子でクッキングを楽しんでいたのがよかった。 *主催者より 畑でのジャガイモ収穫体験のあと、調理体験を行った。講師からの分かりやすい説明で、家族それぞれおいしく出来上がり、地産地消についてのお話もいただけたことで、体験しながら理解につながる機会になった。			

実施日	7月13日	主催者	森と海のわいわて	推進員	臼澤 良一
		対象	10代～70代55名	 	
研修会		おとなの遠足(海の遠足)			
テーマ		地球温暖化が及ぼす海への影響			
内容		*推進員より ・吉里吉里海岸周辺の海に生育している昆布、ワカメ、アマモなどの海洋植物が、CO2吸収源として温暖化防止対策に役立っていることを説明 ・砂浜に打ち寄せられた海洋漂着ごみの回収し、海洋生物に与える影響並びにごみの種類や割合について説明。 ・回収したごみからビーチコーミングとして使用できる物、作品づくりについて説明。 ・砂浜に落ちている小石を回収し、石の形状から三陸の海の成り立ちについて説明。 ・参加者は大変参考になったと満足してくれたが、小学生がどの程度理解してくれたのか懸念が残った。 ・砂浜を会場とした炎天下での説明や活動に関わらず、参加者の協力により無事開催することができた。 ・参加者からは「地球環境をテーマとする活動であり、フィールドに散在している資料で説明してくれたので理解しやすかった」と感想をいただいた。 *主催者 海開きの日に、根浜海岸で地引網体験、吉里吉里海岸でビーチコーミングを行った。ほとんどの方が内陸からの参加者だったため、海を見てとても喜んでいた。臼澤講師もとてもユーモアがあり、参加者の皆さんから人気だった。現地の人から、海の講義を受ける機会もなかなかないので、皆さんとても良い機会になったと話していた。			

実施日	7月17日	主催者	遠野市立達曽部小学校	推進員	櫻井 則彰
		対象	5・6年児童14名、教職員3名 合計17名		
研修会		地球温暖化を防ごう隊～今できることから始めよう～			
テーマ		地球温暖化とエコ活動			
内容		*推進員より ・開始前に先生2人が温暖化を気にしていない子ども役と、それをとがめる母親役になり寸劇を披露。温暖化防止の大切さを訴えるパフォーマンスで子どもたちに大いにうける。 - 次に櫻井がスライドを使い、適宜実験を織り交ぜ話しを進める ・みなさんが使う電気は誰がつくっているのか？ ・発電機とモーターの実験 ・発電機で発電した電気エネルギーが途中で失われることの説明 ・発電の種類と化石燃料(火力発電の関係) ・皆さんが使う電気はいつ作った電気なのか？(3択方式) ①1週間前に作った②昨日作った③今作った ・遠野市民が仮に100kWhの電気を使うとしたら電力会社はいくらの電気を作ればよいのか？このことから皆さんが省エネ、節電をすることの意味がどうなるのか→結果としてCO2の発生を抑え、地球温暖化防止に資することになることの説明 ・具体的な家庭でできる省エネ、節電 ・家庭のエコチェックアンケートを実施し日常のエネルギーの使い方をふりかえる ・それでも地球温暖化は止まらない→適応の考え方と対処方法などをビデオで見せる *主催者より 発電の仕方を身をもって体験し、電気や資源のありがたさを実感することができた。また、地球温暖化を防ぐためのエコ活動への意識が高まった。子どもたちの興味関心が高まる教材を用意していただき、大変楽しく学習することができた。子どもたちだけではなく、教員も大変勉強になる研修でした。今後もお願いしたいです。			

実施日	7月18日	主催者	天が森老人クラブ	推進員	川邊 弥生
		対象	17名	 	
研修会	くらしの環境学習会				
テーマ	節電省エネ講話				
内容	*推進員より 「節電・省エネの工夫」についてスライドで説明しました ①節電・省エネの違い ②エネルギー消費の現状について③岩手県のごみ排出量、家庭ごみの今と昔、一関市のごみの出し方④ごみ分別の工夫 ⑤「3R」や「もったいない」について⑥プラごみ、食品ロス問題、3マイ運動について⑦はちどりのひとしずく⑧レジ袋削減の風呂敷活用(参加者が持参した風呂敷で色々な包み方を体験) 老人クラブの皆さんが良くわかるように、スライドの字を大きくしたり、写真などを多くして工夫しました。家庭ごみの今昔や分別の工夫等、理解して頂けました。岩手県のごみ速報値より他の市町村と比較して一関市の現状を説明し、今後のゴミ減量の更なるきっかけになったようです。風呂敷活用では風呂敷の歴史を説明し、身近な風呂敷に理解を深めてもらい、実際に持参した風呂敷で色々な包み方を一緒にしました。皆さんが手先を上手に使って結ぶことは、脳の活性にもなるので活用していただきたいです。 *主催者より パワポ資料やエコ風呂敷を使い、暮らしの中で取り組める環境対策について、楽しく学ぶことができました。特にも、風呂敷を使ったエコバックなどの活用法は、参加者が楽しんで取り組んでいました。				
実施日	7月19日	主催者	岩手県環境生活部環境生活企画室	推進員	花澤 淳
		対象	受講者21名 講師3名 主催者5名 合計29名	 	
研修会	令和6年度エコスタッフ養成セミナー				
テーマ	エコドライブ、事業所における省エネ活動のポイント、省エネ等に係るグループ討議・講評等				
内容	*推進員より ①「意外と知らないエコドライブ」と題して、エコドライブの基礎的な考え方とポイント、及びエコドライブに関するよくある質問について解説するとともに、社内でエコドライブを推進するにあたってのポイントを説明した。 1) エコドライブ自体、一般的に新鮮味がなく受講者の興味を喚起するものではないため、“なぜ今さらエコドライブを学ばなければならないのか”について、運輸部門の脱炭素やエコドライブの歴史を交えながら解説するとともに、ハイブリッド車や電気自動車などのエコドライブのポイントをしっかりと解説して今の時代に合った講習になるよう心掛けた。 2) 昼の眠くなる時間帯であるため、ミニクイズプリントを用意し、クイズの答え合わせを講義の中で各自行ってもらう形式で、受講者の集中力確保を目指した。 3) “安いガソリンを求めて走る場合は何キロまでだったらエコになるか”、“窓を開けて走ったら空気抵抗の増加で燃費が落ちないか”など、よくある疑問点をできるだけ織り交ぜて話すことで、通り一遍ではないエコドライブの話をしよう心掛けた。 ② 架空の会社の省エネ提案に関するグループワークのファシリテーションを行い、適宜アドバイスを実施するとともに、講評を行った *主催者より 事業所における省エネ取組の中心となる人材を養成するセミナーにおいて、エコドライブの講義及びグループ討議の進行・講評を担当していただきました。				
実施日	7月21日	主催者	盛岡市動物公園ZOOMO	推進員	櫻井 則彰
		対象	ZOOMO来園者10名	 	
研修会	ZOOMO SDGs Day				
テーマ	地球沸騰化について				
内容	*推進員より ・SDGsの17のゴールの解説などをスライドで説明。プラスチックの海洋汚染、地球温暖化、生物多様性、生物絶滅などを解説する。途中地球温暖化防止の部分では、電気がどうやって作られているのか？化石燃料で多くの電気が作られている現状から、節電、省エネによるCO2発生抑制効果の大切さを強調し解説した。2100年の天気予報も解説し猛暑が続いていることから、地球温暖化防止に努めることの重要性を強調した。 ・盛岡市民が仮に100kWhの電気を使うとしたら電力会社はいくらの電気を作ればよいのか？この結果から皆さんが省エネ、節電をすることの意味はどういうことか→結果としてCO2の発生を抑え、地球温暖化防止に資することになることの説明。 ・具体的な家庭でできる省エネ、節電方法 ・それでも地球温暖化は止まらない→適応の考え方と対処方法などをビデオで見せる。 *主催者より 発電体験や、防ごう隊ノートを活用した楽しいワークショップでした。子供達も夏休みに入り、自由研究に悩んでいたところに、楽しいプログラムを用意して下さり、大変ありがたかったです。				

実施日	7月22日	主催者	北上市生活環境部 環境政策課(笠松小学校)		推進員	川邊 弥生
		対象	4年生児童18名 教員2名 合計20名			
研修会	子どもとはじめる 暮らしの エコチャレンジ事前説明会					
テーマ	地球温暖化について					
内容	*推進員より 子どもとはじめる暮らしのエコチャレンジ事前説明会4年生を対象に実施 *主催者より エコチャレンジの実施前に受講することで、児童が取り組みの意義が理解できたと思います。 エコチャレンジは毎年実施しているため、学校から事前説明の要望があった際は今後も御対応いただきたいと思います。					

実施日	7月26日	主催者	宮古市田老公民館		推進員	高橋 功
		対象	学童に通所の児童14名			
研修会	ジュニア体験広場					
テーマ	水素エネルギー					
内容	*推進員より 二酸化炭素を出さない水素カーとソーラーカーの仕組みについてお話した後、実際に水を電気分解して水素と酸素がそれぞれのタンクに溜まる様子を確認していただき、つくった水素で車を走らせたり、世界最小のソーラーカーに懐中電灯で光をあてて車を走らせる体験をしていただいた。 *主催者より 環境について実験と環境紙芝居で楽しく学べた。					

実施日	7月27日	主催者	岩手県企業局		推進員	高橋 功
		対象	①33名 ②40名 合計73名			
研修会	令和6年度岩手県企業局施設見学会					
テーマ	再生可能エネルギー					
内容	*推進員より 地球温暖化などの地球規模の話から、冷蔵庫やLED照明など家庭でできる省エネの話まで幅広く講話をしていただいた。また、講話の中で行われた「手回し発電機」や「ソーラーパワーミニカー」などの発電の仕組みを学べる体験型の学習は、子どもたちに大人気であった。 *主催者 地球温暖化対策や家庭で実施できる省エネへの取組、再生可能エネルギーの重要性等を子どもたちにも理解してもらうよう分かりやすく講話をしていただいた。 受講者も省エネや再生可能エネルギー等について、理解を深めたようだった。					

実施日	7月27日	主催者	岩手県企業局		推進員	高橋 良和
		対象	①12名 ②11名 ③14名 ④11名 計48名			
研修会	令和6年度岩手県企業局施設見学会					
テーマ	再生可能エネルギー・温暖化気候変動					
内容	*推進員より 参加者に車中で事前支給の『風力発電工作キット』の完成見本の説明と、再生エネルギーの概略説明。循環社会の説明から、環境にやさしいとは何かを説明し、子ども達にも質問する。環境行動は、決してガマンの強制や不自由な生活を送ることでは決してない事。むしろ自分で考え・行動する中に、楽しみを見つけてほしい。私が考える環境に特にやさしい表示製品の提示、特に親御さん向けに、家庭でできる環境活動の事例提示やこれからの環境問題への向き合い方を説明する。 *主催者より 地球温暖化対策や家庭で実施できる省エネへの取組、再生可能エネルギーの重要性等を子どもたちにも理解してもらうよう分かりやすく講話をしていただいた。 受講者も省エネや再生可能エネルギー等について、理解を深めたようだった。					

実施日	8月3日	主催者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 北上笑いのたね事業所	推進員	若生 和江
		対象	20代～60代 男女14名 スタッフ5名 合計19名		
研修会			わらたね食堂～夏野菜でおいしく元気に～季節の野菜で作って食べる里山のごっつおレシピ		
テーマ			エコクッキング		
内容			*推進員より ・夏の食材で、余りがちなきゅうりを使って保存がきく調理体験。 ・涼しくなるレシピ、食品ロスを減らす工夫を紹介 ・料理を作ることが、楽しい…と思えるようなクッキングの時間に食材選び、調理の工程で、自分にも環境にも良いことが沢山あることに気づくきっかけを届ける。調理をしたい人も見学しながら見守る人もいろんな参加の仕方ができるクッキングの時間を心がけた。 ・今手に入りやすい食材で、家にある調理器具で、家に帰って作ってみようと思える内容に。家でも活用できて、家事の助けになるようなレシピが喜ばれた。 *主催者より 岩手の旬の食材を使って、お家でもできる簡単で美味しい料理の作り方を教わった。前回と同じく、調理に参加する人・見るだけ参加の人に分かれてイベントを行った。参加者も積極的に料理のポイントなどを講師の若生さんに聞き、おいしい料理が出来た。		
実施日	8月7日	主催者	一関いきいきむら	推進員	薄井 信次
		対象	26名		
研修会			みんなで目指そう サステナブルな社会		
テーマ			家庭の省エネ		
内容			*推進員より MDGs/SDGs 地球の歴史と環境 地球温暖化問題と対策 熱中症対策 最後のまとめはワークショップで 高齢者が多いので、あきないようフレンドリーに 基本的な事項はパワポで説明し、まとめは自分たちでワークショップでまとめ発表するようにした。 *主催者より 地球温暖化の現状について詳しく講義して頂いた後に、自分たちの生活の中に取り入れられる温暖化防止対策などについて、ワールドカフェ方式による意見交換・発表を行い、地球温暖化に対する認識を深める機会となりました。		
実施日	8月8日	主催者	三陸春風の会	推進員	若生 和江
		対象	18名		
研修会			三陸春風の会いわてSDGsサロン		
テーマ			岩手らしい脱炭素に結びつく暮らし方のヒント		
内容			*推進員より SDGs概要について ・取り組みに至る背景 ・「食」の視点から、抱える課題と私たちにできることの提案 ・「海洋プラスチック」「リサイクル」の現状と持続可能な暮らし ・パネルを使いながら、暮らしの中での出来事とのつながりを実感してもらえるよう内容を工夫した。 ・パワーポイントの使用ができるかを確認せず、A3判の資料では、遠くの座席の方は見えなかったのでは…と反省。 ・一方的な説明にならないよう、問いかけしながら進めてみた。 ・一人ひとりが考え、気になるコト、できることから実践に移してもらえれば…と思う。 *主催者より 1ミツパチと自然環境2岩手の暮らしからのメッセージと題して2つの環境学習講座を行いました。身近な生き物がどれほど人の暮らしに関わっているか、私たちがすべきことは何かとても分かりやすく聴講できたし実際にできることからやる気になったと大好評でした。		

実施日	8月23日	主催者	久慈市立宇部小学校	推進員	櫻井 則彰
		対象	生徒13名 教員4名 合計17名		
研修会			地球温暖化を防ごう隊 事前学習		
テーマ			地球温暖化		
内容			*推進員より 電気はどうやって作るのかな？→スライドを使い、適宜実験を織り交ぜ話しを進める ・みなさんが使う電気は誰がつくっているのか？ ・発電機とモーターの実験 ・発電機で発電した電気エネルギーが途中で失われることの説明 ・発電の種類と化石燃料（火力発電の関係） ・皆さんが使う電気はいつ作った電気なのか？（3択方式） ①1週間前に作った②昨日作った③今作った ・久慈市民が仮に100kWhの電気を使っているとしたら電力会社はいくらの電気を作ればよいのか？このことから皆さんが省エネ、節電をすることの意味がどうなるのか→結果としてCO₂の発生を抑え、地球温暖化防止に資することになることの説明 ・具体的な家庭でできる省エネ、節電 ・家庭のエコチェックアンケートを実施し日常のエネルギーの使い方をふりかえる ・それでも地球温暖化は止まらない→適応の考え方と対処方法などを映像で見せる *主催者より 電気の仕組みや電気の大切さについて学べた。 子供たちにわかりやすい内容で最後まで飽きることなく学習できました。		
実施日	8月27日	主催者	奥州市 市民環境部 生活環境課	推進員	若生 和江
		対象	江刺ひがし小学校		
研修会			奥州市環境学習事業「地球温暖化を防ごう隊取組の事前学習会」		
テーマ			地球温暖化		
内容			*推進員より ・地球温暖化の仕組み・課題・解決のためにできることを共有しながら、地球温暖化を防ごう隊の活動について説明を行った。 ・クイズなどを取り入れ、自ら学ぶ楽しさ興味を引き出しながらすすめた。 ・子供たちと対話しながらすすめるようにした。 *主催者より 前半はSDGsについてパワーポイントや動画を用いて説明してもらった。後半は生徒が4人1組で「SDGsトーク」をワークショップ方式で行った。 生徒達が考えて、今できるSDGsの取り組み。生徒達の活動。 岩手県、盛岡市におけるSDGsの取り組み。		
実施日	9月5日	主催者	盛岡市立見前中学校	推進員	櫻井 則彰
		対象	1学年168名		
研修会			SDGs学習会		
テーマ			カードやスゴロクでSDGsを知る		
内容			*推進員より ・2017年SDGsが国連で採択された晩に国連ビルに投影された映像とその意味するもの（貧困が1番初めに来ている。2番目が飢餓をなくそうであることの意味は何か？） ・Transformとは何か？パラダイムシフト、パラダイムチェンジよりも意味は大きい ・何故いまSDGsなのか？MDGs（ミレニアム開発目標）の成果と課題 ・ミレニアム開発目標（MDGs）は、途上国の多くの問題を解決する原動力となった。具体的な目標値を掲げ、15年間世界が一丸となって取り組んだ結果、多くの命が守られ、人々の生活環境が改善された。 ・一方で、未達成の目標や様々な格差、“取り残された人々”が存在。 MDGsで解決できなかった課題、新たに発生する環境問題や社会課題に対処するために、世界がとりくむSDGsが誕生した！ ・クイズ世界で水道の水が直接飲める国の数はどれくらいか？ ・海ゴミの実態 プラスチックが健康に及ぼす影響はあるのか ・人為起源のCO₂排出量、日本のCO₂排出量の内訳2019年 ・温室効果ガスの排出源、温室効果ガスを減らす、2050年カーボンニュートンに向かうための施策をどうするか ・自然界のつながり ・昆虫絶滅 ・生物多様性の喪失は人間の首を絞めることにつながる ・SDGsでお話しましょう。ミニワークショップの開催 *主催者より 前半はSDGsについてパワーポイントや動画を用いて説明してもらった。後半は生徒が4人1組で「SDGsトーク」をワークショップ方式で行った。 生徒達が考えて、今できるSDGsの取り組み。生徒達の活動。 岩手県、盛岡市におけるSDGsの取り組み。		 

実施日	9月6日	主催者	岩手県環境生活部環境生活企画室	推進員	高橋 功
		対象	7名		
研修会		令和6年度「いわて地球環境にやさしい事業所」エコスタッフ養成セミナー（沿岸大槌町文化）			
テーマ		エコドライブ、事業所における省エネ活動のポイント、省エネ等に係るグループ討議・講評等			
内容		*推進員より 午前は、DVDを見て頂きながらエコドライブのポイントについて、午後は「職場のエコは家庭から」というサブタイトルで、電気・事務所（住宅）・自動車について、エコのポイントや県内企業が取り組んでいる事例、そして6年前北海道で発生した大停電（ブラックアウト）を教訓に、エコスタッフとして知っておいてほしい点について、手作りの道具を使った実験等交えながらお話しさせていただいた。 *主催者より エコドライブ講習及び事業所における省エネ活動のポイントについて御講演いただいた。また、グループワークにて、各グループへの質疑応答、助言及び講評をいただいた。自作の道具により参加者も手を動かしながら説明を受けることで、LEDと白色電球の効率の違いなどを直感的に理解することができ、省エネ活動をより身近な取り組みとして感じてもらえたと思います。			
実施日	9月7日	主催者	金ヶ崎町中央生涯教育センター	推進員	若生 和江
		対象	金ヶ崎町民10名		
研修会		かねがさき町民大学2024			
テーマ		食品ロス、エコ・クッキング			
内容		*アドバイザーより 今日から始めよう！家庭でできるエコクッキング」講座 ・夏野菜を使ったカレー ・夏野菜調理に役立つ万能みそ ・家に余っている食材を持ち寄り、食材からおかずを作ってみよう！ ・水切り、洗い物でできるエコの紹介 ・季節の野菜等を活かした調理が美味しく、体にも、地球にも良いことを実践を通して伝えられてよかった。 ・食材も調味料も調理方法も身近なもので作れるよう工夫した。 ・当日持ち寄った食材を見て献立を決めるというのは、今回初めての試みでチャレンジングであったが、普段家庭でレシピからではなく今ある食材で献立を考えるという基本に立ち返ることにつながってよかったと思う。 ・地元の食材、旬の野菜を使って作る事の良さを一緒に作る、食べるを経験しながら伝えられてよかった。 *主催者より 受講者からの質問に丁寧に答えていただき、手本を見せながらわかりやすく進めていただいた。受講者からも先生が話しやすい方でとても良かったという声があった。とてもわかりやすく説明していただき、実践しながら学ぶことができた。			



実施日	9月7日	主催者	紫波町産業部環境課	推進員	櫻井 則彰
		対象	若年者～高齢者10名		
研修会		令和6年度 紫波町環境マイスター養成講座「SDGsにかかる講座」			
テーマ		SDGsにかかる講座、環境に関連するSDGsの目標について、個人ができること			
内容		*推進員より ・SDGsとは何か、1番に貧困をなくそうが来ている訳、2番に飢餓をなくそう、3番に健康と福祉、4番に質の高い教育のように順番が形成された理由と訳を解説。 ・現在世界で大きな課題となっているものは何か？トピックスを考えてもらう。私が考えたのは・人口問題(増え続ける世界人口)・森林破壊・エネルギー問題・地球温暖化・プラスチックの海洋汚染問題・コロナの感染・食料問題・水の問題(安全な水を飲めない人々)・格差の問題などある ・プラスチックの海洋汚染、地球温暖化、生物多様性の喪失は深刻であり、これに特化して解説する。 ・各種映像でプラの海洋汚染の状態、これが人間の健康問題にも波及しつつある現実を紹介。一旦、血管内に入ったプラスチックの排出経路は不明。 ・加速する地球温暖化、ドイツのポツダム研究所のヨハンロックストローム博士の「私たちは今決定的に重要な10年の中にいる」を紹介。 ・温暖化をふせぐために私たちは何をすべきか？ ・生物多様性の喪失は深刻な事態を迎えている。 ・書籍「昆虫絶滅」の紹介、WWFが示す生物多様性指標の急速な減少、イギリスの生態学者Nマイヤースの生物の絶滅速度の比較表、現在毎年4万種の生物が絶滅している。生物種数は既存で175万種、未知のものを含めても870万種ほど、毎年4万種が減れば時間はあと200年しか残されていない。 *主催者より SDGsという大きなテーマについて、映像を交えながら、分かりやすくご説明いただきました。受講者の反応は好評で「テーマが大きく自分ひとりでだけで出来ることではない。真剣に個人・市町村・国が考え、取り組み、未来のこどもたちに繋げていきたいと思った。」との感想が寄せられました。			

実施日	9月17日	主催者	奥州市地域婦人団体協議会	推進員	花澤 淳
		対象	28名		
研修会		省エネとリサイクルに関する勉強会			
テーマ		生活の中での省エネ・リサイクル分別について			
内容		*推進員より 10:30～11:30の1時間、「生活の中での省エネについて」と題し、家庭でできる省エネの取り組み方のポイントを解説した。特に、省エネ対策の費用対効果を明確にして解説して取り組み意欲を刺激することを意識して話し、脱炭素で重要となる住宅断熱についても考え方から効果まで丁寧に解説した。 *主催者より リサイクル分別について分別方法や不可のものなど現物を交えて説明。省エネについて主に家庭でできる節約についてプロジェクターを使って説明していただいた。			

実施日	9月20日	主催者	八幡平市立大更小学校	推進員	川邊 弥生
		対象	第4学年児童55名 教職員3名 保護者41名 合計99名		
研修会		環境に関する講座			
テーマ		ごみ問題・海洋汚染など			
内容		*推進員より 環境について「ごみを減らそう・リサイクルしよう」と題してスライドで説明。ごみやリサイクルなどはSDGsの17の目標のうち9つの目標に関連しており、ごみを見直して減らすことが重要。家庭から出るごみの種類や分別の仕方、リサイクルされるとどんな物に変わるかを分かりやすく説明。どうしてごみを減らさないといけないのかは「資源」「環境」「天然資源」の面から考える事も大切。県のごみ速報値では八幡平市のごみの現状や他の市町村と比較して減らすことの大切さを紹介。マイクロプラスチックごみについても詳しく説明した。 親子参加の学習会で、ごみについて詳しく説明。ごみ問題は地球温暖化、マイクロプラスチックごみ、食品ロスなどと繋がっているため、1人1人の行動が大切と説明した。前半はスライドで説明して、後半はごみのリサイクルとして、廃油、牛乳パック、使用済みハンガーなど活用した石けん作りをした。子供たちが作った石けんは地域の人に使うもらい、益金は寄付するとの事で、丁寧に混ぜることで良い石けんが出来ると説明した。エコチェックアンケートは、親子で話し合いながら記入していて微笑ましかった。 *主催者より パワーポイントで、絵や図を提示していただきながら、講話をしていただきました。 なぜ、ごみを減らさないといけないのか、ごみを減らすために自分たちにできることは何かなど、日常を振り返って、改善できることのヒントをたくさんいただきました。			

実施日	9月25日	主催者	県北広域振興局 保健福祉環境部	推進員	佐々木 洋介
		対象	岩手県立久慈東高等学校 生徒13名 教員2名 合計15名		
研修会		令和6年度環境セミナー			
テーマ		海洋プラスチックと海洋に係る仕事について			
内容		*推進員より 海洋プラスチックと海洋に係る仕事について お題「海洋プラスチック」 ①プラスチックとは ②海洋プラスチックについて ③これからどうすれば、、、 *主催者より 「海洋プラスチック汚染と海洋に係る仕事について」という演題で講演頂いた。太平洋の廃プラスチックの汚染状況について御教示頂き、さらに、就職を控えている生徒には海洋に関する仕事を紹介した。			

実施日	9月29日	主催者	盛岡市中央公民館	推進員	櫻井 則彰
		対象	一般参加者3名、公民館職員2名 合計5名		
研修会		令和6年度盛岡市中央公民館連続講座 SDGs講座～もりおか市民のはじめてのSDGs～			
テーマ		SDGsってななに			
内容		*推進員より SDGsとMDGs（ミレニアム開発目標）の関係、MDGsの成果と課題、MDGsは、途上国の多くの問題を解決する原動力となった。具体的な目標値を掲げ、15年間世界が一丸となって取り組んだ結果、多くの命が守られ、人々の生活環境が改善された。一方で、未達成の目標や様々な格差、“取り残された人々”が存在。解決できなかった課題や、次々と新たに発生する環境問題や社会課題に対して対応するために、世界中が取り組むSDGsが誕生した。 ・Transformとは？、何故いまSDGsなのか？世界の課題にはどんなものがあるか？貧困、飢餓、健康、教育、ジェンダー平等等…。 ・人為起源のCO2排出量、日本のCO2排出量の内訳 ・SDGs3つのキーワード(地球規模、Global scale、バックキャスト Backcasting)誰一人取り残さない(No one will be lefto behind) ・多くの世界課題の中でプラスチック、地球温暖化、生物多様性の課題は深刻であり、これらを強調して話す。SDGsの各項目を自分ごととして捉える(自分にとって何が出来るか)を考えてもらう契機とする。 *主催者より 受講者からはSDGsとは何かが詳しくわかったや世界が危機感を持って取り組まなくては行けない問題だと感じていることが改めてわかりました。自分でできることから行っていきたいな度の感想があり、本講をつうじ、SDGsについて知る貴重な機会となりました。			

実施日	10月17日	主催者	盛岡市立杜陵小学校	推進員	櫻井 則彰
		対象	5年生児童29名、教職員 1 名 合計 30 名		
研修会		総合的な学習の時間			
テーマ		地球温暖化			
内容		*推進員より ・電気はどうやって作るのかな？→スライドを使い、適宜実験を織り交ぜ話しを進める ・みなさんが使う電気は誰がつくっているのか？ ・発電機とモーターの実験 ・発電機で発電した電気エネルギーが途中で失われることの説明 ・発電の種類と化石燃料(火力発電の関係) ・皆さんが使う電気はいつ作った電気なのか？(3択方式) ①1週間前に作った②昨日作った③今作った ・岩手県の温暖化の状況(盛岡、宮古、大船渡の100年の気温の変化) ・盛岡市民が仮に100kWの電気を使っているとしたら電力会社はいくらの電気を作ればよいのか？このことから皆さんが省エネ、節電をすることの意味がどうなるのか→結果としてCO2の発生を抑え、地球温暖化防止に資することになることの説明 ・具体的な家庭でできる省エネ、節電 ・家庭のエコチェックアンケートを実施し日常のエネルギーの使い方をふりかえる ・それでも地球温暖化は止まらない→適応の考え方と対処方法などを環境省が作成した映像で見せる ・災害への対応、大雨、洪水の時の避難をどうするか *主催者より 電気の仕組み・電気を使用することで起こる地球温暖化への影響			

実施日	10月25日	主催者	特定非営利活動法人紫波みらい研究所	推進員	若生 和江
		対象	主に紫波町内に住んでいる方(6名)		
研修会		うちエコごはん講座			
テーマ		エコクッキング			
内容		*推進員より 地元の食材を使い、エコな調理方法を学びながら環境の話を聞く ・これから旬を迎える冬野菜を使った料理を作る ・調理の際に、洗い物を減らす工夫を伝える ・普段家にある調味料の組み合わせで作る事 ・生姜を使って、体が温まる調理などについて *主催者より 旬の食材を無駄なくおいしく食べる調理方法を学ぶ講座。 若生先生からは、旬の食材を工夫して最後まで食べきる工夫や、エコな調理方法を教えていただきました。			



実施日	10月25日	主催者	岩手県環境生活部環境生活企画室	推進員	林 俊春
		対象	48名		
研修会		令和6年度 エコスタッフ養成セミナー			
テーマ		エコドライブ、事業所における省エネ活動のポイント、省エネ等			
内容		*推進員より 地球温暖化の背景とここ 30 年の世界温暖化対策に係る流れについて、解説をした。なお、二酸化炭素の排出量の計算手法が大事な要件となることから、このことについて重きをおいて、解説した。 今年度からの新しい試みとして、「中小事業者向け再エネ・省エネ取組事例集」を活用し、環境省が勧める地球温暖化対策について「現状を知り、排出量を測定し、減らす事」の 3 ステップについて解説し、現状、2030 年、2050 年の目標を明確にし、現状、7t/人、2030 年には 3.2t/人、2050 年には 1 トン/人目標であることなどを示し、どのような個人的生活スタイルが求められているかを説明した。 *主催者より 地球温暖化抑制に取り組む中心的人材(エコスタッフ)の育成を目的とした当セミナーにおいて、地球温暖化対策の歴史的背景や現状、事業所における取組み方法について御講義いただきとともに、グループ討議では、進行と講評までを御担当いただきました。 盛岡会場は参加者数が多くグループも8つありましたが、スムーズに進行していただき、予定していた時間内で1グループずつ丁寧な講評も頂戴しました。受講者からも好評でした。			



グループワーク発表様子

実施日	10月26日	主催者	岩手県環境生活部資源循環推進課様	推進員	伊藤 信子
		対象	一般		
研修会		3R推進月間・食ロス削減月間イベント			
テーマ		食と環境			
内容		*推進員より ・環境にやさしい食スタイルとしてのヴィーガンについて ・食品ロスとは何か ・食品ロスを減らすためにできること ・エコ・時短・ヘルシーを同時に叶える野菜丸ごとクッキング術の実演と試食 ・丸ごと調理のメリット ・「買い物は投票なんだ」私たちの行動から未来が変わる *主催者より 写真の通り			



実施日	10月27日	主催者	FUN クリエイト	推進員	高橋 功
		対象	一般来場者285名		
研修会	奥州いさわONEサークルフェスタ				
テーマ	エコロジーの体験				
内容	*推進員より 発電体験として、手回し発電機を回すと煙突からハロウィン風船が飛び出す教材をはじめ、豆電球とLED電球の違いを体験できる物や、白熱電球と蛍光灯の違いを体験できる教材を使い、電気をつくり続ける大変さを学んでいただいた。また、エコな遊びでは、すすきと輪ゴムを使ってすすき鉄砲をつくり、自分でつくったすすき鉄砲で的を射って遊んでいただいた。 *主催者より 子どもたちを対象とした内容でしたが大人の方も楽しく参加していただき盛況でした。				

実施日	11月4日	主催者	JAいわて花巻女性部 石鳥谷支部7区	推進員	川邊 弥生
		対象	女性部員14名		
研修会	SDGs講習会・風呂敷の活用方法について				
テーマ	SDGs・風呂敷の活用方法				
内容	*推進員より SDGs講習会・風呂敷の活用方法について SDGsの17の目標と私たちに出来ることを分かりやすく説明 レジ袋削減の風呂敷活用として風呂敷の歴史から色々な国の活用方法を紹介して、各自持ち寄った風呂敷で包み方を実践しました 展示した約30種類の風呂敷包みを見てもらい、ペットボトル・菓子箱・お弁当箱・ティッシュBOX・ワイン瓶・かご・リュックなど包んでももらいました また、手ぬぐいも13通りの活用方法を紹介しペットボトルなど包みました。 *主催者より 皆さん楽しそうにいろいろな包み方を試して初めて見る包み方に興味を持って聞いていました。				

実施日	11月6日	主催者	岩手県環境生活部環境生活企画室	推進員	杉枝 武雄
		対象	38名		
研修会	令和6年度エコスタッフ養成セミナー				
テーマ	エコスタッフの役割・エコドライブの方法				
内容	*推進員より エコスタッフ養成セミナーにおけるエコドライブ座学講習及び事業所における省エネ活動のポイントの講師、架空オフィスの省エネ対策全体討議結果の講評 *主催者より エコドライブの方法、杉枝氏の勤務先である刈屋建設(株)におけるエコスタッフの役割、集団討議の講評について対応して頂いた。初心者にもわかりやすい講義であった。				

実施日	11月7日	主催者	奥玉市民センター	推進員	若生 和江
		対象	12名		
研修会	令和6年度せんまや里山塾「食べて健康コース」				
テーマ	「あると助かる！常備菜レシピ」				
内容	*推進員より あると助かる！常備菜レシピ 「まごはやさしい」豆・ごま・海藻・野菜・きのこがふんだんにとれる料理 ・これから旬を迎える冬野菜を使った料理を作る ・普段家にある乾物・調味料の組み合わせで作る事 ・生姜を使って、体が温まる調理などについて *主催者より 常備菜レシピというテーマで、秋冬に向け自宅で常備している食材(乾物等)を取り入れた内容でご指導いただきました。レシピ以外にも余った食材、自宅にあるもので作れるレシピも教えていただきました。グループに分かれて調理を行いました。都度ポイントなどは説明をいただきながら作ることができ、分かりやすくスムーズに進めることができました。				

実施日	11月10日	主催者	住田町	推進員	櫻井 則彰
		対象	50名		
研修会		令和6年度住田町まちづくり大会 特別講演			
テーマ		家庭でもできる脱炭素の取り組みについて			
内容		*推進員より ・SDGsの概要 * transformの意味、* 1番に貧困、* 2番に飢餓、4番に教育、6番に水とトイレが来ていることの意味とその内容。世界中に安全な水、衛生的なトイレを造るための費用と、世界で使われる軍事費の比較 * 地球上で起こっている問題で、皆さんが考えるものは何か？ * プラスチックの海洋汚染はこの中でも極めて深刻 * 東南アジアでのごみの現状、これらが海流によって日本に流れ着き、西日本の海岸が汚染されていることの実態。 * 青森県竜飛岬の海岸の状態と釜石市杉の浜の現状 * 世界のプラスチックの生産量の推移と海洋生物に影響を与える動画 * マイクロプラスチック、ナノプラスチックが人体に影響を及ぼしている現実 * 捨てられたごみは川から海へ、年間800万トンが流れ出る。この量はジェット旅客機5万機に相当 * 2050年にはごみの量と魚の量が同じになる * 使い捨てられるプラスチック、一旦海に流れれば分解しないで残り続ける * 私たちがやらなければならないのはまずはリデュース、ごみを拾う、この活動を広げること、東海新報2024.11.5の記事(2025年4月からペットボトルの回収を町が始めることの紹介) *主催者より 家庭でもできる脱炭素の取り組みについて、現在の世界的ごみ問題、SDGsの視点からお話しいただき、ペットボトルの回収が来年から始まる当町、町民にとって非常に有意義な講演となりました。			

実施日	11月12日	主催者	担い手 ほっこりの会	推進員	高橋 功
		対象	27名		
研修会		居場所 ほっこりの会			
テーマ		環境についての話およびエコな遊び			
内容		*推進員より 温暖化のしくみや影響について手づくりのブック本を見ながら理解を深めて頂いた。その後、再生可能エネルギーを使った発電について体験して頂き、再生可能エネルギーを使った発電にも工夫が必要な点も多いことから、身近にできるエコへの対策が必要なことについて、手づくりの道具で模擬体験して頂きながら理解を深めていただいた。また、電気を使わないエコな遊びとして、段ボールとビニール袋を使ってエアカーリングをつくり、床に置いた所定の位置(ハウス内)に止められるか、等して遊んでいただいた。 *主催者より 環境について手作り模型などを使ってわかりやすくご説明頂いた。			

実施日	11月15日	主催者	矢巾町立矢巾東小学校	推進員	高橋 功
		対象	5学年児童67名、教師2名 役場担当者1名 合計70名		
研修会		令和6年度矢巾町環境学習			
テーマ		地球温暖化			
内容		*推進員より 地球温暖化を防ごう隊員ノートや手づくりのブック本を使いながら、温暖化のしくみをはじめSDGs・再生可能エネルギーを使った発電等について、手づくりの道具を使った模擬体験等を通して理解を深めていただき、再生可能エネルギーを使った発電も、工夫が必要なことも多く省エネに取り組むことも必要な事に理解を深めていただいた。また、温暖化の影響に備え災害から身を守ろうと、飛来してきたトタン屋根や杉の木の倒木などで、身近に建っている電柱に取り付けられている電線が切れているのを見つけても、電気が流れている事があるので絶対に触らないことについて、手づくりの電柱や電線を使った道具で模擬体験しながら理解を深めていただいた。 *主催者より 地球温暖化 について、教材による体験学習で環境への意識付けのきっかけを与えることができていました。生徒も楽しみながら授業を受けていました。			

実施日	11月15日	主催者	金田老盛会・清水老盛会・熊田倉老盛会	推進員	川邊 弥生
		対象	13名		
研修会		暮らしの環境学習会			
テーマ		老人対象の節電省エネ講話			
内容		*推進員より 「節電・省エネの工夫」についてスライドで説明しました ①節電・省エネの違い ②エネルギー消費の現状について ③岩手県のごみ排出量、家庭ごみの今と昔、一関市のごみの出し方 ④ごみ分別の工夫 ⑤「3R」や「もったいない」について ⑥プラごみ、食品ロス問題、3マイ運動について⑦はちどりのひとしづく ⑧レジ袋削減の風呂敷活用 手ぬぐいの活用方法 参加者が持参した風呂敷で色々な包み方を体験 *主催者より パワポ資料やエコ風呂敷を使い、暮らしの中で取り組める環境対策について、楽しく学ぶことができました。特に、風呂敷を使ったエコバックなどの活用法は、参加者が楽しんで取り組んでいました。			



実施日	11月21日	主催者	奥州市公衆衛生組合連合会(奥州市生活環境課内)	推進員	川邊 弥生
		対象	50名		
研修会		奥州市公衆衛生功労者表彰式時記念講演			
テーマ		家庭ごみの減量化と地球温暖化について			
内容		*推進員より 未来の地球とわたしたちの暮らし～ごみ減量にむけて～をテーマに地球温暖化の現状を岩手県の気候・農業・林業・水産業に焦点を当てて説明しました。更に地球温暖化に備える適応策や緩和策の具体事例を説明。 岩手県のごみ速報値から地域のごみの量を知ることでごみ問題や減量に取り組む事や北上市のごみ手数料化の成果などデータを元に紹介。またマイクロプラスチックごみや食品ロス問題について説明し、3R推進の具体的な行動事例を紹介。ごみを見つめて未来を変える事でSDGsの目標達成繋がる事。最後にはちどりのひとしづくから小さな力の大切さを話しました。 *主催者より パワーポイントを使用し、非常にわかりやすくごみの減量化、ごみの有料化の効果について触れていただきました。また、北上市との比較により身近な問題としてとらえることができましたと思います。			

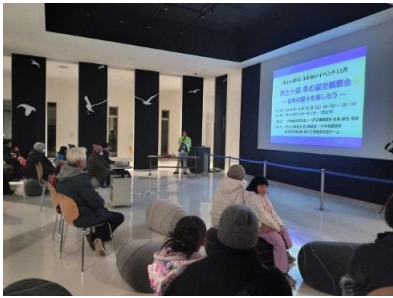


実施日	11月23日	主催者	盛岡市環境部環境企画課	推進員	伊藤 信子
		対象	22名		
研修会		盛岡市環境学習講座「いわての雑穀で料理教室」			
テーマ		雑穀を使った料理教室			
内容		*推進員より ・環境にやさしい食スタイルとしてのヴィーガンについて 料理教室 ・雑穀を使ったエコ&ヘルシーメニュー「もちキビポテトペペロンチーノ」 *主催者より 食物生産の過程で環境に負荷をかけていること、人と食と環境の関わりについてお話いただき、調理においしく取り入れることで岩手の気候風土に適している雑穀の魅力を知る機会になった。			



実施日	11月27日	主催者	矢巾町立不動学校	推進員	川邊 弥生
		対象	5年生児童1組29名 教師 4 名 合計33名		
研修会		令和6年矢巾町環境学習			
テーマ		地球温暖化			
内容(推進員より)		*推進員より 地球温暖化の最新情報～2100年未来の地球と私たちの暮らし～をパワーポイントで説明。温暖化とは？ 世界の平均気温上昇は？ 温暖化の影響でどんなことが実際に起こっているか？ 気温上昇を2度未満に抑えるために？ 温暖化に対して私たちは何が出来るか？ クールチョイスクイズをみんなで考えよう。レジ袋の削減やマイクロプラスチック問題について。 はちどりのひとしづく等。 *主催者より 地球温暖化について、スライド資料やクイズ、エコ風呂敷の活用等により、温暖化の原因や児童自身ができる温暖化対策への意識付けのきっかけを与えることができていました。児童も楽しみながら授業を受け、活発に発言していました。			



実施日	11月30日	主催者	浄土ヶ浜ビジターセンター運営協議会		推進員	吉田 偉峰	
		対象	29名				
研修会	浄土ヶ浜 冬の星空観察会						
テーマ	天体と光害						
内容	*推進員より 季節の星空と星空環境の基礎知識、浄土ヶ浜の星空環境の現状 身近な星空環境の現状と保全について、座学や実際の星空観察を通じて理解を深めた。 *主催者より 天気が良かったが、放射冷却によりかなり冷え込んだ。前半の解説を短めにし、屋外での天体観測に移り、最後に室内に移動し、体を温めながら本日見た天体の解説をしていただいた。天体の解説に加え、漁火や街の光による「光害」についても解説いただく。						

実施日	12月1日	主催者	生活クラブ生活協同組合岩手		推進員	薄井 信次	
		対象	23名				
研修会	でんき生産者交流会						
テーマ	再生可能エネルギー						
内容(推進員より)	*推進員より 市民発電立ち上げ経緯手法 地域で再エネ発電所を作ることの意義、協議会の設立など 10年目を迎えての現在の状況 地球温暖化情報、 太陽光発電の体験 *主催者より 講師より、地球温暖化のひっ迫した状況や、一関で市民がそれぞれの仕事を持ちながら自分達で再エネの発電所を立ち上げた思いや経緯、地域で再エネの発電所をつくる意味等について話を聞いた。実際にソーラーパネルからどのように電気を発電するのか見て、体験した。 それぞれ仕事を持ちながら再エネの発電所をつくるという、その思いと行動力に感銘を受けたという人が多かった。我が家でも小さな太陽光パネルで発電したいという感想を持った人も多く、具体的なことを相談したいという人もいた。						

実施日	12月4日	主催者	東山町女性団体連絡会議		推進員	川邊 弥生	
		対象	54名				
研修会	プラごみ減らす努力を						
テーマ	プラスチックごみの減量について						
内容	*推進員より 「未来の地球とわたしたちの暮らし」～プラごみ減らす努力を～地球温暖化の現状から、岩手県の気候・農業・林業・水産業に焦点を当てて説明しました。地球温暖化に備える適応策や緩和策の具体事例を説明。岩手県のごみ速報値から一関市のごみの量を知ることでごみ問題や減量に取り組む事や、北上市のごみ手数料化の成果などを紹介。マイクロプラスチックごみの現状や減らすための取り組みを紹介。食品ロス問題について説明し、3R推進の具体的な行動事例を紹介。ごみを見つめて未来を変える事でSDGsの目標達成に繋がる事。最後にはちどりのひとしずくから勇気を持って行動することの大切さを話しました。 *主催者より 受講生は熱心に聞きうなづきながらスクリーンに見入っていました。身近な問題であり各々が心がけ一つで地球温暖化防止に寄与できるということを改めて認識した講演会でした。						

実施日	12月4日	主催者	県北広域振興局保健福祉環境部		推進員	佐々木 洋介	
		対象	生徒22名 教員7名 合計29名				
研修会	令和6年度環境セミナー						
テーマ	企業の海洋保全について						
内容	*推進員より ・県内企業や自治体等が行っている身近な海洋の環境問題への取り組み事例、特に高校生や大学生が関わっている取り組み事例の紹介 ・海洋プラスチック汚染について紹介 *主催者より 高校生に環境汚染(プラスチック類)の深刻さや、企業等がどのように連携して環境問題に取り組んでいるかご教示頂いた。 各団体が連携し協同で対応することは、佐々木講師の得意分野であることから非常に有意義であった。						

実施日	12月13日	主催者	松尾コミュニティセンター	推進員	高橋 良和
		対象	29名		
研修会		松尾輝楽大学			
テーマ		地域環境やゴミリサイクルの話			
内容		*推進員より ・主催者希望 ➡ 地域の新ゴミ処理の新設計画を機に、地域環境への考え方やゴミを減らす方法や家庭でできるゴミの減量化を学ぶ。①環境にやさしいとは何か？を考える。②従来、自然界の物質は、循環で成立していた。現在は、多くの物が循環出来なくなって、弊害が出てきたことを学ぶ。③私が気づいた、環境にやさしい製品の現物提示から学習する。④プラスチックを減らすため、先ず、身の回りにある、見えるものや見えないプラスチックに気づく ➡ 効果の持続する除草剤の製造を知る。畑作業で使われるPP紐を麻紐へ転換する、など。⑤ごみの減らし方は、インプット、利用、アウトプットの3つの段階全体を見て考え、ゴミの減量効果は、アウトプット＜利用＜インプットの順で、効果に差がある。⑥環境にやさしい製品を提供する会社は、人にも優しい物造りをしている ➡ 会社からの隠れたメッセージに気づく楽しみ。 ・私たちは、便利で楽なものを、生活の中で手に入れてきた。その反面、自然を感じ楽しむ余裕を手放してきた。私はむしろ、ひと手間をかけて、自然や生活を楽しむ余裕を生活の中に取り戻したいと考える。・・・等のことを伝えた。 ・口笛演奏を披露することで、環境にやさしいとは何か、を考えてもらう。 *主催者より 市に新しいごみ処理施設が建設されるにあたり、普段の生活の中でできるリサイクルやゴミの分別、環境に配慮した商品の選び方などを詳しく教えていただき、受講生のみなさんも関心を持ちながらお話を聞いていました。			
実施日	12月15日	主催者	奥州宇宙遊学館	推進員	吉田 偉峰
		対象	30名		
研修会		サイエンスカフェ page.75			
テーマ		光害の現状			
内容		*アドバイザーより 地域の星空環境・光害と地域のエネルギー消費等の相関 星空環境保全の先進事例・いわての星空環境調査の最新状況 *主催者より 吉田氏が長年行っている「光害」の調査の状況をお話いただいた。			
実施日	12月17日	主催者	八幡平市公衆衛生組合連合会	推進員	川邊 弥生
		対象	56名 事務局7名 合計63名		
研修会		八幡平市公衆衛生組合連合会主催研修会「令和6年度 八幡平市ごみ減量化を考える市民			
テーマ		ごみ減量～笑顔でつくる明るい未来～			
内容		*推進員より 「八幡平市ごみ減量化を考える市民の集い」で【ごみを減らそう・リサイクルしよう！】地球温暖化の現状、岩手県の気候・農業・林業・水産業を説明。地球温暖化に備える適応策や緩和策の具体事例。岩手県のごみ速報値から八幡平市のごみ排出量は33市町村の中で1番多い為、地域のごみの量を知ることでごみ問題や減量に取り組むきっかけとし、北上市のごみ手数料化の成果などを紹介。また燃えるごみ・燃えないごみ・資源ごみの分別方法や分別アプリの活用で減量に取り組む事。マイクロプラスチックごみの現状や減らすための取り組みを紹介。食品ロス問題や、3R推進の具体的な行動事例を紹介。ごみを見つめて未来を変える事でSDGsの目標達成に繋がる事。最後にはちどりのひとしづくから勇気を持って行動することの大切さを話しました。 *主催者より 当日の状況は写真のとおりです。 公衆衛生組合連合会会員、市婦人連絡協議会をはじめ、一般市民から多く来場いただき、ごみを減らして環境にやさしい暮らしの実践に向けて市民が考える良い機会となりました。特に、川邊さんからは、地球温暖化の現状と対応策から、県内のごみ排出量の現状とごみ減量化の取組事例、そして3Rの推進とごみを減らす初・中・上級編の取組方について説明いただき、参加者は改めて「ごみを減らして環境にやさしい暮らしを実践していく」という意識を高めることができました。 また、講師の川邊先生によるエコ風呂敷講座や生ごみ処理バケツ等の展示品紹介も好評の様子でした。			

実施日	1月11日	主催者	NPO 法人ワーカーズコープ 北上笑いのたね事業所	推進員	若生 和江
		対象	10代～60代 男性 女性18名 スタッフ3名 合計21名		
研修会		わらたね食堂			
テーマ		郷土料理			
内容		*推進員より みんなで作る「郷土料理」というテーマで、希望の多かったすいとん作り ・食材を無駄なく使うこと ・旬の食材で、体の温まる料理を作る事 ・身近な調味料で手作りのたれを作ってみよう 普段の食生活でも、応用がきく作り方、かんたんな料理と一緒に作りながら「食」を通じたコミュニケーションを楽しみながらエコクッキングを学ぶ。 *主催者より 岩手の旬の食材を使って、心もからだもぽかぽかになる料理を教わった。すいとん作りは、昨年に引き続き2回目。前回と同じく、調理に参加する人・見るだけ参加の人に分かれてイベントを行った。参加者も積極的に料理のポイントなどを講師の若生さんに聞き、協力しながらおいしい料理が出来た。			



実施日	1月13日	主催者	三陸春風の会	推進員	千葉 理恵
		対象	12名		
研修会		いわてSDGsサロン第4回 ～脱炭素って何？～			
テーマ		気候変動と環境問題をめぐる経済と社会			
内容		*アドバイザーより 脱炭素や環境用語、政府の取り組みなどについて、幅広い年齢層の方に知っていただくため、わかりやすい図や動画、言葉を使用し、下記の項目について説明を実施した。 1. 脱炭素とは？カーボンニュートラルとは？ 2. なぜカーボンニュートラルをめざすのか？ ・地球温暖化のしくみ ・地球温暖化による影響 3. 脱炭素に関連する主な用語について 4. 取組事例 5. 私たちができること！ はじめに、カーボンニュートラルについては、図を用いて、説明を実施した。 地球温暖化の説明では、2020年に件で作成した地球の미래の動画を用いたが、情報が古い部分については口頭で補足説明を実施した。 環境用語については、COP, ESG, GX, デコ活について、カタカナ用語だとわかりにくいいため、正式名称や由来なども含めて説明を実施した。 取組事例については、各県や団体での事例を、最後に、私たちができることとして、デコ活のなかで紹介されている、「フードロスの削減について、説目を実施し、できることから身近なところから取り組んでいただくよう、周知啓発を実施した。 *主催者より ピンとこない言葉カタカナや英語もどきがあふれる環境用語とその使われ方、意味するところ、温暖化対策に日常からできる一人一人の実践や取り組み事例について丁寧に整理して教えていただきました。スッキリした、わかりやすかったと参加者の皆さんから素直な感想が多くあり、環境問題を身近にといいつつ、いかに伝わりにくい表現が多いか改めて考えさせられました。			



実施日	2月7日	主催者	岩手県環境生活部環境生活企画室	推進員	林 俊春 岩井 光信 高橋 良和 花澤 淳	
		対象	県内事業者10名、中小企業基盤整備機構2名、推進員4名 合計16名			
研修会		脱炭素経営スキルアップセミナー				
テーマ		グループワーク時に脱炭素に向けた取組のアドバイス				
内容		*推進員高橋良和氏より 担当するAグループのグループワークの進行補助とアドバイス役として参加。各社の脱炭素に向けた取り組み発表の補足やフォローを、参加した推進員2名で行う。特に参考になると思われるアイデア等を他の参加者に役立つように、補足説明を加える。 *推進員花澤淳氏より 「脱炭素経営スキルアップセミナー」において、グループワーク時に脱炭素に向けた取組みのアドバイスを行った。単なる脱炭素達成率の数値の追求だけでなく、経営の課題(その業態が10年後にどうなっているか)や従業員のエンゲージメント(企業のブランディング)等ととも結び付けて対策を講じることで持続可能な経営に繋がるということを中心にアドバイスした。 *推進員岩井信光氏より ・出席企業事前アンケートによるグループ討議 Aグループ討議アドバイザー各課題によるアドバイス助言。社員全体周知の方法と意識向上の難しさ。いわて環境にやさしい事業所認定取得による得意先の確保ができたメリット、省エネの取り組み方がわからない。設備資金の確保の方法。何か新しい脱炭素取り組みについて等の討議があった。 *推進員林 俊春氏より スタッフが提出された事前アンケートに基づいて、討論する形式であった。私はアドバイザー役であり、個々の企業の有する課題や自らの周りにあるチャンスをどのように生かしたかを、アンケートの内容及び発表内容から汲み取り、助言をした。 *主催者より 推進員には、グループワークにおけるアドバイザー役として2人ずつグループに参加していただき、進行の補助や具体的な取組の手法など、活発な意見交換となるよう尽力いただいた。				

実施日	2月16日	主催者	県北青少年の家	推進員	吉田 偉峰 吉田 美幸	
		対象	123名(3回上映の合計人数)			
研修会		「プラネタリウム鑑賞デー」				
テーマ		冬の星座鑑賞と天文現象・トピックスの紹介				
内容		*推進員より 偉峰氏より: 星空環境と街灯かりの関係 美幸氏: 季節の星々と星空環境・市街地では観察が難しい星座について *主催者より 冬の星や星座の見つけ方、その星座にまつわる神話等をお話しいただいた。また、私たちの生活で発する光が星空の観測に与える影響を与えていることを、実験や例示を通して教えていただいた。 コミュニケーションを取りながら分かりやすくお話くださり、どの世代の参加者も大変満足していた。				

● 森のゼミナール



－ 森林環境学習会 －

実施期間	令和6年6月28日～令和7年2月28日	対象：県内幼児・小・中学校生
活動内容	樹木観察等・学校林活用・森のクラフト体験	
【取組の状況】 県民を対象に森林・林業の役割、生態系の有用性等の普及啓発を図るため以下の事業を実施した。 幼・小・中学校等31団体、計826名の幼児・児童・生徒を対象に、森林インストラクター等の指導者による森林環境学習会を開催。 森林環境学習会の実施場所は、教室、校庭、学校林、学校周辺の山林等で、樹木観察、植物観察、森林内散策、木登り、植物・木の実等を使った創作活動等、各学校等に派遣された講師の指導の下、多様な活動が展開された。 森林環境学習会を依頼した学校等から得たアンケート結果では、大変良い28校、良い1校と概ね好評であり、実施校の多くが、今後も森林環境学習会の継続を希望していた。 【実施校から寄せられた意見】 ・急な申し込みに対応していただきました。学校では体験できない活動を行っていただいたり説明をしていただきました。何より活動中の子どもたちの表情がとても良く充実した活動 となりました。感謝を申し上げます。 ・Y先生をはじめとして多くの方々にご協力いただき感謝いたします。 ・場所の許可とりから計画、準備とありがとうございました。園ではなかなかできない体験子どもたちの心にも残った様子でした。 ・講師の方には以前にも学校内で教えてもらったこともあり安心して活動できました。思ったことを言ったり、伸び伸びと活動したり、自然の中で子どもたちが育つよさを実感しました。ぜひ、今後も教えていただきたく機会を作っていきたいと思います。 ・担当いただいた講師の方には生徒が大変お世話になりました。植生やその環境で生きる小さな生物の生き様を見せながらの解説はとても教員も勉強になりました。自然に触れる機会の少ない子どもたちなので様々なことを体験させたかったので非常によかったです。本当にありがとうございました。 ・"自然は友だち"の合言葉があることで自然への親しみが深まりとても楽しく自然とのふれ合いができた。また、自然を守ることへの興味、関心につながり、その後の振り返りもしやすかった。 ・普段あたり前にある環境の中で、自然に触れる機会は多いものの、自然物を活かした活動の幅を広げたく今回申込をさせていただきました。様々な植物に興味を持ちたり宝物を探し見つけ出すワクワク感を感じながら楽しむ子どもたちの姿があり、子どもたちだけでなく職員も刺激を受けました。今後も森林学習会を継続したいと思います。 ・今回も講師の方々に学習会に必要な資料や製作材料をご準備いただき大変ありがたかったです。おかげ様で生徒も制作物を完成させ充実感、達成感を味わうことができました。ぜひ来年度以降も継続をお願いいたします。 ・学びの多い森林学習会でした。ありがとうございました。 ・講師の皆さまが事前に準備のために何度も足を運んでくださいました。大変ありがたかったです。 ・子どもたちがどんどん目を輝かせていろいろなことに挑戦する姿があり箱庭も時間調整していただき楽しむことができました。ありがとうございました。また講師の方にお会いしたいです。 ・可能であれば作業場所が子どもの背丈に合ったテーブル等での活動であればよいと思いました。木工工作作りは材料の中に木の実など種類が多くあればなおよいと思いました。 ・毎年実施させていただきありがとうございました。今回はいつもの講師の方ではなく初めての方で、下見、準備、当日と3回も足を運んで下さいました。打合せや問い合わせも何度もあり、ご負担だったのではないかと感じています。		
		

－ 森林環境学習会 －

児童・生徒をはじめ広く県民を対象に、森林・林業に対する理解を深めていただく機会を提供することを目的に、「森林環境学習会」等を開催。

No.1	実施日	6月5日	実施校	一戸町立鳥海小学校	講師	川村 晃寛氏、吉田 偉峰氏、吉田 美幸氏
			対象	2年生5名		
内容			いわてこどもの森森林学習：樹木観察、一戸観光天文台プラネタリウム			
No.2	実施日	6月27日	実施校	奥州市立衣里小学校	講師	菅原 民子氏、高橋 扶和氏
			対象	5年生15名		
内容			宿泊体験学習：森林の果たす役割・ふるさと自然塾内の樹木や山野草の観察・木工体験（表札づくり）			
No.3	実施日	6月28日	実施校	花巻市立大迫小学校	講師	高橋 修氏
			対象	16名		
内容			樹木観察等：学校敷地内の樹木の観察。「自分の樹」を決める・自然環境の保全に関心を持つ・木の実を使った工作体験			
No.4	実施日	7月3日	実施校	盛岡市立下橋中学校	講師	川村 晃寛氏、川村 冬子氏
			対象	1年生54名		
内容			第1学年宿泊体験学習「SHEL道場」、森林観察、「盛岡城跡公園の樹木を知ろう」			
No.5	実施日	9月10日	実施校	浄法寺小学校	講師	川村 晃寛氏
			対象	4年生とその親24名		
内容			親子工作教室：身近な木の実や木枝、枝木の円盤などを組み合わせて自由な発想で工作をつくる			
No.6	実施日	9月11日	実施校	大船渡市立越喜来小学校	講師	千田 永久世氏、千田 耕基氏
			対象	3年生10名		
内容			森林学習：川の始まりを見つける・川を取り巻く周辺環境の観察・川と海の繋がり、豊かな森の大切さ			
No.7	実施日	9月13日	実施校	奥州市立若柳小学校	講師	高橋 扶和氏
			対象	3年生14名		
内容			森林学習：樹木や森林の働きについて、木の実を使った工作、種とばし体験			
No.8	実施日	9月17日	実施校	ハレルヤ保育園	講師	川村 晃寛氏
			対象	年長児24名		
内容			年長児の自然遊び：ターザンブランコ遊び、お月見飾り			
No.9	実施日	9月18日	実施校	盛岡市立城北小学校	講師	川村 晃寛氏、川村 冬子氏
			対象	2年生78名		
内容			生活の授業：自然に親しむ			
No.10	実施日	9月25日	実施校	盛岡市立大慈寺小学校	講師	高橋 修氏、中村 日香氏
			対象	3年生19名		
内容			小学校林学習会：校庭の樹木観察、クラフト体験			
No.11	実施日	9月26日	実施校	滝沢市保育協会大沢保育園	講師	大堀 拓氏
			対象	年長組10名		
内容			大沢坂峠自然探検隊：大沢坂峠秋の七草探し、目をつぶって自然の音に耳を澄ましてみよう			
No.12	実施日	9月26日	実施校	滝沢市立柳沢小学校	講師	近藤 修三氏、渡辺 史織氏
			対象	1,2年生6名、3,4年生5名 合計11名		
内容			地域の森観察学習会：カラマツ林散策、オブジェづくり、樹木の大きさ測定、広葉樹林散策			
No.13	実施日	9月30日	実施校	八幡平市立安代中学校	講師	矢神 光政氏、福山 篤氏、近藤 修三氏
			対象	1年生20名、2年生10名		
内容			ふれあいの森森林学習会：クラフト材料の採取、採取した材料でやじろべえを作成、			
No.14	実施日	10月1日	実施校	盛岡市立羽場小学校	講師	川村 晃寛氏、川村 冬子氏
			対象	2年生14名		
内容			生活の授業：身近な自然を知る、自然や地域の暮らしぶりを学ぶ			
No.15	実施日	10月2日	実施校	盛岡中央高校付属中学	講師	浜津 ミサノ氏
			対象	みらい創造コース1年12名		
内容			森林学習会：森林公園散策、植物や虫の観察			
No.16	実施日	10月3日	実施校	久慈市立夏井小学校	講師	中野 雅之氏、松尾亨氏、貳又 功氏
			対象	1～4年生7名		
内容			夏井小の森で遊び学ぼう：森の働きの話、ツリークライミング・木登り体験			
No.17	実施日	10月10日	実施校	宮古市立山口小学校	講師	中沢 勤氏
			対象	5年生32名		
内容			学校林について学ぼう			

No.18	実施日	10月10日	実施校	宮古市立崎山小学校	講師	石塚 勇太氏、石塚 佳那子氏、大邊 慧之氏、小椋 優一氏、平塚 喬氏
			対象	1年生14名		
内容			ネイチャークラフト&臼木山自然公園観察会			
No.19	実施日	10月15日	実施校	社会福祉法人鶴山記念会りんごの森保育園	講師	大堀 拓氏
			対象	年長組17名		
内容			森のクラフト体験「秋の自然でお絵描き」: 自然の宝物探し、各自採取した自然の宝物で自由に制作			
No.20	実施日	10月15日	実施校	大船渡市立赤崎小学校	講師	千田 永久世氏、千田 耕基氏
			対象	5年生22名		
内容			森林学習: 里山の役割を知る、森林の果たす役割を知る、炭の効用休みのできるまでを学ぶ、五感を使った自然体験			
No.21	実施日	10月24日	実施校	奥州市立真城小学校	講師	管原 民子氏、小澤 崇氏、伊藤 富美子氏
			対象	1年生31名		
内容			校外学習: ノームの森の散策、葉っぱのしおりづくり、ノームの森の遊具で遊ぶ			
No.22	実施日	10月25日	実施校	盛南ひまわり保育園	講師	川村 晃寛氏
			対象	年長児40名		
内容			年長児の自然遊び: 公園遊び、自然素材採取、箱庭づくり			
No.23	実施日	10月25日	実施校	北川保育園	講師	川村 晃寛氏
			対象	年長児6名		
内容			北川保育園・年長児の自然遊び: 公園遊び、自然素材採取、葉っぱの金継ぎ			
No.24	実施日	11月1日	実施校	岩泉町立釜津田小学校	講師	中野 雅之氏、松尾 亨氏、山内 七恵氏、貳又 功氏
			対象	7名		
内容			森林学習: ロープを使った木登り、高い支点のブランコ、大きな木にかけたハンモックに乗る体験			
No.25	実施日	11月1日	実施校	北高田保育園	講師	川村 晃寛氏
			対象	年長児40名		
内容			自然遊び: 自然散策、山登り、ターザンブランコ遊び			
No.26	実施日	11月5日	実施校	遠野市立鱒沢小学校	講師	川村 晃寛氏
			対象	全校生徒18名		
内容			箱庭教室: 身近な木の実や木の枝、石やコケ、流木を組み合わせで自由な発想で箱庭をつくる			
No.27	実施日	11月8日	実施校	大船渡市立綾里小学校	講師	千田 永久世氏、千田 耕基氏
			対象	5年生10名		
内容			植樹体験: しんり			
No.28	実施日	11月13日	実施校	宮古市立磯鶏・高浜小学校	講師	石塚 勇太氏、石塚 佳那子氏、大邊 慧之氏、川原田 喬生氏、小椋 優一氏、平塚 喬氏、齋藤 真琴氏、福原 崇氏、
			対象	1,2年生91名		
内容			森林学習会: 磯鶏小浦山自然観察会、木工体験			
No.29	実施日	11月15日	実施校	金ヶ崎町立第一小学校	講師	小澤 崇氏、伊藤 富美子氏、高橋 扶和氏
			対象	1,2年生42名		
内容			森林学習会: 木の話、どんぐり運び、鳥と一緒にあそぼう(制作)			
No.30	実施日	1月22日	実施校	一関市立厳美小学校	講師	多門 真咲氏
			対象	1年生12名		
内容			冬芽の観察: テキストの写真と木の芽のサンプルを照らし合わせて種名を書き込む。			
No.31	実施日	2月28日	実施校	一関市立千厩小学校	講師	川村 晃寛氏
			対象	5年生54名		
内容			森林学習: 森林の機能について、大船渡の山火事について			

－ 森林環境学習指導者研修会 －

実施日	①指導者研修:令和7年1月15日 ②情報交換会:令和7年1月15日
活動内容	講義、実習等
対象	・県内各地域で森林環境学習の活動を実践するリーダー、スキルアップを希望する者 ・リーダー相互の連携を図る

【取組の状況】
①山本信次先生からの話題提供(岩手大学寒冷フィールドサイエンス研究センター教授)
②森を遊び尽くすワークショップのおさらい(新資料提供)川村 晃寛(森林インストラクター)
③各自の活動内容紹介と情報交換会及び問題意識の共有
④指導者研修会

開催場所:盛岡市遺跡の学び館
・各団体活動理念、活動手法、活動事例の発表
・充実した森林環境学習を実施するための意見交換等
合計23名の参加

①山本信次先生から話題提供(岩手大学寒冷フィールドサイエンス研究センター教授)
・良い森とは何かを考える。良い森を維持できる社会を考える。良い森とともにある社会のための教育を考える。
・潜在植林理論の解説
・原生林は良い森か
・環境教育の構成要素
・じぶんたちとかかわれる森をどう作るのか
②森を遊びつくすワークショップのおさらい
・森林インストラクターの川村晃寛氏が作成した「森遊びの取説」の最新の資料について解説。特に本日実技体験の葉っぱの金継について詳しく説明した。
③活動内容紹介＆情報交換会
・10名の方からそれぞれの活動について発表していただいた。
④指導者研修会
・講師川村晃寛氏による理性と感性の話
・実技「葉っぱの金継、葉っぱの刺繍」の指導と実技

●山本信次先生から話題提供



●金継体験中



●金継完成品



●金継体験中





特定非営利活動法人 環境パートナーシップいわて

〒020-0124 岩手県盛岡市厨川5丁目8番6号

TEL:019-681-1904 FAX:019-681-1906

環境学習交流センター

岩手県地球温暖化防止活動推進センター

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1 アイーナ5F

TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753

E-mail:eco@aiina.jp(環境学習交流センター宛)

iccca@aiina.jp(岩手県地球温暖化防止活動推進センター宛)

